



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

2023年度 東洋大学 社会貢献センター年報

TOYO University Center for Social Contribution 2023 Annual Report



東洋大学

目 次

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長	1
---------------	---

社会貢献センターについて

東洋大学社会貢献センター規程	4
社会貢献センター組織図	6
2023年度 社会貢献センター運営委員会委員名簿	7
2023年度 社会貢献センター運営委員会活動記録	8

生涯学習部門

生涯学習部門の歴史的背景	15
2023年度 公開講座と講師派遣事業の概要	18
公開講座	
2023年度 公開講座実績一覧	22
公開講座アンケート結果	25
過去3年間の受講者数	35
PICK UP	42
資格講座	
2023年度 資格講座	47
講師派遣	
2023年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告	48
2023年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧	52
PICK UP	57

社会貢献部門

社会貢献情報収集	
社会貢献情報収集の概要	62
2023年度調査 社会貢献活動一覧	64
PICK UP	106
地域活性化活動支援事業	
地域活性化活動支援事業の概要	111
2023年度 地域活性化活動支援事業一覧・活動報告	112
社会貢献活動助成・表彰制度	
社会貢献活動助成・表彰制度	129
2023年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会	132
SDGs 実践講座	
2023年度 東洋大学 SDGs 実践講座 活動報告	135
ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト2022・2023	159

社会貢献センター 内部評価

2023年度 東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果	185
-------------------------------	-----

刊行にあたって



東洋大学社会貢献センター長
高山 直樹

学生と教職員による平和・人権・豊かな環境づくりへの挑戦

東洋大学は、2012年創立125周年を迎え、創設者井上円了の教育理念のもと「グローバル人財」の育成を目指して、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を3本の柱とする未来宣言を行いました。その宣言を具現化するために、社会貢献センターは、従来の「生涯学習センター」を継承、発展させ、日本や国際社会への社会貢献を展開するために設立されました。

創立者・井上円了は、「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げ、「他者のために自己を磨く、活動のなかで奮闘する」人間の育成を教育の大きな柱としてきました。また、「余資なく、優暇なき者(資産や時間に余裕がない人)のために教育の機会を開放する」という理念を掲げ、本学の前身である「哲学館」を創立しました。そこでは『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。さらに円了は、欧米視察により、「日本と日本人の改良」が必要との認識に至り、「哲学館」を大学へと発展させるために、1890(明治23)年から全国巡講を始めました。全国で実施された巡回講演は、延べ5,129回を数え、130万人を超える人々がその講演を聴いたとされています。この円了の全国巡講が現在の社会貢献センターの事業の柱として、講師派遣事業や公開講座などへと引き継がれて現在に至っています。

現在、社会貢献センターでは、建学の精神の共有と継承を図ると同時に、上記の未来宣言を推進するべく、様々な事業を企画し、活動を展開しています。

1 社会貢献部門

- ・ ボランティアマインドの滋養：学生のボランティア活動の推進と支援等
- ・ 社会的活動に対応したボランティアの推進：学生と教員による地域活性化活動支援等
- ・ SDGsにつながる教育の展開：SDGs アンバサダー（学生）の育成等
- ・ 災害等緊急支援ボランティアの推進：学生と教職員による地震、災害対策等

2 生涯学習部門

- ・ 人生100歳時代の学びの支援：生涯学習のための多様な機会の提供
- ・ 公開講座、資格取得講座、講師派遣事業の実施
- ・ リカレント講座の実施

社会貢献センターの様々な活動主体は、学生であり、教職員であり、また地域の人々との協働であることが特徴です。この協働の輪をひろめ、深めていく過程のなかで、地域社会、日本そして世界の「平和・人権・豊かな環境づくり」を創っていくことを支援していくことが社会貢献センターの使命です。

いま、国内外において戦争、自国優先の経済政策、社会正義を振りかざしての後を絶たないテロ、コロナ禍による諸問題、差別、格差、虐待をはじめとする様々な「社会問題」が顕在化してきています。そして私たちは、「いま・ここ」(Here and Now)で生きています。「いま・ここ」に生きづいている様々な場面が、未来の「いま・ここ」に大きな影響を及ぼすことになります。自らの生活というミクロレベルの「いま・ここ」という「ローカル」な視点と、それらに密接に関係している自分、地域、国および人々、宗教、自然、環境等を世界、宇宙をつなげていく視点である「グローバル」な視点の両方を持つことが求められています。「グローカル」な視点です。それはまさに、本学での「哲学」を基盤とした各学問の学びを深めることです。そしてさらに様々な実践活動に参画していくことが、「社会問題」の解消に貢献するのです。「いま・ここ」にある「わたし」が、社会の諸問題にいかに向きあうのかが問われています。

現代の新しい社会づくりを目指して、東洋大学の学生、教職員、卒業生たちが力を合わせ、また市民の皆様と一緒に新しい挑戦について考え、様々な課題に真摯に取り組みたいです。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会貢献センターについて

○東洋大学社会貢献センター規程

平成25年規程第49号・平成25年4月11日公示・平成25年4月1日施行

改正 平成27年6月1日
平成28年6月1日
平成29年4月1日
令和5年4月1日規程第37号

東洋大学社会貢献センター規程

東洋大学生涯学習センター規則（平成8年規則第131号）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規程は、東洋大学学則（昭和24年4月1日施行）第8条第1項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）において生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与するために設置する「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

第2条 削除

（構成）

第3条 社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第4条 社会貢献センターは、第2条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

2 生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1）生涯学習プログラムの開発
- （2）公開講座等の開催
- （3）生涯学習に関する広報活動及び案内
- （4）生涯学習に関する資料の収集
- （5）その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

3 社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

- （1）社会貢献プログラムの開発
- （2）本学各部局で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信
- （3）ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項
- （4）その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

4 前項第3号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第5条 社会貢献センターに、センター長を置く。

2 センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

3 センター長は、本学の専任教授のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

4 センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第6条 社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教授のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は2年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

（社会貢献センター運営委員会）

第7条 社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（運営委員会の組織）

第8条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 各学部が推薦する専任教員 各1名
- (3) 大学院が推薦する専任教員 1名
- (4) 学長が推薦する者 若干名
- (5) 通信教育部長
- (6) 学生部長
- (7) 教務部長
- (8) SDGs 推進センター長(委員の任期)
- (委員の任期)

第9条 前条第2号及び第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生涯学習プログラムの基本方針
- (2) 社会貢献プログラムの基本方針
- (3) 社会貢献センターの事業計画に関する事項
- (4) 学長から諮問された事項
- (5) その他社会貢献センターに関する重要事項

(議長)

第11条 運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第12条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事業計画)

第14条 センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(事務の所管)

第15条 社会貢献センターの事務は、エクステンション課が所管する。

(細則)

第16条 この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

(改正)

第17条 この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則(平成9年4月1日施行)は、廃止する。

附 則(平成27年規程第153号)

この規程は、平成27年6月1日から施行する。

附 則(平成28年規程第90号)

この規程は、平成28年6月1日から施行する。

附 則(平成29年規程第2号)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(令和5年4月1日規程第37号)

この規程は、2023年4月1日から施行する。

社会貢献センター運営委員会

- センター長及び副センター長
- 各学部及び大学院が推薦する専任教員 各1人
- 学長が推薦する者 若干名
- 通信教育部長
- 学生部長
- 教務部長
- SDGs 推進センター長

ボランティア支援室運営委員会

- 室長＝社会貢献センター長
- 副室長…室長及び学長の推薦
- 社会貢献センター運営委員会委員から互選した者 若干名
- 室長が推薦する者 若干名
- 学生部長
- 教務部長

【担当事務局】

- エクステンション課

専門部会

5名程度

評価委員会
(外部から2名程度)

2023年度 社会貢献センター運営委員会委員名簿

所 属	氏 名
セ ン タ ー 長	高山 直樹
副 セ ン タ ー 長	堀本 麻由子

東洋大学社会貢献センター規則第5条、第8条第1項第1号による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
文 学 部	金子 有子
経 済 学 部	吉田 敦
経 営 学 部	藤尾 美佐
法 学 部	ジェイムズ ダニエル ショート
社 会 学 部	北村 英哉
国 際 学 部	金子 聖子
国 際 観 光 学 部	森下 晶美
理 工 学 部	神山 藍
総 合 情 報 学 部	小瀬 博之
生 命 科 学 部	三浦 健
食 環 境 科 学 部	塩原 明世
社 会 福 祉 デ ザ イ ン 学 部	伊藤 美佳
情 報 連 携 学 部	浅野 泰仁
健 康 ス ポ ー ツ 科 学 部	宮越 雄一
大 学 院 (総合情報)	土田 賢省

東洋大学社会貢献センター規則第8条第1項2号及び第3号による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
学 長 推 薦	清水 宏

東洋大学社会貢献センター規則第8条1項第4号による
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
通 信 教 育 部 長	原田 香織

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第5号による
(任期：2023年4月1日～2024年3月31日)

所 属	氏 名
学 生 部 長	早川 和宏

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第6号による

所 属	氏 名
教 務 部 長	東海林 克彦

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第7号による

所 属	氏 名
SDGs 推進センター長	川口 英夫

東洋大学社会貢献センター規程第8条第1項第8号による

計 22 名

2023年度 社会貢献センター運営委員会活動記録

第1回：2023年4月1日(土) 【書面会議】

検討依頼事項：

1. ボランティア支援室運営委員の立候補について

報告事項：

2. 2023年度 社会貢献センター運営委員および各種助成事業等選考分担について
3. 2023年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成追加募集について
4. 2023年度 地域活性化活動支援事業 追加募集
5. 【2023年度 春期公開講座】
6. 【2023年度 春期資格取得講座】
7. 【2023年度 講師派遣】

第2回：2023年5月11日(木) 【書面会議】

報告事項：

1. 2023年度 社会貢献センター運営委員について
2. 東洋大学教育 DX 推進基本計画 計画3「建学の精神の具体化を目的としたリカレント教育の世界展開(国内地域を含む)」④伝統的教養の海外への展開

【ボランティア支援室報告】

3. SDGs アンバサダー新規募集
4. 全学総合 SDGs 実践講座 活動報告書について
5. 2022年度 全学総合 SDGs 実践講座受講学生からの要望について
6. 2023年度 学生課外活動育成会取扱要領、国際ボランティア活動支援事業 募集要項について
7. ボランティア支援室企画一覧(4～6月)
8. 【ボランティア支援室】 ガイダンス実施について
9. SDGs 認知度調査について

第3回：2023年5月31日(水) 【書面会議】

報告事項：

1. 地域活性化活動支援事業の追加募集について

第4回：2023年6月23日(金) 【書面会議】

審議事項：

1. 2024年度以降の中長期計画について

第5回：2023年7月24日(月) 【書面会議】

審議依頼事項：

1. 2024年度 公開講座開講方針について
2. 2024年度 講師派遣方針について
3. 地域活性化活動支援事業採択活動の内容変更について

報 告 事 項：

4. 北区およびドナルド・キーン財団との連携によるドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトについて
5. 2023年度秋期公開講座について
6. 講師派遣実施状況報告について(7.21現在)
7. 東洋大学教育 DX 推進基本計画 計画3「建学の精神の具体化を目的としたリカレント教育の世界展開(国内地域を含む)」6つのアクションプランのうち④伝統的教養の海外への展開について(日程決定)

【ボランティア支援室報告】

8. トルコ・シリア地震復興支援イベント第2弾(チャリティーイベント) 実施報告について
9. 富士樹海清掃ボランティア実施報告について
10. ボランティア支援室赤羽台分室 オープニングイベント「福祉人生すごろくゲーム in 赤羽台」について
11. トランスジェンダーに関する講演会および SDGs カフェについて
 - ① SDGs カフェ～にじいろ編～ (SDGs アンバサダー ダイバーシティーチーム)
 - ② トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”「当事者が語る、率直な思い」(白山)
 - ③ 当事者が語る、ソーシャルワークへの期待「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」(赤羽台)
12. あじさい祭りについて
13. 講演会「ウクライナの子どもたちは今」～ウクライナ侵攻から1年以上が経過したルーマニアの支援現場からの報告～について
14. Toyo 1day ボランティアプログラム ビーチクリーンアップについて
15. そなエリア東京「防災ゲーム Day2023」について(SDGs アンバサダー参加)
16. SDGs 団体アンバサダーの Smile F LAOS コーヒー豆の販売会について
17. SDGs Zone を開催しました。(HP より)
18. 「社会教育実習」「社会福祉総合演習」体験受け入れについて

【実施計画】

19. 夏休み 中学生のための宿題サポートボランティアについて
20. 赤羽台団地祭り協力ボランティアについて
21. 文京区クールアースフェアについて(SDGs アンバサダー参加)
22. NICE 日本国際ワークキャンプセンタープログラムについて(SDGs アンバサダー企画) 課外活動育成会事業
23. 「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン」について(ボランティア支援室サポートスタッフ企画) 課外活動育成会事業 申請予定
24. 富士樹海清掃ボランティア(夏)について(SDGs 板倉アンバサダー企画) 課外活動育成会事業
25. 姫路中学・高等学校訪問について(SDGs アンバサダー参加)
26. 東京国際金融機構の主催するセミナーへの登壇依頼について(SDGs アンバサダー参加)
27. 全学総合科目 SDGs 実践講座～17ゴールへの第1歩～について
28. 大学祭について(SDGs アンバサダー企画)
29. 2023年度 国際ボランティア活動支援事業について

第6回：2023年9月15日(金) 【書面会議】

審議依頼事項：

1. 予算要求について

- ①教育力強化特別予算：東洋大学『リカレント教育推進』特別助成(新規)
- ②全体予算総括表 教育力強化特別予算以外の予算総括表
- ③目的(公開講座)
 - ・白山オープン講座
 - ・資格取得講座
 - ・全学総合科目 SDGs 講座
 - ・地域連携および学生社会貢献活動支援(赤羽台) (新規)
- ④目的(円了理念)
 - ・講師派遣事業
 - ・海外講師派遣事業(新規)
- ⑤目的(センター運営)
 - ・ボランティア支援室事務運営費
 - ・SDGs アンバサダー、ボランティア支援室サポートスタッフの学内外活動に伴う交通費
- ⑥目的(受託事業)
- ⑦収支対応予算

【実施報告】

- 2. 春期公開講座報告について
- 3. 東洋大学教育 DX 推進基本計画 計画3「建学の精神の具体化を目的としたリカレント教育の世界展開(国内地域を含む)」6つのアクションプランのうち④伝統的教養の海外への展開について
- 4. CSR スタディーツアー サイボウズ(株)について
- 5. CSR スタディーツアー NEC ネットズエスアイ(株)について

【実施計画】

- 6. 中野区「少年・少女野球教室」開催について
- 7. SDGs Weeks『オレンジ・ランプ』特別上映会について

【ボランティア支援室実施報告】

- 8. 文京区クールアースフェアについて(SDGs アンバサダー参加)
- 9. NICE 日本国際ワークキャンプセンタープログラムについて(SDGs アンバサダー企画)
- 10. 「湯河原でみつける、わたしの『ローカル』なライフデザイン〜『風の人』としての、地域へのかかわり方〜」(ボランティア支援室サポートスタッフ企画)
- 11. 富士樹海清掃ボランティア(夏)について(SDGs 板倉アンバサダー企画)
- 12. 日刊工業新聞に SDGs アンバサダーの記事が掲載

【実施計画】

- 13. フィリピンの若者たちとつくる SDGs アクションについて(SDGs アンバサダー参加企画)
- 14. 東京国際金融機構の主催するセミナーへの登壇依頼について(SDGs アンバサダー参加)
- 15. SDGs Week EXPO エコプロ2023出展について(SDGs アンバサダー出展)
- 16. 文京区博覧会について(SDGs 団体アンバサダー出店)

17. 一般財団法人・学生サポートセンター 令和5年度(第21回)「学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート」」の応募について(SDGs 団体アンバサダー応募予定)

第7回：2023年11月9日(木) 【書面会議】

審議依頼事項：

1. 2024年度 地域活性化活動支援事業について(教員と学生が一緒に活動)
2. 2024年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成および2023年度 社会貢献活動に対する表彰について(学生のための活動)

【実施報告】

3. ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト報告について
4. 全学総合科目 SDGs 実践講座～17ゴールへの第1歩～について

【ボランティア支援室実施報告】

5. 東京国際金融機構の主催するセミナーへの登壇依頼について(SDGs アンバサダー参加)
6. 姫路中学・高等学校との交流会について(SDGs アンバサダー参加)
7. 都立小石川中等教育学校における防災授業講演について(SDGs アンバサダー参加)
8. 赤羽台 SDGs アンバサダー学園祭での㈱ファーストリテイリングコラボ企画事前学習会
9. スペシャルオリンピックス日本との連携に伴う事業説明会について(SDGs アンバサダー参加)
10. SDGs アンバサダー学園祭報告

【SDGs Weeks】

11. SDGs Weeks アフガニスタンにおける教育の現状と課題－初等中等教育制度および障害児教育を中心に－について
12. SDGs Weeks 公開講座 ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろうについて
13. SDGs Weeks CSR 論 公開講義 企業と人権について(川越)

【実施計画】

14. SDGs Weeks 生徒指導論 公開講義 子どもの貧困問題と学習支援教室が果たす役割(赤羽台)
15. SDGs Weeks 国際社会プロジェクト演習Ⅰ/ⅡB 公開講義「もう始まっている多民族・多文化共生社会 まっとうな受入れ制度を 労働者を労働者として」(白山)
16. SDGs Weeks 社会福祉学基礎演習Ⅱ 公開講義「誰もが尊重され、すこやかに生きることができる社会とは～LGBTQ+について学ぶ～」(赤羽台)
17. SDGs Weeks 『オレンジ・ランプ』特別上映会
18. SDGs Weeks 生命科学部コミュニティ活性化のための学生ファシリテーター養成プログラム」特別企画 ここからはじまるSDGs(板倉キャンパスからの情報提供 学部学科を問わず対面、Web参加可能)
19. SDGs Weeks 東洋大学災害救援ボランティア講座

【その他】

20. 公開講義 ドナルド・キーンの「外国語」体験(文学部国際文化コミュニケーション学科主催、社会貢献センター協力)

第8回：2023年11月14日(火) 【書面会議】

審議依頼事項：

1. 2024年度より実施 「東洋フィロソフィア アカデミー」商標登録について

第9回：2023年12月18日(月)【書面会議】

審議事項：

1. 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン制度への参加について
2. 社会貢献事業の実施状況調査について
3. 東洋フィロソフィア アカデミー開講に伴う謝礼について

報告事項：

4. 文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会 東洋大学のSDGs推進に関する取り組みについて
5. 災害救済ボランティア講座について
6. 文京区博覧会について(SDGs 団体アンバサダー出店)
7. 100年前の大規模震災に学ぶ～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～
8. SDGs Week EXPO エコプロ2023出展について(SDGs アンバサダー出展)
9. 文京区からの防災備蓄品の受け入れ

【実施計画】

10. 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 日本の貧困とSDGs ―相談事例から貧困問題を考える―
11. 映画上映「ただいま、つなかん」について
12. 被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー

第10回：2024年1月25日(木)【書面会議】

報告事項：

1. 2023年度秋期 公開講座等実施一覧について
2. 2023年度 公開講座ポイント獲得者数について
3. 2023年度 講師派遣実施一覧について

【計画事項】

4. 「令和6年能登半島地震」ボランティア対応について
5. 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン制度への選考について
6. 2024年度 地域活性化活動支援事業応募状況について
7. 社会貢献活動表彰について
8. 東洋大学ウォーターサーバー設置プロジェクトについて SDGs アンバサダー カーボンニュートラルチーム企画
9. スペシャルオリンピックス日本 講演会 & スポーツ体験会～ユニファイドスポーツが見せるこれからの社会のカタチ～について SDGs アンバサダー ダイバーシティーチーム企画
10. 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 生理から問う社会の『当たり前』について SDGs アンバサダー ダイバーシティーチーム×Toyo MeW プロジェクト企画
11. LGBTQに関する議論の活発化を目指してについて SDGs アンバサダー ダイバーシティーチーム企画
12. NICE 日本国際ワークキャンプセンタープログラム（春休み）について（課外活動育成会）SDGs アンバサダー企画

第11回：2024年2月15日(木)【書面会議】

報 告 事 項：

1. 2024年度 春期公開講座等実施予定一覧について
2. 2024年度 講師派遣テーマ等について
3. 2024年度 地域活性化活動支援事業 選考結果について
4. 2023年度 東洋大学社会貢献活動表彰について
5. 全学総合 SDGs 実践講座について
6. 2023年度 国際ボランティア活動支援事業について
7. 文京区内大学生によるボランティア・地域交流活動報告会&交流会について
8. 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会、課外活動団体報告会、地域活性化活動支援事業報告会について

第12回：2024年3月6日(水)【書面会議】

報 告 事 項：

1. 「令和6年能登半島地震」ボランティア活動について
2. 2023年度 SDGs アンバサダー自己評価および2024年度継続手続きについて
3. 2023年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 用途指定型寄付について
4. 2023年度 東洋大学社会貢献活動表彰に対する助成 用途指定型寄付について
5. 2024年度 予算内示について
6. 東洋大生がワークショップで考える SDGs 生理から問う社会の『当たり前』について
SDGs アンバサダー ダイバーシティチーム× Toyo MeW プロジェクト企画
7. スペシャルオリンピックスの理念と共生への道標 / ユニファイドスポーツ®が見せるこれからの社会のカタチについて SDGs アンバサダー ダイバーシティチーム
8. LGBTQに関する議論の活発化を目指してについて SDGs アンバサダー ダイバーシティチーム企画

第13回：2024年3月15日(金)

審議依頼事項：

1. 東洋大学「令和6年能登半島地震」被災地支援 ボランティア活動助成事業募集要項の改定について

報 告 事 項：

2. 2023年度 予算執行報告および2024年度予算執行計画について
3. 2024年度 学生団体による社会貢献活動助成について
4. 2024年度 東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクトについて
5. 大学合同 能登半島地震 志賀町ボランティア 第1クール報告
6. 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン制度への参加について
7. 文京区内大学生によるボランティア・地域交流活動報告会&交流会について
8. 被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアーについて
9. 地域活性化活動支援事業活動報告および現地団体アンケート結果について
10. 内部評価の結果について

生涯學習部門

■ 公開講座

■ 資格講座

■ 講師派遣

生涯学習部門の歴史的背景

1. 公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向けて仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、新しい情報として入手していたアメリカ等で行われていた「サマースクール」とその日本版とも呼ぶべき通信講学会でその実施を経験していた夏期学校等に影響を受けつつ実施されたものであると思われる。日本でも非常に早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果そうとしてきたことの証でもある。

第2次世界大戦後、多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ、その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回も開講したという歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起され、地域の人々に、大学の持つ知的な資源を提供する社会貢献事業は一貫して重視されてきたものであった。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への要求はますます高いものとなり、その期待を受けて、1975（昭和50）年代後半になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の拡張を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史があった。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成2）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり、人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであったため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置においては大学自身の方が早く対応していたことになる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成9）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経ながら発展して現在に至る。また、2020年度からは、コロナウイルス「COVID-19」の影響もあり、Webを利用したオンライン講座の展開を行っている。対面とWeb型のハイフレックス型で講座を展開することで多様なニーズに応えられるような講座展開を行っている。

2. 講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学の講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888（明治21）年、井上円了は1年間の欧米視察に出かけたがそのことを通じて、「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至る。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し大学設立のための開設資金を得るために、全国を巡回し講演をすると共にその後募金をお願いするという計画を立てる。既に卒業生を輩出していたことや講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そして、いよいよ1890（明治23）年11月より、円了は自らが全国各地に赴いて講演をする教育活動に着手したのである。欧米への視察により、ケンブリッジ大学を起点としてイギリス各地及びアメリカにおいて急速に発展していた大学の構外講義、いわゆるユニバーシティ・エクステンション事業をつぶさに見聞して来た円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったと言える。

その後、1898（明治31）年～1902（明治35）年、1906（明治39）年～1919（大正8）年と講演旅行を続け、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。講演は、村や町の小学校の講堂やお寺等で開催され、延べ130万人を超える人々がその講演を聴いたとされる。この偉業は、今日まで、誰も手の届かない回数の講演である。受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎したとされる。当時こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子が、円了による記録のみならず、全国各地で記録され今日まで保存されている。こうした講演をきっかけとして、ご寄付を頂くこととなり、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたと言っても過言ではない。

1997（平成9）年に設立110年を迎えていたこともあり、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999（平成11）年度には創立者井上円了の没後80周年を記念した事業が構想された。そのひとつが、創立時に社会から受けた支援（寄付金）への御礼と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。同年度から始まった全国各地において実施している講師派遣事業の回数は、25年間で2,537回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、この事業は今後も継続し続けなければならないものである。

本事業は、長く高校生を対象とした内容と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校では2000（平成12）年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によると、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」（文部科学省 HP より引用）とされており、現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。講師派遣事業の存在が知られると、2001（平成13）年度には100件もの依頼が殺到した。ただし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で喧伝されるにつれて、総合的な学習の時間への評価は二分されるようになり、2011（平成23）年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減る。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導することとなり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動

するかのように、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012（平成24）年度より激減した。

一般成人を対象とした講師派遣は、公民館などの社会教育施設及び関連施設において開催される住民対象の講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学等、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多様であった。

2015（平成27）年度には、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に資するよう「企業研修支援プログラム」をスタートさせた。本プログラムは、2016（平成28）年度より有料とし、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と名称を改め、企業のみならず各種団体でのスキルアップ研修に対応した。2016（平成28）年から2019年度においては、小中高等学校や特別支援学校に向けて、五輪をはじめスポーツに関する講義を行う「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設けた。

2020年度では、新型コロナウイルス「COVID-19」の影響により、Web オンラインを利用した講師派遣を初めて実施した。また、本学の SDGs 達成に向けた取り組みの1つとして、小中高等学校や特別支援学校を対象とした「SDGs 達成学習支援プログラム」を開始し、今年度は9件が実施に至った。

生涯学習部門

2023年度 公開講座と講師派遣事業の概要

1. 公開講座

「オープン講座」、「エクステンション講座A・C」、「リカレント講座R」「文化公演」、「その他(文京アカデミア講座、川越小・中学生サマースクール等)」、「資格講座」という5区分で実施をしている。2023年度は、2022年度に引き続き、対面形式およびWeb形式で講座を開講した。

2022年度に引き続き「公開講座ポイント制度」を実施。有料エクステンション講座を受講すると、講義の時間および出席率に応じて「公開講座ポイント」が付与され、学期末に「修了証[賞状]」が贈呈される。受講者のモチベーションを上げることを目的にしている。

1) オープン講座(無料)

2015(平成27)年度まで「市民大学講座」「学術講演会」として開講されていた無料講座を2016(平成28)年度より合わせて「オープン講座」と名称変更し、各キャンパスを会場として実施している。

春期白山キャンパスでは、「ドナルド・キーンの研究を学ぶ～蔵書整理・調査プロジェクトから～」、「ウクライナ侵攻とEU気候変動・エネルギー政策」、「井上円了の妖怪学－迷う心と向き合う－」をテーマに講座を開講した。秋期は、「麟祥院と井上円了-ZAZENで自己発見・自分磨き!-」、「ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう」をテーマに開講した。

2) エクステンション講座A

教養や最新研究や事例まで幅広いテーマの講座を取り扱うA講座は「歴史コース」「文学コース」「哲学・宗教コース」「人生100年コース」に分類して講座を展開している。2022年度に引き続き、2023年度もWebと対面のハイフレックス形式で講座を開講した。

春期は、A講座12コースを開講した。大乘仏教、徳川家康、三国志、江戸時代の徒歩旅行、幕末維新の古文書、古典パロディなど、多種多様なテーマを取り上げ、その他にも「人生100年コース」からは、子供含む家族参加も対象とした「動物園の生き物をめぐる歴史秘話：キリンを初めてみた日本人は誰？」等の講座も開講し、いずれの講座も受講者より好評であった。

秋期は、A講座13コースを開講した。三国志、村上春樹、ストレス対処、植物、絵画鑑賞入門等をテーマとした講座を開講し、その他にも、源氏物語や幕末維新の古文書は春期に引き続き開講しており、受講者より定評のある講座である。

いずれの講座も総合大学ならではのテーマ設定で多様な講座を提供することができた。

3) リカレント講座R

春期は初めて簿記を学習する方を対象とした「簿記の世界に飛び込もう～日商簿記にチャレンジ～」、介護専門職や介護に携わる方を対象とした「最新の介護福祉実践とケアマネジメント～認知症ケアと自立支援～」、子供や若者の福祉・支援を目的とした「みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分をみつけよう」等をテーマに取り上げ講座を開講した。いずれの講座も知識習得や、さらなるスキルアップを目的に開講され、テーマに関心のある方、専門職の方、これから一步を踏み出してみようと考えている方などが参加し、活発な交流や、意見交換などがなされた。

秋期はデザイン思考について学ぶ「クリエイティブ分野のためのデザイン思考」やマーケティングの基礎について学ぶことができる「マーケティング入門」等のリカレント講座を開講した。いずれの講座も社会人が多く参加し、好評であった。

4) 文化公演

秋期12月に若年性認知症をテーマとした映画「オレンジ・ランプ」を円了ホールで上映した。また、上映後は、企画・脚本・プロデュースを担当された山国秀幸様を招聘して対談を行った。「オレンジ・ランプ」は実話を基に作成された映画であり、多くの方に若年性認知症について知ってもらい、理解を深めてもらう機会とすることができた。当日は一般107名、学生192名 計299名が参加し、質疑応答ではたくさんの感想や質問が寄せられた。

5) 資格講座

2016年度より始まった当講座は、学生の就職活動時または就職後、及び社会人の学び直しによるキャリアアップまたは再雇用に必要な資格の取得を目的としている。

2022年度に引き続き、Web での開講も並行して実施をした。春期に4講座、秋期は3講座実施した。2023年度も感染拡大防止策を行いながら、学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

2. 講師派遣事業

今年度は、3つのプログラム全体で94件の申し込みがあり、このうち実施に至ったのが79件であった。

例年に引き続き、関東の実施件数の比率が突出して高い一方、関東以外の実施件数が昨年同様、その全体に占める比率はコロナ禍以前に戻りつつある。(図-1、図-2)

実際に派遣に応じた講師は、専任教員が33名で実施件数45件と多数を占めており、東洋大学専任教員にとっても重要な役割として認識されている。さらに、名誉教授・元教授・客員教授18名による34件という数字も明記しておきたい。

図-1 過去5年実施件数

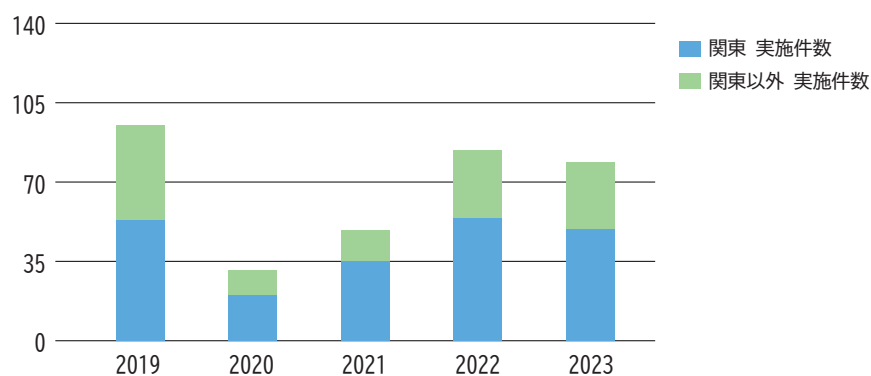


図-2 地域別に見た講師派遣

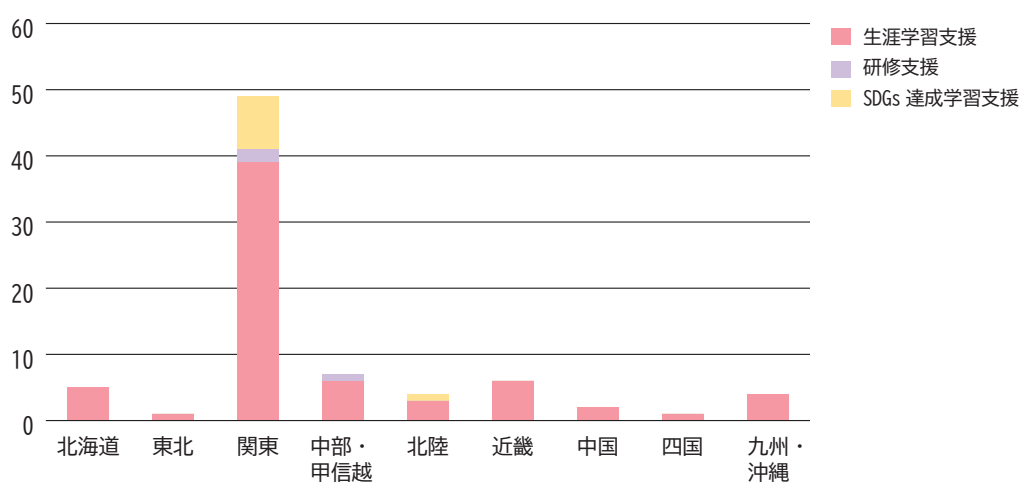


図-3 派遣先団体種別に見た講師派遣

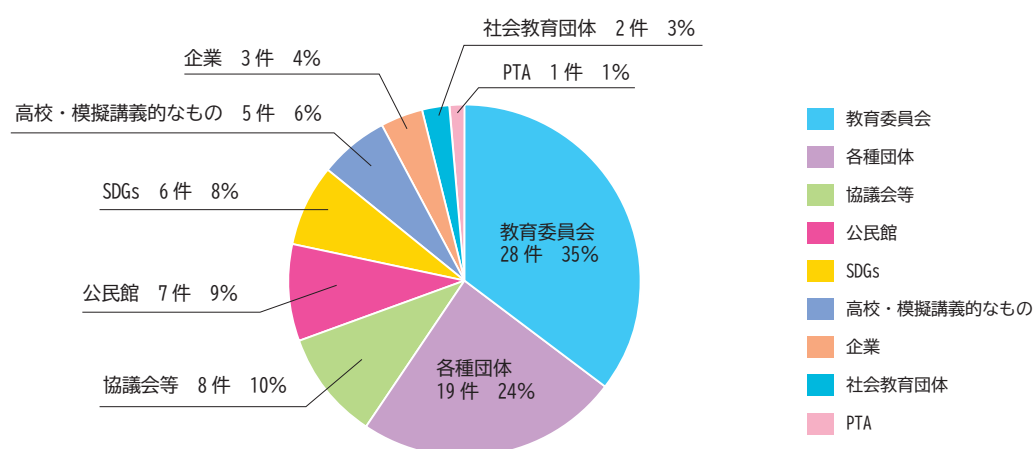


図-4 派遣実施件数一覧(1999年度～2023年度)

地域	年度	1999年度			2000年度			2001年度			2002年度			2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	
北海道		0	12	12	1	3	4	3	3	6	1	5	6	3	2	5	1	4	5	0	4	4	2	2	4
東北		6	21	27	0	11	11	9	2	11	15	5	20	9	2	11	6	3	9	2	6	8	2	3	5
関東		6	90	96	4	20	24	41	11	52	34	16	50	51	20	71	27	29	56	18	25	43	18	39	57
中部 / 甲信越		0	30	30	0	13	13	0	19	19	0	22	22	0	8	8	0	7	7	2	4	6	2	3	5
北陸		0	10	10	0	8	8	0	9	9	0	13	13	0	5	5	0	4	4	0	1	1	2	1	3
近畿		0	20	20	2	2	4	8	4	12	8	2	10	0	8	8	0	7	7	0	4	4	2	5	7
中国		2	13	15	0	3	3	11	0	11	8	3	11	0	4	4	0	3	3	0	1	1	2	0	2
四国		0	6	6	0	3	3	4	0	4	2	0	2	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	1
九州・沖縄		2	13	15	0	8	8	6	5	11	8	5	13	0	5	5		3	3	0	1	1	1	3	4
合計		16	215	231	7	71	78	82	53	135	76	71	147	63	56	119	34	62	96	22	47	69	31	57	88

地域	年度	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			2012年度			2013年度			2014年度		
	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	-	生涯	計	
北海道		0	1	1	2	2	4	0	5	5	0	2	2	0	5	5	0	5	5	0	6	6	-	7	7
東北		2	7	9	2	6	8	1	8	9	3	5	8	1	7	8	0	5	5	0	7	7	-	11	11
関東		16	40	56	19	42	61	13	31	44	10	39	49	17	37	54	5	45	50	3	42	45	-	49	49
中部 / 甲信越		5	2	7	3	4	7	0	7	7	1	7	8	1	10	11	0	9	9	1	4	5	-	11	11
北陸		2	2	4	1	1	2	1	3	4	0	2	2	2	4	6	0	0	0	0	1	1	-	6	6
近畿		1	4	5	0	6	6	0	6	6	1	6	7	0	8	8	0	9	9	0	4	4	-	7	7
中国		1	0	1	2	0	2	0	1	1	0	4	4	0	1	1	0	2	2	0	7	7	-	4	4
四国		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	1	1	-	1	1
九州・沖縄		0	2	2	0	6	6	1	3	4	0	4	4	0	6	6	0	8	8	0	7	7	-	3	3
合計		28	58	86	29	67	96	16	64	80	15	70	85	21	79	100	5	85	90	4	79	83	-	99	99

地域	年度	2015年度			2016年度			2017年度			2018年度			2019年度			2020年度							
	企業	生涯	計	企業	オリパ	生涯	計	企業	オリパ	生涯	計	研修	オリパ	生涯	計	研修	オリパ	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	
北海道		0	7	7	0	0	5	5	0	0	9	9	0	0	10	10	0	0	5	5	0	0	2	2
東北		0	14	14	0	0	16	16	0	0	14	14	2	0	11	13	0	0	10	10	0	0	2	2
関東		6	53	59	0	9	61	70	5	8	60	73	6	7	50	63	2	10	41	53	2	7	11	20
中部 / 甲信越		0	4	4	0	0	12	12	1	2	12	15	0	1	10	11	0	1	8	9	0	0	1	1
北陸		0	8	8	0	0	5	5	0	0	6	6	1	0	7	8	0	0	1	1	0	0	3	3
近畿		0	5	5	0	0	9	9	2	0	9	11	0	0	9	9	0	0	6	6	0	0	1	1
中国		0	5	5	0	0	5	5	0	0	7	7	0	0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0
四国		0	3	3	0	0	3	3	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	1	1
九州・沖縄		0	6	6	0	0	5	5	0	0	12	12	0	0	6	6	0	0	7	7	0	0	1	1
合計		6	105	111	0	9	121	130	8	10	131	149	9	8	110	127	2	11	82	95	2	7	22	31

地域	年度	2021年度				2022年度				2023年度				合計					
	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	高校	企業	オリパ	SDGs	-般(生涯)	計	
北海道		0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	5	5	13	0	0	0	116	129
東北		0	0	3	3	0	1	6	7	0	0	1	1	58	2	0	1	186	247
関東		1	9	25	35	3	16	34	53	2	8	39	49	282	27	34	40	949	1332
中部 / 甲信越		1	0	3	4	0	0	5	5	1	0	6	7	15	3	4	0	221	243
北陸		0	0	2	2	0	1	4	5	0	1	3	4	8	1	0	2	109	120
近畿		0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	6	6	22	2	0	0	152	176
中国		0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	26	0	0	0	75	101
四国		0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	7	0	0	0	36	43
九州・沖縄		0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	4	4	18	0	0	0	128	146
合計		2	9	38	49	3	18	63	84	3	9	67	79	449	35	38	43	1972	2537

※2014年度より一般(社会人)と高校を一本化し、「生涯学習」支援プログラムとして実施。

※2015年度より新規に「企業研修」支援プログラムを開始。

※2016年度より新規に「オリンピック・パラリンピック教育」支援プログラムを開始。

※2020年度より新規にSDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラムを開始。

公開講座

2023年度 公開講座実績一覧

①オープン講座(無料) ※文化公演等含む

									受講料			申込者数						合計
学期	開講地	No	形式	講師	テーマ	期間	回数	総時間数 / 分	一般		学生	一般			学生			
									対面	Web	対面 / Web	対面	Web	一般計	対面	Web	学生計	
春	白山	F1	ハイブリッド	石田 仁志 他	ドナルド・キーンの 日本研究を学ぶ～蔵 書整理・調査プロジ ェクトから～	5/20 (土) ～ 7/8 (土)	3	270	1,650	1,100	-	23	8	31	5	1	6	37
		F2	ハイブリッド	市川 顕	ウクライナ侵攻と EU 気候変動・エネ ルギー政策	7/1 (土)	1	90	-			47	48	95	3	1	4	99
		F3	ハイブリッド	長谷川琢哉	井上円了の妖怪学- 迷う心と向き合う-	6/3 (土) 7/1 (土)	2	180				48	68	116	1	2	3	119
	赤羽台	OP	ハイブリッド	内田 祥士	現代住宅の現実と可 能性	7/8 (土) 7/15 (土)	2	180				62	54	116	0	0	0	116
	川越	OP	ハイブリッド	神山 藍	日本の都市と庭園鑑 賞～京都の庭園を愉 しむ～	7/22 (土)	1	90				19	34	53	0	0	0	53
	板倉	OP	ハイブリッド	河地 修	『伊勢物語』『源氏 物語』の魅力とは～ その「深き心」を探 る	6/17 (土)	1	120				10	129	139	0	0	0	139
秋	白山	OP1	対面	岩下 哲典	麟祥院と井上円了- ZAZENで自己発見・ 自分磨き！ -	9/16 (土)	1	90	-			20	0	20	0	0	0	20
		OP2	ハイブリッド	松丸 亮	ハザードマップとマ イタイムラインで災 害から身を守ろう	10/28 (土)	1	180				27	18	45	0	0	0	45
		OP	対面	八木 裕子	映画上映「オレンジ ・ランプ」	11/18 (土)	1	150				107	0	107	192	0	192	299
	赤羽台	OP	対面	齊藤 恭平	健康づくりはまちづ くりから	10/7 (土)	1	90				21	0	21	1	0	1	22
									受講者合計			384	359	743	202	4	206	949

②エクステンション講座(有料) ※中止講座は除く

									受講料			申込者数						合計
学期	開講地	No	形式	講師	テーマ	期間	回数	総時間数 /分	一般		学生	一般			学生			
									対面	Web	対面 / Web	対面	Web	一般計	対面	Web	学生計	
春	白山	A1	Web	渡辺 章悟	大乘仏教とは何かーその成立と展開ー	5/13(土)～6/10(土)	3	270	-	3,300	1,650	0	16	16	0	0	0	16
		A2	ハイブリッド	竹村 牧男	良寛の『法華経』観	5/20(土)～7/15(土)	3	270	4,950	3,300	1,650	29	19	48	0	1	1	49
		A3	ハイブリッド	岩下 哲典	幕末維新の古文書を読む・知る	5/17(水)～7/5(水)	3	270	4,950	3,300	1,650	11	10	21	1	1	2	23
		A4	ハイブリッド	谷釜 尋徳	江戸時代の徒歩旅行	6/21(水)6/28(水)	2	180	3,300	2,200	1,100	26	11	37	2	1	3	40
		A5	ハイブリッド	柴 裕之	徳川家康と「信康・築山殿事件」	6/17(土)	1	90	1,650	1,100	550	30	20	50	1	1	2	52
		A6	ハイブリッド	河地 修	『源氏物語』全巻を読むー「手習」巻～浮舟は生きていた！	5/15(月)～7/3(月)	8	960	13,200	8,800	4,400	13	8	21	0	3	3	24
		A7	ハイブリッド	高松 亮太	江戸時代の二次創作～古典のパロディに触れる～	5/26(金)6/2(金)	2	180	3,300	2,200	1,100	8	1	9	2	1	3	12
		A9	対面	須田木綿子	福祉社会システム専攻シリーズ：介護保険制度の賢い使い方2023版	5/31(水)	1	90	1,650	-	550	20	0	20	0	0	0	20
		A10	ハイブリッド	川瀬 晃弘	老後資金について考える	6/20(火)	1	90	1,650	1,100	550	16	7	23	1	0	1	24
		A11	ハイブリッド	井上 治代	「終活」最前線	7/4(火)	1	90	1,650	1,100	550	20	6	26	1	0	1	27
		A12	ハイブリッド	郡司 芽久	動物園の生き物をめぐる歴史秘話：キリンを初めてみた日本人は誰？	7/22(土)	1	120	1,650	1,100	550	54	11	65	0	0	0	65
		R1	ハイブリッド	坂巻 仁志	簿記の世界に飛び込もう～日商簿記初級にチャレンジ～	6/9(金)～7/21(金)	7	630	11,550	7,700	3,850	7	7	14	1	0	1	15
赤羽台	R2	ハイブリッド	古川 和稔	最新の介護福祉実践とケアマネジメント～認知症ケアと自立支援～	6/8(木)6/22(木)	2	180	3,300	2,200	1,100	20	45	65	1	0	1	66	
白山	R3	ハイブリッド	森田 明美	みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分をみつけよう	5/13(土)～7/29(土)	3	270	4,950	3,300	1,650	18	3	21	0	0	0	21	
秋	Web	A1	Web	渡辺 章悟	大乘仏教をめぐる諸問題	10/7(土)～10/28(土)	3	270	-	3,300	1,650	0	17	17	0	1	1	18
	白山	A2	ハイブリッド	竹村 牧男	良寛の仏教	10/14(土)～12/9(土)	3	270	4,950	3,300	1,650	19	19	38	1	0	1	39
		A3	対面	中里 巧	神と悪魔ーヨーロッパと日本の倫理観を霊性から垣間見るー	10/14(土)～11/18(土)	5	600	8,250	-	2,750	7	0	7	1	0	1	8
		A4	ハイブリッド	岩下 哲典	幕末維新の古文書を読む・知る	11/15(水)～12/20(水)	3	270	4,950	3,300	1,650	13	8	21	3	1	4	25
		A5	対面	白井 順	東アジアと『三国志演義』	10/6(金)10/20(金)	2	180	3,300	-	1,100	9	0	9	1	0	1	10
		A6	ハイブリッド	木下 聡	斎藤道三と下剋上	10/27(金)	1	90	1,650	1,100	550	8	4	12	0	1	1	13

									受講料			申込者数						合計
学期	開講地	No	形式	講師	テーマ	期間	回数	総時間数 / 分	一般		学生	一般			学生			
									対面	Web	対面 / Web	対面	Web	一般計	対面	Web	学生計	
秋	白山	A7	ハイブリッド	柴 裕之	徳川家康―江戸開幕への道程とその「実像」―	12/16 (土)	1	90	1,650	1,100	550	20	9	29	0	0	0	29
		A8	ハイブリッド	河地 修	『源氏物語』全巻を読む―「手習」「夢の浮橋」巻～浮舟はどこへゆくのか？	10/16 (月)～12/11 (月)	8	960	13,200	8,800	4,400	21	5	26	2	2	4	30
		A9	ハイブリッド	石田 仁志	村上春樹の文学世界―長編小説を読む2023―	10/21 (土)～12/9 (土)	3	270	4,950	3,300	1,650	11	10	21	0	0	0	21
		A10	ハイブリッド	堀内 城司	ストレス反応と自律神経 - 脳科学から見えた正体と対処法 -	11/30 (木)	1	90	1,650	1,100	550	18	7	25	0	0	0	25
		A11	ハイブリッド	増子 美穂	絵画鑑賞入門：グラントツターと風景画の旅	11/24 (金)～12/15 (金)	2	180	3,300	2,200	1,100	7	3	10	0	0	0	10
		A12	ハイブリッド	秋山 哲一	高経年マンションの価値向上にむけて～具体的な事例をもとに	10/14 (土)11/11 (土)	2	180	3,300	2,200	1,100	8	6	14	0	0	0	14
		A13	ハイブリッド	金子 有子	植物、その驚きの能力！―知られざる植物の世界―	12/2 (土)	1	120	1,650	1,100	550	20	6	26	1	1	2	28
		R1	対面	柏樹 良	クリエイティブ分野のためのデザイン思考	11/9 (木)11/16 (木)	2	240	3,300	-	1,100	9	0	9	1	0	1	10
		R2	ハイブリッド	長島 広太	マーケティング入門	11/25 (土)	1	90	1,650	1,100	550	21	4	25	0	0	0	25
		R3	ハイブリッド	森田 明美	みんなのゼミナール新しい自分をみつけよう～子ども・若者に寄り添う支援を考える～	10/19 (木)～12/21 (木)	3	270	4,950	3,300	1,650	12	13	25	2	2	4	29
									受講者合計			475	275	750	22	16	38	788

③災害救援ボランティア講座

									受講料		申込者数						合計
学期	開講地	No	形式	講師	テーマ	期間	回数	総時間数 / 分	一般	学生	一般			学生			
									対面	対面	対面	Web	一般計	対面	Web	学生計	
秋	学外白山	-	対面	宮崎 賢哉 他	災害救援ボランティア講座	11/25 (土) 11/26 (日)	2	960	一般： 15,000 円 他大学生： 10,000 円	0	3	-	3	13	-	13	16

④文京アカデミア講座

									受講料			申込者数						合計
学期	開講地	No	形式	講師	テーマ	期間	回数	総時間数 / 分	一般	学生	一般			学生				
									対面		対面							
春	アカデミア文京	-	対面	大辻 永	人間と自然～理科の視点から国語教材を考える～	6/21 (水) 6/28 (水) 7/5 (水)	3	270	2,000	-	-	17	-	-	-	-	-	17

公開講座アンケート結果

2023年度 春期講座総合集計結果

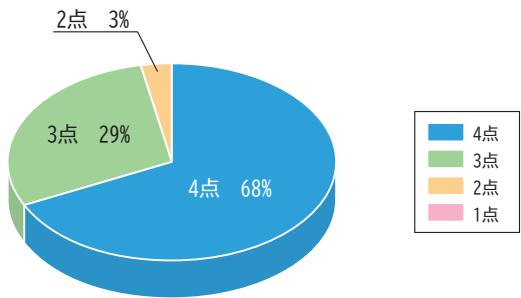
申込者数：721名

回収枚数：371枚

◎受講した講座について(満足度等)

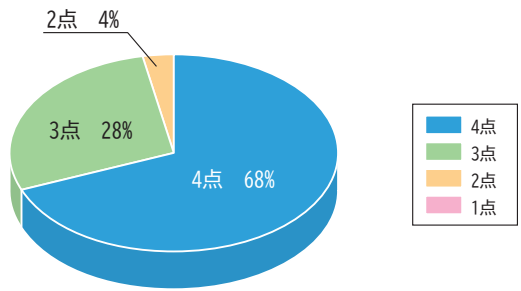
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
215	91	10	1



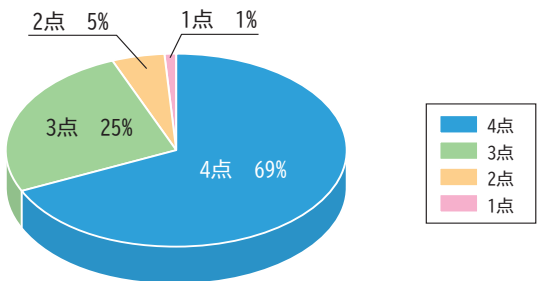
【理解度(分かり易さ)】

4点	3点	2点	1点
216	90	11	0



【満足度】

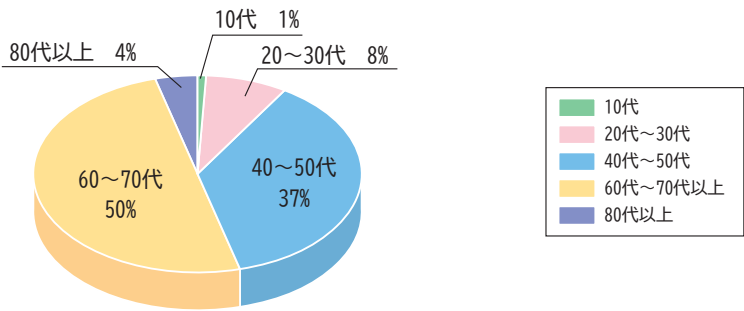
4点	3点	2点	1点
218	81	16	2



◎受講者について

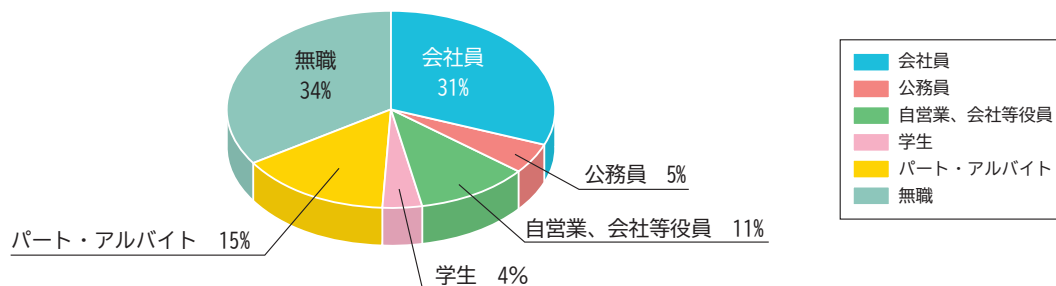
【年齢】

10代	20～30代	40～50代	60～70代	80代以上
4	24	118	159	12



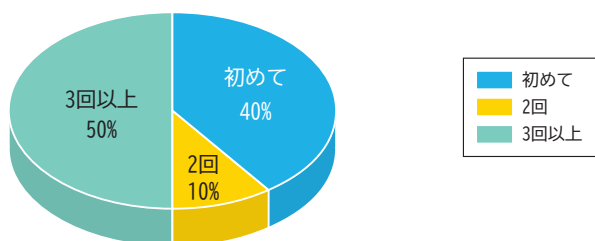
【職業】

会社員	公務員	自営業、会社等役員	学生	パート・アルバイト	無職
98	17	34	13	48	107



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
126	32	159



【講座の感想等】

[春期：F1 ドナルド・キーンの日本研究を学ぶ]

- ・ドナルド・キーン氏が日本文学界に与えた影響とそこに至る人生について認識出来た良いキッカケとなりました。文学を楽しむ上で、作家の人となりを理解することも必要と感じました。
- ・キーン氏の昭和50年代の本で興味を持ちましたが、今回の講義では近代文学について学習することができました。

[春期：F2 ウクライナ侵攻と EU 気候変動・エネルギー政策]

- ・深刻化する気候危機と EU の対露化石燃料依存は深刻な懸念を感じました。ウクライナ侵攻への国連安保理の機能不全を感じます。ICC・ICJ も実効性が不十分に感じます。司法が正義を表すことを切望します。
- ・EU における、各国のエネルギー政策の差異がよくわかった。ポーランドやバルト三国が、歴史上からも、いかにロシアを現実的な敵としているか、また、現状はほぼ戦時体制下であることを実感できた。
- ・EU のエネルギー安全保障政策も矛盾に満ちかつ妥協の産物である事が理解できた。質疑に時間をたっぷり取った講師の方に敬意を評したい。お声も通り、大変聞き易い発声でした。

[春期：F3 井上円了の妖怪学]

- ・迷信に惑わされぬ為に、学習して物の理を知り、知識を積み上げていく事が大切と云う、円了先生のメッセージなのかな、と思いました。とても分かり易く興味深い講座でした。
- ・妖怪を解き明かすことで、宗教や哲学の役割や存在意義を見出していく考え方や視野を広げて物事をとらえる行動力に目を開かせられた思いでした。
- ・前近代から近代に動く空気の中で、宗教家ではなく哲学者として生きようとした円了の民衆への思いが分かりました。ありがとうございました。

[春期：A1 大乘仏教とは何か]

- ・釈迦の滅後に、多数の部派の中から解釈によっては大乘仏教が発生してくる萌芽のようなものが、当時からあったことを今回知りました。
- ・釈迦の初転法輪は知っていたが、第二、第三の転法輪の話は初めてだったので新鮮だった。続きをお願いしたい。
- ・丁寧で分かりやすさに配慮していただいた講義内容で、ありがとうございました。秋の講座もあるようで、引き続き勉強させていただきますので、宜しくお願いします。

[春期：A2 良寛の『法華経』観]

- ・良寛の深い宗教的な側面を新たに知ることができ、禅僧としての思想に触れることもでき、感銘を受けました。更に良寛を知ってみたい気持ちになりました。ご講演に感謝いたします。
- ・良寛さんへの知識がほぼない中で、法華経との関わりがわかって（法華讃）を知り、道元・良寛さんの法華経への情熱の深さを少しですが分かっていただきました。
- ・日本の著名な僧として良寛ほど理解と評価が様々である人物はいない。今回の講座を機として良寛像の再評価に挑みたい。

[春期：A3 幕末維新の古文書を読む・知る]

- ・テーマは非常に興味深く、また次の機会にも受講したいと思います。課題の古文書の時代背景をもう少し詳しく教えていただきたいと思います。
- ・古文書を読んだあとの人文の紹介や古文書の背景のお話がとても面白しかったです。また講義が開かれた際は必ず受講したいと思います。
- ・大阪の地元講座では見られない珍しい古文書で、大いに興味が湧きました。

[春期：A4 江戸時代の徒歩旅行]

- ・江戸時代の人びとは現代では考えられない程健脚であった。女性でも1日に25kmも歩いたとは！そして勝手に歩くのではなく他者への心配りを持ち、マナーを守っていたことに感心しました。
- ・今自分は歩くことを生活の一部にしているので、非常に関心があった。先日も、赤坂見附から大山まで完歩。江戸時代の人々に思いをはせながら、これからも楽しみながら歩きます。
- ・大変興味深い話でした。歴史的資料もたくさん紹介してくださり、よく理解できました。

[春期：A5 徳川家康と「信康・築山殿事件」]

- ・信長と家康の関係が徐々にならっていくこと、さらには武田、織田、徳川、上杉、北条との関係もだいぶ理解できました。信康と築山殿事件も直接は徳川家内の内紛ということ秀

忠誕生が最終的な事件の原因には驚きました。

- ・とにかく先生の話し方、自分としては惹かれるものがありました。90分という時間があったという間。講義を聞いている全員が集中している様子は感動的でした。是非ともまたよろしく願い申し上げます。
- ・柴先生の話は、なんだか熱量があって面白い。大河ドラマの放送回ともバッチリ合っていて楽しめました。

[春期：A6 『源氏物語』全巻を読む]

- ・娘が大学で源氏物語を専攻したということで、一緒に「源氏」を語りたいくて講義に参加しました。30年以上ぶりの河地先生のパワフルでユーモアある講義に感激をしながら知的好奇心を刺激してくれました。
- ・2012年春講座が初回。約10講座受講。回を重ねるごとに河地先生の語る物語、作者紫式部の才能に驚かされ、平安中期の文化に対する知識がより深いものとなったことが非常によかった。
- ・今回も楽しく聴講させていただきました。ありがとうございました。秋期も楽しみにしています。

[春期：A7 江戸時代の二次創作]

- ・江戸時代のパロディの「仁勢物語」と「犬百人一首」の完成度の高さは作者の教養度の高さを感じた。
- ・わからないところを所々注釈してくれてありがとうございました。
- ・分かりやすく講義頂き、面白く受講させていただきました。

[春期：A9 介護保険制度の賢い使い方2023版]

- ・実際に当事者になってみないとわからないことを織り交ぜながらの講義が大変興味深かったです。今後、介護保険を使うことになったら、参考にしたいと思う内容ばかりでした。本日は有難うございました。
- ・自分で判断出来るうちに入所施設について検討しなくてはならない事が良くわかった。つい先延ばしにしていたが具体的に考えるべきなのだったと思った。介護保険の事も少し理解出来るようになったと思う。
- ・わかりやすい講義でした。自分で調べても理解出来ないところを経験に基づくお話により、しっかりと理解する事が出来ました。ありがとうございました。

[春期：A10 老後資金について考える]

- ・あっという間の90分でした。帰ったら年金定期便を確認してみようと思います。今が一番若い。心にささりました。今後について良く考えてみる良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・90分と限られた時間でしたが、とても分かりやすい講義でした。老後資金については、まだ課題がありそうですので次回あることを期待いたします。
- ・経済分野の内容を、一般人でも理解できる内容とお話でとても分かりやすく講義していただきました。

[春期：A11 「終活」最前線]

- ・成年後見制度運用時の問題点、士業の人たちへの高額な費用等、今まで終活に不安を覚え

る情報に多く触れてきましたが、様々な選択肢があり、自分の希望に沿った終活の準備を進めて行けるのではないかと思います。

- ・「終活」に必要な情報が得られた。やるべき事が沢山あり、早めにスタートすべきなのに中々スタートできていない。認知症も他人事ではない。
- ・終活にはサポートが必要で大事なことを実感した。

[春期：A12 キリンを初めてみた日本人は誰？]

- ・急遽 Web 参加とさせていただきました。非常に楽しく、興味深いお話を聞くことができました。小学校低学年の子どもたちですが、楽しかったと申しております。ありがとうございます。
- ・郡司先生からキリンのお話を聞くことができ感無量でした。私は獣医学生なので、初めて飼育した際のキリンの食餌についてのお話が特に印象的でした。とても興味深いお話をありがとうございました。
- ・知的好奇心が刺激されるととても面白い面白さだった。数々の書物などから今まで解き明かされていなかった事実を明らかにする探求心と「研究者のすごさ」に終始感動しっぱなしだった。

[春期：R1 簿記の世界に飛び込もう]

- ・Web でも可能ならと軽い気持ちでしたが受講して良かったです。簿記の面白さを知ることができました。せっかくなので勉強を続け検定を受けたいです。このような機会を頂けたことに感謝致します。
- ・簿記の勉強をしたいとずっと思っていたので、いい機会をいただきました。久しぶりに教室で講義を受け、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・資格試験対策の話より、実務での簿記の話が多くこれはこれで面白かった。

[春期：R2 最新の介護福祉実践とケアマネジメント]

- ・現場の経験と照らし合わせながら自分の至らない点を振り返りながら聞くことで、反省にもなり勉強にもなりました。すぐにでも職場内で周知し、みんなで実践したくなるような内容で活力になりました。
- ・認知症について違った視点から知り・学びました（特に1日目）。また、2日目は「当たり前前のことが大事！」ということ、論理的に解釈できる内容でした。ありがとうございました！
- ・日頃のケアの中で、やってしまっているな、と思うことが多々あり、介護の専門職としてもっと勉強してより良い介護ができるようにならなければと考えられる良い機会になりました。

[春期：R3 みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分を見つけよう]

- ・地域で子育て支援や居場所運営など、実践されている方の生のお話しが伺えるチャンスをいただき大変参考になり、また、元気も頂きました。
- ・沢山の出会いと関係性が生まれました。自分が何をしたいのか、何が知りたいのか、今何ができるのかを考える機会になりました。
- ・久々に学びの機会が与えられた。森田名誉教授は私の時代は若く助教授だったが、その若さと勢いは増していると感じた。

2023年度 秋期講座総合集計結果

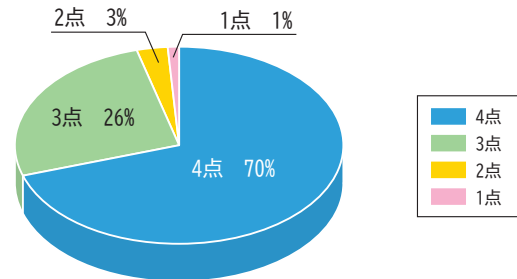
申込者数：422名

回収枚数：189枚

◎受講した講座について(満足度等)

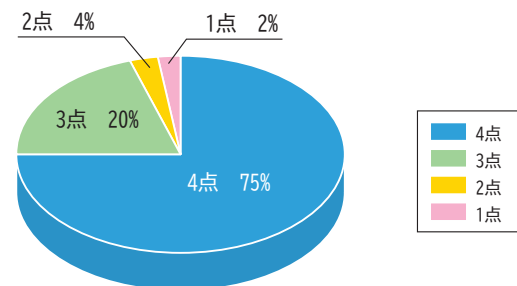
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
132	49	6	2



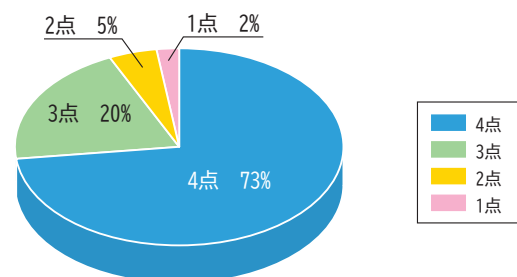
【理解度(分かり易さ)】

4点	3点	2点	1点
141	38	7	3



【満足度】

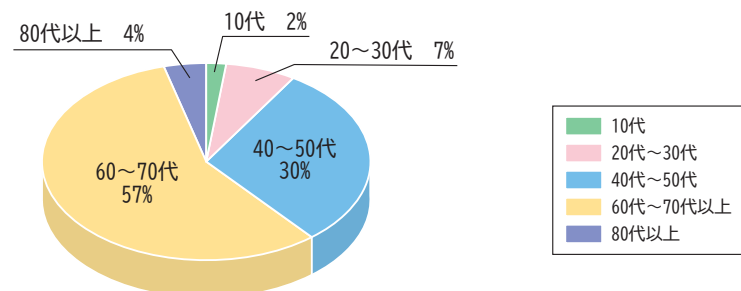
4点	3点	2点	1点
139	37	9	4



◎受講者について

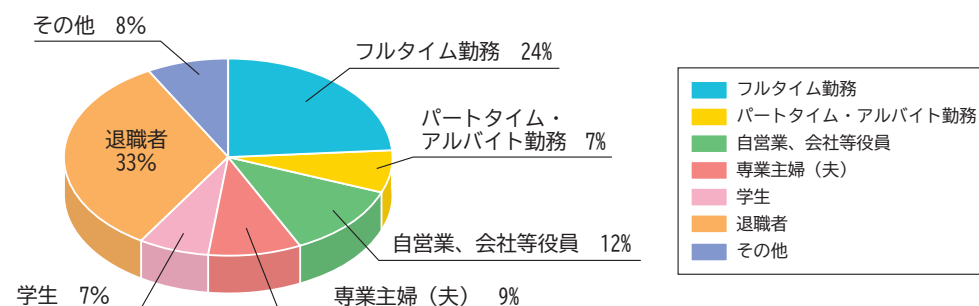
【年齢】

10代	20～30代	40～50代	60～70代	80代以上
4	14	56	108	7



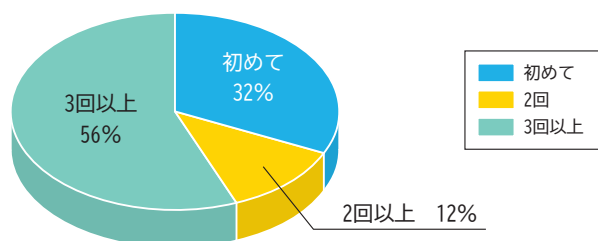
【職業】

フルタイム勤務	パートタイム・アルバイト勤務	自営業、会社等役員	専業主婦(夫)	学生	退職者	その他
45	13	23	17	13	62	16



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
61	23	105



【講座の感想等】

【秋期：0P1 麟祥院と井上円了】

- ・坐禅の機会をつくってくださり感謝です。また開催したら参加したいです。心スツキリです。円了先生の生涯を知ることができ教育熱心な方だったとわかりました。
- ・短い時間でしたが、わかりやすくお話頂いたと思いますし、哲学館事件の真相を知りたいと興味が大いに湧きました。

【秋期：0P2 ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう】

- ・学生時代にお世話になった先生の講義をまた受けることができ、大変嬉しかったです。改めて災害に対する意識を高めなければと思いました。住む場所の重要性やマイタイムラインについて、家族にも教えようと思います。
- ・長時間にわたる講座だったが、興味深く、分かりやすく話していただけて、時間がたつのが早く感じました。実生活に役立つ内容が多く、我が家の防災を考えるきっかけをいただきました。
- ・誰にでも起こりうる災害に関してまとまった解説と言葉の意味を伺うことができ満足しています。住んでいる市町村のハザードマップを改めて見直す機会にもなりました。

[秋期：A1 大乘仏教をめぐる諸問題]

- ・豊富な資料を駆使して、わかりやすく話していただいたので、私のような初心者でも、なんとかついていくことができました。ありがとうございます。
- ・これまで聞きたかった内容について、春に続いて秋も体系的に講義を聞かせていただき勉強になりました。ありがとうございました。
- ・曼荼羅を学ぶ中で、大乘仏教の成立過程を知りたくなったので受講したが、最近の研究成果を聴けて大変良かった。

[秋期：A2 良寛の仏教]

- ・良寛さんの読んだ歌の数々は暖かく心に響きました。先生の読み方も優しくて心地良かったです。田舎の誰も来ない庵で一人静かに自然を感じつつ暮らしたくなりました。浄土宗や真言宗との関わりも分かり良かったです。
- ・前期の良寛と『法華経』を皮切りに、良寛の奥深さを学べ、後期は禅宗や浄土の世界、そして密教など、自らの浅学さを痛感しました。竹村先生に感謝いたします。
- ・良寛さんが、私がこれまで知っていた人物像に比べ、禅宗だけでなく浄土宗や密教にも深い造詣のある方であることが知られ、更に興味がわいた。

[秋期：A3 神と悪魔]

- ・新しい視点で面白かった。

[秋期：A4 幕末維新の古文書を読む・知る]

- ・有名な史料でも改めて読んでみると必ず新たな発見があると思いました。岩下先生が生きて語ってくださるので毎回楽しかったです。
- ・意義のある時間を過ごすことができました。孝明天皇のご見解については、たいへん興味深かったです。どうもありがとうございました。
- ・先生のきめ細かな丁寧な解説に興味深く受講させていただきました。

[秋期：A5 東アジアと『三国志演義』]

- ・二日間にわたり講座を開講していただき、ありがとうございました。『三国志演義』で疑問に思っていたことに合点がいき、また、受容した国により、受け止め方の違いがあったことに新たな知見が得られました。
- ・講義内容が大変興味深く、また思わぬ視点からのアプローチで楽しみました。

[秋期：A6 斎藤道山と下克上]

- ・美濃の動向と、土岐氏・斎藤氏との関係を改めて学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・知識のある先生で解りやすくお教えいただきました。

[秋期：A7 徳川家康—江戸開幕への道程とその「実像」—]

- ・家康の出自から開幕まで、断片的に知識はあったが、この様にダイナミックに全体の流れを一気通貫に俯瞰した講義で大変勉強になりました。
- ・史実を見る視点について、改めて考えることができました。ありがとうございました。
- ・説明も判り易く、資料も充実していて、大変参考になりました。

[秋期：A8 『源氏物語』全巻を読む]

- ・15年程前から先生の講座を受講し、先生のお話の楽しさ、源氏物語の魅力にはまりました。受講を続けて、物語の背景や人物造形などの知識が深まるにつれ、一層深く味わうことができました。ありがとうございました。
- ・次期大河ドラマとの関係が深い内容で、ドラマを楽しむためにもと思い受講しました。期待通りとても興味深く楽しませて頂きました。次回は紫式部と清少納言についてお話し下さるようで、益々楽しみにしています。
- ・河地先生のお話を楽しみに受講しています。奥深く、難しい作品を素人でもわかるようご説明いただき、楽しく『源氏物語』を読むことができました。ありがとうございました。

[秋期：A9 村上春樹の文学世界]

- ・村上春樹の3作品について、テーマや話の構想、時代背景や他作品との関連などを知ること、村上春樹作品の読み方や面白さが少しわかることができました。とても満足です。
- ・村上春樹を改めて読み直すいい機会になりました。村上作品を続けてじっくり読むことがなかったので、今回それができて新たな発見があり、面白かったです。
- ・大変楽しめた。一人で小説の感想を噛み締める事はあっても講義を受けることはなかったので、解釈に整理整頓が出来て良かった。

[秋期：A10 ストレス反応と自律神経]

- ・とてもわかりやすい表現で解説して下さり、専門的な知識がなくても理解ができると感じました。自律神経のしくみや概要がわかり、受講してよかったと感じました。
- ・私達の身体で起こっている反応が、繋がりを持って理解する事が出来ました。

[秋期：A11 絵画鑑賞入門：グランドツアーと風景画の旅]

- ・グランドツアーは、最近の日経新聞の日曜版にも特集されるなど、タイムリーなテーマでした。講義内容はわかりやすく、かつアップテンポの説明がピッタリしていました。
- ・「クロード鏡」を使って实景に背を向けて鏡に景色を映して観る。初めて知る景色の愛で方で驚きました。とても有意義な講義でした。ありがとうございました。

[秋期：A12 高経年マンションの価値向上にむけて]

- ・管理組合に向けて、いい提案の講座でした。情報元のマンションリフォーム推進協議会の総務委員会の資料も活用していただき、ありがたく感じております。
- ・マンションの改築工事をすでに何回か経験しているので非常にわかりやすかった。

[秋期：A13 植物、その驚きの能力！]

- ・金子先生のご解説が、分かり易く、楽しく、そして素晴らしい刺激に満ちていました。いままで知らなかった植物の世界とそのありようと、そこに光を当ててくださった金子先生の植物への深い尊敬に感動いたしました。
- ・講師の先生の植物愛をひしひしと感じた。説明の比喻も文学的かつわかりやすく、さすが文学部の先生！と思った。いろいろな質問にも素早く的確に答えてくれて頼もしかった。資料も参考になった。
- ・植物の驚きの能力に関心しました。また、ヒトを中心とする物事の考えた方も植物の長い歴史と多様性を考えると改めて謙虚に考え直さなければならないことが多くあると感じました。

[秋期：R1 クリエイティブ分野のためのデザイン思考]

- ・ 思考について、事例交え、わかりやすく解説いただきました。2日にわたる講義でしたが、内容は非常に濃く、ポイントを明確にしていただけなので、初心者でもわかりやすく大変有意義な時間でした。
- ・ 授業で教わった内容を1つでも実行できれば、普段のマネリな日常を別の視点から考えることができると思います。脳をグルグルとかき回されるような刺激的な内容でした。
- ・ 柏樹先生のお話はわかりやすく実践的、本音で伝えてくださるので大好きです。新しい知見をすぐに仕事に活かすこともでき、感謝しています。

[秋期：R2 マーケティング入門]

- ・ 自分が在学中の時から市場環境も大きく変わっており、マーケティングがより複雑で難易度が上がっているのを感じました。久しぶりにマーケティングに触れることができ大変有意義な時間になりました。
- ・ 改めてマーケティングの基礎を学ぶことで、普段の仕事にも活かすことができるなど感じました。また、社会人になってから講義を受けることで異なる視点で学ぶことができたように感じます。
- ・ 卒業生なので、過去の振り返りという意味で基礎をおさらいすることが出来たのでいい機会でした。

[秋期：R3 みんなのゼミナール、新しい自分をみつけよう]

- ・ 新たな出会いと学びの場となりました。知らない世界を知り、考えさせられることが沢山ありました。自分を知り、自分が成長できる機会になりました。
- ・ 自分の興味関心ごとへの学びがさらに深まった。資格を持っていない自分でもできることを見つけたいとさらに深く思った。
- ・ 初めて受講しましたが、多様な知見が得られて、とても楽しく学べました。

過去3年間の受講者数

エクステンション講座／2021年～2023年

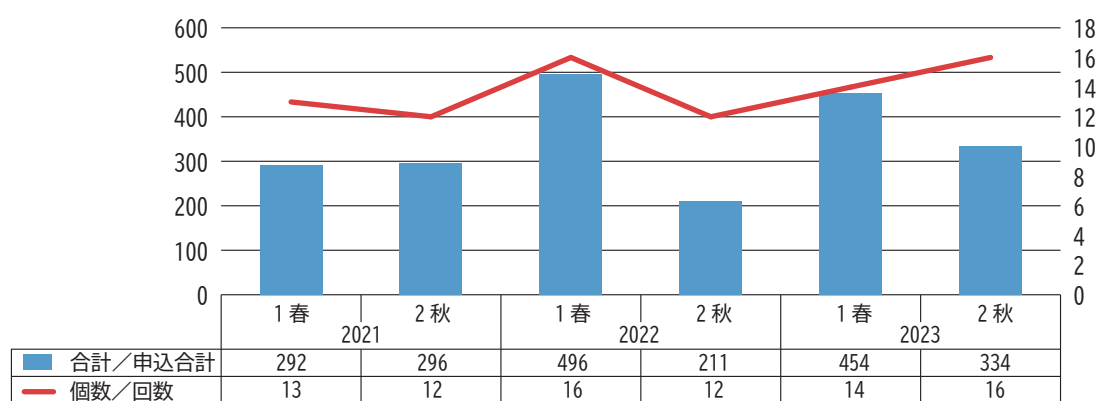
※中止講座は未掲載

※中止講座は未掲載							申込者数						
							一般			学生			申込 合計
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 (分)	対面	Web	計	対面	Web	計	
2021	春	ハイブリッド	江戸幕府の将軍たち	白川部達夫	4	360分	13	10	23	0	0	-	23名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読み解く	岩下 哲典	3	270分	11	13	24	0	2	2	26名
		ハイブリッド	巴蜀からみる『三国志』	白井 順	2	180分	10	8	18	1	0	1	19名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む「東屋」巻ー「浮舟物語」の始発～破談、匂宮との出会い、そして、浮舟は薫と結ばれた～	河地 修	8	960分	17	8	25	2	2	4	29名
		Web	村上春樹の小説を味わうー初期3部作の世界ー	石田 仁志	3	270分	0	8	8	0	1	1	9名
		ハイブリッド	心とは何かー井上円了『仏教心理学』に学ぶ	竹村 牧男	3	270分	29	24	53	0	1	1	54名
		ハイブリッド	ポストコロナ時代の 死生観のために	朝倉 輝一	3	270分	5	6	11	0	2	2	13名
		対面	化石レプリカで学ぶ 地球生命史	寺木 秀一	1	90分	20	0	20	0	0	-	20名
		Web	アートと社会ー教養が身につく美術鑑賞入門	増子 美穂	3	270分	0	14	14	0	0	-	14名
		ハイブリッド	運動習慣が身体に及ぼす効果について考える	小河 繁彦	2	180分	9	7	16	1	0	1	17名
		ハイブリッド	英語演説を読み解くースティーブ・ジョブズから受け取る想いー	竹野谷みゆき	1	90分	7	7	14	1	0	1	15名
		ハイブリッド	介護する覚悟、介護される覚悟	八木 裕子	2	180分	14	9	23	0	1	1	24名
		ハイブリッド	引き揚げから東京 2020 へ～京都府舞鶴市とウズベキスタンの「希望」のかけはし～	須賀 忠芳	1	90分	19	10	29	0	0	-	29名
	秋	ハイブリッド	空海の思想に学ぶ	竹村 牧男	3	270分	27	18	45	1	1	2	47名
		ハイブリッド	葬制儀礼と死者祈禱ー日本の諸宗教とキリスト教ー	中里 巧	3	360分	8	7	15	0	0	-	15名
		ハイブリッド	初期仏教入門ーブツダのさとりとその教えー	渡辺 章悟	3	270分	17	9	26	0	2	2	28名
		ハイブリッド	江戸幕府の将軍たち	白川部達夫	3	270分	6	4	10	0	2	2	12名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読み解く	岩下 哲典	3	270分	19	15	34	0	1	1	35名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む 「浮舟」巻 ～運命に翻弄される浮舟～	河地 修	8	960分	9	10	19	1	4	5	24名
		対面	ミャンマーのクーデター：社会・経済の現状と展望	岡本 郁子	1	90分	13	0	13	0	0	-	13名
		ハイブリッド	思いやりを科学する III ～「思いやり」と「思いあやまり」～	浅間 正通	1	90分	8	8	16	1	1	2	18名
		Web	がんになっても働くことをあきらめない～就労継続のために知っておきたいこと～	榊原 圭子	5	90分	17	0	17	0	0	-	17名
		ハイブリッド	映像と音楽の融合2～CM音楽、映画音楽、ゲーム音楽の制作現場～	安藤 和宏	5	450分	22	20	42	19	4	23	65名
		対面	ゼロからのドイツ語	田中 雅敏	3	270分	5	0	5	2	0	2	7名
		ハイブリッド	企業を診る眼を養う～決算書分析事始め～	増子 敦仁	4	360分	4	11	15	0	0	-	15名

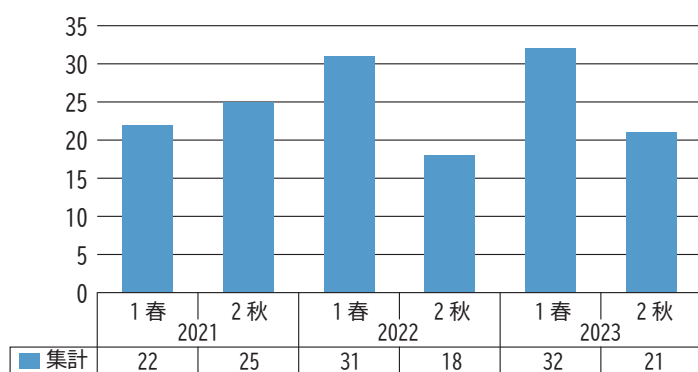
							申込者数						申込 合計
							一般			学生			
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 (分)	対面	Web	計	対面	Web	計	
2022	春	ハイブリッド	唯識思想入門	竹村 牧男	3	270分	27	19	46	1	0	1	47名
		ハイブリッド	戦国の一揆と宗教 ～一向一揆を中心に～	神田 千里	3	270分	9	11	20	0	0	－	20名
		Web	世界遺産を考える	鈴木 道也	2	180分	0	6	6	0	1	1	7名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む 「浮舟」「蜻蛉」巻 ～浮舟の失踪～	河地 修	8	960分	10	8	18	1	3	4	22名
		対面	万葉集講座 一万葉の歌・生活・文化－	菊地 義裕	6	540分	22	0	22	1	0	1	23名
		ハイブリッド	村上春樹入門 ～短編小説を読む～	石田 仁志	3	270分	10	4	14	0	0	－	14名
		対面	中国古典詩入門～李白と杜甫～	坂井多穂子	1	90分	23	0	23	1	0	1	24名
		ハイブリッド	<続>介護保険制度の賢い使い方	須田木綿子	1	90分	11	11	22	1	0	1	23名
		ハイブリッド	高齢年マンションの価値を維持するために－長期修繕計画を再考する－	秋山 哲一	1	120分	17	5	22	0	1	1	23名
		ハイブリッド	スグにできる！洋楽を上手に歌うコツ	湯舟 英一	1	120分	6	2	8	0	0	－	8名
		ハイブリッド	ストレスと自律神経－脳神経科学から見た正体と対処法－	堀内 城司	1	90分	17	9	26	0	1	1	27名
		対面	アニメビジネスの現在・過去・未来	安藤 和宏 他	4	360分	56	0	56	52	0	52	108名
		ハイブリッド	麒麟の身体の不しぎ－人に話したくなる麒麟の魅力－	郡司 芽久	1	120分	82	34	116	1	2	3	119名
		ハイブリッド	海軍鎮守府開庁 120 年周年事業の展開 ～赤れんがを活かしたまちづくり～	須賀 忠芳 他	1	90分	5	3	8	0	0	－	8名
		対面	クリエイティブ分野からみたデザイン思考	柏樹 良	1	120分	13	0	13	3	0	3	16名
		Web	複式簿記の世界への誘い～日商簿記初級にチャレンジしてみよう～	増子 敦仁	7	630分	0	6	6	0	1	1	7名
	秋	対面	死後の魂の民話考 ーヨーロッパと日本の霊性を垣間見るー	中里 巧 他	5	600分	7	0	7	0	0	－	7名
		対面	世界の仏典～その成立と翻訳～	渡辺 章悟	3	270分	16	0	16	1	0	1	17名
		ハイブリッド	鎌倉幕府の創成－源頼朝の人脈と守護・地頭問題を中心に－	森 公章	1	90分	19	11	30	0	0	－	30名
		対面	諸葛孔明のトボス	白井 順	2	180分	10	0	10	2	0	2	12名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む 「蜻蛉」巻～行方も知らず消えし蜻蛉	河地 修	8	960分	11	7	18	1	3	4	22名
		対面	万葉集講座 一万葉の歌・生活・文化－	菊地 義裕	6	540分	24	0	24	1	0	1	25名
		対面	楽しい食育のコツ～味わう力を育み、豊かな感性の芽を伸ばす～	露久保美夏	1	90分	5	0	5	0	0	－	5名
		ハイブリッド	ペットへの愛着と悲嘆	佐藤 亜樹 他	2	240分	5	8	13	2	0	2	15名
		対面	中間選挙後の結果からアメリカの行方を読み解く	横江 公美	1	90分	12	0	12	1	0	1	13名
		ハイブリッド	年金について考える	川瀬 晃弘	1	90分	9	3	12	2	0	2	14名
		ハイブリッド	SDG s と環境問題～私たちが貢献する SDG s ～	後藤 尚弘 平松 あい	2	180分	6	3	9	0	0	－	9名
		ハイブリッド	子どもの声を聴く力	西野 博之 森田 明美	1	180分	11	30	41	1	0	1	42名
2023	春	Web	大乘仏教とは何かーその成立と展開ー	渡辺 章悟	3	270分	0	16	16	0	0	－	16名
		ハイブリッド	良寛の『法華経』観	竹村 牧男	3	270分	29	19	48	0	1	1	49名

							申込者数						
							一般			学生			申込 合計
							対面	Web	計	対面	Web	計	
年度	期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間 (分)	対面	Web	計	対面	Web	計	
2023	春	ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下 哲典	3	270分	11	10	21	1	1	2	23名
		ハイブリッド	江戸時代の徒歩旅行	谷釜 尋徳	2	180分	26	11	37	2	1	3	40名
		ハイブリッド	徳川家康と「信康・築山殿事件」	柴 裕之	1	90分	30	20	50	1	1	2	52名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読むー「手習」巻～浮舟は生きていた！	河地 修	8	960分	13	8	21	0	3	3	24名
		ハイブリッド	江戸時代の二次創作～古典のパロディに触れる～	高松 亮太	2	180分	8	1	9	2	1	3	12名
		対面	福祉社会システム専攻シリーズ：介護保険制度の賢い使い方 2023 版	須田木綿子	1	90分	20	0	20	0	0	－	20名
		ハイブリッド	老後資金について考える	川瀬 晃弘	1	90分	16	7	23	1	0	1	24名
		ハイブリッド	「終活」最前線	井上 治代	1	90分	20	6	26	1	0	1	27名
		ハイブリッド	動物園の生き物をめぐる歴史秘話：キリンを初めてみた日本人は誰？	郡司 芽久	1	120分	54	11	65	0	0	－	65名
		ハイブリッド	簿記の世界に飛び込もう～日商簿記初級にチャレンジ～	坂巻 仁志	7	630分	7	7	14	1	0	1	15名
		ハイブリッド	最新の介護福祉実践とケアマネジメント～認知症ケアと自立支援～	古川 和稔	2	180分	20	45	65	1	0	1	66名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分をみつけよう	森田 明美	3	270分	18	3	21	0	0	－	21名
	秋	Web	大乘仏教をめぐる諸問題	渡辺 章悟	3	270分	0	17	17	0	1	1	18名
		ハイブリッド	良寛の仏教	竹村 牧男	3	270分	19	19	38	1	0	1	39名
		対面	神と悪魔－ヨーロッパと日本の倫理観を霊性から垣間見る－	中里 巧	5	600分	7	0	7	1	0	1	8名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下 哲典	3	270分	13	8	21	3	1	4	25名
		対面	東アジアと『三国志演義』	白井 順	2	180分	9	0	9	1	0	1	10名
		ハイブリッド	斎藤道三と下剋上	木下 聡	1	90分	8	4	12	0	1	1	13名
		ハイブリッド	徳川家康－江戸開幕への道程とその「実像」－	柴 裕之	1	90分	20	9	29	0	0	－	29名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む－「手習」 「夢の浮橋」巻～浮舟はどこへゆくのか？	河地 修	8	960分	21	5	26	2	2	4	30名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界－長編小説を読む 2023－	石田 仁志	3	270分	11	10	21	0	0	－	21名
		ハイブリッド	ストレス反応と自律神経－脳科学から見た正体と対処法－	堀内 城司	1	90分	18	7	25	0	0	－	25名
		ハイブリッド	絵画鑑賞入門：グランドツアーと風景画の旅	増子 美穂	2	180分	7	3	10	0	0	－	10名
		ハイブリッド	高経年マンションの価値向上にむけて～具体的な事例をもとに	秋山 哲一	2	180分	8	6	14	0	0	－	14名
		ハイブリッド	植物、その驚きの能力！－知られざる植物の世界－	金子 有子	1	120分	20	6	26	1	1	2	28名
		対面	クリエイティブ分野のためのデザイン思考	柏樹 良	2	240分	9	0	9	1	0	1	10名
		ハイブリッド	マーケティング入門	長島 広太	1	90分	21	4	25	0	0	－	25名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう～子ども・若者に寄り添う支援を考える～	森田 明美	3	270分	12	13	25	2	2	4	29名

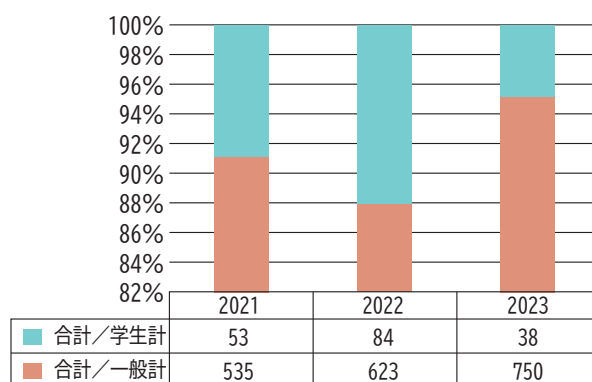
申込者数／開講数（エクステンション講座）



平均申込者数
（各期申込者数／各期講座数）



申込者内訳（エクステンション講座）



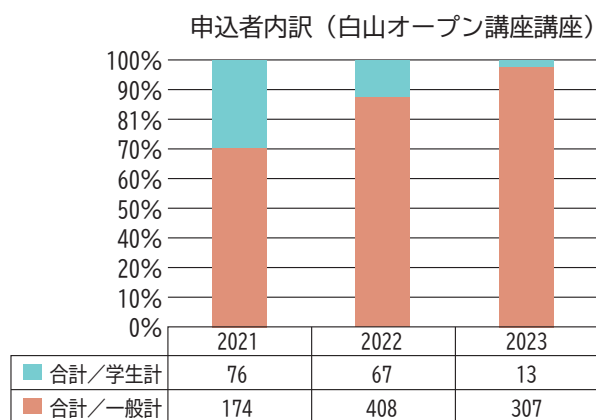
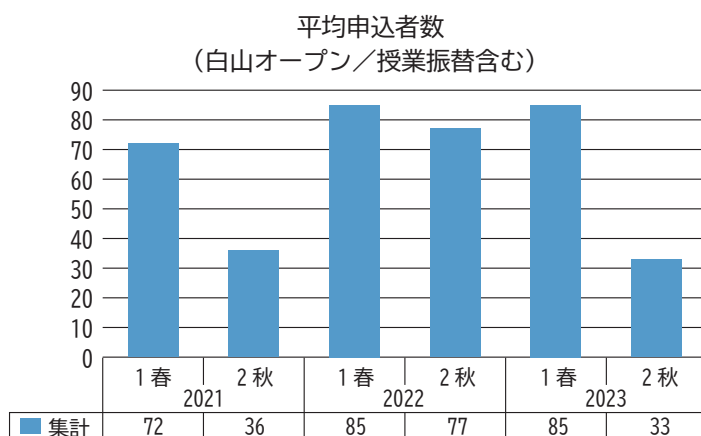
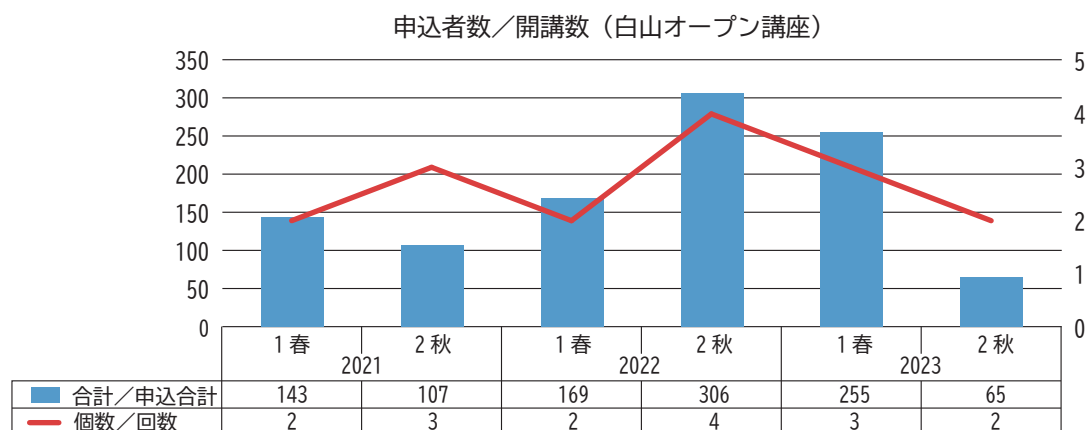
オープン講座（無料リカレント講座含む）／2021年～2023年

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。

※白山以外は、一般に学生を含める。

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。 ※白山以外は、一般に学生を含める。									申込者数						申込 合計
									一般			学生			
年度	期	形式	会場	テーマ（一部省略有）	主な講師 公演者等	講師等 人数 (団体数)	回数	総時間 (分)	対面	Web	計	対面	Web	計	
2021	春	ハイブリッド	白山	SDGs と子どもの人権（対面） —平和・開発・人権と子どもの参加—	大谷美紀子 森田 明美	2	1	90	32	29	61	34	29	63	124名
		対面	板倉	日本人なら知っておきたい、 『古今和歌集』の真実—「天皇 の歌集」の謎に迫る—	河地 修	1	1	120	40	0	40	0	0	0	40名
		Web	白山	防災の思想～避難情報廃止論と 防災プラグマティズム～	及川 康	1	2	180	0	17	17	0	2	2	19名
		対面	川越	映画で「防災」を考えてみよう	及川 康	1	1	90	18	0	18	0	0	0	18名
		対面	赤羽台	共生のための住まい ～スウェーデンのコレクティブハウス～	水村 容子	1	1	90	33	0	33	0	0	0	33名
	秋	ハイブリッド	白山	井上円了 ―哲学の展開・妖怪文化の変遷―	竹村 牧男 湯本 豪一	2	2	120	47	0	47	3	0	3	50名
		対面	白山	井上円了と哲学堂公園をめぐる スタディ・ツアー	三浦 節夫	1	1	90	29	0	29	0	0	0	29名
対面		白山	災害時の子どもの居場所 意義 と作り方	森田 明美	3	2	180	20	0	20	8	0	8	28名	
2022	春	ハイブリッド	白山	カーボンニュートラル（脱炭素） ～なぜ？ どうする？～	小川 芳樹	1	1	120	29	41	70	1	4	5	75名
		ハイブリッド	白山	無意識を鍛える ―変化の時代を 生き抜くための円了 100 の言葉―	吉田 善一	1	1	90	29	63	92	0	2	2	94名
		ハイブリッド	赤羽台	希望の建設・地獄の営繕 2022	内田 祥士	1	4	360	68	141	209	3	4	7	216名
		ハイブリッド	川越	パルスオキシメーターって何？ ～身近な医療機器を知ろう	山内 康司	1	1	90	10	15	25	4	0	4	29名
		ハイブリッド	板倉	共鳴する『枕草子』と『源氏物語』 ～二人の「女房」は何を書き遺したのか	河地 修	1	1	120	24	130	154	0	0	0	154名
	秋	対面	白山	井上円了と東洋大学発祥之地 麟祥院を知る座禅体験	竹村 牧男	1	1	90	20	0	20	13	0	13	33名
		ハイブリッド	白山	井上円了の真宗観	竹村 牧男	1	3	270	52	51	103	1	2	3	106名
		ハイブリッド	白山	災害の心理 ～避難・パニック・流言 について～	中村 功	1	2	180	34	45	79	1	4	5	84名
		ハイブリッド	白山	〈リカレント〉東洋大学の起業家と アントレプレナーシップ	山本 聡	3	1	90	12	32	44	26	13	39	83名
2023	春	ハイブリッド	白山	ドナルド・キーンの日本文学を 学ぶ～蔵書整理・調査プロジェクトから～	石田 仁志 他	4	3	270	23	8	31	5	1	6	37名
		ハイブリッド	白山	ウクライナ侵攻と EU 気候変動・ エネルギー政策	市川 顕	1	1	90	47	48	95	3	1	4	99名
		ハイブリッド	白山	井上円了の妖怪学―迷う心と向き 合う―	長谷川琢哉	1	2	180	48	68	116	1	2	3	119名

2023	春	ハイブリッド	赤羽台	現代住宅の現実と可能性	内田 祥士	1	2	180	62	54	116	0	0	0	116名
		ハイブリッド	川越	日本の都市と庭園鑑賞～京都の庭園を愉しむ～	神山 藍	1	1	90	19	34	53	0	0	0	53名
		ハイブリッド	板倉	『伊勢物語』『源氏物語』の魅力とは～その「深き心」を探る	河地 修	1	1	120	10	129	139	0	0	0	139名
	秋	対面	白山	麟祥院と井上円了-ZAZENで自己発見・自分磨き！ -	岩下 哲典	1	1	270	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	白山	ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう	松丸 亮	1	1	180	27	18	45	0	0	0	45名
		対面	赤羽台	健康づくりはまちづくりから	齊藤 恭平	1	1	90	21	0	21	1	0	1	22名



文化講演／ 2021 年～ 2023 年

文化講演／ 2021 年～ 2023 年									申込者数						
									一般			学生			申込 合計
年度	期	形式	会場	テーマ	主な講師・ 出演者等	講師 人数	回数	総時間 (分)	対面	Web	計	対面	Web	計	
2021	-	対面	白山	新型コロナウイルスの影響 により中止	-	-	-	-	-		-	-		-	-
2022	秋			日本の話芸－落語－	林家 時蔵 他	3	1	90	167		167	150		150	317名
2023	秋			オレンジ・ランプ映画上映	八木 裕子	1	1	150	107		107	192		192	299名

文京アカデミア講座／ 2021 年～ 2023 年

年度	期	形式	会場	テーマ	講師	回数	総時間 (分)	申込者数
2021	前	対面	アカデミー 文京	江戸庶民の文化	中山 尚夫	3	270	20名
	後			江戸の旅と歩行	谷釜 尋徳	3	270	20名
2022	前	対面	白山	異文化からみた「思いやり」	浅間 正通	3	270	21名
	前		白山	世界と日本の震災と子どもたち	小野 道子	1	90	29名
	後		アカデミー 文京	夢と睡眠の心理学 基礎編	松田 英子	3	270	30名
2023	前	対面	アカデミー 文京	人間と自然 ～理科の視点から国語教材を考える～	大辻 永	3	270	17名
	後	-	-	実施なし	-	-	-	-

受講者アンケートについては「2023年度春期エクステンション講座集計結果」参照



白山オープン講座

ドナルド・キーンの日本研究を学ぶ ～蔵書整理・調査プロジェクトから～

日 時: 2023年5月20日(土)・6月10日(土)・7月8日(土)
14:00～15:30(90分)
竹村 牧男(前東洋大学学長・名誉教授)
講 師: 石田 仁志(東洋大学文学部教授)
森 忠彦(毎日新聞社 記者(ドナルド・キーン記念財団理事))
尾崎 真理子(文芸評論家・早稲田大学教授)
受講者数: 37名

【講座の目標】

故ドナルド・キーン氏(元・東洋大学学術顧問)は日本の文学文化を世界に広めた研究者として多大な功績を残されています。その日本研究の魅力を、氏と交流のあった方々を講師にお迎えして多面的に学んでいきます。





エクステンション講座 A

動物園の生き物をめぐる歴史秘話

キリンを初めてみた日本人は誰？

日 時：2023年7月22日(土) 13:00～15:00 (120分)

講 師：郡司 芽久（東洋大学生命科学部助教）

受講者数：65名

【講座の目標】

キリンという生き物の特徴を理解するとともに、動物園や博物館の役割について理解を深めることを目指しています。



リカレント講座

最新の介護福祉実践とケアマネジメント

～認知症ケアと自立支援～

日 時：2023年6月8日(木)・6月22日(木) 18:30～20:00 (90分)

講 師：古川 和稔（東洋大学福祉社会デザイン学部教授）

受講者数：66名

【講座の目標】

科学的根拠に基づく、理論的な介護福祉実践とケアマネジメントに必要な知識を習得します。



受講者アンケートについては「2023年度秋期エクステンション講座集計結果」参照



白山オープン講座

ハザードマップとマイタイムラインで 災害から身を守ろう

日 時： 2023年10月28日(土)

10：00～11：30(90分)、11：30～13：00(90分)

講 師： 松丸 亮（東洋大学国際学部教授・国際共生社会研究センター
センター長）

受講者数： 45名

【講座の目標】

日本ではどこにいても自然災害の被害を受ける可能性があります。

本講座では、ハザードマップを正しく理解すること、ハザードマップを利用してマイタイムラインを作ることで、災害から身を守る力を高めます。





エクステンション講座 A

『源氏物語』全巻を読む

ー「手習」「夢の浮橋」巻～浮舟はどこへゆくのか？

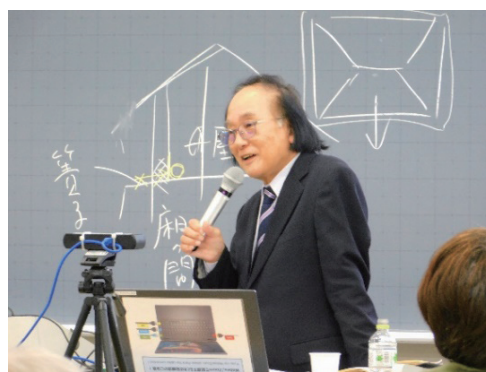
日 時：2023年10月16日(月)～12月11日(月) 14:00～16:00 (120分)

講 師：河地 修（東洋大学名誉教授）

受講者数：30名

【講座の目標】

『源氏物語』の原文を声に出して読み、言葉が導くところの背景や社会を考え、その楽しさを実感できることを目標とします。そして、作者紫式部のメッセージに耳を傾けます。



リカレント講座

マーケティング入門

日 時：2023年11月25日(土) 13:00～14:30 (90分)

講 師：長島 広太（東洋大学経営学部教授）

受講者数：25名

【講座の目標】

ビジネスの一つの基礎であるマーケティングの基本を身に付けることができます。それによって、ビジネスを見直すきっかけになるとともに、マーケティング以外の領域について勉強する際の基礎が身につきます。





リカレント講座

みんなのゼミナール 新しい自分をみつけよう

～子ども・若者に寄り添う支援を考える～

日 時： 2023年10月19日(木)、11月9日(木)、12月21日(木)

18：30～20：00(90分)

講 師： 森田 明美(東洋大学名誉教授)

坪井 節子(社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事 / 弁護士)

細野 直人(社会福祉法人カリヨン子どもセンター

カリヨンとびらの家 ホーム長)

受講者数：29名

【講座の目標】

子どもや若者に対する支援のあり方について考え、福祉実践及び福祉制度への理解を深めることを目指します。



資格講座

2023年度 資格講座

※開講講座のみ記載。

期	講座名	開講地	委託会社	期間	回数	延べ時間数	受講料 (テキスト代を除く)		申込者数			
							学生／ 卒業生	一般	学生	卒業生	一般	計
1	MOS Excel 2019 講座	Web (ライブ)	ヒューマン アカデミー	2023年 5月16日 ~ 2023年 7月18日	10	25H	18,340	22,010	7	1	4	12
2	F P 技能検定 3 級対策講座	対面	TAC	2023年 5月30日 ~ 2023年 9月5日	15	22.5H	13,770	16,530	12	3	3	19
3	宅地建物取引士 講座	対面	TAC	2023年 5月13日 ~ 2023年 10月7日	45	135H	57,600	-	17	1	-	18
4	MOS Word 2019 講座	Web (ライブ)	ヒューマン アカデミー	2023年 10月6日 ~ 2023年 12月15日	10	25H	18,340	22,010	9	-	1	10
5	MOS Excel 2019 講座	Web (ライブ)	ヒューマン アカデミー	2023年 10月10日 ~ 2023年 12月12日	10	25H	18,340	-	18	-	-	18
6	IT パスポート 試験対策講座	Web (ライブ)	ヒューマン アカデミー	2023年 10月20日 ~ 2023年 12月15日	15	45H	19,800	23,760	18	3	4	25
7	F P 技能検定 2 級対策講座	対面	TAC	2023年 10月10日 ~ 2024年 1月25日	27	40.5H	33,050	39,660	11	1	1	13
							合計		92	9	13	114

講師派遣

2023年度 「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」 実施報告

1. 2023年度講師派遣要項

- (1) 名称「東洋大学の講義を全国各地にお届けしますー講師派遣」とし、本年度は3つのプログラムを提供した。

①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』)
・教育委員会、生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および学校のPTA等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣
②研修支援プログラム(以下『研修』)
・企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣
③SDGs(持続可能な開発目標)達成学習支援プログラム(以下『SDGs』)
・全国の小・中・高等学校、特別支援学校におけるSDGs目標達成のための教育を推進するため、本学教員を派遣

【派遣期間等】

派遣期間	2023年6月1日(木)～12月15日(金)
申込期間	2023年4月3日(月)～10月16日(月)
申込締切	開催希望日の2ヶ月前迄とし、原則として、①③は年間1団体につき1回派遣。但し、9月および10月開催分は、7月7日(金)締切。
派遣実施件数	79件
派遣上限	本学専任教員並びに本学名誉教授で、1教員の派遣数は原則3回まで

2. 実施経過(概略)

- (1) 2022年11月4日 : 専任教員全員と元教員に対して、当事業への協力要請
- (2) 2023年1月6日 : テーマ募集提出締切
- (3) 2023年1月～3月 : テーマ集約・分類・HPアップ準備(事務局作業)
- (4) 2023年4月3日 : ホームページ等にて受付開始
- (5) 2023年4月7日 : パンフレット送付

送付先	件数
教育委員会	1812
大学施設関連	3
過去派遣実施(自治体他)	454
過去派遣実施(企業)	24
東京都・文京区	47
高校教員入試説明会	545

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：専任教員 170名(全専任教員の約23%) 元教員37名

プログラム	生涯	研修	SDGs	合計
募集時 テーマ数	208	24	90	604
	282 (共通テーマ)			
実施件数	67	3	9	79

(1) 地域別派遣実施件数

地 域	生涯学習			研修			SDGs			合計		
	2022	2023	増減	2022	2023	増減	2022	2023	増減	2022	2023	増減
北海道	3	5	↑ 2	0	0	—	0	0	—	3	5	↑ 2
東 北	6	1	↓ (5)	0	0	—	1	0	↓ (1)	7	1	↓ (6)
関 東	34	39	↑ 5	3	2	↓ (1)	16	8	↓ (8)	53	49	↓ (4)
中部/甲信越	5	6	↑ 1	0	1	↑ 1	0	0	—	5	7	↑ 2
北 陸	4	3	↓ (1)	0	0	—	1	1	→ 0	5	4	↓ (1)
近 畿	4	6	↑ 2	0	0	—	0	0	—	4	6	↑ 2
中 国	2	2	→ 0	0	0	—	0	0	—	2	2	→ 0
四 国	1	1	→ 0	0	0	—	0	0	—	1	1	→ 0
九 州	4	4	→ 0	0	0	—	0	0	—	4	4	→ 0
合 計	63	67	↑ 4	3	3	→ 0	18	9	↓ (9)	84	79	↓ (5)

(2) 実施一覧 別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。()内は派遣実人数。

年度	2022	2023
専任教員	59件 (42名)	45件 (33名)
名誉教授	19件 (11名)	24件 (13名)
客員教授	3件 (2名)	1件 (1名)
元教授	3件 (1名)	9件 (4名)
計	84件 (56名)	79件 (51件)

(4) 申込者(団体) のリピーターの割合

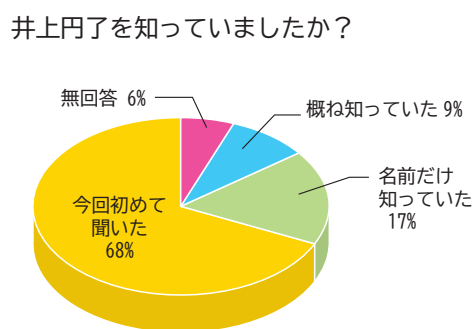
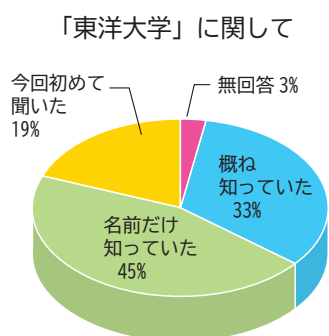
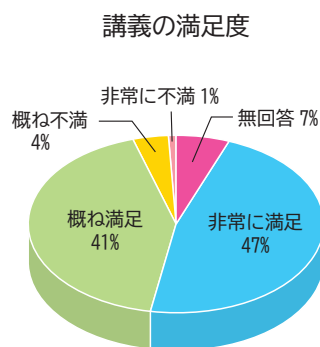
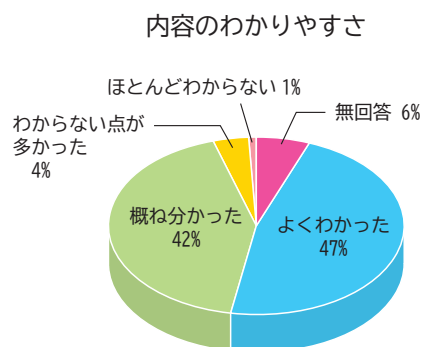
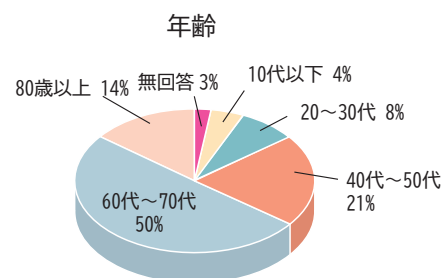
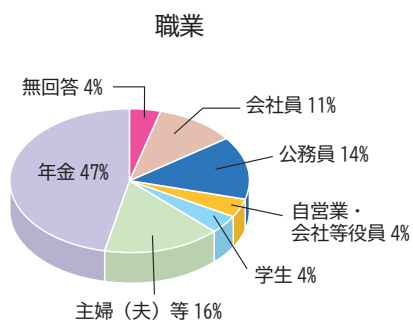
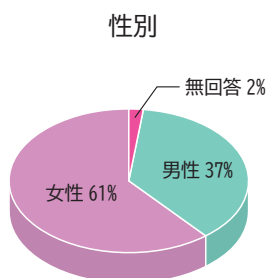
昨年度も実施した団体は22団体で、全体の約28%にあたる。

4. 受講者アンケート結果

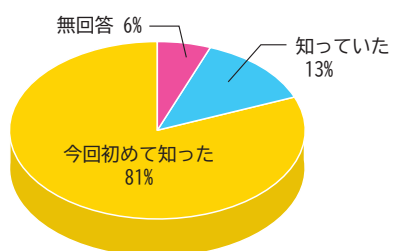
生涯学習支援プログラムを受講した参加者を対象にアンケート調査を実施したところ、昨年度の75%を大きく上回る、92%の団体から有効な回答を得られた(n=2304)。結果は以下の通りである。

講義に対する評価は総じて高く、多くの受講者に満足いただけたようである。

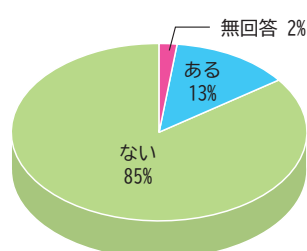
また、アンケートに協力した受講者のうち、13%が以前にも講師派遣の講座を受講したことがあると回答した。図-1・2の結果より、受講歴のある回答者には井上円了・本事業(無料)について周知がされていることがわかる。



「講師派遣事業（無料派遣）」の
社会貢献事業について



「東洋大学講師派遣事業」の講座を
今までに受講したことがありますか？



講義に参加して本学への
関心は持ちましたか？

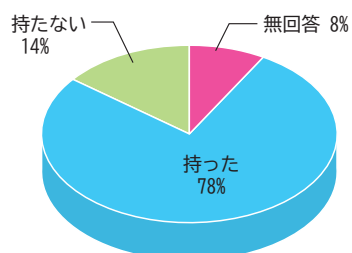


図-1 井上円了を知っていましたか？

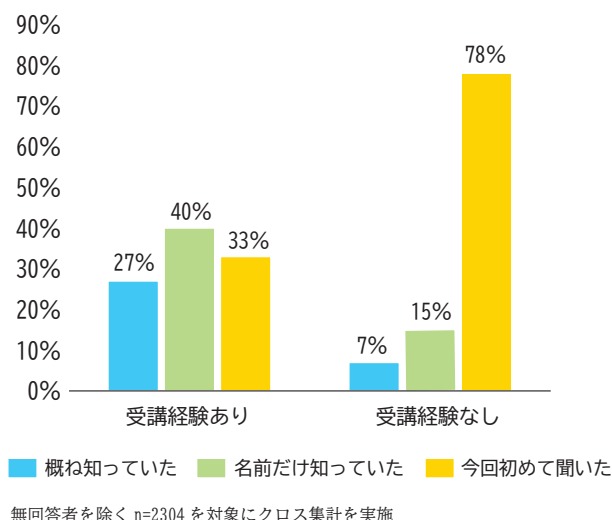
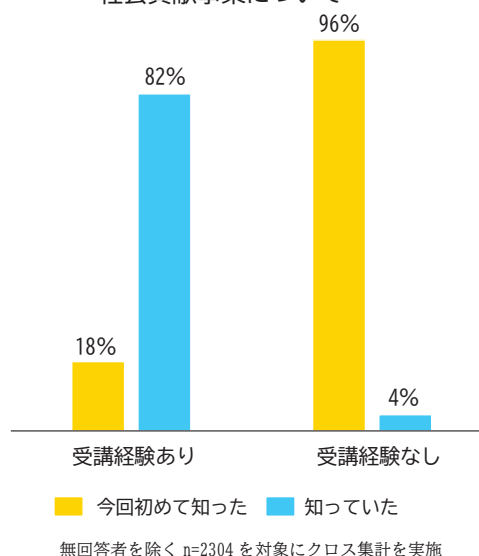


図-2 本学の「講師派遣事業（無料）」の社会貢献事業について



5. 次年度に向けて

2023年度の申し込み件数は94件であったが、15件がキャンセルとなり、実施は79件となった。

昨年度に引き続き、対面による講座実施に限定せず、オンラインによる実施やハイブリッド型による実施の選択肢も用意したところ、オンライン実施は1件、ハイブリッド型での実施は1件となった。感染症流行下で派遣条件の選択肢が増えたことで、遠方への派遣のハードルが下がり、より柔軟に調整することが可能になったともいえるが、依然として対面による講座実施に重きを置く団体がほとんどであった。そのため日を跨ぐような遠方への派遣においては調整が難航する場面がみられたが、教員および元教員の協力により、片道100kmを超える遠距離出張は35件で、実施件数のうち約4割を占めた。

コロナ禍を経て公開講座もハイブリッド化が進み、大学近隣に住まいを構える方のみならず、全国に学びを提供できるようになった。こうした学びを提供する場があることを、受講者へ伝えていくことが急務である。次年度は派遣回数160件(生涯・SDGs130、研修30)を目標とし、地方を切り離さず、質の高い学びを提供できるよう講座提供をすすめていく。

2023年度 講師派遣事業 派遣先実績一覧

生涯学習支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2023年6月19日	静岡県	沼津市教育委員会事務局 生涯学習課	生涯学習地域推進員講演会	ソーシャル・キャピタル — 一人の絆が人生を豊かにする —	八巻 節夫	名誉教授	52
2	2023年6月30日	埼玉県	所沢市ファミリー・サポート・センター	市民の方フォローアップ講習会	子供の成長と運動について考える— 身体と脳 —	小河 繁彦	理工学部	43
3	2023年6月30日	秋田県	特定非営利活動法人ふじさと元気塾	粕毛地区のビジョン作りと地域活性化	地域を開く未来世代へのメッセージー 30年後の世界を展望しよう!! —	青木 辰司	名誉教授	11
4	2023年7月11日	群馬県	安中市教育委員会	安中市生涯学習学推進協議会講演会	フローな人生を送るために— 「With コロナ」の生き方	八巻 節夫	名誉教授	33
5	2023年7月14日	茨城県	つくば秀英高等学校	キャリア探究講座	牛が人を食う— アマゾンの熱帯雨林が燃えるわけ—	紀 葉子	社会学部	83
6	2023年7月21日	神奈川県	座間市立東地区文化センター	座間市あすなろ大学 社会的課題講座	これからの人生どう生きるか— 現代社会の課題と生き方、井上円了に触れながら—	大坪 宏至	経営学部	85
7	2023年8月2日	北海道	後志教育研修センター	後志教育講演会	あなたは気持ちを言葉で表していますか?— よりよいコミュニケーションを目指して—	坂詰 力治	名誉教授	163
8	2023年8月3日	神奈川県	茅ヶ崎市役所	東洋大学生涯学習プログラム	100年人生でのリスクリソグ (新しい学び)	小島 貴子	理工学部	5
9	2023年8月9日	長野県	御代田町教育委員会	いきいき教室	現代社会に問われ始めたデジタルとアナログのコラボ力	浅間 正通	人間科学総合研究所	21
10	2023年8月11日	愛知県	春日井市	夏休み親子体験講座	大人の理科教室— マイクロプラスチック〜煮干しの解剖	寺木 秀一	元教授	29
11	2023年8月17日	北海道	室蘭市悠悠ライフ教養講座	特別講座「東洋大学講座」	牛が人を食う— アマゾンの熱帯雨林が燃えるわけ—	紀 葉子	社会学部	45
12	2023年8月19日	岡山県	津山市総務部人権啓発課	男女共同参画さん・さんセミナー	大人の理科教室— 再生可能エネルギー模型の制作— 小学校理科実験はこんなにおもしろかった?—	寺木 秀一	元教授	46
13	2023年8月20日	千葉県	旭市教育委員会	夏休み「体験」教室	大人の理科教室— アンモナイトのレプリカづくりを通して地球の歴史を探ろう—	寺木 秀一	元教授	45
14	2023年8月23日	京都府	京丹後市青少年健全育成会	京丹後市青少年健全育成会・家庭教育講演会	たかがアニメの教育学— サザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃん—	藤本 典裕	文学部	100
15	2023年8月27日	沖縄県	沖縄県石垣市	南の島の星まつり 2023	身近な環境問題「光害」を考えよう	越智 信彰	経営学部	25
16	2023年8月30日	東京都	文京区の生涯学習自主学習団体「かぶこう会」	健康長寿への取り組み	毎日の健康と長寿の決定要因は?	鈴木 孝弘	名誉教授	23
17	2023年9月3日	徳島県	北島町人権教育推進協議会	北島町人権セミナー	障がいのある人たちへの虐待防止と人権擁護	是枝喜代治	福祉社会デザイン学部	28

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
18	2023年9月7日	新潟県	佐渡市教育委員会	令和5年度市民大学講座	郷土の先人に学ぶ―地域社会の活性化―	吉田 公平	名誉教授	40
19	2023年9月12日	東京都	練馬区役所教育委員会事務局 子ども家庭部 子育て支援課	子育て支援に関する講演会	園や学校における相談支援―「聴く」技法と「勇気」づけ―	中原 美恵	名誉教授	73
20	2023年9月13日	埼玉県	志木市立いろは遊学館	いろは大学文学講座	『伊勢物語』はおもしろい！―在原業平とは何者なのか―	河地 修	名誉教授	64
21	2023年9月18日	東京都	文京区立千石図書館	千石図書館文化講座	江戸庶民の旅と歩行	谷釜 尋徳	法学部	23
22	2023年9月20日	北海道	厚沢部町 教育委員会	文化講演会	万能薬としての運動：ストレスと脳への効果	小河 繁彦	理工学部	34
23	2023年9月22日	熊本県	氷川町教育委員会	氷川町ふれあい大学	食でのびる寿命、縮む寿命	芝崎 誠司	経済学部	72
24	2023年9月24日	東京都	羽村市教育委員会	ゆとろぎ市民講座	輝いて生きるための「終活」講座―自分らしい葬送と生前準備―	井上 治代	元教授	55
25	2023年9月28日	京都府	城陽市教育委員会	城陽市民大学	世界・日本・地域の防災	松丸 亮	国際学部	72
26	2023年10月1日	埼玉県	鶴ヶ島市立中央図書館	文学講座	グリム研究への誘い	大野 寿子	文学部	31
27	2023年10月3日	山梨県	山梨市教育委員会	山梨市成人大学講座いきいき魅力発見学部	食品表示から食の安全・安心を考える	大熊 廣一	名誉教授	33
28	2023年10月7日	山口県	美祢市大嶺公民館	大嶺町民講座	『伊勢物語』はおもしろい！―在原業平とは何者なのか―	河地 修	名誉教授	27
29	2023年10月13日	富山県	滑川市中央公民館	福寿大学学習会	万能薬としての運動：ストレスと脳への効果	小河 繁彦	理工学部	49
30	2023年10月14日	千葉県	鎌ヶ谷市中央公民館	C046 ネットショッピングの魅力と注意点	ネットショッピングの魅力と注意点	長島 広太	経営学部	34
31	2023年10月14日	群馬県	館林市城沼公民館	小学校家庭教育教育学級合同講演会	教育について考えるいくつかのヒント―ぬいぐるみの犬の話―	藤本 典裕	文学部	16
32	2023年10月24日	埼玉県	鴻巣市	鴻巣市民大学講座「こうのとりのアカデミー」	食を取りまく環境―日本と世界の食糧事情を考える―	大熊 廣一	名誉教授	89
33	2023年10月24日	京都府	亀岡市教育委員会	子育て・親育ち講座	子どもの心の成長を支える―健やかな心、めげない強さ―	中原 美恵	名誉教授	40
34	2023年10月25日	東京都	板橋グリーンカレッジOB会	文化部講演会	松尾芭蕉は、本当に健脚だったのか	谷釜 尋徳	法学部	86
35	2023年10月27日	埼玉県	さいたま市図書館友の会 / さいたま市立中央図書館	さいたま市図書館友の会創立30周年記念特別講演会	漢字の魅力を知ろう―漢字の表す姿と形―	坂詰 力治	名誉教授	64
36	2023年11月3日	東京都	小平市中央公民館	小平市中央公民館 サークルフェア 2023	折り紙や切り紙で幾何学を楽しもう	吉野 隆	理工学部	21
37	2023年11月4日	東京都	北区立赤羽文化センター	区民講座	異文化理解のための心理学	平畑 奈美	文学部	17

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
38	2023年11月9日	京都府	宮津市教育委員会	第2回宮津市人権問題研修会	人の多様性の理解と共生にむけて	南野奈津子	福祉社会デザイン学部	58
39	2023年11月10日	千葉県	佐倉市教育委員会	根郷公民館主催事業	記憶と忘却のメカニズム	児島 伸彦	生命科学部	43
40	2023年11月11日	埼玉県	桶川市	桶川東公民館講座	ヨガで学ぶメンタルヘルス	加藤千恵子	総合情報学部	49
41	2023年11月14日	埼玉県	加須市北川辺女性団体連絡協議会	令和5年度加須市女性団体合同研修会	あまり飲まないほうがいい薬の話	鈴木 孝弘	名誉教授	167
42	2023年11月17日	群馬県	みどり市笠懸公民館	みどり市笠懸地域高齢者大学	江戸の将軍たち	白川部達夫	名誉教授	93
43	2023年11月22日	千葉県	習志野市 中央公民館	中央公民館主催事業 歴史探訪	「江戸無血開城」の真実	岩下 哲典	文学部	32
44	2023年11月25日	東京都	永福和泉地域区民センター協議会	江戸時代の百姓の土地所有ー東アジアとの比較を通してー	江戸時代の百姓の土地所有ー東アジアとの比較を通してー	白川部達夫	名誉教授	28
45	2023年11月26日	東京都	西荻地域区民センター協議会	学級講座	子どものためのデジタル社会	島田 裕次	元教授	29
46	2023年11月26日	神奈川県	寒川町民センター	国際交流プログラム	ヴィジュアル言語 日本語の面白さ	三宅 和子	名誉教授	26
47	2023年11月26日	千葉県	鴨川市	鴨川市青少年健全育成推進大会及び鴨川市東洋大学交流事業	たかがアニメの教育学ーサザエさん、ちびまる子ちゃん、クレヨンしんちゃんー	藤本 典裕	文学部	77
48	2023年11月27日	東京都	杉並区井草地域区民センター協議会	区民センター協議会学級講座	クラシックパレエ鑑賞入門ー美の秘密ー	海野 敏	社会学部	31
49	2023年11月29日	新潟県	新潟市生涯学習センター	生涯学習ボランティア「クロスパルサポーターズ」主催講演会	睡眠中の夢と心の健康	松田 英子	社会学部	102
50	2023年11月30日	宮崎県	延岡市教育委員会 社会教育課 市民大学	市民大学講座	気候変動対策と市民の役割を考える	小川 芳樹	名誉教授	56
51	2023年11月30日	奈良県	上牧町教育委員会 事務局社会教育課	上牧町家庭教育講座	子どもの心の成長を支えるー健やかな心、めげない強さー	中原 美恵	名誉教授	26
52	2023年12月1日	岐阜県	各務原市役所 西ライフデザインセンター	各務原市主催 秋季短期講座	アジアの街から見た日本	篠崎 正彦	理工学部	50
53	2023年12月2日	兵庫県	加古川市教育委員会 社会教育課	かこてらす市民カレッジ	ソーシャル・キャピタルー一人の絆が人生を豊かにするー	八巻 節夫	名誉教授	10
54	2023年12月2日	埼玉県	長瀬町教育委員会	長瀬町人権フォーラム	子ども・若者の貧困を考える	森田 明美	名誉教授	28
55	2023年12月2日	北海道	帯広市教育委員会	帯広市民大学講座	日本にカジノを作るべきか	児玉 俊介	経済学部	30
56	2023年12月3日	東京都	江北地域学習センター（指定管理者：株式会社ティーエムエンタープライズ）	特になし	植物、その驚きの能力！ー知られざる植物の世界ー	金子 有子	文学部	35

No	開催日時	東京都	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
57	2023年12月3日	北海道	広尾町生涯学習推進協議会	広尾町生涯学習まちづくりセミナー	気候変動問題を考える	小川 芳樹	名誉教授	32
58	2023年12月5日	神奈川県	鎌倉市生涯学習推進委員会	令和5年度講座	日本列島—文学文化風土の旅—	竹内 清己	名誉教授	16
59	2023年12月8日	埼玉県	埼玉県学校保健会 北部高等学校等保健会 養護教諭会	埼玉県北部高等学校等養護教諭研修会 第2回	児童虐待時代の福祉臨床学	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部	24
60	2023年12月9日	東京都	公益財団法人 新宿未来創造財団	民間連携事業	エッシャーの絵で幾何学を学ぼう	吉野 隆	理工学部	21
61	2023年12月9日	茨城県	筑西市子ども会 育成連合会	筑西市子ども会育成連合会 指導者研修会	現代社会における親と子—親にとって子どもとは何か—	西野 理子	社会学部	36
62	2023年12月11日	神奈川県	横須賀市教育委員会	横須賀市人権啓発講座「人権セミナー」	認知症の母を12年間介護して	中里 巧	文学部	24
63	2023年12月12日	静岡県	静岡県東部社会教育振興協議会	富士・沼津ブロック研修会	子ども・若者の貧困を考える	森田 明美	名誉教授	49
64	2023年12月12日	宮崎県	小林社会教育課	令和5年度元気カレッジしあわせ学園第8回講座	輝いて生きるための「終活」講座—自分らしい葬送と生前準備—	井上 治代	元教授	55
65	2023年12月13日	東京都	東京実業高等学校	コンビニエンスストア最新事情	コンビニエンスストア最新事情	長島 広太	経営学部	48
66	2023年12月14日	埼玉県	春日部市教育委員会	遊学スキルアップ講座	サイバー時代の身の守り方—何が問題でどのように守ればよいのか—	島田 裕次	元教授	30
67	2023年12月15日	東京都	公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団	三鷹市民大学総合コース（経済）	日本の経済の展望と変革課題	益田 安良	元教授	30
生涯学習支援プログラム 受講者数計								3112

研修支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2023年7月14日	埼玉県	東松山市子ども会 育成者連絡協議会	東松山市子ども会育成者連絡協議会研修会	分かっていますか？「怒る」と「叱る」の違い	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部	79
2	2023年7月28日	千葉県	一般社団法人 千葉県経済協議会	令和5年度講演会	日本の経済の展望と変革課題	益田 安良	元教授	62
3	2023年12月8日	静岡県	静岡県東部県民生活センター	令和5年度スキルアップ研修会（第6回）	高齢者の財産管理—「老い支度」再考—	山下りえ子	法学部	25
研修支援プログラム 受講者数計								166

SDGs 達成学習支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2023年7月22日	茨城県	稲敷市教育委員会 生涯学習課	稲敷市子ども大 学	未来の仕事—新しいテクノ ロジーとともに働く	久米 功一	経済学部	44
2	2023年8月25日	東京都	帝京高等学校	帝京アカデメイ ア	子どもの貧困	南野奈津子	福祉社会 デザイン 学部	不明
3	2023年8月30日	神奈川県	神奈川県立川崎高 等学校	総合的な探究の 時間	物語や映画からみる法律と 社会	山下りえ子	法学部	687
4	2023年9月13日	石川県	金沢大学附属特別 支援学校	総合的な学習の 時間	極限環境微生物の先端科学 を SDGs 達成のために活かす	伊藤 政博	生命科学 部	25
5	2023年10月18日	東京都	田園調布学園中等 部・高等部	中3・高1 特別 講義	数値の正しい理解とコロナ 対策	小山 信也	理工学部	7
6	2023年11月15日	茨城県	常総学院高等学校	進路講演会	極限環境微生物の先端科学 を SDGs 達成のために活かす	伊藤 政博	生命科学 部	24
7	2023年11月22日	東京都	東京都立砂川高等 学校	出前授業	食べ物の好き嫌いはなぜ生 じるのか？	大瀬良知子	食環境科 学部	23
8	2023年12月13日	東京都	東京都立東久留米 総合高等学校（定 時制課程）	総合的な学習の 時間（人間と社 会）	感じ方ってみんな違って当 たり前	金子 律子	生命科学 部	25
9	2023年12月13日	東京都	杉並区立井荻中学 校	道徳授業	共に生きる社会について考 える	中挾知延子	国際観光 学部	160
SDGs 達成学習支援プログラム 受講者数計								995
総受講者数合計								4273



2023 年度利用者の方から寄せられた声①

生涯学習支援プログラム

利用団体：千葉県 佐倉市教育委員会

開催日時：2023年11月10日(金) 14:00 ～ 15:30 (90分)

講 師：児島 伸彦(生命科学部教授)

テ ー マ：記憶と忘却のメカニズム

聴講者数：43名

◆利用した感想

当地域でも高齢化が進でおり、多くの市民は物忘れや認知症などへの関心が高くなっている。そのため当館でも様々な認知症予防関連の講座を行ってきている。そんな中でも、今回のような科学的なアプローチからの講演は初めて。科学的な見地からデータなどを通して認知症を客観的に知る事で、より理解を深め、これからの生活に役立つ講演だったと思います。説明も明確で大変わかりやすかった。ただ、講演後、先生に直接質問される方が多かったので、公演の中に質疑応答の時間を設けた方が良かったのではないかと感じました。

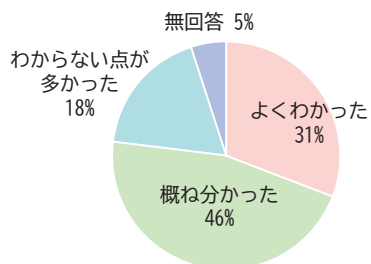
◆受講者の声

- ・ はっきりとした語り口で、聞きやすかったです。参加人数が多いことは関心の高さを現わしていると思います。
- ・ 専門的な事がある程度分かりやすく説明していただいた。脳の中について、ここまで研究されているのかと驚いた。さらに勉強したい。
- ・ 児島先生の研究が早く結果の出ることを期待しています。ありがとうございました。

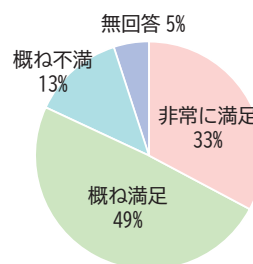


◆受講者アンケート結果（生涯学習プログラムのみアンケート収集）

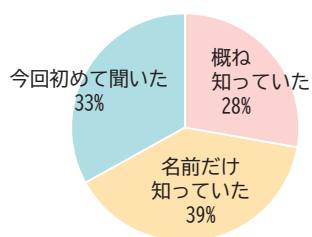
①内容のわかりやすさ



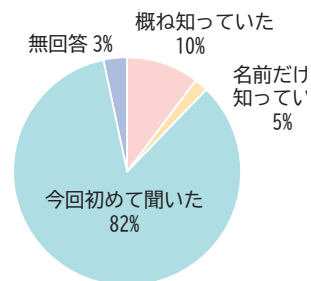
②講義の満足度



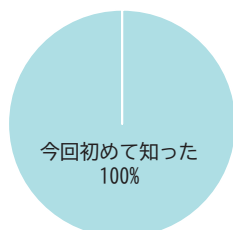
③「東洋大学」に関して



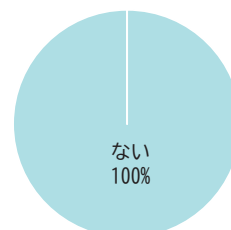
⑦井上円了を知っていましたか？



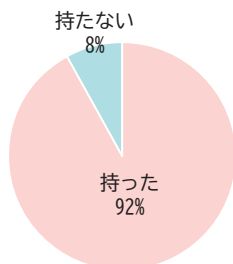
⑤本学の「講師派遣（無料派遣）」の
社会貢献事業について



④「東洋大学講師派遣」の講座を
受講したことがありますか？



⑥講義に参加して本学への
関心は持ちましたか？





2023 年度利用者の方から寄せられた声②

研修支援プログラム

利用団体： 静岡県 静岡県東部県民生活センター

開催日時： 2023 年 12 月 8 日（金） 10:30 ～ 12:00（90 分）

講 師： 山下 りえ子（法学部教授）

テ ー マ： 高齢者の財産管理－「老い支度」再考－

聴講者数： 25名

◆利用した感想

学識経験者に直接、制度の概要や実態について解説いただけたことは、相談対応等に役立つ知識習得の貴重な機会となった。当県では会議・研修会開催方針（ペーパーレス化・デジタル化）に基づき、出席者に講座の資料をデータ提供できるよう対応いただけるとありがたい。

◆受講者の声

- ・ 高齢者や認知症の方の契約や財産管理は、今後ますます課題になっていくということがとてもよくわかった。
- ・ 高齢消費者の特性や当県の現状、また、成年後見制度の利用実態や変化などについて、様々な資料やデータに基づき解説いただいたので理解が深まった。
- ・ データに基づくわかりやすい解説により、制度の実態を整理できた。今後の相談業務において、助言の参考としたい。





2023 年度利用者の方から寄せられた声③

SDGs 達成学習支援プログラム

利用団体：茨城県 常総学院高等学校

開催日時：2023年11月15日(水) 16:00 ～ 17:00 (60分)

講 師：伊藤 政博(生命科学部教授)

テ ー マ： 極限環境微生物の先端科学を SDGs 達成のために活かす

聴講者数：24名

◆利用した感想

お越しいただいた伊藤先生のお話は、極限環境微生物から生物の進化、SDGs、地球温暖化へと派生していき、60分の講演があっという間でした。講演の最後には、実際にクマムシを見せていただき、参加生徒たちはものすごく盛り上がっていました。お話のみの講演会ではなく、生物を実際に見せていただけた点が良かったです。また本校高校生のレベルに合わせてお話いただき感謝しています。

◆受講者の声

- ・ クマムシを初めて見ました。やっぱり生き物を見ながらの授業は面白いと思いました(1年男)。
- ・ 大学で微生物を勉強したいと考え受験勉強に取り組んでいます。極限環境微生物の世界を垣間見ることができ、勉強になりました。モチベーションが上がりました(3年男)。



社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- SDGs 実践講座
- ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト 2022・2023

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013(平成25)年4月1日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の2つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること並びに本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与するとともに、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。本活動は、2013年度から11年目の活動となる。

1. 社会貢献情報収集

(1) 経緯

- | | |
|-----------|--|
| 1月中旬～ | 調査開始(学部長会議及び事務局部長会を経由して個別に依頼) |
| 1月中旬～4月中旬 | Google フォーム・Google スプレッドシート・Excel フォームにて情報を回収・集約 |

(2) 情報の収集

2023年度の調査では、新規分を含め全学への協力依頼と併せて、前年度調査に回答のあった事業に対しては、引き続き、前年度の内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

なお、調査結果は、本センターのホームページに掲載しているが、ホームページの充実強化を図るため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動についても併せて掲載している。

(3) 「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第1に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第2に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第3に地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、例年と同様に『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域(国内外)や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を基本として、本年度からは、より定義を明確にするため、「researchmap」の「社会貢献活動」項目に準拠したフォーマットを用いて、情報の収集と発信を促進した。なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び各学部教務課をはじめ研究推進課等の教務関係所管部署がその実態を把握していることから、2023年度調査においても調査対象とはしないこととした。

参考：大学の「社会貢献」についての文部科学省の見解

大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献(地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与)の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

(出典：平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」)

(4) 調査結果及び公表(参照：2023年度データ)

教員が実施している社会貢献活動が131事業(従来の地域貢献・振興、社会福祉、環境共生、産官学民連携、高大連携、生涯学習、キャリア教育、哲学教育、国際協力等の区分から代表的なSDGs 17目標の区分へ変更する。SDGs 17目標については以下を参照)、学部・研究科、研究所・センター、事務局が中心になって実施している社会貢献活動101事業、合計232事業であった。いずれも、調査回答提出者・調査対象該当者からの延べ件数で、計画中止等のものは含まれていない。

なお、結果は、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、「社会貢献活動一覧」とともに、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページにて紹介している。



Toyo University supports the Sustainable Development Goals



【学部】

文	経済	経営	法	社会	国際	国際観光	理工	総合情報	生命科	食環境科	福祉社会デザイン
12	0	12	19	5	3	25	5	8	0	1	27

【その他】

情報連携	健康スポーツ
0	0

大学院	研究所・センター	事務局(※)
3	56	45

合計
221

※事務局には学科単位の件数を含む。

注：提出者・調査該当のみ

2023年度調査 社会貢献活動一覧

〈教 員〉

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
1	松浦 和也	文学部 哲学科	哲学者が見た 「社会を貧しくする」チャットGPT	コメンテーター 取材協力 情報提供 寄稿	インター ネット	毎日新聞	毎日プレミア	7/4	毎日新聞政治 プレミア	社会人・ 一般 企業 メディア	生成AIの根幹にある発想と、それがもたらす社会への害悪を「貧しくする」という観点から論じた。	https://mainichi.jp/premier/politics/articles/20230703/pol/00m/010/006000c	該当なし
2	高松 亮太	文学部 日本文学文化 学科	賀茂真淵記念館 記念館アカデミー	講師	講演会	賀茂真淵記念館	市民講座記念館アカデミー「賀茂真淵の手紙を読むⅡ」	—	賀茂真淵記念館	社会人・ 一般	静岡県浜松市の賀茂真淵記念館が行っている市民講座「記念館アカデミー」で、「賀茂真淵の手紙を読むⅡ」と題して全3回の講座を行った。	—	
3			掛川市立図書館歴史講座			掛川市立図書館	掛川市立図書館歴史講座「石川依平の足跡」	1/14	掛川市立大東図書館	—	静岡県掛川市の掛川市立図書館の歴史講座で、「石川依平の足跡」と題して講演を行った。	—	
4	川内 佑毅	文学部 日本文学文化 学科	文化庁伝統文化親子教室事業「書道ってナニ？」講師	講師	講演会	文化庁伝統文化親子教室事業	「書道ってナニ？」(運営：文京区書道連盟)	10/15	文京シビックアトリエ	小学生 中学生	文化庁が主催する伝統親子教室事業のうち、文京区書道連盟が運営する「書道ってナニ？」(計8回)のうちの第4回において、小学生・中学生計30名を対象に、落款印の作成の指導を行った。事前に参加者の姓名を把握して予め原稿を作成し、当日参加者たちが自分の書作品に押す落款印を一人1つ作成する指導を行った。	https://oyakokyoshitsu.jp/ https://bunkyouku.shodourenmei.com/pg246.html	
5	大田 悦子	文学部 英米文学 学科	(青森県)進 学力を高める 高校支援事業	助言・ 指導 情報提供	研究指 導	青森県立 三本木高 等学校	(青 森 県) 進学力を高 める高校支 援事業	—	青森県立三 本木高等学 校(年3回の うち第1・3 回目はオン ライン、第 2回目は対 面実施)	教育関 係者	生徒の発信力強化のための英語指導力向上を目的に当該校で取り組んでいる英語授業指導改善研究会(年3回)に助言者として参加。「進学力を高める高校支援事業 研究会」助言者 7/6(オンライン)、11/29-30(@三本木高校)、2/15(オンライン)計3回	—	
6			Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	出演 コメンテ ーター 司会 編集 講師 助言・指 導 情報提供 企画 運営参 加・支援 実演 調査担当	セミナー・ ワーク ショッ プ	株式会社 アルク	Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	2010/ 3- 現在 まで	—	大学生 大学院 生 教育関 係者 社会人・ 一般	2010年(H22)3月に、立ち上げたプロジェクトで、高校英語授業改善に貢献することを目的とした活動。授業モデルや方法を、セミナー・書籍・教材を通じて提案。そこでの経験や現職教員とのネットワークを、本学で担当する教職科目を通して履修学生に還元。 ①週1ミーティング(オンライン)で、書籍・教材・セミナーの企画や調査で得たデータの分析。 ②Sherpa Channel：メンバー(6名)による英語教育の諸問題についてのディスカッション(→YouTubeに動画をアップロード)週1のペース ③Sherpa セミナー(オンライン)：英語教育セミナー(回によって講師またはコメンテーター担当)月1開催 5/28、6/25、7/30、9/24、10/29、11/26、1/28、2/25、3/31 (3月は予定日)	https://alc-nds.com/ita/2021/09/20/sherpa/	
7	大江 啓賢	文学部 教育学 科	学校研究	講師 助言・ 指導	その他	埼玉県立 川島ひば りが丘特 別支援学 校	埼玉県立川 島ひばりが 丘特別支援 学校 学校 研究	2022/ 4/1- 現在ま で	埼玉県立川 島ひばりが 丘特別支援 学校	教育関 係者	実施主体が学校研究として行う研究授業について「授業の指導助言」および各教育課程のテーマに沿った「指導講評」を年間(年度内)5回実施した。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
8	大江 啓賢	文学部 教育学科	教育職員免許 法認定講習	講師	資格認 定講習	さいたま 市教育委 員会	教育職員免 許法認定講 習	8/8- 8/9	—	教育関 係者	さいたま市教育委員会主催の「教育 職員免許法認定講習」にて講師を担 当した。	—	
9						埼玉県教 育委員会		8/22- 8/23 12/26- 12/27			埼玉県教育委員会主催の「教育職員 免許法認定講習」にて講師を担当し た。	—	
10						さいたま 市立ひま わり特別 支援学校		12/20			さいたま市ひまわり特別支援学校 主催の学校研修会「特別支援学校に おける授業づくり」にて講師を担当 した。	—	
11			学校研修会講 師	講師助言・ 指導	その他	東京都肢 体不自由 特別支援 学校 PTA 連合会	東京都肢 体不自由特 別支 援 学 校 PTA連合会 学習会	1/30	オリンピ ックセンタ ー 研修室	教育関 係者 保護者	東京都肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会学習会にて「ライフス タイルと学び - 学校卒業後の生活と 特別支援教育 -」と題した講演を 行った。	—	
12			学校研究発表 会講師			さいたま 市立ひま わり特別 支援学校	さいたま市 教育委員会 委嘱(研究 指定) ひ まわり特別 支援学校研 究発表会	2/9	—	教育関 係者	さいたま市ひまわり特別支援学校 主催の学校研究発表会にて「障害の ある児童生徒の個別最適な学びの 充実」と題した基調講演、指導助言 を行った。	—	
13	アーリソン マッケンジ ー	経営学 部 経営学 科	Global Workshop Series	司会	セミナ ー・ワ ークシ ョップ	Toyo University/ ENES UNAM	GLOBAL BUSINESS WORKSHOP in ENGLISH	4/26- 11/24	東 洋 大 学 、 メ キ シ コ の National Autonomous University of Mexico (ENES) in León	大学生	東洋大学とメキシコの National Autonomous University of Mexico (ENES) in León のコラボレーショ ン企画として、お互いの相互文化 交流促進のためのイベントを企画。 オンラインでビジネスストピックに 関する英語でのディスカッション。	—	
14	越智 信彰	経営学 部 会計 ファイ ナンス 学科	一般向け講演 『美しい星空 と自然環境を 守るための光 害対策』	講師	講演会	南房総市	星空講演会	7/23	和田コミュ ニティセン ター	社会人・ 一般	一般向け講演会の講師を務めた。 講演約40分。参加者47名。	https:// bonichi.com/ 2023/07/01/ 426845/ https:// bonichi.com/ 2023/07/28/ 447059/	
15			小学生向け出 前講座『光の ワークショップ』	講師	出前授 業	照明学会 東京支部	光のワーク ショップ	8/3	神田児童館	小学生	照明学会東京支部主催『光のワーク ショップ』にて「光の実験と光害に ついて」を担当(40分×2回)。手回 し発電機を使った実験、ダークス カイキットの実演などを通し、光 の性質や光害について学ぶ。参加 26名。	https://ieij. org/ shibu/tokyo/ info2023/ 230822 seminar-result. html	
16								8/4	千代田区立 一番町児童 館		照明学会東京支部主催『光のワーク ショップ』にて「光の実験と光害に ついて」を担当(40分×2回)。手回 し発電機を使った実験、ダークス カイキットの実演などを通し、光 の性質や光害について学ぶ。参加 20名。		
17			小学生向け出 前講座『光の ワークショップ』	講師	出前授 業	照明学会 東京支部	光のワーク ショップ	8/22	千代田区立 西神田児童 センター	小学生	照明学会東京支部主催『光のワーク ショップ』にて「光の実験と光害に ついて」を担当(40分×2回)。手回 し発電機を使った実験、ダークス カイキットの実演などを通し、光 の性質や光害について学ぶ。参加 26名。	https://ieij. org/ shibu/tokyo/ info2023/ 230822 seminar-result. html	
18			一般向け講演 『光害対策の 考え方と事例 紹介』	講師	講演会	星 空 H20 八重山地 域振興会	星空保護区 ダークスカ イセミナー 「八重山諸 島の美しい 夜の自然環 境を保全す る」	8/27	石垣市役所 コミュニテ ィルーム	社会人・ 一般	一般向け講演会の講師を務めた。 講演約50分。参加者約25名。	https://www. y-mainichi. co.jp/ news/ 39795 https://www. city.ishigaki. okinawa.jp/ soshiki/ kanko_bunka/ star_tourism/ 8829.html	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
19	越智 信彰	経営学 部会計 ファイ ナンス 学科	大学生向け講演『光害の概要とダークスカイ活動の紹介』	講師	セミナー・ワークショップ	(株)ライティングプランナーズアシエーツ	面出薫／照明デザイン塾 3 day Workshop	9/16	LPA office	大学生 大学院生	外部講師として講演40分。全国から参加の大学生・大学院生24名が聴講。	https://www.lighting.co.jp/news/detail/131	
20			中学校出前授業『光害について』	講師	出前授業	国頭村立国頭中学校	中学校出前授業『光害について』	10/30	国頭村立国頭中学校	中学生	出前授業の講師を務めた。国頭中学校1年38名が参加。50分×2回。	https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1252035	
21			小学校出前授業『光害について』	講師	出前授業	美星小学校	小学校出前授業『光害について』	11/6	美星小学校	小学生	出前授業の講師を務めた。美星小学校4年生と6年生、計27名が参加。45分×2回。	—	
22			自治体職員向け講演『美しい星空と自然環境を守るための光害対策』	講師	セミナー・ワークショップ	岡山県環境文化部環境企画課	光害防止セミナー『美しい星空をあなたの街に～光害って何だろう～』	11/7	ピュアリティまきび	行政機関	自治体職員向けの講演にて講師を務めた。講演60分。参加者24名。	—	
23			中学校出前授業『光害について』	講師	出前授業	南房総市立嶺南中学校	中学校出前授業『光害について』	12/15	南房総市立嶺南中学校	中学生	出前授業の講師を務めた。嶺南中学校1年生55名が参加。50分×2回。	—	
24			照明シンポジウム「美しい星空と光環境の共生」ファシリテーター	司会	セミナー・ワークショップ	石垣市、星空H20八重山地域振興会	照明シンポジウム「美しい星空と光環境の共生」	2024/3/10	石垣市民会館	社会人・一般行政機関	トークセッションのファシリテーターを務めた。 スピーカー：面出薫氏(照明デザイナー)、中山義隆氏(石垣市長)、赤城陽子氏(石垣島ビーチホテルサンシャイン総支配人)	—	
25	早川 和宏	法学部 法律学 科	博物館・美術館職員が備えるべき法的素養	講師	講演会	道央地区博物館等連絡協議会	令和5年度道央地区博物館等連絡協議会第一回研修会	6/6	—	教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 行政機関	「博物館・美術館職員が備えるべき法的素養」と題する講義を行った。	—	
26			全史料協の今後の運営について—会員のための全史料協であるために—	コメンテーター	その他	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会	令和5(2023)年度総会シンポジウム	7/31	オンライン	教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関	全史料協総会シンポジウムにてコーディネーターを務めた。全史料協副会長。	http://jsai.jp/soukai/2023/symposium_kikaku/koza_r_05/0912.pdf	
27			住民のための自治体公文書管理	講師	講演会	岩手県町村議会議長会	第54回岩手県町村議会夏季議員大学講座	8/8	岩手県自治会館	行政機関	「住民のための自治体公文書管理」と題する講義を行った。	—	
28			都内自治体における公文書等の管理～できたこと・できていないこと・やるべきこと～	講師	講演会	東京都公文書館・特別区協議会	公文書管理法と地方公共団体の課題に関するセミナー	8/30	特別区職員研修所、オンライン	行政機関	「都内自治体における公文書等の管理～できたこと・できていないこと・やるべきこと～」と題する講義を行った。	https://www.tokyo-23city.or.jp/jigyos/kikaku/koza_r_05/0912.html	
29			アーカイブズ法制論	講師	講演会	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館	令和5年度アーカイブズ・カレッジ(史料管理 学 研 修 会)	8/31	—	大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関	「アーカイブズ法制論」と題する講義を行った。	https://www.tokyo-23city.or.jp/jigyos/kikaku/koza_r_05/0912.html	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
30			条例案作成演習	講師 助言・指導	その他	茨城県自治研修所	令和5年度市町村職員研修「法務マスター研修」	2023/6-10	—	行政機関	「条例案作成演習」と題する講義、指導を行った。	—	16 
31			東洋大学におけるスポーツガバナンス確立に向けた取り組み	パネリスト 講師	セミナー・ワークショップ	一般社団法人大学スポーツ協会 (UNIVAS)、日本経済新聞社イベント・企画ユニット	よりよい自分へ、高めあう大学スポーツ～UNIVASが考える人材育成とガバナンス～	11/13	日経カンファレンスルーム、オンライン	社会人・一般	「東洋大学におけるスポーツガバナンス確立に向けた取り組み」と題し、基調講演を行った。講演後、パネルディスカッションに参加した。	https://events.nikkei.co.jp/62272/	16 
32	早川 和宏	法学部 法律学科	第5回 スポーツ成城FORUM「大学スポーツのガバナンス～指導者・OB・OGに『お任せ』の時代からの脱却～」	講師	講演会	成城大学体育部連合会OB・OG会	第5回 スポーツ成城 FORUM	2024/1/27	成城学園杉の森館2階	社会人・一般	「大学スポーツのガバナンス～指導者・OB・OGに『お任せ』の時代からの脱却～」と題し、講演を行った。	http://www.sports-seijo.com/images/20231219-01.pdf	16 
33			川口市情報公開・個人情報保護研修会「個人情報保護制度をめぐる最近の動向」	講師	講演会	川口市	川口市情報公開・個人情報保護研修会	2024/2/15	川口市	行政機関	「個人情報保護制度をめぐる最近の動向」と題し、講演を行った。	—	16 
34			仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) 研修会「ミュージアムと法～資料の収集・保管・展示等を巡って～」	講師	講演会	仙台・宮城ミュージアムアライアンス	仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) 研修会	2024/3/14	—	学術団体	「ミュージアムと法～資料の収集・保管・展示等を巡って～」と題し、講演を行った。	—	16 
35	松田 正照 (代表) 小野上真也 小坂 亮准	法学部 法律学科 企業法学科	模擬裁判	助言・指導 運営参加・支援	その他	模擬裁判実行委員会	模 擬 裁 判 (法廷劇)	11/4-11/5	白山キャンパス5号館5B12教室	高校生 大学生 保護者 社会人・一般	学園祭(白山祭)の実施期間において、学生による模擬裁判(法廷劇)を実施している。本模擬裁判では法学部の現役の学生が主体となり実際にあった事件をベースに法廷劇のシナリオなどを作成し、劇当日に来場者に対し披露している。本模擬裁判は裁判員裁判の形式をとり、法学部の刑事法教員がシナリオ作成などにおいて適宜指導している。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231030-11472.html	4  16 
36	奥乃 真弓	法学部 法律学科	倉田奨励金研究報告会	講師 報告書執筆	講演会	公益財団法人 日立財団	研究報告会	3/4	京王プラザホテル	大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体	【倉田奨励金について】 1967年に創設された日立財団の研究助成金であり、2022年までに1,570名の研究者へ、総額約25億円の助成金を贈呈している。グローバルな社会課題解決力を担う次世代の研究者による自然科学・工学研究、および高度科学技術社会に通底する人文・社会科学研究に対して助成を行い、持続可能な未来社会の実現に貢献する研究助成金である。(参照：公益財団法人 日立財団「倉田奨励金」 https://www.hitachi-zaidan.org/activities/kurata/index.html) 2020年度に倉田奨励金を受領し、この度、2023年度倉田奨励金贈呈式/倉田奨励金研究報告会において、2020年度の倉田奨励金の人文・社会科学の受領者として研究報告を行った。	https://www.hitachi-zaidan.org/activities/kurata/index.html https://www.hitachi-zaidan.org/activities/kurata/research-report52.html	4  9 

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
37	奥乃 真弓	法学部 法律学科	学会の運営	運営参 加・支援 その他	その他	国際取引 法学会	国際取引法 学会理事副 会長、事務 局長代行	2022/ 3/27 ～ 現在ま で	—	大学生 大学院 生 教育関 係者 研究者 社会人・ 一般 学術団 体 企業	【国際取引法学会】 国際取引法学を研究する者(研究者・企業法務・法曹等)のための学会であり、これら3者(研究者・企業法務・法曹等)が協働して国際取引法学の振興を図る「場」と「機会」を提供する。2014年12月に設立総会を開催し、対象とする会員は、大学の研究者、企業の法務部門等の実務家など国籍を問わず国際取引の法律問題にかかわる人すべてである。学会の特徴として、国際取引法学の特性から8つの研究部会(国際契約法制部会、国際通商・投資法制部会、国際知的財産法制部会、国際企業法制部会、国際取引紛争解決法制部会、グローバル・コンプライアンス法制部会、国際金融法制・税制部会、新興国法制部会)を学会の下に設置し、各部会執行部主導の下、定例研究会や共同研究を行う活発な研究を通じて若手研究者の育成を実現することを目的とする。(参照: 国際取引法学会「設立趣旨 学会概要」https://www.asas.or.jp/jaibl/outline/vision.html (2024年3月18日閲覧)) 学会活動としては、各研究部会による部会の報告会に加え、原則として年に2回の全国大会(主に3月と9月)を開催し、研究活動はHPを通じて開示されている。また、学会活動としては、外国判例評釈や研究成果の発表(論文掲載)、学会賞、エッセイコンテストなどの研究成果の報告を行っている。(参照: 国際取引法学会「お知らせ」https://www.asas.or.jp/jaibl/info/event_1.html#_019 (2024年3月18日閲覧)) 上記のような活動を行う学会の理事副会長および事務局長代行として学会の運営、管理に携わる。	https://www.asas.or.jp/jaibl/index.html	   
38	井上 貴也		職業講演会	出演	講演会	豊島区立 高松小学 校	高松ファミ リリーダー	5/13	豊島区立高 松小学校	小学生	高松小学校の4年生から6年生の児童を対象に、大学の教員について説明する講演を行ないました。(1) 小学生の頃の夢、(2) なぜ今の職業に就いたのか、(3) 実際の仕事の内容、(4) 仕事をしていて良かったこと、(5) 皆さんへ伝えたいこと、(6) 質疑応答、という流れで行ないました。	https://toshina.schoolweb.ne.jp/weblog/files/1310136/doc/45983/572823.pdf	 
39	山下りえ子	法学部 企業法 学科	中央労働委員会 令和5年度公益委員研修	パネリス ト 報告書執 筆	資格認 定講習	中央労働 委員会	公益委員 研修審査 実務研修 (研修録画 の事後配 信を含む)	11/21	中央労働委 員会オンラ イン(台風 による対面 中止のため)	行政機 関	中央労働委員会 公益委員研修会で、課題発表を行った。発表レジュメ・録画が、全国の労働委員会委員に限定配信された。	委員限定公開	
40	北岡 大介		令和5年度埼玉県労働セミナー「労働法の基礎セミナー～社会保険・労働保険～」	講師	講演会	埼玉県産 業労働部 多様な働 き方推進 課	令和5年度 埼玉県労働 セミナー	9/13	YouTube に よるオンデ マンド配信	社会人・ 一般	事業者・勤労者・就活中の方に向けて、労働法令や労働関係の身近な問題をテーマにした埼玉県労働セミナーにて、「労働法の基礎セミナー～社会保険・労働保険～」と題して講義をした。	https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/26955/26955/02.pdf	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
41			令和5年度第73期神奈川県労働大学講座「労働安全衛生法の概要」	講師	講演会	(公) 神奈川県労働福祉協会	令和5年度第73期神奈川県労働大学講座	9/26	Zoom & オンデマンド	社会人・一般	勤労者・企業担当者等の一般市民を対象に、労働法等の体系的講義を行う神奈川県労働大学講座にて、「労働安全衛生をめぐる諸問題と対応策」を講義した。	https://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/roudaiyotei.html https://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/roudai_files/roudai flyer.pdf	8 働きがい と経済成長
42	北岡 大介	法学部 企業法 学科	厚生労働省委託事業「過重労働解消のためのセミナー」	講師	講演会	(公) 全国労働基準関係団体連合会	過重労働解消のためのセミナー	10/5、 10/19、 12/7、 1/18	Zoom & オンデマンド	社会人・一般	企業の経営者や人事労務担当者、管理職への支援を目的に開催された厚生労働省委託事業「過重労働解消のためのセミナー」にて、以下日程、テーマで講義した。 ・第3回 10 / 5 (木) 午後「過労死等に係る損害賠償事例」 ・第10回 10 / 19 (木) 午後「フリーランスと労働関係法令の適用」 ・第39回 12 / 7 (木) 午前「過重労働とメンタルヘルス対策」 ・第40回 12 / 7 (木) 午後「フリーランスと労働関係法令の適用」 ・第51回 1 / 18 (木) 午前「過重労働とパワハラ防止対策」 ・第52回 1 / 18 (木) 午後「フリーランスと労働関係法令の適用」	https://jsite.mhlw.go.jp/yamagata-roudoukyoku/content/contents/001586689.pdf	8 働きがい と経済成長
43			令和5年度千葉県労働大学オンライン講座「労働安全衛生～労働災害防止 労働者の安全を守る～」	講師	講演会	千葉県商工労働部雇用労働課	令和5年度千葉県労働大学オンライン講座	12/18- 3/25	YouTube によるオンデマンド配信	社会人・一般	千葉県内に在住又は在勤の方を対象に、働く上で必要な知識を習得できるよう、労働に関する様々なテーマを取り上げた千葉県労働大学オンライン講座にて、「労働安全衛生～労働災害防止 労働者の安全を守る～」と題して講義をした。	https://www.pref.chiba.lg.jp/koyou/event/2023/2023roudoudaigaku.html https://www.pref.chiba.lg.jp/koyou/event/2023/documents/r5roudai1eaflet.pdf	8 働きがい と経済成長
44			エイジングと認知症と幸福	講師	講演会	文京区高齢者サークル かぶこう会	—	7/12	文京シビックセンター	社会人・一般 市民団体	認知症状は中核症状と周辺症状に分けられ、周辺症状への対応によって、認知症と共存しつつ幸福に年齢を重ねることは可能であることを、実際の事例にもとづいて紹介。認知症テストも実施。	—	3 持続可能な 社会を築く
45	須田木綿子		エイジングと認知症と幸福	コメンテーター 講師 調査担当	研究指導	日本NP0センター	市民ゼクター全国会議	12/2	聖心女子大学	研究者 社会人・一般 市民団体 行政機関	東洋大学社会学部社会学科の「社会調査および実習」の授業と連携させて、市民活動を支援する中間支援組織を対象に行われたデータの二次分析と、分析結果の報告を、受講生とともにに行った。	—	3 持続可能な 社会を築く
46	西野 淑美	社会学部 社会学科	文京あじさいまつりでのボランティア活動	運営参加・支援	フェスティバル	社会学科「社会調査および実習」「社会学演習Ⅰ」西野 淑美クラス(イベントの実施主体は「文京あじさいまつり実行委員会」)	文京あじさいまつり	6/10- 6/18	白山神社境内	社会人・一般 市民団体	「文京あじさいまつり」は白山神社境内で毎年6月(2020・2021年は中止)に行われている、地域の交流や活性化をねらった地域行事で、白山地域の住民等有志によって実施・運営されている。2015年より毎年、社会学科の「社会調査および実習」や「社会学演習Ⅰ」のいくつかのクラスの受講生等が当日の設営・ブース運営・会場管理・外国人向け通訳等を手伝っており、継続的な地域支援の活動となっている。今年は、社会学科からの学生57名だけでなく、合計で約130名もの東洋大学生(留学生含む)がボランティアとして参加した。また、まつりの式典で、文京あじさいまつり実行委員会・文京区観光協会・文京区の各長の連名で、主に担当してきた西野教員に対して感謝状が授与された。	https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/event/matsuri/ajisai.html https://www.toyo.ac.jp/news/academics_faculty_soc_dsoc_sociology_20230620.html https://www.toyo.ac.jp/news/academics_faculty_soc_dsoc_sociology_20230613.html	11 持続可能な 都市を築く

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
47	西野 淑美	社会学部社会学科	白山下商店会 チャリティ感謝市でのボランティア活動	運営参加・支援	フェスティバル	社会学科「社会調査および実習」「社会学演習」西野淑美クラス（イベントの主催は「白山下商店会・チャリティ感謝市実行委員会」）	第37回白山下商店会チャリティ感謝市	11/3	白山仲通り	社会人・一般市民団体	「白山下商店会チャリティ感謝市」は白山仲通りを道路開放して毎年11月3日(2020～2022年は中止)に行われている。白山下商店会が開催するイベントだが、商店のみならず地元の住民・町会・小学生・消防団・サークル等もかかわりを持っており、子どもたちを含む多くの人出をもたらすことで地域のつながりと賑わいに寄与しているイベントである。2017年より毎年、社会学科の「社会調査および実習」や「社会学演習」のいくつかのクラスの受講学生等が当日の設営・ブース運営・子ども向けゲームコーナー等を手伝っており、継続的な地域支援の活動となっている。今年は、社会学科の学生25名がボランティアとして参加した。	https://hakusanshita.com/	
48	左地 亮子		NIKKEI The STYLE 特集「キャンピングカー 旅に住む夢」	取材協力 情報提供	新聞・雑誌	日本経済新聞社	NIKKEI The STYLE	1/21	日本経済新聞 NIKKEI The STYLE 特集	メディア	日本経済新聞 NIKKEI The STYLE 特集「キャンピングカー 旅に住む夢」記事への取材協力、情報提供。	—	
49	荒巻 俊也		荒川知水資料館を利用した広報展開の提案	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 その他	その他	国際地域学科荒巻ゼミナール	荒川知水資料館を利用した広報展開の提案	9/28- 現在まで	荒川知水資料館およびその周辺	社会人・一般	国土交通省荒川下流河川事務所および日本生態系協会との連携、および JR 東日本、北区観光協会のご協力のもと、荒川放水路通水100周年に向けた川のイベントなど、流域市民等に荒川の治水、防災や環境についてより意識、認識していただくためのプログラムを検討し、上記事務所および関係者に提案した。	https://twitter.com/mlit_arakawa_ka/status/1731976869418025354	
50	岡村 敏之	国際学部国際地域学科	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム開催	司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会	第12回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2023	12/2	東洋大学白山キャンパス	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	少子高齢化が進む中で、日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が全国で増え続けています。このくらしの足の問題を解決するために、当事者、行政職員、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPO など、多くの関係者が集まり、地域を越え、立場を越え、利用者・生活者の目線をベースとして本音で語り合い、お互いを知り合い、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場として、本フォーラムを開催しています。くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 実行委員長。	https://zenkokuforum.jindofree.com/	 
51	山崎 周		2023年度 東洋大学附属高校・高大連携授業	講師	講演会	東洋大学	2023年度東洋大学附属高校・高大連携授業	8/21- 8/22	東洋大学附属高校	高校生	2023年8月21日と22日、本学の4つの付属高校の生徒を対象とした高大連携授業を担当した。21日は国際政治学の基礎的な知識や最近の国際情勢に関する講義を行った後、生徒達が発表及び討論を行った。21日はなぜ世界で戦争が起きるのかと同時に核兵器がなぜなくならないのかという発表及び討論を実施した。22日は、なぜ日本と中国が対立しているのかという内容に続いて、国際社会の中で日本の存在感や影響力はどの程度あるのかに関する生徒による発表と討論がなされた。最後に2日間の総括を行った。また、後日に参加した生徒達が作成した高大連携授業に関する報告書が送られてきたが、いずれも今回の内容が充実したものであったという感想であった。	—	 

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
52	佐々木 茂	国際観光学部 国際観光学科	豊の国商人塾	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 その他	その他	大分県商店街振興 組合連合会	豊の国商人塾	2023/4 -現在まで	—	社会人・ 一般	大分県内の商工事業者並びに会社員や団体職員等に対して、最先端の取り組みに従事する人材を登用した研修をオーガナイズすることで、人材育成を図る取り組みで、現在までに36年にわたる歴史がある。こちらの塾頭を務めている。	https://www.oitanigawai.net/NE5N95%86NE4%BANKANE5%18BE/	
53			大分経済同友会 8月例会 〈講演会〉「観光資源の高質化による新たなターゲットー大分県の観光産業が目指す再生の道筋を考えるー」	講師	講演会	大分経済同友会	大分経済同友会 8月例会〈講演会〉	8/24	ホテル日航大分オアシスタワー	社会人・ 一般	大分経済同友会 8月例会〈講演会〉にて「観光資源の高質化による新たなターゲットー大分県の観光産業が目指す再生の道筋を考えるー」と題して講演した。	https://www.oita-doyukai.jp/8_6/	
54			国際観光学部有志プロジェクト・東京スカイツリー®共同企画 東京スカイツリー®で学ぶ“サステイナブル”体験学習プログラム~for our sustainable planet~#サスプラ-	助言・指導	その他	国際観光学部有志プロジェクト、東京スカイツリー®	東京スカイツリー®で学ぶ“サステイナブル”体験学習プログラム~for our sustainable planet~#サスプラ-	10/2 (事業開始日)	東京スカイツリー会議室、片岡屏風店(事業開催場所)	小学生 中学生 高校生	東洋大学国際観光学部有志プロジェクトと東京スカイツリー®の共同企画について、越智客員教授と共に学生への指導を担当した。	https://www.toyo.ac.jp/news/academics/faculty/itm_20230919.html https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000262.00004146.html	
55			大分県社会福祉協議会福祉ボランティア専門研修受託事業(災害福祉人材育成研修) NPO法人リエラ「災害×福祉」を考える勉強会「まちづくりと資金」	講師	講演会	NPO法人リエラ	NPO法人リエラ「災害×福祉」を考える勉強会	2024/1/25	限まちづくりセンター 黎明館、オンライン (Zoom)	社会人・ 一般	NPO法人リエラ「災害×福祉」を考える勉強会にて、「まちづくりと資金」と題して講演した。	https://www.re-area-hita.com/entry.php?eid=199785	 
56			富岡市総合戦略検証委員会	助言・指導	その他	富岡市	第5回 第2期富岡市総合戦略検証委員会	6/29	富岡市役所	行政機関	富岡市総合戦略検証委員会にて、政策等の進捗状況や課題を検証・評価する外部有識者委員として参加している。	https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1480920210288/index.htm https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1480920210288/simple/shiryou.pdf	 
57			福島県南会津町フレイル予防ツアー	運営参加・支援	その他	南会津ヘルスツーリズム推進協議会 佐々木茂ゼミ	福島県南会津町フレイル予防ツアー	2021/10- 現在まで	福島県南会津町	社会人・ 一般	福島県南会津町では、豊かな森林を活かした登山やサイクルスポーツに加え、シニア世代も参加する里山ウォーキングが行われている。こうした環境を活用し、ヘルスツーリズムとして、高齢者の健康寿命を全うするフレイル(加齢に伴う心身状態の低下のため、ストレスに対する抵抗・回復力が低下した状態)予防ツーリズムが2021年10月よりスタート。佐々木茂ゼミでは東京慈恵会医科大学の整形外科教室と連携し、医学的見地も取り入れ推進に取り組んでいる。	https://x.gd/0cAt8	   

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
58	佐々木 茂		奥利根ブランド認定審査会	助言・指導 運営参加・支援	その他	奥利根広域観光連携協議会	奥利根ブランド認定審査会	2023/4 2024/3	群馬県沼田市	社会人・一般	利根沼田5市町村の優れた商品を「奥利根ブランド」として全国に発信しようとする認定審査会の審査委員長を務めた。	https://www.jomo-news.co.jp/articles/283883	8 持続可能なエネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ
59			多々良沼の観光振興プロジェクト	編集助言・指導 情報提供企画 運営参加・支援 実演調査担当 報告書執筆 寄稿 その他	その他	多々良沼・城沼自然再生協議会、群馬県、館林市など	多々良沼の観光振興プロジェクト	—	群馬県館林市、東海林ゼミ、Web (Youtube)	社会人・一般 その他	自然再生推進法に基づき、群馬県庁や館林市などが、多々良沼・城沼の自然再生事業を実施している。水質改善や外来種対策などの他にも、観光利用の推進が主要課題となっているが、東洋大学国際観光学部東海林ゼミのゼミ活動の一環として、学生ならではの視点での観光振興プロジェクトとして、観光リーフレット、ストリートビューやプロモーションビデオの企画・実施をしている。	https://shoji-labo.com/homepage/index.htm https://www.youtube.com/watch?v=3RStlrs_SCI https://tatarajou.org/	11 持続可能な都市とコミュニティ
60			大阪万博2025	助言・指導 情報提供 運営参加・支援	その他	国・大阪府・大阪市・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会など	大阪万博2025	—	国・大阪府・大阪市・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会	社会人・一般 行政機関 その他	「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマで開催されるものであるが、人と動物との共生をアピールできる万博にするため、ペット同伴を可とすることによる誘客、日本人の動物に対する細やかな感性や文化・日本のペット産業や技術の海外への情報発信などが検討されている。これらの試みを企画・実行に移すための総括アドバイザーとして知見の提供などを行っている。	https://expo2025shop.jp/	11 持続可能な都市とコミュニティ
61	東海林克彦	国際観光学部 国際観光学科	バーチャル白山キャンパス・プロジェクト	助言・指導 情報提供企画 運営参加・支援 実演調査担当	その他	東海林ゼミ	バーチャル白山キャンパス・プロジェクト	—	東洋大学白山キャンパス	高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	一般市民、東洋大学卒業生、東洋大学受験生などに、白山キャンパスの魅力を知ってもらうために、360度全天球写真、ドローンによる空撮動画、タイムラプス映像などを駆使したストリートビューを作成している。 なお、この活動は、景観資源の保全活用に関する研究と国際観光学部東海林ゼミのゼミ演習の一環として行っている。	https://shoji-labo.com/homepage/index.htm	11 持続可能な都市とコミュニティ
62			第1回群馬県ニューツーリズム普及ゼミ「需要高まるペットツーリズムにおける受入れ整備のノウハウ、先進事例について」	講師	セミナー・ワークショップ	群馬県観光魅力創出課	第1回群馬県ニューツーリズム普及ゼミ	11/9	ぐんま男女共同参画センター中研修室(群馬県庁の隣)	社会人・一般	第1回群馬県ニューツーリズム普及ゼミにて「ペットツーリズム業界の市場動向と受入れ側の心得」と題した講演を行った。	https://www.takasakicci.or.jp/wp-content/uploads/8d5d6f783ffe65a711236f3a9cb2c9b.pdf	11 持続可能な都市とコミュニティ 15 持続可能な消費
63			環境省主催『人と動物の共生シンポジウム』	講師	講演会	環境省	人と動物の共生シンポジウム	2/22	ワテラスコモンホール(千代田区)、オンライン (Youtube)	社会人・一般	環境省主催の『人と動物の共生シンポジウム』にて「ペットが苦手な人の気持ちを理解する」をテーマに講演および人と動物の共生する社会の実現に向けて議論した。	https://www.env.go.jp/press/press_02663.html	11 持続可能な都市とコミュニティ 15 持続可能な消費
64	古屋 秀樹		東京都「大学等と連携した観光経営人材育成事業」東洋大学国際観光学部による観光経営人材育成講座「持続可能な観光地マネジメントにむけて」	司会 講師 企画 運営参加・支援 報告書執筆	セミナー・ワークショップ	東京都・東洋大学国際観光学部	東京都・東洋大学国際観光学部による観光経営人材育成講座	2024/1/27、2024/2/3	東洋大学白山キャンパス10号館3階 A 301教室、オンライン (Zoom)	社会人・一般	東京都・東洋大学国際観光学部による観光経営人材育成講座「持続可能な観光地マネジメントにむけて」を2024年1月27日(土)と2月3日(土)に開講しました。 これは、東京都と連携して観光関連事業者の経営力向上を図り、観光産業の活性化につなげるため、持続可能な観光地マネジメントの実現に向けた人材の育成を目的としています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231130-11898.html	4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な都市とコミュニティ

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
65	森下 晶美	国際観 光学部 国際観 光学科	行政が盛り上 げる観光ビジ ネス	その他	セミナ ー・ワ ーク ショッ プ	日本経済 新聞社	日経地方創 生フォーラ ム「動き出 した観光ビ ジネス・カ ギを握る地 方創生人材 ー」	6/27	日経ホール ／オンライ ン	社会人・ 一般 企業 行政機 関	パネルディスカッション「行政が盛り 上げる観光ビジネス」（パネリ スト：桑原 悠氏(津南町長)、上村 一郎氏(東かがわ市長)、谷口 圭三 氏(津山市長))において、コーディネ ーターを務めた。	https:// events.nikkei. co.jp/58440/	  
66			地域が注目す べき旅行者マ ーケット	講師	セミナ ー・ワ ーク ショッ プ	(一社) 九州経済 連合会、 九州地方 知事会	九州地域戦 略会議第20 回夏季セミ ナー	8/4	城島高原パ ークホテル	企業 行政機 関	九州地域戦略会議第20回夏季セミ ナー「第3分科会 アドベンチャー トラベルを活用した地域振興」にお いて事例発表を行った。	https:// www. kyukeiren.or.jp/ storage/ upload/ pdf/ 20230731171720 _31ss7h7b4r.pdf	 
67			地域が注目す べき旅行者市 場と観光人材 教育課題	講師 助言・指 導	セミナ ー・ワ ーク ショッ プ	奄美大島 インバウン ド誘致事業 (観光庁 観 光再始動事 業) 商品検 証 ワーク ショップ	鹿児島県	2024/ 1/19	アートホテ ル鹿児島	社会人・ 一般 企業 行政機 関	観光庁事業として行う奄美大島の インバウンド誘致に関し、行政や 観光関係者の出席するセミナーに おいて講演と助言を行った。	—	 
68			お客様は旅行 会社に今何を 求めているの か～旅行会社 が生み出せる 付加価値とは 何か～	司会 その他	セミナ ー・ワ ーク ショッ プ	(一社) 日本旅行 業協会	JATA経営 フォーラム 2024	2024/ 2/27 -4/5	オンライン	企業	パネルディスカッション「お客様は 旅行会社に今何を求めているのか ～旅行会社が生み出せる付加価値 とは何か～」において、モデレー ターを務めた。	https:// www. jata-net.or.jp/ about/ jata-active/ about02_04/ forum2024/	 
69			多くの産業で 取り合う観光 人材不足の観 光産業がで きること	取材協力 助言・指 導	会誌・ 広報誌	(公社) 日本観光 振興協会	観光とま ちづくり 023-2024 vol.3号 (No.553)	11/1	8～ 11ペー ジ	企業 行政機 関 その他	自治体、観光関連企業などで構成 する日本観光振興協会の季刊誌の 特集「特集 観光人材の確保と育 成」においてコメントを行った。	https:// www. nihon- kankou.or.jp/ home/kikan/	 
70	中挾知延子 増子 美穂	国際観 光学部 国際観 光学科	東洋大学観光 短編映画祭	編集 助言・指 導 情報提供 企画 運営参 加・支援 実演 その他	フェス ティバ ル	大学院国 際観光学 専攻科、 国際観光 学部	東洋大学観 光短編映画 祭	11/30	東洋大学白 山キャン パス	高校生 大学生 大学院 生 社会人・ 一般	「持続可能な観光」をテーマに映像 作品を国内外から公募し、新しい 持続可能な観光を提案する映画、 新しい映像スタイルによって観光 の新規開拓を実現しうる映画に賞 を与え、これらを含む入選作品を 上映。映画祭の運営は院生スタッ フ中心に行った。2023年度はヴェ ネツィア大学より2名の特別審査員 をお招きし、国際色豊かな映画祭 となった。	https:// toyoshortfilms. wixsite.com/ tsff2023	
71	宮崎 裕二		「イギリスと アメリカにお ける観光案内 所の機能」観 光案内所の機 能強化等事業 の展開に関す る海外事例 (京都府商工 労働観光部観 光室)	助言・指 導	—	京都府商 工労働観 光部観光 室	「イギリス とアメリカ における観 光案内所の 機能」観光 案内所の機 能強化等事 業の展開に 関する海外 事例	5/23	—	行政機 関	「イギリスとアメリカにおける観 光案内所の機能」と題して観光案内 所の機能強化等事業の展開に関 する海外事例について説明を行 った。	—	  
72			京都大学 デ スティネー ションマネ ジメント Essence2023 【第4期】～ DMO・観光 政策幹部が知 っておくべき 理論と実践～	講師	セミナ ー・ワ ークシ ョップ	京都大 学・京大 オリジナル	デスティ ネーション マネジ メント Essence2023 【第4期】	8/5	京都大学経 営管理大学 院	大学院 生 研究者 社会人・ 一般 企業 行政機 関	90年代後半以降、欧米を中心にプ レイス・ブランディングが高まり を見せている。プレイス・ブラン ディングとは何か、どのような便 益をもたらすのか、世界のデス ティネーションは具体的に何を 実行しているのかなどを受講生に 解説した。	https:// www.kyodai- original. co.jp/open- academy/ program/?no=75	  

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
73	宮崎 裕二	国際観光学部 国際観光学科	第38回日本観光研究学会全国大会「観光と外交」研究ワークショップ「イギリスのパブリックディプロマシーと観光」	講師	セミナー・ワークショップ	日本観光研究学会	第38回日本観光研究学会全国大会「観光と外交」研究ワークショップ	12 / 9	文教大学東京あだちキャンパス	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	第38回日本観光研究学会全国大会「観光と外交」研究ワークショップにて「イギリスのパブリックディプロマシーと観光」と題して講演した。	https://jiitr.jp/activity/information/	  
74			イギリスのパブリックディプロマシーと観光～タスクフォースとしての国家DMO～	講師	セミナー・ワークショップ	日本観光研究学会 観光と外交研究会 ワークショップ	講義セミナー	2024/3/6	東海大学渋谷キャンパス	大学院生 教育関係者 研究者	「イギリスのパブリックディプロマシーと観光～タスクフォースとしての国家DMO～」と題して講演した。	—	  
75			横浜名勝三溪園と観光ブランディング	助言・指導	—	名勝三溪園活用検討部会	第2回名勝三溪園活用検討部会	2024/3	—	社会人・一般 企業 行政機関	「横浜名勝三溪園と観光ブランディング」と題して、その他の委員、三溪園、横浜市などにプレゼンテーションを行った。	—	 
76			DMO 制度のこれから～課題多き地域の司令塔づくり	寄稿	新聞・雑誌	トラベルジャーナル	週刊トラベルジャーナル	2024/3	「世界共通基準にヒントがある」	メディア	「DMO 制度のこれから～課題多き地域の司令塔づくり」をテーマとした記事を執筆、寄稿した。	https://www.tjnet.co.jp/2024/03/17/contents-218/	 
77	小山 信也	理工学部 生体医工学科	あなたの知らない素数の不思議～最新の研究から解き明かす	講師	講演会	NHK文化センター	NHK文化センター オンライン講座	2024/2/27-3/30	NHK文化センター	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般、 学術団体 企業 市民団体 行政機関、 メディア	素数に関する謎で、19世紀以来の未解決問題である「チェビシェフの偏り」について最近得た進展を解説する。 NHK「笑わない数学」で好評を得た「素数」「BSD予想」の発展版であり「フェルマーの最終定理」「極限」の回にも関連する。	https://youtu.be/pBCT_k0HzNO	
78			「笑わない数学シーズン2」監修	助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日本放送協会 (NHK)	「笑わない数学シーズン2」	10 / 4 - 12 / 13	日本放送協会 (NHK)	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般、 学術団体 企業 市民団体 行政機関、 メディア	NHK 総合テレビで放送された「笑わない数学シーズン2」の監修を行った。 最先端の数学を一般視聴者にわかりやすく紹介する知的エンターテインメント番組で、2022年9月度のギャラクシー賞、ならびに2022年度上半期ギャラクシー賞奨励賞を受賞した。	https://www.nhk.jp/p/ts/Y5R676NK92/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
79	佐野 勇司	理工学部電気情報工学科	子ども大学かわごえ 小学生向け授業の企画運営、「目のしくみ、耳のしくみを体験しよう！」講師	講師・指導 企画運営参加・支援 その他	セミナー・ワークショップ	NPO法人子ども大学かわごえ	子ども大学かわごえ2023年度第2回授業「目のしくみ、耳のしくみを体験しよう！」	12/16	川越市中央公民館講座室	小学生教育関係者 市民団体 行政機関	大学の教授や研究者、専門家を講師として、子ども達のなぜと言う疑問に答えて大きな知的刺激を与え知的成長を促す。NPO法人 子ども大学かわごえ 理事。2023年度は12月には授業の講師も担当した。	http://cuk.or.jp/index.html	
80	安藤 直子	理工学部応用化学科	アトピーフリーコム	助言・指導 運営参加・支援	会誌・広報誌	アトピーフリーコム	—	4/1	紙媒体の郵送配布のため、場所、掲載箇所はない。	社会人・一般	アトピー患者の相互支援を行っている。季刊誌発行、講演会、フォーラムなどを通じ、患者がより社会で過ごしやすい状況を作れるよう、サポートを行っている。	http://atopyfree.web.fc2.com/	
81			高木仁三郎市民科学基金	助言・指導 運営参加・支援	その他	高木仁三郎市民科学基金	委託研究の研究報告会など	4/1	—	社会人・一般	「市民科学」を助成する市民ファンドとして活動している。安藤自身は助成金の助成先の審査を行っている。	http://www.takagifund.org/	
82			生きものを育む田んぼプロジェクト	助言・指導 運営参加・支援 調査担当	研究指導	NPO法人かわごえ里山イニシアチブ	—	—	川越市福田地区	幼稚園以下 小学生 大学生 社会人・一般、企業 市民団体	2014年度から任意団体、2017年度から NPO 法人として活動しているかわごえ里山イニシアチブの運営に協力している。2023年度は継続して子どもを主な対象とした「田んぼの生きもの観察会」での調査や農作業への協力、会議の協力、別途開発中の「ドローンの自律飛行による鳥害対策」に対する情報提供などを行った。	https://facebook.com/kawagoesatoyama/	  
83	小瀬 博之	総合情報学部総合情報学科	川越キャンパス「こもれびの森」における里山林保全活動	企画助言・指導 運営参加・支援 調査担当	その他	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	—	—	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	2014年から川越キャンパス「こもれびの森」における生物多様性の向上と学内外の人々との協働による森林保全活動을掲げて活動を継続している。2023年度は学内外の構成員と一般参加者、学生を対象とした里山林保全活動または教育研修活動を月1回のペースで実施した。また、外部コミュニケーションの一環として、6月に鶴ヶ島市役所で開催された「つるがしま市民環境まつり」において「森で採れた材料で工作」「スズメバチの標本展示」を、11月に川越キャンパスで開催された「こもれび祭」において「里山体験と木工教室」を出展した。	https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama/	   
84			霞ヶ関北地区における「鉄紺ゼミ」の開催	司会企画	講演会	東洋大学環境コミュニケーションゼミ（小瀬ゼミ）	—	7/24、2024/1/22	mibunka（みぶんか）	大学生 大学院生 社会人・一般	ゼミ科目である3年次演習「総合情報学演習Ⅰシス」「総合情報学演習Ⅱシス」は、地域活性化をテーマとして川越キャンパス近隣の霞ヶ関北地区を対象に調査、実施、発表を行っている。前身の演習では2012年度から対象地域において「地域活性化プロジェクト」を実施しており、2018年度からは「鉄紺ゼミ」と称する公開での成果報告会、意見交換会を実施している。2023年度は2019年度以来4年ぶりに対面での成果報告会を春学期末と秋学期末の2回実施した。	—	    
85			川越シニアカレッジ「ふるさと塾」における「川越の自然環境」の講演と現場案内	講師	講演会	川越シニア大学『小江戸塾』	—	9/20	川越市名細公民館、東洋大学川越キャンパス	社会人・一般 市民団体	川越市の高齢者を対象とした「ふるさと塾」において「川越の自然環境」というタイトルで長年講師を務めており、2023年も講師を努めた。2019年以来4年ぶりに川越キャンパス内での自然観察を行い、大学近隣の公民館での講義の後に実地案内を行った。	—	  

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
86	小瀬 博之	総合情報学部 総合情報学科	「アースデイ川越in昭和の街2023」の開催及び出展	出演 司会 企画 運営参加・支援 報告書執筆	フェスティバル	第25回アースデイ・イン・川越実行委員会	—	10/1	蓮馨寺	小学生 中学生 高校生 大学生 保護者 社会人 一般 企業 市民団体 行政機関	SDGs の周知啓発を目的とした、25回目の「アースデイ川越」の実行委員長を前回の2021年から務めている。2023年は川越中心市街地の蓮馨寺を会場として「アースデイ川越in 昭和の街2023」を開催した。運営を統括するとともに実行委員会の進行管理、行政・民間団体・企業等の折衝、実施主体の川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会（昭和の街の会）との企画検討を行った。また、東洋大学地域活性化研究所として『親子で楽しむ「昭和の街ウォークラリー」』を出展した。『SDGs を五感で体験！「ミライのびっくり箱」』をテーマとした10月1日のイベント当日は16団体の出展と3つのパフォーマンス出演、1店の出店があり、300名以上の来場者がありにぎわった。	http://showanomachi.net/earthday/	
87			「こもれびの森探検隊」の実施協力	講師 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	名細地区子どもサポート委員会	—	11/11	東洋大学川越キャンパス	小学生 保護者 市民団体	川越キャンパスのある地区の団体である名細地区子どもサポート委員会が主催して2019年に実施した「こもれびの森探検隊」を4年ぶりに実施することになり、企画から実施に向けて協力するとともに、参加した小学生と保護者を対象に川越キャンパスの生きものについて案内を行った。	—	
88			「私の幸福（しあわせ）時間」への出演	出演 取材協力	テレビ・ラジオ番組	テレビ朝日／テレコムスタッフ	私の幸福（しあわせ）時間	12/26	—	メディア	テレコムスタッフが制作しテレビ朝日で放送されている「私の幸福（しあわせ）時間」において、東洋大学川越キャンパスにおける名細地区子どもサポート主催の自然観察活動の様子を取材していただき、その様子が2023年12月26日にテレビ朝日とBS朝日において放送された。放送後1年間ホームページにおいて番組を閲覧できる。	https://www.tv-asahi.co.jp/shiawasejikan/	
89	金子 雅也		ETS TOEFL ITP® Teacher Development Workshop Facilitators	講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	TOEFL® テスト日本事務局	ETS TOEFL ITP® Teacher Development Workshop	現在まで	—	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者	TOEFL® テスト開発・運営元の ETS から認可を受け、ETS 公認トレーナーとして TOEFL® テスト日本事務局が実施するセミナー等を担当。	https://www.toefl-ibt.jp/educators/trainers/kaneke_sensei/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
90	金子 雅也	総合情報学部 総合情報学科	TOEFL テスト セミナー	講師	セミナー・ワ ークシ ョップ	日本女子 大学	TOEFL テス トセミナー	5/13, 5/20, 6/3	日本女子大 学目白キャンパス	高校生 大学生	英語圏の大学・大学院に進学するのに必要な英語力の育成を主目的として、留学を希望する高校生・大学生を対象にセミナーを行った。近年応用言語学の分野では語彙力を基準としたインプット素材の選定が推奨されており(e.g., Liu, 2023; Schmitt et al., 2021; Vuković-Stamatović, 2022)、語彙レベル測定結果に基づくリスニング・リーディング素材の選択手順を説明し、アカデミックリスニング・リーディングを実践した。また、アカデミックリーディングで分野を問わずに高頻出する語彙、分野毎に高頻出する語彙について2つの異なる語彙リストを紹介し、アカデミックリーディングに必要な語彙学習について「何」を「どのように」行うべきか取り上げた。 話し言葉と書き言葉が大きく異なることは応用言語学の分野で繰り返し指摘されており(e.g., Dang, Coxhead, & Webb, 2017; McCarthy & Carter, 1997)、本セミナーを通じてアカデミックリスニングとアカデミックリーディングがどのように異なるかを理論的に知ることは英語圏の大学・大学院に進学を希望する英語学習者にとって有益になると考えられる。		
91			海外オンライン 研修プログラム	講師	セミナー・ワ ークシ ョップ	徳島県教育委員会	海外オンライン 研修プログラム	2024/ 1/6	徳島県	高校生	オンラインで海外の大学生や現地の学生と交流を行うのに必要な英語力を育成することを主目的として、留学を希望している高校生を対象にセミナーを行った。リスニングとリーディングにおけるインプット処理の違いや intensive listening と extensive listening の違いを知ってもらい、両方のリスニング活動を実践した。また、話し言葉と書き言葉でどのように語彙が異なるかを取り上げ、話し言葉で高頻出する語彙リストを用いて語彙学習に関するアクティビティを行った。 対面・オンラインといずれの形の留学においても話し言葉における理解・発信力を向上させることは重要であり、この分野における近年の応用言語学研究結果を知ることが留学を希望する高校生にとって有益になると考えられる。		
92			TOEFL ITP ス キルアップセ ミナー	講師	セミナー・ワ ークシ ョップ	叡啓大学	TOEFL ITP スキルアップ セミナー	2024/ 2/14 2/16 2/21 2/28	オンライン	高校生 大学生	アカデミックな場面での理解に必要な英語力の育成を主目的として、TOEFL ITP テスト関連教材を用いて高校生・大学生を対象にセミナーを行った。アカデミックリスニングとアカデミックリーディングの違いを学んでもらい、その上で実践を行った。また、アカデミックライティングに必要な文法や語彙についてオンラインや紙ベースなど様々なツールを紹介した。 学術目的の英語学習と一般目的の英語学習がどのように異なるか、理論的な違いを知ることは今後のアカデミックイングリッシュの学習方針を決定する上で重要であり、本セミナーはアカデミックイングリッシュの学習の効率化につながると考えられる。		

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
93			身体のしくみ と機能	講師	セミナー・ワ ークシ ョップ	静岡県介 護福祉士 会	—	5/10 6/21 7/19	静岡県総合 社会福祉会 館	その他 (福祉専 門職者)	昨年度に続いて、福祉専門職者向け の基礎医学講座、全3回の講座を 担当した。	—	3 持続可能な 健康
94			日韓学生交流 プログラム	企画運営 参加・支 援 その他	対話型 集 会・ 市民会 議	古川和稔 ゼミ	韓国サンジ 大学とのリ モート交流 会	5/31 11/11	東洋大学、 カトリック サンジ大学 (韓国)	大学生	カトリックサンジ大学の学生と、 東洋大学の古川ゼミの学生とで、 定期的にリモート交流を行っている。 2023年度は、5/31と11/11に 交流会を実施した。	https:// sites.google. com/toyo.jp/ wsd/dswf/ news_d/ 2023-11-13mon	3 持続可能な 健康
95	古川 和稔	福祉社会デザイン学部 社会福祉学科	東洋スマホ教室	講師 助言・指 導 情報提供 企画 運営参加・ 支援 実演その他	セミナー・ワ ークシ ョップ	古川和稔 ゼミと赤 羽八幡自 治会	東洋スマホ 教室	6/14 7/12 9/13 10/11 11/8 12/6 1/10	赤羽八幡自 治会会館	社会人・ 一般	毎月第二水曜日に、赤羽八幡自治 会館にて、古川和稔ゼミの学生数 名が出張する形で、スマホ教室を 実施している。スマホの操作方法 の説明に留まらず、介護予防体操 なども行っており、世代間交流の 場となっている。	https:// sites.google. com/toyo.jp/ wsd/dswf/ news_d/ 2023-10-11 wed https:// sites.google. com/toyo.jp/ wsd/dswf/ news_d/ 2023-12-07thu https:// sites.google. com/toyo.jp/ wsd/dswf/ news_d/ 2024-01-12fri	3 持続可能な 健康
96			留学生との交 流会	企画 運営参加・ 支援 その他	対話型 集 会・ 市民会 議	古川和稔 ゼミ	留学生との 交流会	10/25、 他	東洋大学赤 羽台キャン パス	大学生 その他 (日本語 学校の 留学生)	技能実習生として来日している所 沢日本語学校の留学生と、古川和稔 ゼミとで、定期的に交流会を実施し た。本年度は新たに、来日したデン マークのコペンハーゲン大学の学 生、地元の赤羽八幡自治会の皆様、 古川ゼミの学生による、国際・世代 間調理交流会も実施した。	https:// sites.google. com/toyo.jp/ wsd/dswf/ news_d/ 2023-10-25wed	3 持続可能な 健康
97	伊藤 美佳 (代表) 麗 麗 内田 千春	福祉社会デザイン学部 子ども支援 学科	乳幼児親子向け 子育てひろ ば（対象＝赤 羽台キャンパ ス近隣在住の 乳幼児親子）	情報提供 企画 運営参加・ 支援 実演	その他	東洋大学 福祉社会 デザイン 学部子ども 支援学 科	東洋大学子 育てひろば	6/3- 2024/ 3/9	東洋大学赤 羽台キャン パス Wellb Hub 2 保 育 実習室・小 音楽室	幼稚園 以下 保護者	北区、UR 都市機構と連携をし、子 ども支援学科の学生が中心となっ て（担当教員も参加）企画実践をす る、地域の乳幼児親子を対象とし た子育て支援活動の実施。 ◎地域の乳幼児親子向け通常子育 てひろば 開催日 6月3日・6月24 日・7月8日・8月5日・9月30日・11 月4日・11月5日・3月9日（土日の 実施） ◎多文化共生に特化した乳幼児親 子向け子育てひろば 開催日 11 月24日・12月20日・1月24日（い ずれも平日開催） 赤羽台キャンパス近隣には徒歩 圏内に平日土日共に乳幼児親子が 遊べる場所がなく、本活動への地 域のニーズは、毎回実施するアン ケート調査結果からも高いことが 分かる状況である。 土日開催のひろばには、父親だ けで参加する保護者も増えてきて おり、父親の子育て力向上や、母 親の自分自身の時間の確保づくり にもつながっている。本年度は、 北区在住の外国につながるご家族 向けプログラムを取り入れた子育 てひろばを11月～1月にかけて3回 実施をしたが、実際の参加者の中 に、その対象だとはっきりと分か る方はいない状況であった。また、 ひろばの中には発達が気になるお 子さんも参加しており、その保護 者の悩みに寄り添う場ともなっ ている。 通常ひろば・多文化共生に特化 したひろばともに、継続して来年 度以降も続けていく予定である。	https:// sites.google. com/ toyo.jp/wsd/ dswf/ news_d/2023-10-25wed	3 持続可能な 健康 4 質の高い教育 をみんなに 5 ジェンダー 平等 10 人や国の 不平等を なくす 11 住み続け るまちづくり

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
98	内田 千春	福祉社 デザイン学 部子ども支援 学科	岡山市特別支援教育コーディネーター研修講座（就学前） 外国人幼児等やその家族への支援	講師	セミナー・ワークショップ	岡山っ子育成局保育・幼児教育部幼保運営課	岡山市特別支援教育コーディネーター研修講座（就学前）	5/26	岡山市（オンライン）	教育関係者	岡山市特別支援教育コーディネーター研修講座（就学前）にて「外国人幼児等やその家族への支援」と題して講師を担当した。	—	
99			保育技術研修 幼児の心の発達と理解・援助（特別な教育的支援を必要とする幼児の理解と対応を含む）	講師	セミナー・ワークショップ	千葉県総合教育センター	保育技術研修	7/25	千葉県総合教育センター	教育関係者	千葉県総合教育センター保育技術研修にて「幼児の心の発達と理解・援助（特別な教育的支援を必要とする幼児の理解と対応を含む）」と題して講師を担当した。	—	
100			幼児教育アドバイザー育成研修 外国籍の乳幼児に対する園の体制づくりについて	講師	セミナー・ワークショップ	千葉県総合教育センター	幼児教育アドバイザー育成研修	7/31	千葉県総合教育センター	教育関係者	千葉県総合教育センター幼児教育アドバイザー育成研修にて「外国籍の乳幼児に対する園の体制づくりについて」と題して講師を担当した。	—	
101			札幌市教育センター 専門研修『遊び』は『学び』～幼児期における教育とは～	講師	セミナー・ワークショップ	札幌市教育委員会	令和5年度札幌市教育センター専門研修	8/7	札幌市教育センター	教育関係者	札幌市教育センター 専門研修にて『遊び』は『学び』～幼児期における教育とは～と題して講師を担当した。	—	
102			可見市ひよこ教室指導者研修（日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える）	講師助言・指導	セミナー・ワークショップ	NPO法人 可見市国際交流協会	可見市ひよこ教室指導者研修（日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える）	2023/11-12	可見市	教育関係者 市民団体	1回目：可見市ひよこ教室指導者研修をオンラインで実施した。「日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える」と題して講演、及びひよこ教室の指導者との質疑応答を行った。 2回目：可見市内ひよこ教室を午前中参観、午後ひよこ教室の指導者、フレビアのコーディネーターらと共に、指導上の悩みや課題、子どもの言語力評価について話し合った。	—	
103	鈴木 崇之		外国にルーツを持つ子どもを地域で支える	講師	セミナー・ワークショップ	浦安市市民経済部市民大学校	うらやす市市民大学「地域で支える子育て環境」第7・8回	12/2	浦安市まちづくり活動プラザ3階	社会人・一般市民団体	うらやす市市民大学「地域で支える子育て環境」第7・8回にて「外国にルーツを持つ子どもを地域で支える」と題して講師を担当した。 第7回：外国にルーツを持つ子どもたちが等しく育ち、学ぶ権利を実現するために、地域の住民や専門家にどのような支援ができるかについて、実践的な事例を踏まえて学びます。 第8回：第7回での学びを踏まえたワークショップを通じて、外国にルーツを持つ子どもたちを地域で支えるための取組について考えます。	https://www.city.urayasu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/001/040/106/rsboshuannai.pdf	
104			外国につながる子どもの育ちを支える保育－認め合い共に生きる－	講師	講演会	名古屋市教育委員指導部指導室 幼児教育支援室	幼児教育研修会（オンデマンド）	12/15-2024/1/15	名古屋市（オンデマンド）	教育関係者	名古屋市教育委員指導部指導室 幼児教育支援室が企画する保育士、幼稚園教諭、保育教諭を対象とする「外国につながる子どもの育ちを支える保育－認め合い共に生きる－」と題して講師を担当した。	—	
105			所沢市要保護児童対策地域協議会 事例検討会講師	講師助言・指導	セミナー・ワークショップ	所沢市役所子ども支援課	所沢市要保護児童対策地域協議会 事例検討会	2015/4/1-現在まで	—	教育関係者 社会人・一般企業 市民団体 行政機関	所沢市要保護児童対策地域協議会が主催する事例検討会において、困難ケースのアセスメントや支援のプランニングについて関係者とともに検討を行い、関係者の知識や技術の充実を図った。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
106	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部子ども支援学科	研修講演「子ども家庭福祉における倫理的配慮」	講師	資格認定講習	千葉県社会福祉協議会社会福祉協議会社会福祉研修センター	令和5年度児童福祉司任用前講習会及び児童福祉司資格認定指定講習会	6/15	—	教育関係者 行政機関 その他	千葉県社会福祉協議会社会福祉研修センターが主催する千葉県下の児童福祉司や関連専門職対象の令和5年度児童福祉司任用前講習会及び児童福祉司資格認定指定講習会において、研修講演「子ども家庭福祉における倫理的配慮」を行った。	—	
107			研修講演「保育所等における児童虐待の防止」	講師	講演会	埼玉県福祉部	保育士等資質向上研修	8/17	—	教育関係者 行政機関 その他	埼玉県下の保育所保育士等を対象に、児童虐待の現状や、関連する施策、そして保育所等における児童虐待の防止のためのポイントを講義した。	—	
108			研 修 講 演「『対応に困る子ども』に対する支援」	講師	講演会	埼玉県児童福祉施設協議会	令和5年度基幹的職員フォローアップ研修会	9/4	—	その他	埼玉県児童福祉施設協議会構成施設の基幹的職員に対し、「対応に困る子ども」に対する支援のポイントに関する研修講演を実施した。	—	
109			研修講演「社会的養護における自立支援」	講師	資格認定講習	埼玉県福祉部子ども安全課	児童相談所児童福祉司任用後研修	9/29	—	行政機関	埼玉県の児童相談所児童福祉司に対して、「社会的養護における自立支援」という題目の任用後研修を実施した。	—	
110			研 修 講 演「『不適切な養育』を防止するために」	講師	講演会	児童養護施設・埼玉育児院	職員研修会	10/10	—	その他	児童養護施設・埼玉育児院の職員研修会において、「不適切な養育」を防止するためのポイントを伝達する研修講演を実施した。	—	
111			研修講演「市区町村要保護児童対策地域協議会における望ましい支援のあり方——所沢市要保護児童対策地域協議会のさらなる活性化に向けて——」	講師	講演会	所沢市役所	所沢市要保護児童対策地域協議会事例検討会	10/19	—	その他	所沢市要保護児童対策地域協議会構成メンバーの参加者に対して、市区町村要保護児童対策地域協議会における望ましい支援のあり方に関する講演を実施した。	—	
112			研修講演「子どもたちを虐待から守るために——放課後児童クラブ職員の役割——」	講師	講演会	横須賀市民生局福祉子ども部	放課後児童指導員行政研修	10/20	—	その他	横須賀市下の放課後児童指導員等に対し、放課後児童クラブ職員等にとって欲しい児童虐待の基礎知識と虐待防止施策や事後対応のあり方について講義を行った。	—	
113			全国児童相談研究セミナー第48回横浜大会 第4分科会「一時保護所の環境整備と子どもの意見聴取等措置」パネル司会・セッションチェア等 全国児童相談研究会 2023年11月4日	司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	全国児童相談研究会	全国児童相談研究セミナー第48回横浜大会	11/4	—	教育関係者 研究者 社会人・一般 行政機関 その他	全国児童相談研究セミナー第48回横浜大会の第4分科会「一時保護所の環境整備と子どもの意見聴取等措置」にて、企画運営、パネル司会・セッションチェア等を行った。	—	
114			研修講演「子どもたちを虐待から守るために——保育所保育士となった卒業生にお願いしたいこと——」	講師	セミナー・ワークショップ	東洋大学校友会	2023年度校友大会 特別講義	11/05-現在まで	—	教育関係者 社会人・一般	東洋大学校友会のリカレント事業として、特に保育所保育士となった卒業生に対して、児童虐待の基礎知識や保育所における対応のあり方について講義を行い、YouTubeにおいて公開した。	https://www.youtube.com/watch?v=cKQOvtDpWXA	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
115	鈴木 崇之	福祉社会デザイン学部 子ども支援学科	一般演題 口頭発表「児童相談所3・その他3」座長 パネル司会・セッション チェア等 日本子ども虐待防止学会 2023年11月26日	司会	セミナー・ワークショップ	日本子ども虐待防止学会	日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会	11/26	—	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 市民団体 行政機関	日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会の一般演題口頭発表「児童相談所3・その他3」にてセッションチェアの役を担った。	—	
116			研修講演「児童虐待時代の福祉臨床学——中高生の現代的な問題に焦点を当てて——」	講師	講演会	埼玉県学校保健会	北部高等学校等保健会養護教諭会研修会	12/8	—	教育関係者	埼玉県学校保健会北部高等学校等保健会養護教諭会構成メンバーの教諭に対して、中高生の現代的な児童虐待問題や、虐待を受けた中高生が学校でどのような問題を呈するのかについての基礎的な知識の伝達と、対応の在り方について講義を行った。	—	
117			文部科学省科学研究費研究公開シンポジウム「困難を抱える子どもや家族を地域で支える——基礎自治体や社会福祉協議会の実践から——」セッションチェア等	コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	沖縄大学 山野良一研究室	—	2/18	—	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 市民団体 行政機関	沖縄大学山野良一研究室が主催した文部科学省科学研究費研究公開シンポジウム「困難を抱える子どもや家族を地域で支える——基礎自治体や社会福祉協議会の実践から——」にて、セッションチェアの役を担った。	—	
118			研修講演「消費者対応におけるコミュニケーション技術の基礎——JHCIA加盟企業における傾聴技法の効果的活用に向けて——」	講師	講演会	日本ヘアカラー工業会	消費者対応担当者会議主催研修会	3/1	—	企業	日本ヘアカラー工業会消費者対応担当者会議構成メンバーおよび関連職員に対して、基本的応答技法を用いた傾聴技法について講義し、望ましい消費者対応のあり方や職員研修の在り方について論じた。	—	
119	高橋 良至	福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム	運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会	第12回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2023	12/2	東洋大学白山キャンパス	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	少子高齢化が進む中で、日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が全国で増え続けています。このくらしの足の問題を解決するために、当事者、行政職員、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPO など、多くの関係者が集まり、地域を越え、立場を越え、利用者・生活者の目線をベースとして本音で語り合い、お互いを知り合い、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場として、本フォーラムを開催しています。	https://zenkokuforum.jimdofree.com/	 

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
120	Sakthi Kumar Dasappan Nair	学 際・ 融合科 学 研 究 科	13th India- Japan Science & Technology Conference, International Conference on Frontier Areas of Science and Technology	chairman	seminar	Indian JSPS Alumni Association (IJAA)	13th India- Japan Science & Technology Conference	9/8-9/9	Shivaji University, Kolhapur, India	college_ students, graduate_ students, researchers, general, scientific_ organization, company	International Affairs Cell (IAC), Shivaji University, Kolhapur (SUK) jointly with the Indian JSPS Alumni Association (IJAA), is organizing the 13th India-Japan Science and Technology conclave: "International Conference on Frontier Areas of Science and Technology. IJAA regularly conducts Science and Technology conclaves to serve as the platform for scientists from India and Japan to come together and discuss the cutting-edge research happening in both countries as well as in the world. The aim of these activities is to provide a forum for researchers across the globe, working in frontier areas of science and technology covering all the streams of physical sciences, chemical sciences, life sciences, computational and mathematical sciences, and engineering & technology to report they are significant findings and to share insights of their novel research.	http://www.drsakthikumar.com/index.php http://www.indianjpsalumni.org/ https://www.unishivaji.ac.in/workshop/pages/13th-INDIA-JAPAN-SCIENCE-AND-TECHNOLOGY-CONCLAVE-INTERNATIONAL-CONFERENCE-ON-FRONTIER-AREAS-OF-SCIENCE-AND-TECHNOLOGY-2023 https://www.youtube.com/watch?v=EK2Wg1k196Y&list=lls	  

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
121	Sakthi Kumar Dasappan Nair	学 際・ 融合科 学研究 科	India Japan S&T Seminar Series	President presente chief lecturer planner organizing _member	lecture	India Japan Society for Science, Technology and Education	India Japan S&T Seminar Series	2024/ 3/28	Seminar Hall (VCC Auditorium), Embassy of India, Japan	schoolc hildren college_ students graduate_ students teachers researchers scientific_ organization company governmental _agency	India Japan Society for Science, Technology and Education was founded with the aim of fostering collaboration, sharing expertise and promoting mutual learnings through exchanges of knowledge in the realms of Science, Technology and Education between India and Japan, as well as encompassing rich cultural exchanges. IJSSTE started its journey to achieve a greater India Japan collaborations in the field of S, T & E. Of course it's our first, small step, but in the right direction. We are thankful to H. E. Mr. Sibi George, Honorable Ambassador of India to Japan for addressing us with his inspirational words. Prof. Murty's (Director, IIT Hyderabad) talk highlighted the support that IIT Hyderabad received from JICA, Japan to elevate it's stature at par with all established other IITs in India. IJSSTE is thankful to all the speakers including Ms. Hoshino Akie, Director, JSPS International Division, Japan, Mr. Yuji Nishikawa, JST, Japan, Mr. Ueda Daisuke, Deputy Director General, JICA, Japan, Prof. Tarun Panda, IIT Hyderabad, Dr. Suddabasave Gowda, Asso. Professor, Hokkaido University, Dr. Hemanth Noothalapti, Asst. Professor, Shimane University, Dr. Anjaneyulu Dirisala, Sr. Res. Scientist, iCONM, Kawasaki for your wonderful talk during our seminar. IJSSTE is thankful to the Embassy of India, Japan for all the support provided to us.	http://www.drsakthikumar.com/index.php https://www.ijsste.org/	  

〈学部・研究科・研究所・センター・事務局〉

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
1	食環境科学 部健康栄養 学科	群馬県若い世 代食育推進協 議会実践活動	編集 助言・指 導 情報提供 企画 運営参加・ 支援 実演 寄稿 その他	その他	食環境科 学部健康 栄養学科	群馬県若い 世代食育推 進協議会実 践活動	4/1-現在 まで	群馬県太田 市 内 小 学 校、板倉キ ャンパス	小学生 社会人・ 一般 その他	群馬県若い世代食育推進協議会の活動の一環として、食環境科学部・健康栄養学科・井上広子教授・古河美咲助手・深澤美優助手を中心に、群馬県の食文化や食育について若い世代(学童期～青年期)へ普及する活動を行っている。2023年度は、2022年度に引き続き、本協議会メンバーである栄養教諭を履修する学生や食育に興味・関心を持つ健康栄養学科の3年生7名が群馬県の郷土料理や自身の出身地の郷土料理についてリーフレットを作成し、群馬県太田市内の小学校に配布した。また、昨年の本協議会メンバーである栄養教諭履修の健康栄養学科4年生と現協議会メンバーである3年生(計14名)で板倉キャンパス最後の「雷祭」において、来場者に日本の食文化の資料展示や子ども向けの食に関するゲーム、来場者に対してICタグ付きのフードモデルを用いた模擬食事指導を開催した。次年度より埼玉県朝霞キャンパスへ移転するが、これまでの活動を基盤にさらなる食育実践活動を行って行く予定である。	https://www.toyo.ac.jp/news/academics_faculty_fls_dnscsyokuikusuisen.html	 
2	食環境科学 研究科	食の未来研究 フォーラム “食の未来へ の架け橋”	その他	講演会	食環境科 学研究科	食の未来研 究フォーラ ム “食の未 来への架け 橋”	11/24	東洋大学白 山キャンパ ス2号館 ス カイホール	大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般	食環境科学領域で活躍する最先端の企業人や研究者(フロンティアサイエンティスト)を招聘する食の未来研究フォーラム。総合地球環境学研究所の山極壽一所長を招聘し、「食の進化とコミュニケーション」というタイトルで人類進化論的な観点から食について御講演頂いた。また、学内からは食環境科学部教授の金賢珠教授による「トウガラシとわさびの食文化」というタイトルで、トウガラシとわさびのそれぞれの食の歴史や文化との関わりについて御講演頂いた。	https://www.u-precenter.jp/article/post-51928.html	   
3	総務課	東洋大学白山 地域振興懇話 会「白山哲理 塾」の事務	運営参加・ 支援 その他	セミナー・ワ ークシ ョップ	白山地域 振興懇話 会(本学 及び地域 団体等と の協働)	白山哲理塾	4/1- 2024/ 3/31	文京区男女 平等センタ ーほか	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 社会人・ 一般 学術団 体 企業 市民団 体 行政機 関 その他	総務課は、東洋大学白山地域振興懇話会事務局となっており、白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施。企画立案者(近隣住民等)は、事務局に企画書の提出を行い、学内外で活動を実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
4		第37回東洋大学「現代学生百人一首」	編集 企画 運営参加・ 支援 その他	その他		第37回東洋大学「現代学生百人一首」	9/15-2024/1/15	第37回東洋大学「現代学生百人一首」	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生	短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のもの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表。	https://www.toyo.ac.jp/social/issyu/#anc04 https://www.toyo.ac.jp/as-sets/social/issyu/2024/9c336a7c9a94550cd47c-c6c3d8a8de23.pdf https://www.toyo.ac.jp/as-sets/37Student-stanka.pdf https://sites.google.com/toyo.jp/social-issyu/winning https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/culture/gakusei_hyakun-inissyu/	該当なし
5	広報課	東洋大学オウンドメディア「LINK @ TOYO」	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	会誌・ 広報誌	広報課	今こそ身につけたい“教養”、大人のためのWEBマガジン「LINK @ TOYO」	2020/10/30-現在まで	WEBマガジン「LINK @ TOYO」	社会人・ 一般	生活の知恵を得る「LIFE」、社会の未来を考える「SOCIAL」、仕事に生きる術を知る「BUSINESS」、文化を味わう「CULTURE」、スポーツを学ぶ「SPORT」の5つのカテゴリーからなるコンテンツを展開。専門家である本学の教員がそれぞれのテーマについて分かりやすく解説する記事や、各界で活躍する卒業生・学生へのインタビュー記事など、今こそ身につけたい“教養”の獲得を後押しするコンテンツとして随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/ https://www.u-presscenter.jp/article/post-44677.html	
6		「SDGs NewsLetter」	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	会誌・ 広報誌		「SDGs News Letter」	2020/12/21-現在まで	「SDGs News Letter」	社会人・ 一般 メディア	SDGs に寄与する本学の取り組みや教員の研究、学生団体の活動を主に報道関係者へ情報提供する。報道関係者だけでなく、社会・一般者にも伝えられるようにコンテンツ化して随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/sdgs/newsletter/	
7	国際課	Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設)	講師 企画	出前授業	東洋大学グローバルサービス株式会社 TUGS / (1) 文京区福祉施設、(2) 生涯学習センター、(3) リアン文京障がい者支援施設	Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設)	—	(1) 文京区福祉施設 (2) 生涯学習センター、東洋大学雨水会館 (3) リアン文京障がい者支援施設	小学生 社会人・ 一般	(1) - ①文京福祉センター江戸川橋 初級、中級の2レベルにて60歳以上の文京区民を対象に4ヶ月ごとに全14回の英会話講座を年3回を提供。全日程対面で開講。 (1) - ②文京福祉センター湯島 60歳以上の文京区民を対象に初級レベルの全5回の講座を秋に提供。全日程対面で開講。 (2) - ①文京アカデミア講座 社会人を主な対象とした中級者向けの英会話。毎週1つのトピックスに関する語彙やフレーズを英語で学び、表現の幅を広げる。後期Ⅱ(2023年1～3月)は約3年ぶりに対面で開講。 (2) - ②こどもアカデミア講座 夏休みに文京区在住の小学生低学年を対象とした1回60分の講座を開講。警察署や消防署、遊園地などのシールを地図に貼り、自分の理想の「まち」を作って、英語で建物の名前や場所を説明したり、英語に触れる体験学習。 (3) リアン文京障がい者支援施設 障がい者を対象に初級英会話を提供。1回90分の1回完結型講座。9月と10月の2回対面で開講。	https://www.toyo-achieve-english.com/haken	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
8	国際課	Toyo Achieve English 各種英会話講座	講師 企画	講演会	東洋大学 グローバルサービス株式会社 TUGS	Toyo Achieve English 各種英会話講座	—	東洋大学 浦水会館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	※ SGU で掲げる「全世代グローバル教育」の一環として実施。 (1) 大人向け英会話講座 海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (2) ジュニア向け英会話講座 主に近隣の小・中・高校生向けに開講する、海外の生きた英語を学ぶ全10回の英会話講座。春、夏、秋、冬の4期開講。 (3) 夏休み英会話講座 全世代向けに夏休みに開講する英会話講座。 (4) 春休み英会話講座 全世代向けに春休みに開講する英会話講座。 (5) 季節に関連した子供向け英語イベント ハロウィンやクリスマスの時期に近隣の子供向けの英語イベントを実施。	https://www.toyo-achieve-english.com/englishprogram	
9		Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設)		講演会	東洋大学 グローバルサービス株式会社 TUGS / GLOBAL VIEW POINT 講座	Toyo Achieve English (出張英会話講師派遣文京区施設)	—	Web	社会人・一般	GLOBALVIEWPOINT 講座 社会人を主な対象とした上級者向けの英会話講座。受講生が選択したトピックを基に、それに関連する語彙やフレーズを学び、表現の幅を広げる。全てオンラインにて開講。	https://www.toyo-achieve-english.com/englishprogram	
10		文学部伝統文化 (TDB) プロジェクト	出演 司会 実演	セミナー・ワークショップ		文学部伝統文化講座プロジェクト (能楽公演・声明公演・落語公演)	10/7-12/2	白山キャンパス 井上円了ホール	大学生 社会人・一般	能楽公演を2023/10/07(土)に、声明公演を2023/11/25(土)に、落語公演を2023/12/02(土)に、実施した。学生・教職員の他、学外者にも公開する形を取り、毎回平均約300名の来場があった。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231025-11030.html	該当なし
11	文学部 教務課	第3回 東洋大学文学部書道展	企画 運営参加・支援 その他	その他	文学部	第3回 東洋大学文学部書道展	6/15-9/30	井上円了記念博物館展示室(第2会場)・展示ロビー(第1会場)	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	東洋大学では、かねてから書道教員免許取得を目指す学生たちによる作品を展示する「東洋大学書道展」を文京シビックセンターにて開催してきました。そして、2021年度より、新たに、本学井上円了記念博物館において、文学部書道展を開催することとなり、今年度は第3回となります。 学芸員養成課程の3年時配当となる博物館実習Ⅰの1コースでは、毎年大学所蔵資料などからテーマを一つ決め、受講生が分担をして井上円了記念博物館で展示を行っています。今年度は、昨年に引き続き千葉県一宮本郷村文書を題材とし、旧一宮本郷村のさまざまな地域資源にスポットをあてて、地域の特色を紹介するとともに、その資料の元の持ち主と思われる「市原八平」家についても触れていきます。	https://www.toyo.ac.jp/news/about_founder_iecp_social-partnership_museum_20230616.html	
12		博物館実習Ⅰ〈①コース〉実習成果展示「あなたはだあれ?—一宮本郷村文書の来歴を考える—」	企画 運営参加・支援 その他	その他		博物館実習Ⅰ〈①コース〉実習成果展示「あなたはだあれ?—一宮本郷村文書の来歴を考える—」	2024/1/17-2024/5/31	井上円了記念博物館展示室	社会人・一般		https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20240117	
13	法学部 教務課	東洋大学無料法律相談会	助言・指導 企画 運営参加・支援	その他	無料法律相談部	東洋大学無料法律相談会	9/14(埼玉県朝霞市)、2/23(茨城県常総市)	朝霞市民会館(ゆめばれす)、常総市生涯学習センター	社会人・一般	埼玉県朝霞市において2023年9月14日(木)に、茨城県常総市において2024年2月23日(金・祝)に実施した。法学部の専任教員および無料法律相談部の学生が、賃貸トラブル・お金の貸し借り・交通事故・近所トラブル・借金・相続・離婚・後見・土地境界問題等、民法分野の一般的な問題について、一般市民からの相談に応じた。	https://twitter.com/toyodaidanbu/status/1702132903646486688 https://twitter.com/toyodaidanbu/status/1749982665871429726	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
14		SDGs と人文 学 公開セ ミナー	講師	セミナ ー・ワ ークシ ョップ		SDGs と 人 文学公開セ ミナー	6/17- 1/27	東洋大学白 山キャンパ ス	高校生 大学生 大学院 生 社会人・ 一般	SDGs の達成に人間科学総合研究所として貢献することをめざし、若手研究者たちが SDGs の問題群を考察する公開セミナーを開催した。特に SDGs がかけられる諸テーマの意義や重要性をいづゆる「人文学」と総称され非実学として等閑視される傾向のある諸学問からむしろ積極的に検討し「誰一人取り残されない」未来にむけて理解を促進することを目的とした。今年度は2回開催し、開催後は講演録を pdf で発行、一般公開している。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihns/pub	  
15		発達臨床相談 室	講師 助言・指 導 運営参加・ 支援 実演	講演会		発達臨床相談 室	—	—	社会人・ 一般	「人間の生涯発達に関する諸問題(カウンセリングを含む)について総合的な研究を行う」ことを目的としている。	—	
16		地域での支援 力を生かす子 ども相談支援 の開発支援	出演 パネリス ト コメンテ ーター 司会 講師 助言・指 導 情報提供 企画 運営参加・ 支援	セミナ ー・ワ ークシ ョップ	人間科学 総合研究 所	地域での支 援力を生か す子ども相 談支援の開 発支援	—	—	その他	心身の障害や疾病をもつ子どもや成人、被災地の子どもなど、相談機関に出向くことが難しい地域での相談支援、また発達相談に携わる教育・福祉施設職員に対する研修を実施。	—	
17	研究推進課	若手研究チ ーム「子ども の権利条約の具 体化に関する 研究」	コメンテ ーター 情報提供 企画 運営参加・ 支援	講演会		若手研究チ ーム「子ども の権利条約の具 体化に関する研 究」	—	—	大学院 生 教育関 係者 研究者 社会人・ 一般	子どもの権利条約の具体化とその課題を検討する公開研究会を実施し、社会啓発につとめます。子ども虐待対応における保護者との協働関係の構築現場の関心を研究につなげていく。	—	
18		SDGs プロ ジェクト	編集長 編集 助言・指 導 企画 運営参加・ 支援 調査担当 報告書執筆 寄稿	調査	現代社会 総合研究 所	SDGs プ ロ ジ ェ ク ト	10/25-現 在まで	現代社会総 合研究所ホ ーム ペー ジ の 刊 行 物 の 中 の WORKING P A P E R S E R I E S に 掲載	行政機 関	SDGs プロジェクト代表：齋藤洋教授(法学部)、メンバー本学教員3名、客員研究員6名、本研究では経営学、社会学、法学、経済学、観光学、国際学などを包含する本研究所が「環境」概念で各分野の連結を図りながら SDGs のテーマを複合的・総合的に研究し、「人々を幸せにする社会づくり」=「総合社会科学に基づく社会環境(人間の生活環境)の持続的構築」に向けて、実現可能な解決案の提示を試みる。 今年度は全国の自治体に対し、地域再生あるいは創生に関する学術的構築を試みることにし、「地域再生学(地域創生論)の学術的構築に関する調査アンケート」を行いました。調査回答をもとに、①求められる再生像の類型化(各地域はそれぞれ異なる再生像を有している)、②当該類型化に基づく調査・研究の方法の分類(調査内容の目的別詳細化、地方税法など関係法令及び判例の取り扱い、交通等の人的移動等々に関する方法)、③上記内容をもとにした従来の研究や実務報告の分類と検討、④求められる再生像ごとの方法と実践から導き出された具体案の提示。以上の四段階を経ることで、地域再生学あるいは創生論の基礎を構築し、これらの再検証を繰り返すことで、学術的な構築とともに各地域の目指す実際の再生等に合理的・効率的に寄与することを目標としている。研究成果は研究所 HP にて中間報告として掲載している。	https://drive.google.com/file/d/1C9d8o6Wx-3jC48ZyWdUtl-hlb5c8tj8D9r/view?usp=sharing	

No	学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
19	研究推進課	SDGs プロジェクト「安全保障研究会」	司会 企画 報告書執筆	講演会	現代社会 総合研究 所	SDGs プロジェクト「安全保障研究会」	—	東洋大学白山キャンパス内	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	国内外でインド太平洋地域におけるグローバルな講義の安全保障問題が重要視されてきている中で、当該地域の安定と持続的発展のための分析枠組みが必要であるという認識の下、当該「分析枠組みの構築」を目指す事を目的としている。	—	
20		IR チーム・ 澁澤健太郎教授（経済学部）	出演 パネリスト コメンテーター 司会 取材協力 編集長 インタビューアー 編集 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・ 支援 調査担当 報告書執筆 寄稿 その他	講演会		IR チーム・ 澁澤健太郎教授（経済学部）	—	—	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 行政機関	近年、日本では特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律（IR 推進法）が国会を通過し、複数の地方自治体が、カジノ運営などについて手をあげている。過疎化や高齢化、財政的に厳しい多くの地方自治体は、IR 推進による経済効果や地域創生の役割を期待している。本研究は立候補している自治体を訪問し、意見交換や現地視察を実施。	—	
21		ICT 教育研究プロジェクト	司会 編集長 インタビューアー 企画 運営参加・ 支援 報告書執筆	講演会		ICT 教育研究プロジェクト	10/14 11/28 継続中	東洋大学125記念ホールで開催。現代社会総合研究所のホームページに掲載。	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 行政機関	代表：澁澤健太郎（経済学部）、メンバー：研究員4名、客員研究員3名、研究協力者1名。本研究では ICT 教育推進の必要性とその効果を検証する研究を進めた。ICT/AI の活用について総合的に明らかにした。 佐賀県武雄市の小中学校職員に「生成 AI に関するアンケート調査」を行い、武雄市こども教員部長、武雄市教育委員会の新しい学校づくり課長、埼玉経済学部教授を招いてアンケート分析結果の公開研究会を行った。（多くの学生が参加し、活発に質問を投げかけたり意見を述べたりした）また約1か月後には学生を対象に分析結果の様子のビデオを視聴させ、テーマに沿った意見交換を行った。ここでも多くの学生が参加し、意見を述べたり、簡単なアンケートに答えてもらったりして、ICT 教育についての冊子を刊行した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231127-11855.html	
22		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	出演 パネリスト 司会 インタビューアー 企画 運営参加・ 支援	講演会		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	1/27	東洋大学白山キャンパス 10 号館 A101 教室で開催 現代社会総合研究所のホームページの講演会、ワーキングペーパーに掲載	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所の研究報告会、講演会、シンポジウム等を公開。また、学外の起業家や研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催。また、これらの成果は HP におけるワーキングペーパーショートエッセイなどでも公開。 学会で「生成 AI はどのようにビジネスシーンを変えることができるのか」というシンポジウムがあり、澁澤健太郎先生が招待講演者として「生成 AI を利用したスマート農業の可能性—ドローンの活用—」をテーマに講演。数々の研究事例を交えた最先端のお話で、当日は多数の学生、JBCA 関東支部会会員の参加があり、大盛況のうちにシンポジウムを終えることができた。	https://www.toyo.ac.jp/research/labocenter/gensha/ https://drive.google.com/file/d/1vfa2wSnqphY-E4h8qvkiRGH9tG-BdRxa7/view	 

[illegible]

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
29	研究推進課	東洋大学アジア文化研究所 井上助成 子島プロジェクト「Learning from Experiences The Third Workshop on International Islamic school in Japan」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	アジア文化研究所・研究所プロジェクト「公共社会学・人類学的視点からの在日ムスリムの多文化共生研究」(代表・子島進)	「Learning from Experiences The Third Workshop on International Islamic school in Japan」	12/3	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	イスラーム系インターナショナルスクールに関するワークショップは、在日ムスリムの声に耳を傾け、彼らの有する価値観を理解することを前面に押し出した企画である。在日ムスリムのリーダーには日本語を話す人も多いが、自由に意見を発表してもらうために、またその後の情報の共有についても考慮して、ワークショップの使用言語を英語として開催した。日本にある5校のイスラーム系インターナショナルスクールの校長が参加し、加えて、日系ブラジル人の教育について研究する押野寿美子氏(神田外語大学)とネパール人が創設したエベレスト・インターナショナルスクールの副校長 Megh Raj Nepal 氏の両名の参加もあり、日本のイスラーム系インターナショナルスクールの課題解決に向けて議論を行うことができた。具体的には、現在の無認可の状態から、各種学校として認可を受けることである。これは生徒の進学(=高等教育との接合)についてきわめて重要な課題であり、今後の展望を得ることが喫緊の課題であることも明らかになった。オンラインで学外の研究者も加わり、終日活発な議論を行うことができた。	—	4 質の高い教育をみんなに 10 人や国を超えてつながる
30		国際シンポジウム“The Formation of the Relationship between Modern Japan and the Islamic World”	出演 パネリスト コメンテーター 司会 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学アジア文化研究所・JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (B) “International Collaborative Study on the Photographic Archives of the Greater Japan Muslim League” (19804369)	“The Formation of the Relationship between Modern Japan and the Islamic World”	12/9-12/10	東洋大学白山キャンパス125記念ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 行政機関	2023年はトルコ共和国100周年の記念すべき年であり、翌2024年にやはり100周年を迎える日本・トルコの国交樹立は、日本とイスラーム世界との初の外交関係の成立を意味する。この点を鑑み、今回の国際シンポジウムは近代日本とイスラーム世界との関係を再考することを目的とする。具体的には、1日目に近代日本がトルコをどのように表象・イメージしてきたのかを様々な角度から検証する。2日目はより専門的に、近代日本とイスラーム世界の関係を研究するための諸史資料につき、最重要の根幹史料である『大日本回教協会寄託資料』を中心に検討した。	—	10 人や国を超えてつながる 16 平和と公正 17 持続可能なパートナーシップ
31		技術相談	助言・指導	その他		技術相談	4/1-3/31	工業技術研究所	学術団体 企業 行政機関	企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談に応じている(無料、今年度は主に Web 会議ツールを利用し Web 技術相談として実施)。	https://www.toyo.ac.jp/research/labo-center/riit/	9 産業と雇用イノベーション
32		工業技術研究所 講演会	パネリスト コメンテーター	講演会	工業技術研究所	工業技術研究所 講演会	8/30-9/13	オンライン形式	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	『AI をめぐる最新動向と今後の展望』をテーマとした講演会を Web 上でのオンデマンド型オンライン方式にて実施。	https://www.toyo.ac.jp/news/research_labo-center/riit_20230830.html	9 産業と雇用イノベーション
33		工業技術研究所 シンポジウム・研究発表会	パネリスト コメンテーター	講演会	工業技術研究所 後援：井上円了哲学センター	工業技術研究所 シンポジウム・研究発表会	2/21-3/8	オンライン形式	社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	企業等との産学連携活動の推進を目的とする研究発表会と、シンポジウムを Web 上でのオンデマンド型オンライン方式で実施(『哲学堂公園内古建築シンポジウム』と題して開催：第1部 基調講演・第2部 パネルディスカッションの2部構成)。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240124-12710.html	9 産業と雇用イノベーション

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
34		デジタルエンジニアリング アカデミー	コメンテーター 講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	工業技術 研究所 武蔵野銀行	デジタルエンジニアリングアカデミー	4/1-3/31	東洋大学川越キャンパス・武蔵野銀行・企業	企業	工業技術研究所と武蔵野銀行の共催による、新技術の自社導入を目指す企業を対象とした連続講座。 2021年度から2023年度にかけて「現場データの可視化・定量化」のテーマで、企業を対象とする講演や実習を定期的に実施。		
35		小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究 - “Buy One Give One” 事業からみる新しい支援のかたち -	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1-3/31	ベトナムおよびパキスタン	無電化地域の住民など	開発途上国には依然として無電化地域が存在する。また、近年の自然災害の激甚化や政情不安による難民の増加に伴い、劣悪な生活環境下において支援を必要としている被災者や難民も多い。本研究は、そうした人々を対象に、ソーラー充電式ランタンを無料配布するという小規模な人道支援活動を行い、この支援を通して支援側と受益者側の双方にもたらす影響およびその循環性を明らかにすることを目的としている。昨年度実施したベトナムでの研究の展開として本年度は、タイ国境地域のミャンマー難民、およびパキスタンカラチ市のスラム地域を対象に支援・調査を実施した。		   
36	研究推進課	ミャンマー政変の人的資本育成への影響 - 高等教育と職業訓練に焦点を当てて -	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生 社会研究 センター	レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1-3/31	ミャンマー	現地の学生	2021年2月の軍事クーデターがミャンマー社会・経済に多大な影響を与えた。また、政変以降国外に逃れる難民も発生している。本研究では、政変が社会・経済に与えた影響を概観したうえで、特に、政変以降、国内の大学をはじめとする教育機関の機能がほぼ麻痺している状態となったことによって、学生を始めとする若者層が被った教育機会・就業機会の減少などの影響を調査し、彼らが必要とする支援のニーズを明らかにする活動を行った。		
37		中山間地域の地域資源を活用した地域活性化にかかる実践的研究 - 埼玉県小鹿野町、イタリア・カメリーノ、ベトナム・タンチャオ村を対象として -	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1-3/31	イタリア、ベトナム、埼玉	高校生・社会人・一般 その他	埼玉県小鹿野町、イタリア共和国マルケ州カメリーノ、ベトナム社会主義共和国トゥエンクアン省タンチャオ村を対象に、地域活性化のための取り組みを実施した。小鹿野町では、「バスを待つ1時間の間に楽しめる旅」のプランを掲載した「バス待ちマップ」を作成し、地域資源を楽しめるようにした。カメリーノでは、イタリア中部地震被災地の復興を含む持続可能な地域づくりに向け、日本国内の震災復興事例を踏まえた実践的な提言を行った。タンチャオ村では、村に存在する有形無形の潜在的な観光資源を活かし、観光振興を軸とした村づくりに向けた調査・検討を実施した。		 
38		トルコ・シリア地震後の復興都市計画立案にかかる共同研究	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1-3/31	トルコ	社会人・一般	2023年2月6日に発生した2度の大地震により甚大な被害を被ったトルコ東部、東アナトリア地方の県で進行中の民間企業主導での復興計画立案に対し、学術的な側面から調査・支援を行った。		  

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
39		東洋大学に おける「MeW (Menstrual Wellbeing by/in Social Design) Project」の 展開	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエ ントな社会 に向けたSDGs の包摂的実 現に関する 研究	4/1-3/31	東洋大学白 山キャンパ ス	大学生 教育関 係者	MeW(Menstrual Wellbeing by/in Social Design) プロジェクトは、大阪大学 UNESCO チェアのプロジェクトのひとつとして、月経のある人のウェルビーイングを前進させることを目的として2021年3月に開始された。東洋大学における国際共生社会研究センターのプロジェクトとしては、2022年10月に始動し、これまでに2期にわたる実証実験（第1期：2022年10月～12月、第2期：2023年6月～8月）を実施してきた。具体的には、白山キャンパスの10のトイレ内において生理用品の無償配布を行い、月経に関する意識調査を実施した。また、MeW プロジェクトに関するニュースレターの刊行を不定期で開始した。本研究の取り組みにより東洋大学では、生理用品の無償配布を大学の事業として実施することが決定され、2024年4月より白山キャンパスから実施される。	—	      
40	研究推進課	CopaGloba 親 になる過程に おけるコペア レンティング の認識の形成 に焦点を当て た縦断的国際 比較研究	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生 社会研究 センター	レジリエ ントな社会 に向けたSDGs の包摂的実 現に関する 研究	4/1-3/31	日本、フィン ランド、 ポルトガル	幼稚園 以下 教育関 係者 保護者	本研究は、フィンランドアカデミーからの助成を受けたフィンランド、ポルトガル、日本の3か国で構成する多国間コンソーシアム研究プロジェクトで、本センターを研究プラットフォームとして、日本からの研究員が参加している。日本、フィンランド、ポルトガルの3か国におけるコペアレンティングとその構築過程を比較することで、影響を与える環境要因を特定し、より良好な協力関係を築くための支援策への手がかりを得て、子育て支援政策へのエビデンスを得ることをめざしている。これまで、第一子を迎えるカップルに協力を依頼し、産前・産後の二度にわたるインタビュー、アンケート調査を実施してデータを収集した。2022年7月にすべてのデータの収集を終え、2024年1月現在、産前データの分析を行いながら、並行して産後データのスクリーニングを進めている。	—	 
41		開発途上国に おける都市計 画・都市交通 の新しい形	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエ ントな社会 に向けたSDGs の包摂的実 現に関する 研究	4/1-3/31	—	社会人・ 一般 その他	開発途上国における都市部では、急激な経済成長に伴い、無秩序な都市化やモータリゼーションが加速している。このような課題に対し、これまで国際共生社会研究センターでは、特に都市内の私的交通保有者に着目した交通行動を分析することで都市交通計画、都市交通マネジメントへの新たな視点を切り開く研究を行ってきており、一定の成果を得ている。本年度からは、開発途上国の都市計画全体を対象に、新たな視点での都市マネジメント手法についての研究を「SURF (Smart Urban Solution Framework) イニシアティブ」として開始した。	—	
42		産学連携・学 生起業プロジ ェクトによる 環境に優しい 製品開発プロ ジェクト	企画	その他		レジリエ ントな社会 に向けたSDGs の包摂的実 現に関する 研究	4/1-3/31	—	社会人・ 一般 その他	産学連携・学生起業のプロジェクトとして本センターから始まった。学生主導によるもので、資生堂がWIPOGreenに登録した特許を利用した低環境負荷の化粧品開発の実践プロジェクト(BOISEN プロジェクト)である。本年度、東洋大学×館林ボイセンバリーのハンドクリームのクラウドファンディング(2023年9月25～10月24日)成功により製品化が決定。	—	 

No	学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
43	研究推進課	中核人材育成 WEB セミナー	講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	産学協同 教育センター	中核人材育成 Web セミナー	①9/8 ②12/13	①東洋大学 川越キャンパス会議室 ②オンライン形式	教育関係者 学術団体 企業 行政機関	自治体や企業の人材の将来を担う若手人材の教育・技術向上を目指した、最新の学問・技術の講義を東洋大学川越キャンパス及びWeb上で実施。	https://www.toyo.ac.jp/news/research-cooperation_pec_20230908.html https://www.toyo.ac.jp/news/20231013-10497.html	
44		若手産業人材の育成に係る活動	講師 助言・指導 実演	セミナー・ワークショップ		若手産業人材の育成に係る活動	8/24	東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	教育関係者 行政機関 その他	埼玉県との連携により、県内企業が必要とする産業人材を育成するため、高等技術専門校空調システム科の訓練生に対して高度な知識の獲得と技能を習得を目的とした対面講義ならびに施設（設備）見学を実施。	—	
45		大学等と連携した観光経営 人材育成事業	司会 講師 企画 運営参加・ 支援 報告書執筆	セミナー・ワークショップ	東京都 国際観光学部	東京都・東洋大学国際観光学部による観光経営人材育成講座「持続可能な観光地マネジメントにむけて」	1/27-2/3	東洋大学白山キャンパス10号館 3階 A 301教室、オンライン(Zoom)	社会人・一般	古屋秀樹・教授(国際観光学部 国際観光学科) 2021年度より3年間、東京都と連携して事業を行う。持続可能な観光のための指標をはじめとして、観光地計画・ウィズコロナの観光街づくり、DMOにおけるプライス・ブランディング、温泉による地域活性化、歴史文化資源の活用、経済・観光消費分析、データ活用による観光動態の解析などを考察。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231130-11898.html https://www.toyo.ac.jp/assets/research/tokyo-toyo-hrd.pdf	 
46	産官学連携 推進課	地域連携シンポジウム「荒川のつながりから東京のネットワーク・ブランドへ〜『下町サミット』とは何なのか？ 過去と今から、東京の中小企業ネットワークの未来を考えよう〜」	パネリスト 司会 講師 企画 運営参加・ 支援	講演会	産官学連携 推進センター	地域連携シンポジウム「荒川のつながりから東京のネットワーク・ブランドへ〜『下町サミット』とは何なのか？ 過去と今から、東京の中小企業ネットワークの未来を考えよう〜」	1/15	東洋大学白山キャンパス8号館7階125記念ホール	社会人・一般	荒川区の中小企業経営者グループ(あすめし会)を中心に始まった下町サミットは21回を数え、東京都を代表する中小企業ネットワークに発展しています。下町サミットはどのように誕生・発展し、中小企業はなぜ、集うのでしょうか？ 本シンポジウムでは、下町サミット創立以来の中心メンバーの方々に、下町サミットの今と昔を語って頂き、大学研究者の視点を加えながら、「中小企業にとって、下町サミットとは何なのか？」を明らかにしていきます。その上で、下町サミットを東京の中小企業のブランドとして、情報発信することを企図しています。各地域での中小企業ネットワークと行政支援のあり方も考えます。 ※本企画は荒川区地域活性化研究補助金の支援を受け実施。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231205-12169.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
47	産官学連携 推進課	TOYO SDGs Students Project が 「東洋大生× 館林ボイセン バリーのハンド クリーム」製 品化のための クラウドファン ディングに成功	企画 運営参加・ 支援 その他	その他	TOYO SDGs Students Project	「東洋大生 ×館林ボイ センバリー のハンドク リーム」製 品化のため のクラウド ファンディ ング	2022/3- 現在まで	「Makuake」	社会人・ 一般	国際学部北脇秀敏教授研究室、生命科学部三浦健准教授研究室に所属する学生有志による、SDGsに関連した大学公認の学生団体「TOYO SDGs Students Project ～SUGOMORI BOISEN Project～」は、学生の視点から考える化粧品を企画し、株式会社シーエスラボと開発・生産を進め、2022年3月に試作品としてハンドセラム「BOISEN」を開発しました。 この試作品の開発・生産にあたっては、環境関連技術におけるイノベーションと普及を促進するための国際的な枠組みである「WIPO GREEN」のデータベースに掲載された株式会社資生堂(以下、資生堂という。)の特許のライセンスを受けて実現したものです。 そしてハンドセラム「BOISEN」の製品化に向けて9月から10月にクラウドファンディングを実施した結果、多くのご支援のおかげで目標を達成することが出来ました。 今後、ご支援いただいた方へ商品をお届けし、それ以降、様々な場所で販売を予定しております。 【SDGs への貢献】 ・製造工程におけるエネルギー、原料の削減を目指しました。 ・ボトルキャップにアルミキャップを採用しました。 ・再生 PET を使用したラベルを採用しました。 ・フィルム材質の使用量を減らすためにクラフト紙を使用したチャック袋を採用しました。 ・群馬県館林市の名産品「ボイセンバリー」を使用することで地域活性化、魅力発信に繋がります。	https://www.toyo.ac.jp/news/sdgsnews_boisen.html https://www.toyo.ac.jp/news/2023116-11724.html	    
48		【管弦楽団】 朝霞市成人式 での演奏	運営参加・ 支援 実演	フェス ティバ ル	朝霞市役 所	朝霞市成人 式	2024/ 1/7-1/8	ゆめばれす (市民会 館)	大学生 社会人・ 一般 行政機 関	朝霞市役所が運営する朝霞市成人式での演奏。	https://www.city.asaka.lg.jp/site/kyoiku/r6sei-jinnohikinen-sikitenn.html	
49	学生支援課	【箏曲研究会】 あじさいコン サートでの演 奏	運営参加・ 支援 実演	フェス ティバ ル	文京区観 光協会	あじさい祭 り	6/11	白山神社及 び白山公園	幼稚園 以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 社会人・ 一般	あじさい祭り内で開催されるあじさいコンサートでの演奏。	—	
50		【箏曲研究会】 駒本小学校で の音楽指導・ 演奏会	助言・指 導 実演	セミナ ー・ワ ークシ ョップ	駒本小学 校	駒本小学校 での音楽指 導・演奏会	2023/ 5/9 2024/ 2/9	駒本小学校	小学生	駒本小学校の4年生を対象に、音楽の授業の一環として、箏の演奏方法の指導と演奏会を行った。	—	
51		【バリアフリ ーサークル 「歩み」】～大 学生と遊ば う！！～ in Campus	運営参加・ 支援	セミナ ー・ワ ークシ ョップ	バリアフ リーサー クル「歩 み」	～大学生と 遊ぼう！！ ～ in Campus	2024/ 1/27	白山キャン パス	小学生 中学生 高校生 社会人・ 一般	里親・里子制度を利用した家庭の子供、保護者を白山キャンパスへ招待し、キャンパスツアーやレクレーションを通じて交流を行った。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
52	学生支援課	【東洋大学混声合唱団】 あじさいコンサートでの演奏	運営参加・ 支援 実演	フェスティバル	文京区観光協会	あじさい祭り	—	白山神社及び白山公園	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	あじさい祭り内で開催されるあじさいコンサートでの演奏。	—	
53		【生協白山学生委員会】 あじさい祭りへの出店	運営参加・ 支援 実演	フェスティバル		あじさい祭り	6/11-18		幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	あじさい祭りへの出店。	—	
54		【白山祭実行委員会】あじさい祭りへの出店	運営参加・ 支援 実演	フェスティバル		あじさい祭り	6/11-18		幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	あじさい祭りへの出店。	—	
55		【大道芸サークルPastime白山支部】 千駄木サマーフェスタ	出演 実演	フェスティバル	千駄木小学校	千駄木サマーフェスタ	7/22	千駄木小学校	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 保護者 社会人・一般	バルーンアート配布をすることで、子どもたちと交流し、地域との連携を深める。また、大道芸のパフォーマンスの練習成果を披露した。	https://www.sendagi-pta.com/2023/08/18/ 第2回サマーフェスタ開催 /	
56		【大道芸サークルPastime白山支部】 岩淵保育園こども祭り	出演 実演	フェスティバル	岩淵保育園	岩淵保育園こども祭り	7/1	岩淵保育園	幼稚園以下	保育園のお祭りでバルーンアートを披露した。	—	
57		【大道芸サークルPastime白山支部】 納涼祭	出演 実演	フェスティバル	日の基保育園	納涼祭	9/2	日の基保育園	幼稚園以下	納涼祭でボランティアとしてバルーンアートの配布を行った。	—	
58		【大道芸サークルPastime白山支部】 第40回ふるさと北区区民まつり	出演 実演	フェスティバル	北区町会自治会連合会・北区青少年地区委員会	第40回ふるさと北区区民まつり	10/7	北区内複数会場	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 保護者 社会人・一般	区民まつりにてボランティアとしてバルーンアートを配布した。	https://www.city.kita.tokyo.jp/chikishinko/kurashi/volunteer/event/maturi2.html	
59		【大道芸サークルPastime白山支部】 ばねっ子まつり	出演 実演	フェスティバル	教育委員会事務局 子ども未来部 子どもわくわく課 赤羽児童館	ばねっ子まつり	10/28	赤羽公園	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 保護者 社会人・一般	ボランティアとしてバルーンアートの配布を行った。	https://www.city.kita.tokyo.jp/event/2023/banekonomaturi.html	
60		【東洋大学阿波踊り愛好会】 徳島阿波おどり2023	出演	フェスティバル	阿波おどり未来へつなぐ実行委員会	徳島阿波おどり2023	8/1-13	徳島市	社会人・一般 市民団体 行政機関	徳島市にて阿波踊りへの参加。	https://www.awadorimirai.com/	

No	学部・研究所・センター・事務局	タイトル	役割	種別	主催者発行元	イベント番組新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
61		【SOUNDGARDEN】 文京区カレッジコンサート	出演	フェスティバル	公益財団法人文京アカデミーホール事業係	文京区カレッジコンサート	9/16		社会人・一般行政機関	文京区を拠点に活動する団体を中心に行われるコンサートに参加した。	https://mykoho.jp/article/東京都文京区/区報ぶんきょう-2023年7月10日号/第18回文ふみの京みやこカレッジコンサート/	11 持続可能な都市
62	学生支援課	【Lu x ite】 文京区都市交流フェスタ	出演	フェスティバル	文京区都市交流フェスタ事務局(株式会社ブランドウ・ジャパン)	文京区都市交流フェスタ	2024 3/16	文京シンビックセンター	社会人・一般行政機関	国内外交流都市及び自治体の歴史的・文化的つながりを発信するため、文京区都市交流フェスタでK-POP ダンスを披露した。	https://www.city.bunkyo.lg.jp/b/014/p/004071/index.html	11 持続可能な都市
63	川越事務部総務課	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 調査担当 その他	セミナー・ワークショップ	川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊(総合情報学科小瀬教授、川越事務部総務課職員が主体)	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	2014-現在まで	川越キャンパスこもれびの森	幼稚園以下小学生中学生高校生大学生大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般市民団体 その他	一般市民、本学学生・教職員が協働で川越キャンパス内の森林保全活動を実施。 また、学外者を対象とした木工教室、学外での環境イベント出展等の活動を実施。	https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama/ https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama/toyo-komorebi-book/	15 陸の豊かさ
64	川越事務部 教学課	川越大学間連携講座	講師 企画 運営参加・支援	講演会	川越市、東洋大学	川越大学間連携講座	5/27-6/24	ウェスタ川越	中学生 高校生 教育関係者 保護者 社会人・一般	加藤千恵子・総合情報学部教授と菅原徹・総合情報学部非常勤講師による「研究者が教える科学的学習法～IQ・EQ・社会的能力を伸ばす～」と題した全5回の講演で、夢をアピールして入試に臨む時代に「夢を描く」技術を知らない子どもたちやその保護者等を対象として、学習法だけでなく、夢の材料を集めるコンピテンシー分析や自己肯定感の上げ方について解説しました。	—	4 質の高い教育をみんなに
65		第32回鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会	司会 助言・指導 企画 運営参加・支援		鶴ヶ島市、東洋大学	鶴ヶ島市・東洋大学連携スポーツ講習会	3/1	東洋大学川越キャンパス・武蔵野銀行・企業	大学生 大学院生 社会人・一般	小河教授(理工学部)のコーディネートのもと、家光素行氏(立命館大学スポーツ健康科学部・教授)による『ストレッチで血管を若返らせよう!』をテーマとした講習会で、ストレッチを活用した血管若返り術について紹介しました。	—	3 健康的な生活
66	図書事務課(白山)	近隣区民への白山図書館開放	その他	その他	白山図書館	近隣区民への白山図書館開放	4/1-3/31	白山図書館	社会人・一般	利用対象：文京区・板橋区・北区内在住の満18歳以上の社会人の方(学生・受講生を除く) 利用期間：学生夏季休暇および春季休暇中 入館手続き：上記利用対象区立図書館発行の「東洋大学附属図書館白山図書館閲覧証」を図書館入口で提示および記載 利用サービス：図書館資料閲覧、閲覧席及び館内コピー機利用(著作権範囲内の図書館資料複写)	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	4 質の高い教育をみんなに
67		附属高校生への白山図書館及び赤羽台図書館開放			白山図書館・赤羽台図書館	附属高校生への白山図書館及び赤羽台図書館開放	8/1-3/31	白山図書館・赤羽台図書館	高校生	利用対象：附属高校生 利用期間：通年(ただし、7月・1月は利用不可) 入館手続き：身分証明書・東洋大学附属図書館利用カード提示 利用サービス：図書館資料閲覧及び貸出、閲覧席及び館内コピー機利用(著作権範囲内の図書館資料複写)	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	4 質の高い教育をみんなに

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
68		近隣中学・高 校生への白山 図書館開放				近隣中学・ 高校生への 白山図書館 開放	8/1-3/31		中学生 高校生	利用対象：近隣中学・高校生(京華中学・ 高等学校、京華商業高等学校、京華女 子中学・高等学校、駒込高等学校、広 尾学園小石川中学校・高等学校) 利用期間：通年(ただし、7月・1月は利 用不可) 入館手続き：身分証明書・東洋大学附 属図書館入館カード提示 利用サービス：図書館資料閲覧、閲覧 席及び館内コピー機利用(著作権範囲内 の図書館資料複写)	—	
69	図書事務課 (白山)	『東洋大学附 属図書館 貴重書デジタル アーカイブ』の公開			白山図書 館	『東洋大学 附属図書館 貴重書デジ タルアーカ イブ』の公開	4/1-3/31	白山図書館	幼稚園 以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生教育 関係者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団 体 企業 市民団 体 行政機 関 その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及び それに準じる資料をデジタル化し、『東 洋大学附属図書館 貴重書デジタルアー カイブ』にて順次公開している。	https://www.i-repository.net/ii/meta_pub/G0000604kichosho	
70		国文学研究資 料館「国書デ ータベース」 での本学所蔵 古典籍の画像 公開	その他	その他		国文学研究 資料館「国 書データベ ース」での 本学所蔵古 典籍の画像 公開	3/27-現 在まで		中学生 高校生 大学生 大学院 生 社会人・ 一般 学術団 体 企業 市民団 体 行政機 関 その他	本学附属図書館は、国文学研究資料館 のプロジェクト「日本語の歴史的典籍の 国際共同研究ネットワーク構築計画」 と連携し、2024年3月27日(水)より「国 書データベース」にて本学所蔵の古典 籍の画像公開を開始した。 対象は「哲学堂文庫」「百人一首コレク ション」「吉田幸一旧蔵書(古典文庫)」 で、今後順次公開予定。	—	
71	図書事務課 (川越)	近隣地域市民 への川越図書 館開放			川越図書 館	近隣地域市 民への川越 図書館開放		川越図書館	中学生 高校生 大学生	川越市立図書館・鶴ヶ島市立図書館・ 坂戸市立図書館の利用証(利用カード) を登録している3市に在住、または在勤・ 在学している中学生以上を対象に閲覧 利用を認めている。	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	
72	図書事務課 (板倉)	近隣地域市民 への板倉図書 館開放			板倉図書 館	近隣地域市 民への板倉 図書館開放	4/1-3/31	板倉図書館	中学生 高校生 大学生 大学院 生 社会人・ 一般	邑楽郡・館林市・古河市・栃木市に在住、 または在勤・在学している中学生以上。 近隣に在住・在勤・在学している市民 を対象として閲覧利用を許可している。 通年で利用可能。 (コロナ禍は近隣住民の図書館利用を停 止していた)	—	
73	図書事務課 (赤羽台)	区民への赤羽 台図書館開放			赤羽台図 書館	区市民への 赤羽台図書 館開放	4/1-3/31	赤羽台図書 館	社会人・ 一般	北区内在住の満18歳以上の社会人(学 生、受講生を除く)で北区立図書館の 利用登録者に対して、長期休暇期間に 図書館を開放している。 2023年度は以下の日程。 2023年8月 7日(月) ～ 2023年9月21 日(木) 2024年1月30日(火) ～ 2024年3月31 日(日)	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	
74		区民への「こ ども図書館 『えーる』」 開放				区 民 へ の 「こども図 書館『えー る』」開放			幼稚園 以下 保護者	北区内在住の未就学児とその保護者で、 保護者が北区立図書館の利用登録者 に対して、通年で「こども図書館『えー る』」を開放している。 (7月・1月の学生の試験期を除く)	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
75	図書事務課 (赤羽台)	講演会「ムーミン谷に夏が来る」	講師 企画 運営参加・ 支援 その他	講演会	赤羽台図書館	講演会「ムーミン谷に夏が来る」	6/12	赤羽台図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	赤羽台図書館のオープンを記念して、ヨーロッパ文化・文学の研究者である菊地章太館長による「ムーミン」シリーズの講演会を開催。 当日はシリーズの初版本や原作者トーヴェ・ヤンソンのデッサンが書き込まれた原書など、ムーミンに関する貴重な資料も展示した。	https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1659018591516397568?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1668058003386568705?s=20	
76		おとなの読書会《あかばねだい絵本ラウンジ》				おとなの読書会《あかばねだい絵本ラウンジ》	7/10-2/19		大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般	絵本への大人の関心の高まりが社会的に注目されていることから、対象を北区民(18歳以上) および本学関係者とする絵本の読書会を開催した。 参加者は思い思いに絵本の読み聞かせを行い、絵本への思い入れや作品にまつわる知識などを語り合った。 2023年度は下記の日程で2回実施。 第1回 夏の夜の部(2023年7月10日) 第2回 芽吹き部(2024年2月19日)	https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1673611831943008263?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1678639747772588032?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1748517875277865054?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1759751570395381885?s=20	
77		映画上映会 & 監督トークイベント「1/10 Fukushima をきいてみる 2022」	企画 運営参加・ 支援 その他	その他		映画上映会 & 監督トークイベント「1/10 Fukushima をきいてみる 2022」	11/21			東日本大震災後の福島に住む人々、福島を離れて暮らす人々にインタビューを行い、10年かけてその変化を記録するドキュメンタリー映画の上映会を開催。当日は監督も同席し、参加者とお話しながら制作の趣旨や出演者のエピソードなどを語るアフタートークを行った。 また、上映会に合わせて、福島関連の資料展示も実施した。	https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1709126194241884257?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1729057692654997508?s=20	
78		演奏&講演会「西洋楽器のタベ」				演奏&講演会「西洋楽器のタベ」	12/19		幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	赤羽台図書館長、菊地章太教授による西洋楽器の演奏会を実施した。映像資料を流しながらそれぞれの楽器の歴史的背景や文化についての解説も行った。 また、楽器に関する資料の展示も同時に開催した。	https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1730176956371816586?s=20 https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1737066624598130941?s=20	
79		東洋大学「読書サポート犬」プログラム わんわん読書タイム	助言・指導 企画 運営参加・ 支援	その他	赤羽台図書館 & 福祉社会開発研究センター	東洋大学「読書サポート犬」プログラム わんわん読書タイム	3/9		小学生 中学生	学齢期の子どもにたちに寄り添い、安心して楽しい読書を体験してもらうための取り組み。公益社団法人日本動物病院協会(Japanese Animal Hospital Association、以下 JAHA) が定めるセラピードッグとしての基準を満たした犬と獣医師や飼い主を含むボランティアスタッフにより進められ、子どもに向けて犬についてのレクチャーを行った後、飼い主が見守るそばで犬と子どもとが1対1で向き合い、犬への読み聞かせを楽しむ。 JAHA によるこの取り組みが大学で本格的に実施されたのは今回が初。公共図書館で開催する際は JAHA のボランティアが務める運営スタッフの役割を本学の学生ボランティアが担い、学生ならではの提案を組み込んだ独自プログラムとなった。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240313-13183.html https://x.com/TOYOlibrary_asa/status/1769606221441667272?s=20	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
80	井上円了哲 学センター	井上円了考案 ボードゲーム 「哲学飛将 基」の解説動 画、解説 Web ページを公開	助言・指 導 情報提供 企画 運営参加・ 支援 実演 その他	インタ ーネッ ト	井上円了 哲学セン ター	井上円了考 案ボードゲ ーム「哲学 飛将基」の 解説動画、 解説 Web ペ ージを公開	4/3-現在 まで	YouTube® 「東洋大学 toyouniv」、 Web page	中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般 その他	井上円了が哲学教育のために作成した ボードゲーム「哲学飛将基」の解説動画 と解説 Web ページを公開しました。 動画は前編と後編に分かれ、天理大学・ 岡田正彦教授や、本学経営学部・関勝 寿教授と将棋研究会の学生らが登場し、 哲学飛将基のルールやゲームとしての 面白さについて解説しています。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-game	
81		特別展「鉄道 は哲学者を乗 せてゆくー東 洋大学創立 者・井上円了 の講演旅行 一」図録公開	情報提供 寄稿 その他	インタ ーネッ ト		特別展「鉄 道は哲学者 を乗せてゆ くー東洋大 学創立者・ 井上円了の 講演旅行一 」図録公開	4/5-現在 まで	Web page	中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般	井上円了記念博物館にて、2022年10月 14日(金)～12月23日(金)に開催して いた鉄道開業150周年記念特別展「鉄道 は哲学者を乗せてゆくー東洋大学創立 者・井上円了の講演旅行一」の図録が、 東洋大学アジア文化研究所の Web ペ ージにて公開されました。 当館学芸員による展示資料の解説と、 アジア文化研究所研究員の研究成果が 一冊にまとまっています。	https://www.toyo.ac.jp/news/about-founder-iecp-social-partnership-museum_20230404.html	
82		テレビ東京 『出沒！アド 街ック天国』 の取材に協力	取材協力 情報提供	テレビ・ ラジオ 番組		テレビ東京 『出沒！アド 街ック天国』 の取材に 協力	5/29	テレビ東京 『出沒！アド 街ック天国』	メディア	井上円了記念博物館にて、テレビ東京 『出沒！アド街ック天国』の取材に協力 しました。 ■放送局：テレビ東京 ■日時：2023年6月3日(土) 午後9時～ ■番組名：『出沒！アド街ック天国』 番 組 HP：https://www.tv-tokyo.co.jp/adomachi/ 公 式 Twitter：https://twitter.com/admati_official	https://www.toyo.ac.jp/news/about-founder-iecp-social-partnership-museum_20230529.html	該当なし
83		東洋大学史ブ ックレット全 15 巻を Web 公開	情報提供 その他	インタ ーネッ ト		東洋大学史 ブックレ ット 全 15 巻 を Web 公開	5/29-現 在まで	東洋大学史 ブックレ ット	中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般	東洋大学史ブックレット全15巻を Web 公開しました。 このブックレットは、2012(平成24)年 の創立125周年に制作し、井上円了や東 洋大学史を分かり易く紹介した冊子で す。 先人達の本学への情熱、数々の苦難を 乗り越えた本学の歴史等を感じてくだ さい。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/Toyo-University-history-book-let	
84		三浦節夫先生 追悼シンポ ジウム「井上 円了研究の過 去・現在・未 来」について	講師	講演会		三浦節夫先 生追悼シン ポジウム 「井上円 了研究の過 去・現在・ 未来」	7/8	東洋大学白 山キャンパ ス5B12教室 (オンライ ン 同 時 配 信)	大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般	報告：13：10～15：10 ①「円了センター 30年の歩みと三浦節 夫の井上円了研究」 長谷川琢哉(井上円了哲学センター研究 助手) ②「三浦節夫と東洋大学のアイデンティ ティ：井上円了の教育理念をめぐって」 佐藤厚(井上円了哲学センター客員研究 員) ③「三浦節夫の基礎研究とその継承ー 〈井上円了関係人名辞典〉から〈井上円 了人脈データベースへ〉」 ライナ・シュルツァ(東洋大学情報連 携学部情報連携学科准教授) ④「三浦節夫の残した資料ー井上円了関 係資料の調査・整理・展示から見えた 課題」 北田建二(井上円了記念博物館学芸員) 休憩：15：10～15：20 コメント：15：20～15：40 岡田正彦(天 理大学人間学部宗教学科教授) 討論：15：40～16：40	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-research/symposium/2023Symposium	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
85		新潟県長岡市 立越路小学校 円了学習	講師 助言・指 導 企画 運営参加・ 支援 その他	講演会		越路小 in 東 洋大学 2023 年度	6/29	東洋大学白 山キャンパ ス スカイ ホール、井 上円了記念 博物館、井 上円了像	小学生	本学創立者 井上円了の生誕の地、新潟 県長岡市にある市立越路小学校の6年生 102名が「円了学習」の一環として、白 山キャンパスを訪問しました。 「円了学習」とは、日頃から、児童が郷 土の偉人である井上円了を学習する活 動です。毎年、修学旅行時に本学白山 キャンパスを訪問し、円了に関する学 習を深めますが、コロナ禍にて2022年 度は講演も行えず、2019年度以来の訪 問となりました。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-social-partnership/koshiji-enryou-gakusyuu	
86	井上円了哲 学センター	港区立みなと 科学館・2023 年夏の企画展 「科学で楽し む妖怪展」に 井上円了記念 博物館が協力	情報提供 企画 その他	その他		港区立みな と科学館・ 2023 年夏の 企画展「科 学で楽しむ 妖怪展」	7/12- 9/10	東京都港区 立みなと科 学館 多目 的ロビー	幼稚園 以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 社会人・ 一般	東京都港区立みなと科学館で開催する、 2023年夏の企画展「科学で楽しむ妖怪 展」に井上円了記念博物館が協力しま した。 この企画展は、妖怪や妖怪のしわざと されてきた様々な事象について、古生 物学、自然科学、哲学といった科学館 ならではの視点から紹介するものです。 そして、展示コーナー「妖怪博士・井 上円了」において、「こっくりさん」と いう謎の存在に挑み、これを科学的思 考で解明したことでも知られる、本学 創立者で、哲学者でもある井上円了博 士の研究を紹介するとともに、円了博 士の著書『妖怪学講義』（出版 1896年） や愛用品等も展示。	https://www.toyo.ac.jp/news/about_founder_iecp-social-partnership-museum_20230710minato.html	
87		特別展「紙と 墨にこめたメ ッセージー書 にみる円了ス ピリットー」	情報提供 企画 その他	その他		特別展「紙 と墨にこめ たメッセー ジー書にみ る円了スピ リットー」	10/16- 12/22	井上円了記 念博物館	中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 社会人・ 一般 その他	当館では、「紙と墨にこめたメッセージ」 と題した特集展示を過去8回にわたり開 催し、井上円了の書を公開してきました。 今回は4年ぶりに、この特集展示を リバイバルし、特別展として開催。 展示構成 1. 師から受け継いだ書 2. 充実していく書の制作活動 3. 書家「甫水井上圓了」の確立	https://www.toyo.ac.jp/news/20231018-10568.html https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/2023Special-exhibition	
88		2023 年度哲 学堂祭を举行	講師 その他	フェス ティバ ル		2023年度哲 学堂祭	11/4	蓮華寺、哲 学堂公園	幼稚園 以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般 その他	哲学堂祭は、哲学の普及を願った創立 者・井上円了先生の遺言にもとづき、 毎年11月の第1土曜日に東京都中野区哲 学堂公園において、一般公開で開催し ています。 蓮華寺での墓前祭ののち、哲学堂公園 で記念講演会が行われます。講演会 では、円了先生が哲学の始祖として定め た孔子、釈迦、ソクラテス、カントの「四 聖」を毎年順番に取り上げています。 円了先生は、式典の開催時期や会場、 提供する飲み物などを遺言書で定めて おり、参加者のために甘酒、珈琲、紅 茶が用意されています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231104-11528.html	該当な し

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
89		講談『井上円了物語』（動画）の制作に協力	取材協力 情報提供 その他	インター ネット		講談『井上円了物語』（動画）の制作に協力	12/8	YouTube® 「神田山緑のさんちゃんねる」	企業 その他	本学創立者・井上円了の歩んだ人生を読んだ、講談『井上円了物語』が、YouTube®「神田山緑のさんちゃんねる」に公開されました。 この動画は、本学に中野区立哲学堂公園管理事務所である日本体育施設グループより協力依頼を受けて、社会学部メディアコミュニケーション学科の戸田慎一教授、海野敏教授、学生が撮影・編集し、井上円了記念博物館が監修。講談師の神田山緑さんが読みました。 講談『井上円了物語』 YouTube®「神田山緑のさんちゃんねる」 https://www.youtube.com/watch?v=F2UEb4nsHxU 作・出演：神田山緑 写真提供・監修：井上円了哲学センター、井上円了記念博物館 撮影・編集：社会学部メディアコミュニケーション学科 企画・制作：日本体育施設グループ	https://www.toyo.ac.jp/news/20231208-12230.html	
90	井上円了哲学センター	ドイツ国立美術館の展覧会で井上円了記念博物館所蔵の《四聖像》が展示	情報提供 その他	その他		ドイツ国立美術館の展覧会で井上円了記念博物館所蔵の《四聖像》が展示	11/24-3/17	ドイツ国立美術館	学術団体 行政機関 その他	ドイツ国立美術館(ブンデスクンストハレ Bundeskunsthalle)では、2023年11月24日から2024年3月17日まで、カントの展覧会を開催しています。 本展には、井上円了記念博物館が協力し、館所蔵の《四聖像》がパネルで展示されています。《四聖像》は、井上円了が「哲学界の聖人」として選定した釈迦、孔子、ソクラテス、カントの4人を描いたもので、明治20年代に日本画家・橋本雅邦(1835-1908)が絵筆をとり、完成させました。今回、本学情報連携学部のライナ・シュルツァ准教授の仲介で、「四聖」について書いたシュルツァ准教授の著書とともに、展示される運びとなりました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240126-12752.html	
91		中野区・東洋大学連携事業 哲学堂講座 「一から学ぶ哲学堂」	講師	出前授業	中野区、井上円了哲学センター	哲学堂講座 「一（いち）から学ぶ哲学堂」	9/23-9/23	中野区立歴史民俗資料館、哲学堂公園	社会人・一般	中野区立歴史民俗資料館における講座の講師派遣。講座内容：井上円了が創始した哲学堂公園と円了の思想世界を講義で学び、その思想が具現化された園内の建物・庭園をめぐる。	https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/kurashi/bunka/manabu/rekishiminzoku/tenjikoza.html	
92		「井上円了が志したものとは」作品募集	編集 企画 その他	その他		「井上円了が志したものとは」作品募集	5/1-7/15	2023年度『井上円了が志したものとは』	高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	井上円了の大きな志はどのようなものであったのか、井上円了の教育理念等を中心に探求し、それを現在の自らの生き方に照らして、いかに活かしていくかを考え、文章にまとめ表現した作品を募集します。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-edu/KOKOROZASHITAMO-NO	
93		創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』第2～4話を公開	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	インター ネット	井上円了哲学センター	創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』第2～4話を公開	4/1-3/31	マンガ『円了』	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	東洋大学創立者である井上円了の人生をマンガ化しました。井上円了は日本の哲学者の先駆けであり、また教育者・仏教者などの幅広い顔を持ち、チャレンジ精神を持って生きてきた姿をマンガで描き伝えます。激動の幕末から明治の時代を生きた円了がどのように成長し、何を思い哲学館を開設したのか。この機会に井上円了をより知っていたら幸いです。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-manga	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
94	井上円了哲 学センター	哲学堂公園の 歩き方ー井上 円了が教える 心を磨く精神 修養ー	講師 助言・指 導 情報提供 企画 実演	インタ ーネッ ト	井上円了 哲学セン ター	哲学堂公園 の歩き方ー 井上円了が 教える心を 磨く精神修 養ー	2/26	YouTube® 「東洋大学 toyouniv」、 Web page	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 社会人・ 一般	公園の独創的な建築と自然美を背景に、井上円了の深遠な思想とその実践の場である哲学堂公園を動画で紹介しします。哲学堂公園は、独特な形の古建築が有名ですが、実は「精神修養的公園」としての独自のコンセプトに基づき設計されました。訪れる人々は、円了が意図した順路を辿ることで、精神修養が叶うように設計されています。井上円了哲学センターの長谷川 琢哉先生が案内役となり、公園内の重要なポイントを巡りながら、その場所ごとに秘められた意味や背景について解説します。また、哲学的概念や用語が初学者にも理解しやすいように丁寧に説明されており、哲学への興味を深めるきっかけを提供します。この動画を通じて、円了が哲学堂公園に込めた思いと精神修養を体験し、円了の思想に触れる機会を得ていただければと思います。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-social-partnership/tetsugakudo	
95		『CATALOG 井上円了』 Web 公開	情報提供 その他	インタ ーネッ ト		『CATALOG 井上円了』 Web 公開	12/15	『CATALOG 井上円了』	中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 社会人・ 一般	この冊子は、井上円了没後100周年記念図録として、円了関連資料を選別したもので、学内外を問わず、幅広い分野の研究者が解説したものである。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/CATALOG	
96	TOYO スポ ーツセンタ ー	TOYO スポ ーツセンタ ーおよび赤 羽台 HELSP O HUB-3 ア リーナ開設 こけら落 としイベ ント「TOYO ATHLETE FORUM」を 開催	パネリス ト 司会 インタビ ュアー 講師 企画 運営参加・ 支援 実演 その他	施設一 般公開	TOYO ス ポーツセ ンター	TOYO ATHLETE FORUM	4/22	東洋大学赤 羽台キャン パス HELSP O HUB-3ア リーナ	幼稚園 以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院 生 教育関 係者 保護者 研究者 社会人・ 一般 学術団 体 企業 市民団 体 行政機 関 メディア その他	新組織となる TOYO スポーツセンターの開設と、赤羽台キャンパス内に新設した体育館(HELSP O HUB-3 アリーナ)の完成を、スポーツ体験型参加イベントとして、学生だけでなく近隣住民を対象として、皆さまにご紹介する『TOYO ATHLETE FORUM』を開催いたしました。第1部は、メダリストや俳優として活躍する卒業生アスリート等による「スポーツと哲学」をテーマにしたトークショーを、第2部では、赤羽台キャンパスを練習拠点とする卓球部・バスケットボール部と、包括協定を結ぶ、日本卓球協会・JBA 日本バスケットボール協会による体験教室および本学パラアスリート卒業生と東京都障害者スポーツ協会によるパラスポーツ体験教室が開催され、参加者体験型イベントとして実施し、1300名の方が来場されました。参加された一般の方々からは、「参加して良かった」「東洋大学のスポーツを応援したい」「子どもが参加できるスポーツ教室をもっとやってほしい」等多数の好意的な意見が寄せられました。	https://www.toyo.ac.jp/news/academics_toyo-sports_newslist_athleteforum2023.html	    

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
97		バスケットボール大学対抗戦で東京都北区を盛り上げる「THE NORTH TOKYO DERBY」を開催	企画運営参加・支援 実演 その他	施設一般公開	TOYO スポーツセンター	THE NORTH TOKYO DERBY	7/16	東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3アリーナ	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 その他	2023年7月16日（日）、赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 アリーナで、東京都北区にキャンパスを置く本学バスケットボール部（赤羽地区）と東京成徳大学男子バスケットボール部（王子地区）の北区地域対抗戦、学生たちが企画・運営して街ぐるみで盛り上げる「THE NORTH TOKYO DERBY」を初めて開催。関係者・地域住民の方々あわせ、およそ1200名が観戦しました。赤羽地区の近隣住民の方々は東洋大学を、王子地区の住民の方々は東京成徳大学を、それぞれホームタウンとして応援する応援合戦も実施し、観戦に会場された地域の方々もとても盛り上がるイベントとなりました。開催にあたり、北区地元企業の城北信用金庫、株式会社五十嵐商会の共催とともに東京都北区からの後援をいただきました。このイベントは、TOYO スポーツセンターが主催となり、本学健康スポーツ科学部谷塚哲講師のゼミ生、国際観光学部中挾教授のゼミ生および東京成徳大学の学生有志が運営、ならびに、東洋大学バスケットボール部（女子）の協力を得て、バスケットボールの試合を通じて、地域住民が大学を応援する文化を創出するとともに、大学生は地域と関わることで地域愛着心の醸成に繋がることを期待して、企画から運営まで行いました。参加された近隣のみなさまからも継続してイベントを実施してほしい等の好意的なご意見を多数いただきました。	https://www.toyo.ac.jp/news/academics/toyo-sports_newslist_20230718nid.html	   
98	TOYO スポーツセンター	【ラグビー部】近隣住民の方とともに育てたサトイモを収穫	その他	その他	ラグビー部	近隣住民の方とともに育てたサトイモを収穫	11/19	川越キャンパス近隣住民に借りている畑	社会人・一般	2023年11月19日、本学ラグビー部の部員が川越キャンパス近隣住民、林さんに借りている畑で、サトイモを収穫しました。ラグビー部はポリネシア地域の留学生が多く在籍しており、主食がタロイモだった学生のためにラグビー部でいくつかの畑を借りて、農家の方と協力しながらサトイモを栽培しています。当日は林さんの畑の収穫日で、林さんと一緒に部員9名が参加。4箱一杯のサトイモが収穫できました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231120-11756.html	
99		【硬式野球部】小学生対象の野球教室を実施	講師助言・指導 企画運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	硬式野球部	ベースボールクリニック in 川越	12/9	東洋大学川越キャンパス野球場	小学生 保護者 行政機関 メディア	2023年12月9日（土）、本学硬式野球部が川越キャンパスにて近隣の小学生を対象とした野球教室「ベースボールクリニック in 川越」を開催しました。埼玉県川越市に練習拠点を置く硬式野球部が、次世代の野球人育成を目的に、川越市・鶴ヶ島市在住の小学生を対象にした野球教室を開催し、約140名の小学生が参加しました。野球教室には、プロ野球ドラフト会議で指名を受けた細野晴希選手、石上泰輝選手、OBの佐々木俊輔選手も参加し、参加した小学生とピッチング、バッティング、守備の練習を行いました。また、同時開催した食育講座では食環境科学部の小西先生による「成長期における食事と栄養」というテーマの講演が行われ、約40名の保護者が参加しました。このイベントは、川越キャンパス近隣自治体の川越市・鶴ヶ島市の後援をいただき、それぞれ自治体の少年野球連盟と連携し地域課題でもあるスポーツ人口の増加の普及もテーマに大学スポーツでその課題解決に取り組んだものです。	https://www.toyo.ac.jp/news/20231211-12288.html	   

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
100		【陸上競技部】能登半島地震の被災地のために募金活動	運営参加・支援 その他	その他	陸上競技部、社会貢献センター	能登半島地震支援募金活動	1/15-1/19	東洋大学川越キャンパス他、各キャンパス	大学生 教育関係者 研究者	募金活動は2024年1月15日から19日の期間で東洋大学の各キャンパスで行われ、募金した学生は「少しでも役に立ちたい」と思い募金しました。1日でも早く復旧できることを願います。」と話していました。 毎年能登地方で合宿を行っている本学陸上競技部も募金活動に参加しました。陸上競技部は募金活動への参加だけでなく、合宿所にて陸上競技部内で募金を集めておりました。 陸上競技部 酒井監督のコメント 「石川県輪島市、七尾市は合宿や遠征でとてもお世話になっています。被災された皆さまに少しでも協力したいと思っています。」	https://www.toyo.ac.jp/news/2024noto_bokin.html	   
101	TOYO スポーツセンター	【水泳部】福島市で小・中・高校生対象の水泳教室を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	水泳部	水泳教室	8/16	福島市中央市民プール	小学生 中学生 高校生	2024年8月14日から23日に福島市中央市民プールで水泳部の合宿がありました。合宿期間中は自由に見学することができました。 また、8月16日には福島市内の小・中・高校生を対象に、水泳教室を開催しました。	https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/666054?display=1 https://www.cjnavi.co.jp/event/20230731fukushimashi-sports/	 
102		【陸上競技部短距離部門】北区豊島五丁目グリーンスポーツ広場オープニング記念イベント（開設記念式典・陸上（かけっこ）教室）への参加	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	北区、陸上競技部短距離部門	北区豊島五丁目グリーンスポーツ広場オープニング記念イベント（開設記念式典・陸上（かけっこ）教室）	8/26	北区豊島五丁目グリーンスポーツ広場	小学生 中学生 保護者 市民団体	8月26日（土曜日）、豊島五丁目グリーンスポーツ広場（豊島5-6先）の一般利用開始に先駆けて、開設記念式典とオープニングイベントとして陸上教室及び北区少年野球連盟加盟チームによる選抜記念試合が行われました。 東洋大学陸上競技部（短距離部門）4名を講師に陸上教室が行われ、約30人の児童が参加しました。 「速く走るには良い姿勢がとても大切。」や「足の動きだけでなく、手も正しく動かすことで、より速く走れます。」などのアドバイスを受け、参加者は短距離走のコツを学びながらタータン舗装の使い心地を体感している様子でした。	https://www.city.kita.tokyo.jp/koho/kuse/koho/hodo/press-releases/r0508/230829-1.html	 
103		【ラグビー部】東洋大学杯ラグビー地域交流戦を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援		ラグビー部	東洋大学杯ラグビー地域交流戦の開催	2/25	川越キャンパスラグビー場	小学生	2024年2月25日に地元の小学生を対象に川越キャンパスラグビー場にてラグビー交流大会を行いました。参加者は地元の小学生約200名、ラグビー部員は約50名、計250名が参加し、大いに盛り上がるイベントとなりました。留学生による外国語の挨拶披露や全員でグータッチ等を行い、交流を深めました。	—	 



社会貢献活動Pick up-①

文京あじさいまつりでのボランティア活動

社会学部社会学科 西野 淑美 准教授

「文京あじさいまつり」は白山神社境内で毎年6月(2020・2021年は中止)に行われている、地域の交流や活性化をねらった地域行事で、白山地域の住民等有志によって実施・運営されている。

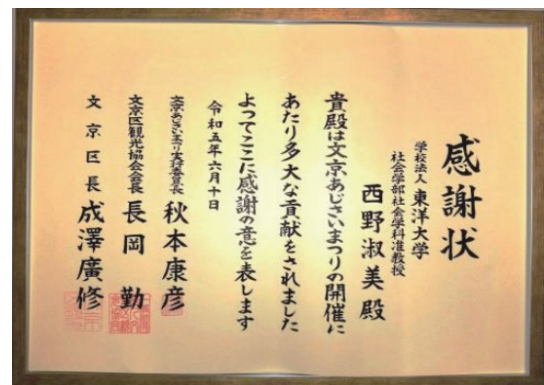
2015年より毎年、社会学科の「社会調査および実習」や「社会学演習Ⅰ」のいくつかのクラスを受講学生等が当日の設営・ブース運営・会場管理・外国人向け通訳等を手伝っており、継続的な地域支援の活動となっている。

今年は、社会学科からの学生57名だけでなく、合計で約130名もの東洋大学生(留学生含む)がボランティアとして参加した。

また、まつりの式典で、文京あじさいまつり実行委員会・文京区観光協会・文京区の各長の連名で、主に担当してきた西野教員に対して感謝状が授与された。



▲感謝状授与の様子



▲感謝状



社会貢献活動Pick up-②

能登半島地震の被災地のために募金活動

陸上競技部

募金活動は2024年1月15日から19日の期間で東洋大学の各キャンパスで行われ、募金した学生は「少しでも役に立ちたいと思い募金しました。1日でも早く復旧できることを願います。」と話していました。

毎年能登地方で合宿を行っている本学陸上競技部も募金活動に参加しました。陸上競技部は募金活動への参加だけでなく、合宿所にて陸上競技部内で募金を集めておりました。

◆陸上競技部 酒井監督のコメント

「石川県輪島市、七尾市は合宿や遠征でとてもお世話になっています。被災された皆さまに少しでも協力したいと思っています」。



▲白山キャンパスと川越キャンパスで募金活動に参加した陸上競技部



社会貢献活動Pick up-③

東洋大学「読書サポート犬」プログラム わんわん読書タイム

赤羽台図書館 & 福祉社会開発研究センター
協力：人間科学総合研究所

学齢期の子どもたちに寄り添い、安心して楽しい読書を体験してもらうための取り組み。

公益社団法人日本動物病院協会(Japanese Animal Hospital Association、以下JAHA)が定めるセラピードッグとしての基準を満たした犬と獣医師や飼い主を含むボランティアスタッフにより進められ、子どもに向けて犬についてのレクチャーを行った後、飼い主が見守るそばで犬と子どもとが1対1で向き合い、犬への読み聞かせを楽しむ。

JAHAによるこの取り組みが大学で本格的に実施されたのは今回が初。

公共図書館で開催する際はJAHAのボランティアが務める運営スタッフの役割を本学の学生ボランティアが担い、学生ならではの提案を組み込んだ独自プログラムとなった。

東洋大学「読書サポート犬」プログラム
わんわん読書タイム

開催主旨

よみまちがえても　よむのがおそくても
いぬはわらったり　しかったりしません
あなたのそばで　じっときいてくれます



学齢期の子どもにとって「音読」は識字能力や学習意欲の向上のみならず、気持ちの落ち着き、ストレスの軽減、自尊心の涵養など、さまざまな効果があるとされています。「読書サポート犬」プログラムは子どもたちに寄り添い、安心して楽しい読書を体験してもらうための取り組みです。

このプログラムは公益社団法人日本動物病院協会(Japanese Animal Hospital Association、以下JAHA)が定める、セラピードッグとしての基準を満たした犬とその飼い主を含む、獣医師やボランティアスタッフにより進められます。当日は参加する子どもに向けて犬という動物の特性や犬との付き合い方についてレクチャーを行った後、飼い主が見守るそばで犬と子どもとが1対1で向き合い、犬への読み聞かせを楽しみます。

JAHAは高齢者介護施設でのアニマルセラピーや小学校での動物介在教育など、「人と動物のふれあい活動(Companion Animal Partnership Program)」を30年以上にわたって続けてきた実績があります。図書館や学校などで子どもが犬に読み聞かせを行う「R.E.A.D.プログラム」(※)は1999年にアメリカから始まり、現在世界的な広がりを見せていて、JAHAでも2016年に東京都三鷹市立三鷹図書館での活動開始をきっかけに、少しずつ活動の輪を広げています。

※アメリカの非営利団体 Intermountain Therapy Animals が主催する活動。「R.E.A.D.」は Reading Education Assistance Dogs「読書教育支援犬」の略。

東洋大学赤羽台図書館には併設の「こども図書館『えーる』」があります。本プログラムの開催は『えーる』の豊富な絵本の蔵書を活用した地域開放・社会貢献の一環として企画しました。また、運営には学生ボランティアも参加しており、学生ならではの発想を取り入れることで公共図書館での開催とは違った内容を目指すとともに、学生にとって多様な学習機会の場となることも意図しています。

JAHA 監修による大学図書館での本プログラム開催は今回が初となり、本学としても前例のない取り組みとなりますが、温かく見守っていただければ幸いです。

2024年3月

主催：赤羽台図書館・福祉社会開発研究センター
協力：人間科学総合研究所

▲開催趣旨



▲参加者&スタッフ



▲犬への読み聞かせの様子



社会貢献活動Pick up-④

TOYO SDGs Students Projectが 「東洋大生×館林ボイセンベリーのハンドクリーム」 製品化のためのクラウドファンディングに成功

「TOYO SDGs Students Project ～ SUGOMORI BOISEN Project ～」

国際学部北脇秀敏教授研究室、生命科学部三浦健准教授研究室に所属する学生有志による、SDGsに関連した大学公認の学生団体「TOYO SDGs Students Project ～ SUGOMORI BOISEN Project ～」は、学生の視点から考える化粧品を企画し、株式会社シーエスラボと開発・生産を進め、2022年3月に試作品としてハンドセラム「BOISEN」を開発しました。

この試作品の開発・生産にあたっては、環境関連技術におけるイノベーションと普及を促進するための国際的な枠組みである「WIPO GREEN」のデータベースに掲載された株式会社資生堂（以下、資生堂という。）の特許のライセンスを受けて実現したものです。

そしてハンドセラム「BOISEN」の製品化に向けて9月から10月にクラウドファンディングを実施した結果、多くのご支援のおかげで目標を達成することが出来ました。

今後、ご支援いただいた方へ商品をお届けし、それ以降、様々な場所で販売を予定しております。

【SDGsへの貢献】

- ・ 製造工程におけるエネルギー、原料の削減を目指しました。
- ・ ボトルキャップにアルミキャップを採用しました。
- ・ 再生PETを使用したラベルを採用しました。
- ・ フィルム材質の使用量を減らすためにクラフト紙を使用したチャック袋を採用しました。
- ・ 群馬県館林市の名産品「ボイセンベリー」を使用することで地域活性化、魅力発信に繋がります。



▲開発したハンドセラム「BOISEN」



▲クラウドファンディング目標達成の報告

社会貢献活動Pick up-⑤

第12回くらしの足をみんなで考える
全国フォーラム2023

国際学部国際地域学科 岡村 敏之 教授(実行委員長)
福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科 高橋 良至 教授

少子高齢化が進む中で、日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が全国で増え続けています。

このくらしの足の問題を解決するために、当事者、行政職員、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPOなど、多くの関係者が集まり、地域を越え、立場を越え、利用者・生活者の目線をベースとして本音で語り合い、お互いを知り合い、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場として、本フォーラムを開催しています。



▲「第12回くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2023」ポスター

地域活性化活動支援事業の概要

2016年度、社会貢献部門の活動における特徴として、地域活性化活動支援事業を新たにスタートさせた。2023年度は16企画(うち追加11)応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となり活動を行った。概要は以下のとおりである。

1. 事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

2. 支援金額及び採択件数の目安

- (1) 地方創生コース：キャンパスから100 km以上の地方において、地域活性化活動をするものを対象。1件当たり総活動経費の最大50%以内で、かつ、30万円を上限とする。
- (2) 地域貢献コース：キャンパスから100 km以内の地域において、社会貢献・地域貢献をするものを対象。1件当たり総活動費の最大50%以内で、かつ、5万円を上限とする。

3. 対象となる活動

国内の過疎地域、限界集落、農山村だけでなく、都市課題の解決や災害支援なども含め、国内外の多様な地域における教員と学生が共同して行う地域活性化活動。

4. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

5. 年間スケジュール

2022年12月1日～2023年1月20日	募集期間
2023年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：5企画)
2023年3月9日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知(採択数：5企画)
2023年4月3日～2023年5月10日	追加募集期間
2023年6月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：11企画)
2023年6月15日	地域活性化活動支援事業について 採択決定通知(採択数：11企画)
2024年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2024年3月15日	報告会の実施(16企画報告予定)
2024年3月末まで	支援金額の支払い

6. 2023年度実績

応募企画数	採択企画数
16	16

2023年度 地域活性化活動支援事業一覧

No.	教員名	学部	活動名	コース名	主な 市区町村	支援額	支援額 (結果)
						4,474,000	3,851,856
1	藪長 千乃	国際学部	能登ゼミ（地域住民と学生による伝統文化の協働評価）	①地方創生（遠距離）	石川県志賀町	300,000	300,000
2	鈴木 鉄忠	国際学部	Toyo Slow City	①地方創生（遠距離）	群馬県前橋市	300,000	254,314
3	佐野 浩祥	国際観光学部	市街地と郊外の有機的結合による全市観光プロジェクト	①地方創生（遠距離）	静岡県富士宮市	300,000	270,405
4	藤本 典嗣	国際学部	高津川流域における買い物弱者対策の調査	①地方創生（遠距離）	島根県津和野町	300,000	240,480
5	田中 雅敏	法学部	香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト	①地方創生（遠距離）	香川県さぬき市	254,000	253,800
6	佐々木 茂	国際観光学部	南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅴ	①地方創生（遠距離）	①福島県南会津町 ②兵庫県淡路島	300,000	42,075
7	岡本 郁子	国際学部	佐賀中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援	①地方創生（遠距離）	佐賀県佐賀市	300,000	287,500
8	森下 晶美	国際観光学部	やんばるにおける自然遺産を活用したインバウンド誘致	①地方創生（遠距離）	沖縄県（国頭村、名護市）	300,000	300,000
9	須賀 忠義	国際観光学部	広島県呉市・江田島市における地域活性化支援事業	①地方創生（遠距離）	広島県呉市・江田島市	300,000	300,000
10	小野 道子	福祉社会デザイン学部	福島県のひとり親家庭の子どもたちに寄り添う活動	①地方創生（遠距離）	福島県郡山市	300,000	218,805
11	堀本麻由子	文学部	防災教育を通して地域づくりを考える	①地方創生（遠距離）	岩手県陸前高田市	300,000	300,000
12	左地 亮子	社会学部	沖縄の地域活性化の現状と将来像に関する調査活動	①地方創生（遠距離）	沖縄県沖縄市	300,000	290,092
13	荻野 剛史	福祉社会デザイン学部	箱根町在住の外国籍町民の福祉アクセス促進支援	②地位貢献（近距離）	神奈川県箱根町	33,000	11,550
14	蜂巢 旭	経営学部	大田原市の農業の再活性化による地方創生の取り組み	①地方創生（遠距離）	栃木県大田原市	300,000	300,000
15	内田 彩	国際観光学部	秋田県湯沢市における地域活性化	①地方創生（遠距離）	秋田県湯沢市	300,000	300,000
16	齋藤 博	福祉社会デザイン学部	中心市街地活性化に寄与するキャンプ場整備計画	①地方創生（遠距離）	茨城県鹿嶋市	287,000	182,835

能登ゼミ（地域住民と学生による伝統文化の協働評価）

代表教員：藪長 千乃
国際学部

■活動内容

8月31日から9月3日にかけて、学生・教員35名が、石川県羽咋郡志賀町鶴野屋・地保集落にて、秋祭りの神輿の奉納行事の実施協力、大学の森の保全活動、伝統芸能（富来神幸太鼓）の維持活動、祭礼などの伝統文化の勉強会を実施した。協定校の豪カーティン大学からも教員・学生が参加した。

■活動の成果概要

能登半島山間部に位置する石川県羽咋郡志賀町鶴野屋集落及び地保集落は、高齢化が進み、最年少住民が60歳代、現在生活をしている住民が合わせて数十名ほどの超限界集落である。2010年代まで両集落の神社（白山神社、白髭神社）において毎年秋まつりとして神輿の奉納が行われてきたが、神輿を担ぐだけでなく、祭礼のための幟やしめ縄の設置などの準備や片付けに必要な住民が足りないため、祭りが中断していた。本学の学生が訪問し、祭りの準備や片付け、神輿の担ぎ手となることで、2015年以降祭りが復活し、以降はパンデミックの間を除いて継続して実施され、本学教員と学生が支援してきた。これを通じて消滅危機にある伝統文化の維持に貢献している。

今年は、中断していたお祭りの復活を打診したところ、地元住民の方々はパンデミックへの警戒や加齢等のために当初消極的であったが、学生が意欲的であることを聞いて、実施に前向きになってくださった。本年も担当教員が2度にわたり訪問して事前調整を行い、順調にお祭りを開催することができた。また、お祭り前日には、学生たちは鶴野屋集落に位置する大学の森と呼んでいる手入れが不十分な里山林に入り、下草刈りなどの手入れを行うことで保全に協力したり、現地の研修センターをお借りして伝統芸能や祭礼についての勉強会を行ったりすることを通じて、地元の風習への理解や集落維持への貢献をしていることも、現地集落の方々との信頼関係の基盤となっている。さらに、学生たちは伝統芸能の富来神幸太鼓の子どもチームの練習を見学し、ごく簡単な太鼓のたたき方を子どもたちから教わり、交流することで、独特の太鼓のリズムや掛け声を修得し、お祭り当日の宴で一緒に太鼓をたたくことができ、地元の住民と一種の連帯感を醸成する経験をしている。また、地元住民も、東京から世代が離れた学生が数十人規模で毎年やってくることで、地元の伝統文化への誇りを再認識している。

本事業は3泊4日であるが、祭りの準備や片づけを含めて、このような一連の活動が、互いの尊重と強固な信頼関係の維持につながっている。また、お祭り支援で、当該地域へ強い関心を持った学生は、さらに研修の機会を活用して能登での調査等（フィールド調査実習）を実施しており、学生の学習機会を提供することにもつながっている。

なお、東京から現地へ移動するには、通常航空機、新幹線を使用しなくてはいけないことから、移動が高額になる。そこで、費用を抑えるために、学生たちは公民館に布団を借りて寝泊りしている。それでもなお、布団の費用などがかさむ。さらに現地での移動のための公共交通機関が利用困難であることから、学生たちにとってバスの借り上げや交通費の補助は必須である。



代表教員：鈴木 鉄忠
国際学部

■活動内容

前橋市および気仙沼市のスローシティを目的として、食イベントの企画運営を通じた空き家・休耕地の利活用、地域資源を活かした観光ツアーの提案を行う。地域住民と協働し、東京と地方の相互交流を図り、活動過程を公式SNSで発信しながら、地域内外の人々が気軽に集まれる拠点づくりに取り組む。

■活動の成果概要

本活動は、地方都市の持続可能な発展を目指す国際ネットワーク「スローシティ国際連盟」の正式加盟の2都市（前橋市と気仙沼市）において、学生主体で地域活性化に取り組んだ。成果として以下の5点があげられる。

第一に、前橋市の地域活動団体との協力である。同市大胡地区で古民家再生を進める任意団体「前橋赤城マイマの会」の協力を得ながら、「地産食の体験会」に参加した。本年度は計6回の食イベントにゼミ生が参加し、10月には手作りピザのイベント企画・運営を担った。また、富士見地区に位置する空き家活用の地域拠点「石井ハウス」では、敷地内の清掃や整備に協力した。さらに活動の様子を石井ハウス公式YouTubeチャンネルで発信した。8月には人手不足に悩む前橋市の農場にて、枝豆の収穫作業のボランティア活動を行った。

第二に、前橋行政との連携である。10月末に前橋市観光政策課主催の「道の駅前橋赤城スローシティマルシェ」に8名のゼミ生が参加し、参加型クイズ企画を通じたスローシティの認知度向上と地域活動の紹介を行った。その様子は『産経新聞』（2023/11/11）のオンライン記事に掲載された。11月初旬に前橋市共催の「第4回 赤城南面クラフトフェア」に8名のゼミ生が参加し、赤城山の自然を感じられる木工クラフト体験会を開催した。その様子は、群馬テレビで放送された。

第三に、富士見町石井エリア周辺の散策マップを作成した。レンタルe-bikeで豊かな自然と伝統の富士見かるたを巡るツアーマップを作成した。また地域の郷土史研究会の会員の協力を得て富士見地区の史跡や文化を学べる観光マップを仕上げた。成果は、ゼミ公式Instagramに公表した。

第四に、2月7日～2月9日に学生10名が宮城県気仙沼市で現地調査および成果報告を行った。気仙沼市長、商工会会頭、木質バイオマス発電によるエネルギーの地産地消の現場、東日本大震災遺構・伝承館において、災害後の地方都市の持続的なまちづくりを調査した。そして前述の前橋での活動を一般公開の発表会（気仙沼市民10名参加）でプレゼンテーションした。発表会の様子は、三陸新聞（2月10日付け「スローシティで学ぶ 前橋で取り組む東洋大生」）に掲載された。

第五に、スローシティに関する情報発信である。スローシティ国際連盟の許可を得て、「スローシティ公式パンフレット」の日本語翻訳を行った。前橋市公式サイトおよびスローなまちづくり全国推進委員会の公式サイトにて無償ダウンロード可能とした。それにより日本国内におけるスローシティに関する情報共有に寄与した。また、共愛学園前橋国際大学の学生と共同で、スローシティを知るためのフライヤーを5枚作成し、SNSを通して発信した。本年度は、Instagramで46回投稿し、146人のフォロワーを得た。



市街地と郊外の有機的結合による全市観光プロジェクト

代表教員：佐野 浩祥

国際観光学部

■活動内容

静岡県富士宮市の地域活性化を目標として、朝霧高原などの北部に観光客が集中し、市の中心部とのつながりが弱いことに着目して、市街地と郊外を有機的につないでいくことで、全市的な観光の活性化を推進しようとするものである。

■活動の成果概要

本プロジェクトに先立って、どのような問題解決を目指して、活動を展開していくのか。この根本的な問いを深めるために、なぜなぜ分析を行った。学生の興味関心を洗い出して4グループに分け、グループごとにメンバーの関心事や問題意識を共有した後に、富士宮の観光まちづくりに関する問題の本質をあぶり出すため、なぜなぜ分析を実施したのである。

なお、この4グループは、以下の通りである。

- ①情報発信に関するグループ
- ②市民の意識に関するグループ
- ③交通問題に関するグループ
- ④商店街に関するグループ

富士宮市の観光まちづくりに関する問題の本質を仮説的に掘り下げた後、それらを実証するため、富士宮への現地調査を実施した。現地調査は、4回にわたって実施された。富士宮市観光協会専務理事の赤池英明氏をはじめとする皆さまに多大なご協力をいただきながら、それぞれのテーマにしたがって調査を進めることができた。

2023年6月24日～25日の2日間にわたって実施された第1回現地調査は、まずは全グループで富士宮市観光協会を訪ね、赤池様に加えて、これまでの富士宮プロジェクトにおいて多大なご協力をいただいていた富士山ネイチャーツアーズの岩崎仁様に同席いただき、それぞれ準備してきた質問事項に沿ってインタビュー調査を実施した。その後は、各グループにわかれて、事前に立てた調査計画にしたがって現地調査を進めていった。

第2回現地調査は9月17日～18日の2日間で実施されたが、9月17日は中心商店街で宮町まつりや大神田楽市

など複数のイベントが同時開催されて歩行者天国となっており、富士宮市のハレの顔に触れることができた。ここぞとばかりに、学生たちは出店者や買い物客にヒアリングを実施していた。また、交通問題に関するグループは、前回の現地調査に引き続き、E-bikeでの試走調査を実施した。情報発信に関するグループは、自らが富士宮の魅力を発信すべく、コンテンツ制作のためのカフェ取材を実施した。

第3回現地調査は11月26日～27日にかけて実施され、前回の現地調査を補足するような内容であった。富士山世界遺産センターを訪問し、富士宮の水に関するヒアリング調査を実施、富士宮市観光協会の赤池様・佐野様にグループごとの中間報告を実施してご助言をいただくなどの活動を実施した。

第4回現地調査は12月、商店街に関するグループが富士宮駅前のフジサンマルマルシェにおいて試行的に商店街の店舗の情報を掲示する黒板を設置させていただくこととなり、その様子を確認するために実施された。調査の過程で、地元新聞の取材を受け、紙面に掲載されることとなった。

2024年1月29日に、1年間のプロジェクトの成果を地域住民の皆さまと共有するための報告会を実施した。平日の夜にもかかわらず、30名近い方々に集まっていただき、あたたかく力強い言葉をいただくことができた。



高津川流域における買い物弱者対策の調査

代表教員：藤本 典嗣
国際学部

■活動内容

道の駅が買い物弱者にどのような機能を持つのかの実態を、島根県高津川流域や山口県北東部を事例として調査した。また、地ビールなど嗜好品を地産地消として買い物弱者対策を行っているビール醸造業者についてもヒアリング調査を行った。地域の高校生、有識者ともシンポジウム形式の交流事業を行った。

■活動の成果概要

萩市内の道の駅3施設の訪問により、立地を比較をしたところ、萩市中心地から離れている、道の駅たまがわでは、地域の住民向けの生鮮食料品、中でも、魚などの海産物が、安価かつ豊富に売られていること、対照的に、シーマート萩においては、中心市街地から近く、主要観光施設に近接していることから、海産物なども観光客向けの保存食や加工食が多く売られていること、阿武は、その中間で、観光客と地域住民向けの商品のバランスが取れている実態が明らかになった。山口市山間部、津和野町の道の駅4施設の訪問では、津和野中心街に近接する施設は主に観光客をターゲットとしながらも、日原地区においては地元の買い物の中心としての機能も保持していること。そのため、2020年以降の、コロナ禍の影響は、2割程度の売り上げ減にとどめることができたことが、ヒアリングから明らかになった。また、長門峡、願成就温泉についても、観光客に対する商品数が多いことが明らかになった。生鮮食料品の供給先としての買い物弱者対策とは別の視点で、嗜好品の製造販売から買い物弱者対策を行っている業者として、高津川リバーピア(ビール醸造所)を訪問し、代表である上床絵理氏より、ビール醸造所の立ち上げ、事業としての創業について、説明があった。学生との質疑応答の中で、代表より回答があり、規制緩和により、ビール醸造所の立ち上げが、バブル期の地ビールブームと比較して行いやすくなっている状況、今後は、酒税の税率変更により、地ビールブームが起りやすくなっている状況を学んだ。また、代表の、生き方として、勤務先や勤務地などに縛られずに、自分なりの事業ビジョンを描き、その目標に向かって創業していくという、従来の「会社」「組織」などに縛られた生き方とは違った生き方があることについても、学生は理解した。調査や学習を踏まえた学生の意見は、地域の高校生や有識者と、交流事業(シンポジウム形式、神楽上演の見学)を行うことで、日常的なコミュニケーションとしてフィードバックされたと考えられる。



香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト

代表教員：田中 雅敏
法学部

■活動内容

香川県さぬき市で「オーストリア文化祭2023」を2日間かけて実施。1日目はさぬき市の恒例行事である「へんろウォーク」に合わせてスタンプラリーとオーストリア菓子を販売。2日目は「ドイツ語講座とオーストリア菓子調理・試食」を実施。来年度以降の活動の指針になるよう、参加者アンケートも実施した。

■活動の成果概要

- ①地方自治体は、国際交流にあてられる職員の数に限られており、さぬき市も例外ではない。市民レベルでも、国際交流について関心や意識が高いとはいえ、国際感覚を涵養することは容易なことではない。そこで、本取り組みでは、新しい文化に敏感で、またこれからの社会を担っていく小学生をターゲットにし、国際感覚のつきあげを狙った。本取り組みは、限られた人員で工夫されているが頭打ちとなっているさぬき市の国際交流を、大学の知をもって、さらに遠隔からサポートするものであり、本学の社会貢献活動に資するものであった。
- ②当ゼミは、ゼミ生が一年次から平均して3年間ドイツ語科目を履修している。ドイツ語の授業では、言語の学習を通して、その言語圏の文化や人々の営みについても学んでいる。また、当ゼミでは、オーストリアの社会制度や文化を専門的に研究している。「日本を外から見た」自分たちの経験をもとに、さぬき市の小学生親子を対象にドイツ語・オーストリア文化を紹介する講座・実習を提供した。
- ③さぬき市とその姉妹都市であるアイゼンシュタット市の交流は、現在7年間途絶えているが、それまでは長く交流があったため、その歴史を紹介するスタンプラリーを提供した。市民の方からもたくさん話しかけてもらい、今後の交流の可能性の萌芽を感じることができた。ゼミ生たちが自ら「世界から見た日本」「世界の今のオーストリア」を見て感じた経験が、市民のみなさんに伝わったと確信している。なお、さぬき市は過疎化が危ぶまれている地域であり、公共交通網に乏しいため、レンタカーを使って機動的に活動した。
- ④コロナ禍で現地入りが叶わなかった年度を除き、3回目の現地型活動となった。さぬき市民の姉妹都市への認識や国際交流に対する意識の変化を調査するタイミングであると考えた。この点、次年度の課題の主軸として取り組みたい。
- ⑤当ゼミはさぬき市から「姉妹都市交流アンバサダー」に指定していただいております。今後は、姉妹都市交流の復活(再開)に向けて、本格的に舵を切っていく予定である。



南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅴ

代表教員：佐々木 茂
国際観光学部

■活動内容

ヘルスツーリズムにおけるフレイル予防に向け、冬のアクティビティを取り入れたツアーを実施した。外部企業による食事監修のもと、体組成計を用いた健康チェックや、スノーシューで雪道をウォーキングしたり、クロスカントリースキーをするなど、フレイル予防を目的とした体験的プログラムを実施した。

■活動の成果概要

2022年10月に実施したフレイル予防ツアーを踏まえ、今回は冬のアクティビティを中心としたフレイル予防ツアーを行った。「フレイル」とは健康な状態から要介護に移行する中間に位置する段階のことであり、今回も前回同様、フレイル予防に向けて「栄養・運動・社会参加」の3つを軸に取り組みを行った。

まず「栄養」について、外部企業監修のもと、主に南会津の地元食材を使った食事を取り入れた。各食事にお品書きを用意し、それぞれの品にどのような食材が使われているか、どのような栄養素が含まれており、どのような効果があるのかを明記した。また、外部企業の栄養士による食育学習として講座も行われた。ツアー終了後においては、講座の内容を振り返りながら帰りの特急列車の中で食べるお弁当を購入する場面も見られた。

次に「運動」について、南会津の冬の観光資源である雪も楽しめるような運動として、地元住民の協力のもと、スノーシューを履いて雪道をウォーキングやクロスカントリースキーのアクティビティを行った。慣れない雪道でのウォーキングやクロスカントリースキーは、普段動かすことのないような筋肉を動かすことができた。また、運動前には、地元の「さすけねえ体操」という体操で準備体操もしっかり行った。

そして、「社会参加」においては、学生が大きく寄与した。アクティビティ中はもちろん、食事の際に毎回参加者の間に1人ずつ学生やOBを配置し、参加者との会話を密に行うようにした。フレイルは体力が筋力が衰えている状態だけでなく、社会とのつながりが希薄化している状態のことも指す。今回学生との会話の機会を多く設けたことで、異なる世代間との交流を促し、フレイル予防に繋がった。

今回のツアーを通して、リピーターの参加者に健康チェックの結果を前回のものと比較できるようにしたなどの良かった点があった。しかし一方で、ツアーの中で地元商品を取り入れることで、より地域に貢献するなどの改善点も見つかった。今後は、異なる季節における開催を目指し、フレイル予防だけでなく経済的な面から地域に大きく貢献できるような企画をしていきたいと考えている。



佐賀中山間地域における住民主導型地域活性化活動支援

代表教員：岡本 郁子
国際学部

■活動内容

2023年11月4日～6日、急速な少子高齢化、過疎化が進む佐賀市松梅地区において、住民主導型の地域活性化の取組みに対する支援活動を行った。参加者は教員1名、学部3,4年生16名の計17名である。今回、我々は、地域の方々とともに、干し柿用柿の収穫作業、ログハウスのための材木処理を行った。

■活動の成果概要

松梅地域は佐賀市と福岡市を結ぶ幹線道路沿いに立地する。人口900名の同地区は、日本の他の中山間地域と同様、少子高齢化、過疎化が急速に進み、現在の高齢化率は40%～45%に達している。松梅地域の多くの農家は古くから干し柿の生産や野菜や米の生産に従事している。しかし、担い手不足から耕作放棄地も拡大しつつある。また、佐賀県重要無形文化財に指定されている和紙生産(名尾和紙と呼ばれる)に従事してきた。和紙生産はかつては同地区の100軒ほどが従事していたが、現在は1軒のみとなっており、伝統技術の継承がきわめて難しくなりつつある。

そうしたなかで、地域資源(干し柿や和紙)などを活かし農業だけでなく体験型観光(タケノコ農園、干し柿づくり、民泊など)をリンクさせることで交流人口を増やすことを目的に立ち上げられたのが「ナオノカゼ」という有志グループである。ちなみに、「ナオノカゼ」というのは、干し柿づくりに最適な風という意味と、その活動から名尾に風を吹かせたいという意図がある。

コロナ禍で中断していた後の初めての地域活動支援となった今回は、ちょうどこれから繁忙期に入る干し柿の収穫作業、また民泊施設の近くに建設予定のログハウス用の建材処理の支援を中心としながら、地域の人々との交流を行った。また、生徒数が年々減少している松梅小中一貫校を訪問し、短い時間ではあるが児童との交流を行った。小中一貫校となったのは10年前だが、郷土学習や農業体験などを通じて地域ぐるみで学びの環境を提供する試みが行われている。

ナオノカゼは、観光と農業をリンクさせた地域活性化の取組みの拡大を目指しているが、やはりコロナ禍の3年はほぼその活動は中断していたようである。その意味で、今回、久しぶりに県外、とりわけ関東圏の学生を受け入れることによって、あらためて地域資源にどのような価値を見いだすのかがわかること、また子供にとっても、地域にほばいない大学生世代と接することが大きな刺激になることがわかったとの感想を頂いた。



やんばるにおける自然遺産を活用したインバウンド誘致

代表教員：森下 晶美
国際観光学部

■活動内容

沖縄において観光業は基幹産業の一つだが、観光客の増加と共にオーバーツーリズムも生じている。また、やんばる地域は21年世界自然遺産に登録されたが、その自然や地域文化の保護と観光の利活用との共生方法が模索されている。活動では調査と地域の方々との意見交換を通じ付加価値を高め地域貢献となる観光を提案した。

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組

沖縄において、観光は基幹産業のひとつとして重要な位置づけにあるが、旅行者は那覇市を中心とした南部に集中しオーバーツーリズムの懸念を生んでいる。また、客数は増加するものの観光産業従事者の賃金は他産業と比較し未だ低いレベルにあり課題となっている。これらを解決するためには、沖縄観光の付加価値を高め消費額と生産性の向上を図ることが必要となっている。

沖縄北部のやんばる地域には独自の自然と地域文化が存在し、2021年、世界自然遺産にも登録されているが、沖縄県や沖縄観光コンベンションビューローは、オーバーツーリズムを避け、資源の保護と観光の利活用との共生を模索している。この活動では、やんばる地域を中心に沖縄の観光資源の調査と高付加価値化について、沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄総合事務局に対し4つの提案を行ったが、マーケット分析や着眼点などに関し特に高い評価をいただいた。

②そのために学生参画は不可欠であること

学生18名が4チームを作り、4つの提案を行ったが、特に着眼点や旅行者へのアプローチ方法(PR方法)などについては若い発想と力が十分に発揮できた。また、ゼミで学ぶマーケット分析も新たな視点を提供できた。

③参画学生に交通費等の経費を支出する場合、それにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果

事前調査をもとに仮提案を企画したが、実際に地域資源にふれ地域の方々へヒアリング、意見交換を行うことで、現実をふまえた机上だけでないリアルな提案が可能になった。また、一方的な提案でなく、意見交換を行ったことは学生・地域の方々それぞれに新たな知識や視点につながった。特に沖縄観光コンベンションビューローからは、同じ課題でも視点の違いで新たな可能性への気づきも多かった、というコメントをいただいた。

④昨年度も採択を受けた活動は、選考委員からのコメントを踏まえ、改善された点等

昨年は同地域において「アドベンチャートラベル」の調査と提案を行ったが、その際の意見交換などで、アドベンチャートラベルだけでなくより広い高付加価値化を探りたいとの希望もあり、今回は高付加価値化(インバウンド)をテーマとした。

⑤活動した地域、団体との実績内容

1/31 那覇市内において報告会の実施(参加者：沖縄県文化スポーツ部、沖縄観光コンベンションビューロー、内閣府沖縄総合事務局、カヌチャベイホテル、エンデミックガーデンエイチなど)

来年度は、沖縄とともに奄美大島も活動範囲に加えていく。



広島県呉市・江田島市における地域活性化支援事業

代表教員：須賀 忠芳
国際観光学部

■活動内容

ゼミ学生3年次18名で、広島県呉市・江田島市について調査し、両地域の活性化のために何が必要かを考察するとともに実現可能な観光施策を提言する取り組みを行った。文献をもとにした事前学習を経て、8月6日から8月9日にかけて現地調査を実施し、その後、調査事業報告会の実施、報告書の作成に取り組んだ。

■活動の成果概要

現地調査では、呉市について、呉市元市長、市の観光振興担当者、地元博物館学芸員の方などから聞き取りを行うとともに、地域市民団体の方のご案内で地域に残る文化資源、まちなみについて見学した。また江田島市では、江田島市長、市の観光振興担当者、解体を免れた歴史的建造物の保存活用にあたるNP0団体担当者から聞き取りを実施した。また、グループ別の活動も実施し、地域住民や、地区内の観光事業者、他地域からの移住者の方などへの聞き取りも実施し、地域の実状と新たな可能性について理解を深めた。呉市・江田島市とも、現地調査は、昨年度に引き続いて実施したもので、地域の方にもご助力いただきながら、円滑に調査を実施することができた。また、予備調査、及び関連活動として、8月6日には、広島市で開催された「とうろう流し」にボランティアとして参加し、平和活動に従事する地域の方々への思いに触れる機会となった。

現地調査をふまえて、より現実的、かつ実効性のある地域活性化のための観光施策の提言に取り組み、12月上旬には、調査に関する成果と観光施策提言につながる内容を発表する調査発表報告会を学内から、オンラインも交えて実施する予定である。報告内容は、昨年度における両市の調査もふまえて、より地域の実態に即した、実現可能な施策提言となるように留意したい。当該発表報告会には、当地の地域振興、観光施策に直接関わっていらっしゃる呉市役所・江田島市役所の皆様、また、呉市東京事務所所長、及び、呉市・江田島市の地域住民の方などにもご参加いただく予定である。その際、学生発表について、皆様からご講評をいただき、さらに観光施策提言内容を精査し、年度末に刊行するゼミ論集において、論評し、活動全体についてまとめることとする。

こうした取り組みは、地方における観光施策支援としての本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、大きな成果を得るものとなると思われる。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかける強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。同時に、現地において学生が提示した意見についても、当地の皆様からも大いに関心を持っていただくことができた。今後も、呉市・江田島市の担当者や地域住民の方と連携しながら、当地の観光施策実現に向けて留意し、貢献していきたいと考える。

当事業については、交通費・宿泊費等は自己負担で、学生の経済的負担は大きなものがあつた。こうした中で、今回、交通費・宿泊費について、補助、支援いただくことで学生の経費負担分も大きく軽減され、学生にとって、より参加しやすく、教育的効果は各段に高まったものと思料される。



福島県のひとり親家庭の子どもたちに寄り添う活動

代表教員：小野 道子
福祉社会デザイン学部

■活動内容

1日目は郡山市青少年会館で学習支援とレクリエーションに分かれて活動した。2日目は福島市吉井田学習センターで活動を行った。全員が宝探しゲームに参加し、その後はグループごとに自由時間を過ごし、用意した昼食を子どもたちと一緒に食べた。両日ともに活動後は、協力団体と学生たちが集まり、反省会を行った。

■活動の成果概要

社会福祉学科では、福祉に対して寄り添う支援やストレングス視点の方法などについて幅広い視点を学んできたレスパイトの活動では、子どもたちとペアになり、食事を一緒にとり、レク活動を行った。福島県のひとり親家庭の子どもたちとのかかわりの中で、一人一人の子どもに寄り添い、強みを見つけて褒め、密接に関わることが出来た。大学で学んだことを実践現場で生かすことができ、社会貢献活動の発展となった。

レスパイト活動への学生参画の必要性は、ひとり親家庭の子どもたちと交流することで、子どもたちにとって「親」と「友達」以外の新しい「斜めの関係」を構築することである。今回の活動は、普段からよくかかわりのある子どもたちではなく、ほぼすべての子どもたちが学生と初対面であった。子どもたちが緊張したままでは、楽しい時間を過ごすことができないと考えたため、学生一人一人が子どもの目線に合わせたかかわりを心がけ、子どもたちのペースに合わせて活動を進めた。自由時間には、プラバンづくりやスライムづくり、ボール遊びなど遊べる選択肢をたくさん用意した。その結果、子どもが遊びたいものを自ら選択し、それを楽しんで一緒に遊ぶ学生がいることで、子ども主体の活動となり、たくさん子どもたちと仲を深めることが出来た。普段遊べる場所が少ない、遊ぶ時間をつくれぬ等のニーズを抱える子どももおり、目いっぱい遊ぶ子どもたちの姿を見て、私たち学生もやりがいを感じ、達成感があった。

私たちは、この交流で、ひとり親家庭に対して、自分にできることは何かを考え、子どもの権利実現についての考えを深めた。また、保護者の方からお話を伺う機会もあり、ひとり親家庭の現状を生で聴くという貴重な体験をすることが出来た。加えて、普段生活している場所ではない福島県に訪問したことで、被災地支援や地域活性化への関心を高めることが出来た。この学びは、来年度の活動計画にも取り入れることができると考え、さらなる社会貢献活動を行うきっかけにもなったと感じる。



防災教育を通して地域づくりを考える

代表教員：堀本 麻由子
文学部

■活動内容

大学と地域の連携、地域創生の課題解決に、学生のような若者がかかわる学習機会は少ない。そこで、本活動では、災害大国日本にとっての教育と地域づくりの関係について再考することを実地で学ぶことは学生にとって貴重な経験となることから、陸前高田市を訪問し、現地の人々との交流を目的とした。

■活動の成果概要

大学と地域の連携、地域創生の課題解決に、学生のような若者がかかわる学習機会は少ない。特に、災害大国日本にとっての教育と地域づくりの関係について再考することを実地（陸前高田市）で学ぶことは学生にとって貴重な経験となると考え、本活動を実施した。結果として、以下のような成果を得ることができた。学生の言葉による説明が、本活動の意義を端的に表しているため、引用する。

「今回の合宿で初めて被災地を訪れましたが、実際に行ってみないと感じられないことがたくさんありました。震災の被害を感じる建物を見ながらガイドの方のお話を聞いたときは、町が津波に襲われる様子をリアルに感じ、とても恐怖を感じました。また、1本松を残すか残さないかの議論をしたそうですが被災した方が松を見ると当時の様子を思い出してしまうことも考えられるのに被災のシンボルとして残すことにしたというお話を聞き、自分たちの心の傷より震災の教訓を受け継ぐことを優先した被災者の方々の考えが素晴らしいと感じました。私は被害が全くと言っていいほどなかったのにも関わらず東日本大震災と聞くと負のイメージを持ってしまいがちです。合宿の中でお二人の方に講演をしてもらいましたが、ただ被災の被害に目を向けるのではなく、その後の活動だったり、被災している中で住民の協力を知ったことで被災地を見る目が変わりとても貴重な経験になりました」（教育学科2年）

「今回、初めて陸前高田を訪れて津波の高さや震災遺構から津波の力を肌で感じました。防災教育だけではないですが、実際に現地に行き見聞きし、五感で感じることによって得られるものは何物にも代えがたいものだとな改めて思いました。また、復興・復興支援の本質的なことは、同情してやることや助けることではなく、人々のやる気や生きがいに火をつけることではないかなと感じました。イベントの開催や憩いの場をつくり人々がつながること、物資を送ることで、被災者の方々が明日からまた頑張ろう、もう少し頑張ってみようと思ったところから復興が始まると思うので、社会教育の視点は復興にも必要な視点ではないかと考えました」（教育学科4年）



沖縄の地域活性化の現状と将来像に関する調査活動

代表教員：左地 亮子
社会学部

■活動内容

本活動では、沖縄の地域活性化とSDGs課題を調査し、関東に暮らす大学生の視点から、新たな知見を地域社会に提示する。学生はインタビュー等質的調査を行い、現地の人々との議論を通して、当該地域の持続可能な発展に向けた提案を検討する。

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること

本活動では、学生が沖縄県を訪問し、①経済およびジェンダーにかかわる格差是正に向けた取り組み、②多文化共生、③地域文化の継承、④平和教育にかかわるインタビュー調査を実施し、沖縄県の地域活性化に関する調査報告書を作成する。学生は①②③④のテーマ別に班に分かれて社会調査活動を実施する。①では、沖縄の経済格差やジェンダーをめぐる諸課題を探る。②では、米軍関係者、外国にルーツをもつ人々と沖縄の人々がいかに共住し、またどのような課題を抱えてきたのかを探る。③では、沖縄の伝統文化の継承や新たな展開を調べる。④では、沖縄における戦争の記憶の継承がこれまでどのような方向を目指しているのかを調べる。これらの調査結果は、調査対象者に論文集の形でお返しし、フィードバックをいただく。以上のように本活動では、多様な視点から、沖縄の地域活性化の現状と将来像を調査することで、若者に地域で学ぶ機会を提供すると同時に、地域外部の若い世代の視点を地域に提供する点で、大学の強みを活かした社会貢献活動の発展に寄与する。

②そのために学生参画は不可欠であること

本活動では、地域活性化やSDGsに関心を持つ学生が地域住民とともに地域の課題を考えながら、地域への理解を深めていく。現地調査の企画・実行、協力者とのやり取り、報告書作成の全局面において、学生は主体的に活動する。この点において、本活動は学生主体の地域活性化活動という特徴を有し、学生の参画は不可欠である。

③参画学生に交通費等の経費を支出する場合、それにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果

観光目的で沖縄を訪問する機会が多い中、沖縄が抱える社会問題や沖縄の地域活性化に向けた文化継承について学ぶ機会は少ない。本活動では現地の人々の協力と知見をいただきながら学生が主体的に学び、地域の課題を丁寧に考え、課題解決に向けた力を養う活動であることから、地域社会で活躍する人材を養成するという大学の社会的役割を果たすことができると考えている。

④昨年度からの改善点

昨年度からの改善点は、貧困やジェンダー不平等等の社会的課題を調査活動のトピックに加えたことである。これにより昨年度よりも多角的に沖縄の地域活性化に向けた調査活動が可能となった。

⑤活動した地域、団体との実績内容

事前学習として、沖縄タイムス社報道部長に講義を行ってもらった。現地では、主に沖縄市役所、子ども食堂のみなさまに調査活動の支援をいただいた。沖縄タイムス社と沖縄市役所は昨年度から継続的に協力関係にあり、今年度末の成果報告を踏まえ、今後継続的に社会貢献活動を勧めていくための助言をいただく予定である。



箱根町在住の外国籍住民の福祉アクセス促進支援

代表教員：荻野 剛史

福祉社会デザイン学部

■活動内容

本活動では、神奈川県箱根町に在住の外国籍住民(特にネパール人)の福祉アクセス向上を目的とした福祉マップを作成した。当地域では、近年外国籍住民人口が急増しているがサポート体制が十分ではない。本マップ作成により、ネパール人住民の福祉・医療・教育サービスへのアクセス向上が見込まれる。

■活動の成果概要

箱根町は、旅館等で働く外国籍住民が増加傾向にあるが、コロナ禍を契機に彼らの生活上の課題が浮き彫りになった。その一つに福祉等のサービスへのアクセス困難があり、本活動ではこの縮減のための「福祉マップ」を作成した。具体的には、①外国籍住民が抱えやすい生活課題を文献サーベイ及び実地調査から抽出し、②課題縮減のために必要な社会資源(例えば、福祉施設)を考え、③「Google マップ」上に、当該社会資源の名称、住所、電話番号、当該施設の説明(概要)を記載した。これらは日本語及びネパール語で記載され、簡単な操作で「医療」「福祉」などカテゴリーごとに社会資源が地図上に表示される。本学で有する知見を「地図」の形で提供することは本学の社会貢献を進めるものである。「生活上の課題」と「課題解消に利用できる社会資源」を結び付ける点において、社会福祉の知識を持ち外国籍住民の生活に関心を寄せる本学学生だからこそ成し得たと言える。

なお、本活動は箱根町社会福祉協議会の協力を得て実施した。講義を通じて箱根町在住の外国人が抱える生活課題を教示頂き、また箱根町在住のネパール人住民の紹介・接点を頂いた。

(成果物)



大田原市の農業の再活性化による地方創生の取り組み

代表教員：蜂巢 旭
経営学部

■活動内容

- ①地場産の素材をつかった地元小学校での「思い出給食」の実施(給食班)
- ②農業経営スキルアップ講座の実施(講座班)
- ③とちぎの食材をいかした東洋大学食プロジェクト(学食班)
- ④廃校を利用したクリスマスマルシェの企画・運営(マルシェ班)

■活動の成果概要

一連の活動は2・3年生が主体となり4班に分かれて実施した。ゼミ全体で行った企画では4年生や1年生も参加し最大45名で活動した。これらは地元生産者、大田原市(教育委員会、農政課、農業委員会)、栃木県庁農政部、那須農業振興事務所との連携によるものであり、大学生が企画・運営に携わることによって行政間の連携、生産者や農業団体と行政の連携につながり、多くの地域住民が参加するイベントを複数実施することができた。

4つのすべての活動が新聞にて紹介されたが、とくに①と④はテレビでも紹介され、地域の方からの東洋大生の活動に対する期待は益々高まっている。一方で、学生も地域の方々との交流を通じて地域への貢献意欲は高まっており、次年度のゼミ新入生も本活動への興味によりゼミへの参加を希望している者がほとんどである。給食プロジェクトやマルシェでは、食環境科学部の研究室も巻き込み、他学部の学生にも活動が広がるに至った。また、一連の活動は教員の講義科目でも紹介され、ゼミ学生以外の経営学部生にも刺激となっている。

5月12日に実施した「廃校を迎える小学生に向けた、地域住民と連携した菜の花プロジェクト」では、ゼミ2、3年生の約40名が大型バスで現地に赴き現地の高齢者と一緒に菜の花の種を採取する活動を行った。閉校となる翌年3月には菜の花で河川兩岸を埋め尽くし、閉校となる小学校児童を送り出すことができる。本活動により現地小学校とのつながりができ、給食班による翌年1月の給食プロジェクトの実施につながった。菜の花の活動では新たな野菜生産者とのつながりに発展し、その生産者や東洋大・学食プロジェクトで連携した牛肉生産者との連携により、給食の素材提供の協力を得ることもできた。

また、講座班は市農業委員会の女性委員と連携し、農家に向けたSNS講座を実施した。受講者の和牛生産者は、将棋の王将戦で藤井王将が勝負飯で食した和牛に関して自身のSNSに多数の問い合わせがあり、販売につなげることができた。また、マルシェ班が実施した廃校(旧蜂巢小)を活用したマルシェ「ハチのクリスマス会」では、市役所や農業振興事務所のみならず、上記の農業委員や和牛生産者の協力もあって盛大なイベントとすることができた。クリスマスマルシェは、3学年のゼミ生約45名が大型バスにて前泊で現地に赴き、会場設営や運営に携わった。当日は昨年度の約2倍の425名の来客があり、NHKニュースでも取り上げられた。菜の花プロジェクトやマルシェは、ゼミ全体の活動として大型バスをチャーターしたが、本助成によって、他の活動も含めて出費が甚大な学生の負担を減らすことができた。

学校給食は、外部が関与しにくい「聖域」のような困難がある。地域に密着した一連の活動が評価されたことで本学と東洋大生への期待が高まり、給食班による地元学校給食への関与が認められたものとする。



秋田県湯沢市における地域活性化

代表教員：内田 彩
国際観光学部

■活動内容

ゼミ学生3年次17名で、秋田県湯沢市ジオパークを調査し、ジオパーク内の温泉資源を活用した地域活性化の現状を考察したうえで、その課題と可能性について提言する取り組みを行った。春学期の事前学習を経て、9月4日から9月7日にかけて現地調査を実施し、ワークショップの実施、報告書の作成に取り組んだ。

■活動の成果概要

現地調査では、湯沢市より地域の特徴と事業について説明を受けたうえで、湯沢観光ガイドの会、湯沢市ジオパークガイドの会、稲川ガイドの会のご案内で歴史文化資源、自然資源などを見学した。また、小安峡温泉では7つのグループに分かれ、きらめき女子会(女将会)加盟施設である小安峡温泉総合案内所、あぐり館(物産物販売所)、飲食店、宿泊施設において、それぞれの特徴について体験学習を行うとともに、小安峡温泉について意見交換を行った。さらに、地域側からSNSを利用した観光発信について、都市部の大学生の視点から提案してほしいとの事前課題にこたえ、湯沢観光の魅力について、4グループに分かれてSNSで情報発信を行った。これらの活動を通して、観光資源の特質、地域住民の皆様の思いを学び、地域理解を深めるとともに、湯沢市における観光の課題について考察をした。

上記の現地調査をふまえて、最終日には、湯沢市、ジオガイド、旅行業者の方々などと、ワークショップを行い、①湯沢市の観光の現状と課題、②若者を対象とした誘致活動について提案を行った。最初に、湯沢市の魅力と課題を考察したうえで、その課題を解決するための提案を行った。次に、若者への情報発信をテーマに、SNSにおける観光資源の魅力発信について発表を行った。学生の発表に際しては、参加者の皆様からご講評をいただき、湯沢市観光・ジオパーク推進課からは、こうした提言を市の観光政策にも活かしていきたいというお言葉をいただき、今後、報告書をまとめるにあたり大きな励みとなった。

湯沢市では、市の観光のグローバル化の可能性を考察することを目的として、県外の大学生の観光に関連する調査活動の支援事業及び交流事業である「ゆざわジオパークカレッジ事業」を行ってる。本ゼミは今年度で3回目となったが、昨年までは秋田県という遠方ゆえに、学生の経済的負担は大きく、心ならずも参加をあきらめる学生もいた。しかし、今回、交通費・宿泊費について、大学から支援いただくことで学生の負担分も大きく軽減され、多くの学生が参加することができた。地域を学ぶならば、その地域を訪れ、地域住民と対話することは必要不可欠である。地域を訪問した学生は、人々の地域振興における思いを感じるとともに、人々との交流により、その地域に愛着を持ち、真剣に地域振興について考え、少しでも地域に貢献したいという思いが醸造される。さらに、地域側でも、学生たちとともに地域の魅力について考えることは、地域の未来を考えるうえで、重要な機会となっていた。

以上から、本活動を通して、学生たちが地域貢献への理解を深めるとともに、該当地域の地域活性化について、さらなる貢献を志すようになった。今後は、大学での学びの中で、これらの思いを活かし、大学での「知識」を社会に還元できるよう取り組んでいきたいと考えている。



中心市街地活性化に寄与するキャンプ場整備計画

代表教員：齋藤 博

福祉社会デザイン学部

■活動内容

本活動は、空き店舗などが目立つ鹿嶋市の中心市街地活性化を目的とし、鬼塚高天原という歴史的な場所にキャンプ場を整備することにより来街者の増加を促進させる取り組みの一貫である。2023年度においては、具体的な整備の準備として、キャンプ場のオープンに向けたプレイベントの企画・実施を地域協働により実施した。

■活動の成果概要

【本学の社会貢献活動の発展について】

本活動は2019年度からゼミ活動の一貫として継続した取り組みによって構築されや地域における活動の土台がより充実した。今年度の活動の中心であるキャンプ場整備に向けたプレオープンイベントにおいては、ゼミのカウンターパートナーであるまちづくり鹿島(株)だけではなく、その他の地域の方々と協力してその準備や運営に当たった。その結果、鹿嶋市の中心市街地の活性化に東洋大学の研究室が関わっていることが、より広く認知された。ただ、その認知度はまだ十分とは言えず、引き続き、鹿嶋市における取り組みを行うことが必要となっている。

【学生参画の必要性】

今年度実施したプレオープンイベントにおいては、野外でのビデオ鑑賞会を実施した。キャンプ場整備予定地の現況は雑木林であり、そのような場所に「映画館」を設置するというアイデアは、学生ならではの感覚であったと感じた。実際に野外「映画館」でビデオを鑑賞するまでは、その効果については半信半疑であったが、実際に体験すると、とても心地良い空間となっており、訪れた人達も談笑しながらリラックスした時間を過ごしていた。

まちづくりには3つの「者」が重要だと考えられており、それは「バカ者、ヨソ者、ワカ者」であり、学生はまさにこの3つの「者」の性質を備えていると言える。上記の野外「映画館」というアイデアもその一つであり、学生の参加の大きな意義であると言える。また、鹿嶋市のような地方都市においては、若い人に対する期待が大きく、また、実社会における実践的な教育を通じた成長の場として、社会貢献活動は学生にとっても貴重な機会となっている。

【社会貢献活動上の期待できる効果】

地域での社会貢献活動を実施するためには地域への理解と人間関係の構築が必要不可欠であり、地域への訪問は必須と言える。しかしながら、鹿嶋市は赤羽台キャンパスから約100kmの距離にあり、東京駅から運行している高速バスで2時間の距離にある。また、往復3,900円の交通費、滞在の目的によっては6,000円／泊の宿泊費が掛かり、現地への訪問は学生にとって大きな負担となっている。したがって、交通・宿泊費のサポートにより学生の負担がある程度解消され、社会貢献活動を行う土台(地域への理解と人間関係の構築)が強化され、より多様な活動の展開が出来ると考えている。

【活動した地域、団体との実績内容】

今年度の実績として、9月のゼミ合宿及び11月のイベントについて、まちづくり鹿島(株)を中心とした地域協働で行っている。9月のゼミ合宿においては、地域の公民館を拠点に現地調査やイベントの企画や準備を行っている。さらに、11月のイベント「Meet to Art in 鬼塚」を地域団体と共に、各自が創意工夫を凝らしながら協働で開催した。また、覚書等の締結はしていないが、引き続きまちづくり鹿島(株)をカウンターパートナーとして2024年度も活動を継続していくこととなっている。



社会貢献活動助成・表彰制度

■東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰

2019年度より社会貢献部門の活動における新たな取り組みとして、学生の社会貢献に対する活動助成と個人の活動を含む学生の社会貢献活動に対する表彰を行う制度を設立した。これは、2018年度まで本学学生支援課で行っていた表彰制度を一部引き継ぐ形で作られたもので、学生の社会貢献活動のサポートをするボランティア支援室が社会貢献センター内にできたことによる。社会貢献センターにおいては5年目となる2023年度の概要は以下のとおりである。

なお、2020年度より続く新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、学生の「課外活動」はほぼ2年間実施することができなかった。また、2022年度では「対面」の活動が“条件付き”ながら実施ができるようになってきたが、宿泊を伴う企画については条件をクリアすることが難しいケースもあり、結果的に「中止」を選択する団体が今年度も発生した。

2023年度は5月に新型コロナウイルスの対応が「5類」扱いとなり、条件の無い活動ができるようになったが、コロナ禍の間に活動先との関係が無くなってしまった団体も多く、活動団体数としては少数となった。

2024年度は「新たな活動先」の開拓と学生間の「ノウハウの継承」に重点を置いて学生支援を行いたいと考えている。

I 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業の目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

II 学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

1. 助成対象となるプロジェクト活動

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト(ボランティア活動を含む。)で、次の2区分による活動を対象とする。

また、本学の学生(大学院生を含む。以下同じ)が活動する団体で、1団体あたり本学学生が最低3名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。ただし、ゼミ活動は対象外とする。

(1) 新規活動助成

ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。

イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を

行っている学生団体であること。

イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

2. 助成内容

(1) 新規活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア 助成金額は、年間1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。

イ 採択件数は、年間5件程度を目安とする。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による第1次審査(書類審査結果発表)、第2次審査(プレゼン審査)

Ⅲ 社会貢献活動による表彰

1. 表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)

(2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

2. 表彰内容

表彰の内容は次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。

(1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。

(2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

3. 選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

Ⅳ 年間スケジュール

●学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2023年1月6日～2月28日 募集期間(第1次)

2023年3月中 社会貢献センター運営委員会にて第1次書類選考(申請数:3団体)

2023年3月17日 決定通知(採択数:3団体)

2023年4月3日～5月10日 追加募集期間(第2次)

2023年6月 追加決定通知(申請無し)

2024年2月末まで 各採択企画の報告書および決算書提出締切
2024年3月15日 報告会の実施(活動できなかった4団体除く2団体が報告予定)
2024年3月末まで 支援金額の支払い

●社会貢献活動による表彰

2023年12月1日～2024年1月10日 募集期間
2024年2月 社会貢献センター運営委員会にて書類選考
(申請数：[個人] 6名 [団体] 1団体)
2024年2月 結果通知(受賞：[個人] 1名 [団体] 0団体)

V 2023年度実績

●プロジェクト助成

応募数 3団体
採択数 3団体

●表彰

応募数 6名、1団体
受賞数 1名、0団体

2023年度 社会貢献活動助成 表彰式・報告会

東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 及び社会貢献活動に対する表彰の概要（抜粋）

●目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

●助成対象となるプロジェクト活動

(1) 新規活動助成

- ア 初めの一步を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。
- イ 応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

- ア 自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。
- イ 団体として最低1年以上の活動実績があること。

●助成内容

(1) 新規活動助成

- ア 助成金額は、年間 1件当たり、1万円～10万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間 5件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

- ア 助成金額は、年間 1件当たり、1万円～20万円以内(1万円単位)とする。
- イ 採択件数は、年間 5件程度を目安とする。

2023年度実績 応募 3団体 採択 3団体

社会貢献活動による表彰

●表彰の対象

- (1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)
- (2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)
- (3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ、本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中1回限りとし、継続しての表彰はしない。

●表彰内容

- (1) 助成団体 表彰状と記念の楯を授与する。
- (2) 助成を受けない団体及び個人 表彰状と表彰金(1件3万円を上限)を授与する。

2023年度実績 応募件数 7件(個人6名/1団体) 受賞数 1件(個人1名/0団体)

社会貢献活動による表彰 受賞者活動紹介

受賞者：林 あや乃さん

【活動概要】

山の中にある青少年の家を拠点として、数日間にわたる小中学生に向けたキャンプの運営の手伝いを行いました。

この活動では、自然ならではの体験や、障がいの有無にかかわらず、初めて会う人達とのかわりを経て、協調性や自立心をともに育み、また個々の新たな視点を一緒に見つけ出すことで子供たちの将来の選択肢を広げることを目的としています。活動中は子供たち全員が楽しめるように安全管理や会話の手助けなどを行いました。



学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成 採択団体活動紹介

団体名：Smile F Laos

【活動概要】

春学期から秋学期まで年間を通してコーヒー豆や粉をフェアトレードで購入し、大学内と外部で販売。収益を使いラオスの小学校支援として教育支援の資金として活用。

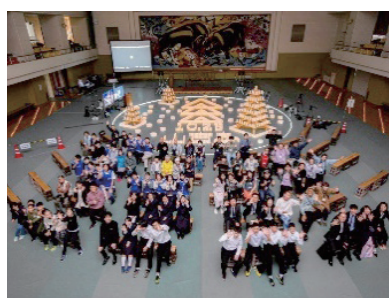
毎年年末にラオスにメンバー自らが渡航し普段購入しているラオスコーヒーの生産者に直接話を伺い、フェアトレードが役に立っているのかなど調査し渡航後の活動に活かすなどメンバー自らが販売企画・販売・教育支援・渡航と循環型な活動を行っている。



団体名：学ボラ

【活動概要】

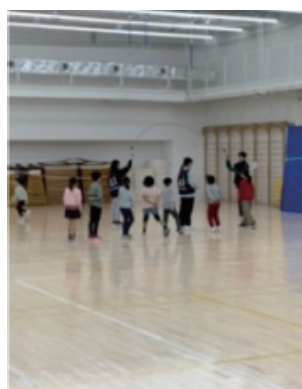
中越地震で被害を受けた新潟県の山古志村で活動をしています。当初は復興支援を目的とした活動を行っていましたが、現在は地域活性化にむけてのお手伝いをしています。今年度は山古志村で行われた夏祭りとお追悼式の補助をするだけでなく、頻繁にオンラインミーティングなど行って意見交換をするなど地域活性化にむけて継続的な取り組みを行っています。



団体名：ふえーご健康スポーツ倶楽部 AKABANE

【活動概要】 地域住民(小学生) 向けのスポーツ教室の開催

【目的】 地域住民の体力向上、健康維持。住民同士の交流の場所を目指す。学生の保健体育、養護の指導力向上。組織の運営力、企画力の向上。大学、地域間の連携を図る。



2023 年度 東洋大学 SDGs 実践講座 活動報告



2023 年度「SDGs 実践講座～17 ゴールへの第一歩～」活動報告

- I. はじめに
- II. 運営委員
- III. 運営委員会の開催
- IV. 広告宣伝
- V. 募集
- VI. 受講者数一覧
- VII. 「総合」履修者数
- VIII. 予算執行報告
- IX. 骨子およびプログラム
- X. 講義プログラム
- XI. 講義要旨
- XII. 受講前・受講後アンケート結果
- XIII. 最終レポート(ホームページに掲載)

「SDGs 実践講座」は、2022 年度より 2 年目の開講として、全 15 回の講義を教員および外部講師に担当いただき、対面・オンライン講義として比較的円滑に運営することができた。

以下、今年度の活動報告を行う。

I. はじめに

全学総合講義「SDGs 実践講座 -17 ゴールへの第一歩-」をふり返って

代表担当者：東洋大学副学長/生命科学部 川口 英夫

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。この SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、皆が日々行っている諸活動の中で SDGs に取り組むことが求められています。さらに、2020 年に「行動の 10 年」がスタートしたという宣言がありました。2015 年に公表された目標に対し 5 年間の予備期間を経て、2020 年から 10 年間をかけて目標を実現しようという、次のフェーズに移ったことが宣言されたということです。

これらの状況を鑑み、本学でも今年度から全学部を対象とした講義「SDGs 実践講座 -17 ゴールへの第一歩-」を立ち上げました。本講義の目的は下記の 3 つです。

- ①SDGs に関し、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶ。
- ②この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に変化させて行く」。
- ③在学中あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長する。

これらの目標に対し、受講生の講義の最終発表や最終レポートから、「行動の 10 年」に相応しい、SDGs をベースとした「行動変容を伴う学び」がある程度実現できたと考えています。

学祖井上円了先生の言葉である、本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」ですが、これに「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉を纏めると、「深く考え、実行する」ということになります。この井上円了哲学の実践版として本講義を実施したわけですが、全受講生が将来、「深く考え、実行する」人材として、国内外で大いに活躍してくれるものと確信しています。

II.運営委員

教学担当常務理事	金子 光一
学長	矢口 悦子
教務部長(副学長)	東海林 克彦(国際観光学部教授)
社会貢献センター長	高山 直樹(福祉社会デザイン学部教授)
講座運営担当責任者	川口 英夫(生命科学部教授)
講座運営担当者	小瀬 博之(総合情報学部教授)
講座運営担当者	清水 宏(法学部教授)
講座運営担当者	堀本 麻由子(文学部准教授)

III.運営委員会の開催

第1回: 2023年 1月12日 (木)

IV.広告宣伝

学内掲示、ホームページ(ボランティア支援室)、本学公式アプリ、ToyoNet-G、ToyoNet-Ace による配信等で広報活動を行なった。

V.募集

申込期間:	2023年7月10日月～9月1日 金
申込総数:	29名
書類選考:	選考結果発表 9/15(金)
書類選考(延長):	選考結果発表 9/18(月)
	※選考担当者:高山 直樹、小瀬 博之、清水 宏、堀本 麻由子
受講決定者数:	24名
受講手続期間:	秋学期履修登録期間までに「履修希望申請書」を提出のうえ各学部教務課で履修登録を行う。
授業開始:	9/22(金) A301 教室(10号館3階)

VI.受講者数一覧

単位:人数

申込者数	29
受講者数	24

● 受講者数(学部・学年別)

単位:人数

学部/学年	1年	2年	3年	4年	合計
文学部	2	1		1	4
経済学部1部	1	1			2
経済学部2部			1		1
法学部第2部			2		2
社会学部第1部	1	1		1	3
社会学部第2部	1				1
国際学部	3		1		4
ライフデザイン学部		1			1
理工学部	2				2
総合情報学部		1			1
生命科学部		1		1	2
食環境科学部				1	1
合計	10	6	4	4	24

VII.「総合」履修者数

1、履修登録者数

「総合ⅢB/ 全学総合 J」 16名 (白山キャンパス)

「総合ⅨB/ 全学総合 J」 2名 (赤羽台キャンパス)

「総合 B/ 全学総合 F」 3名 (川越キャンパス)

「総合ⅣB/ 全学総合 J」 3名 (板倉キャンパス)

2、単位修得者数

24名

VIII.予算執行報告

支出

予算目的	予算件名	予算額	執行額	残額
授業・講座等運営	SDGs 実践講座	208,000 円	78,782 円	129,218 円

2023 年度 SDGs 実践講座「17 ゴールへの第一歩」の骨子(シラバス)

1. 講座の目的・内容

「SDGs(Sustainable Developmental Goals)」とは、2015 年 9 月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す、17 項からなる国際目標である。本講義の目的は、この SDGs について、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶことである。さらに、この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に変化させて行く」ことで、在学中、あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長することを目指す。

なお、本講義受講期間中に SDGs に繋がる活動をスタートしていただく。社会貢献センター(ボランティア支援室)等で実施する活動、若しくは自身での活動を通じて、本講義の学びを「自分ごと」にする。これらの活動を踏まえ、グループでの最終発表および各自の最終レポートをまとめる。

また、本講座終了後、受講者には東洋大学 SDGs アンバサダーへの登録を推奨します。

2. 本講座の名称

本講座は「SDGs 実践講座」を正式名称とする。

3. 本講座の募集人員、応募方法等

- 1) 募集人員：40 名程度
- 2) 対 象： 本学の学部生
- 3) 授業期間： 秋学期(9 月 22 日～1 月 20 日まで)
- 4) 応募方法： グーグルフォームより応募する。記載の志望理由等により選考を行う。

4. 学修到達目標

受講生は、以下の力を涵養し獲得することが期待される

- 1) SDGs の理念と具体的な取り組みを「自分ごと」として理解する力
- 2) 「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力
- 3) 課題・問題を発見する力
- 4) 他者と関わりチームとして成果をあげる力

5. 講義スケジュール

I. 1) 学長講義(矢口 悦子 学長)

※矢口学長が当日ご欠席により、SDGs 推進センター長川口教授に変更

2) ダイバーシティ&インクルージョン関連の講演(ラグビー部 OB)

3) アイスブレイク(清水 宏 法学部教授)

II. ワークショップで考える SDGs 「世界がもし 100 人の村だったら」から考える SDGs

(外部講師 NPO Dear)

III. 世界と日本の子どもの貧困について考えよう(小野 道子 福祉社会デザイン学部准教授)

IV. カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか？(小瀬博之総合情報学部教授)

V. 移民・難民と私たち：共生社会へのカギ(南野奈津子福祉社会デザイン学部教授)

VI. 見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—(廣津直樹生命科学部教授)

VII. うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義(外部講師 JICA 高田 健二)

VIII. 対話的な深い学びへのアプローチ(堀本麻由子文学部准教授)

IX. 開発途上国の生活環境改善に向けて(北脇秀敏国際学部教授)

X. 労働とジェンダー(村尾祐美子社会学部准教授)

XI. プラスチックごみから海を守る為に消費者の意識を変えるには？(大塚佳臣総合情報学部教授)

XII. Security 再考：公正で公平な社会は実現可能か(市川顕国際学部教授)

XIII. 住み続ける社会のデザイン(水村容子福祉社会デザイン学部教授)

XIV. 日本人の働き方と働きがいはいこれからどうなるのか(久米 功一 経済学部教授)

XV. 最終グループ発表

上記プログラムを受講したまとめとして、グループ毎に受講生が、口頭および文書により発表する。

予め書面を作成し、当該書面に基づいて口頭報告をさせることで、プレゼンテーション能力の涵養を図る。口頭報告については、教員が講評を行い、さらに思考を深化させるように指導する。

6. 成果の公表について

授業の成果については、運営、プログラム内容、最終報告書などをまとめた活動報告書として公表する。

7. 授業科目としての提供

授業科目「総合」(半期 15 回 2 単位)として提供し、単位認定を行う。

8. 録画収録および ToyoNet-Ace の活用

講義については、録画収録して講義記録として保存する。また、ToyoNet-Ace を活用して、授業運営に関する管理を行う。

9. 講師謝礼

学内者:授業コマに含む 学外者:33,000 円(税込)

X. 講義プログラム

2023年度 東洋大学SDGs講座

2023/6/1

秋学期 講義+ディスカッション	秋期(金5)	17のゴール (※4は共通)	授業 形式	内容詳細(例)	講師	所属・肩書き
第1回	9月22日	全体	ハイフレックス	(16:30~16:40)学長挨拶、SDGs推進センター長挨拶	矢口 悦子、川口 英夫	学長、副学長/SDGs推進 センター長
				(16:40~17:40)「ガイコクジんじゃないもん！」上映他 (Diversity)	本学ラグビー部監督、元キャプテン他	
				(17:40~18:00)アイスブレイク	清水 宏	法学部
第2回	9月29日	全体	Web/対面	「世界がもし100人の村だったら」から考えるSDGs(仮)	外部講師 NPO Dear	特定非営利活動法人 開 発教育協会講師
第3回	10月6日	1・5・11	ハイフレックス	世界と日本の子どもの貧困について考えよう	小野 道子	福祉社会デザイン学部
第4回	10月13日	7・12・13・15	ハイフレックス	カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか?	小瀬 博之	総合情報学部
第5回	10月20日	3・10・16	ハイフレックス	移民・難民と私たち:共生社会へのカギ	南野 奈津子	福祉社会デザイン学部
第6回	10月27日	2	ハイフレックス	見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—	廣津 直樹	生命科学部
第7回	11月10日	17	ハイフレックス	うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義	外部講師(JICA高田健二)	外部講師
第8回	11月17日	4	ハイフレックス	対話的な深い学びへのアプローチ	堀本 麻由子	文学部
第9回	11月24日	3・6・11	ハイフレックス	開発途上国の生活環境改善に向けて	北脇 秀敏	国際学部
第10回	12月1日	5	ハイフレックス	労働とジェンダー	村尾 祐美子	社会学部
第11回	12月8日	3・6・12・14	ハイフレックス	プラスチックごみから海を守る為に消費者の意識を変えるには?	大塚 佳臣	総合情報学部
第12回	12月15日	16	ハイフレックス	Security再考:公正で公平な社会は実現可能か	市川 顕	国際学部
第13回	12月22日	11	ハイフレックス	住み続ける社会のデザイン	水村 容子	福祉社会デザイン学部
第14回	1月5日	8	ハイフレックス	日本人の働き方と働きがいはいはこれからどうなるのか	久米 功一	経済学部
第15回	1月19日	全体	ハイフレックス	最終グループ発表	運営担当	

*プログラム内容・授業形式については変更する場合があります。

1: 貧困をなくそう 2: 飢餓をゼロに 3: すべての人に健康と福祉を 4: 質の高い教育をみんなに 5: ジェンダー平等を実現しよう 6: 安全な水とトイレを世界中に 7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8: 働きがいも経済成長も 9: 産業と技術革新の基盤を作ろう 10: 人の国の不平等をなくそう 11: 住み続けられるまちづくりを 12: つくる責任、つかう責任 13: 気候変動に具体的な対策を 14: 海の豊かさを守ろう 15: 陸の豊かさを守ろう 16: 平和と公正をすべての人に 17: パートナリシップで目標を達成しよう

SDGs17 目標よりテーマを設定し、講義を行った。毎回の講義では、グループを設定し、グループワークやディスカッションを重視し、意見を出し合いながらグループ毎の意見をまとめ、発表した。

XI. 講義要旨

SDGs 実践講座第 1 回 講義要旨

9 月 22 日(金)

講師名：川口 英夫(生命科学部教授)

SDGs 実践講座の概要説明

SDGs 実践講座第 2 回 講義要旨

9 月 29 日(金)

講師名：NPO 法人 Dear 八木 亜希子

テーマ：「世界がもし 100 人の村だったら」から考える SDGs

インターネット上で、拡散することによって世に知られることとなった、「世界がもし 100 人の村だったら」は、世界をひとつの村にたとえ、人種、経済状態、政治体制、宗教などの差異に関する比率はそのままに、人口だけを 100 人に縮小して説明している。受講者には、気になった文章をグループ内で共有し、なぜその部分が気になったのか、どういう感情を抱いたのかを考え、グループごとに発表を行った。2030 年までに達成すべき開発目標として掲げられている「SDGs」。受講者はこの年に世界がどうなって欲しいか、あるいはどうなっていると思うかを話し合い、それまでに自分たちができることは何かについて考え、地球社会に住む自分たちのあり方、未来について考えるきっかけとなった。

SDGs 実践講座第 3 回 講義要旨

10 月 6 日(金)

講師名：小野 道子(文学部准教授)

テーマ：世界と日本の子どもの貧困について考えよう

この講義では、SDGs 目標 1 の「貧困をなくそう」の内容やターゲット、絶対的貧困と相対的貧困の違いについて説明できるようになること、世界と日本の子どもの貧困の現状や対策について自分なりの考えを持つことができるようになることを目的とした。まずは「子どもの貧困」のイメージについて各自で考えてもらった。講義を聴くだけでなく、世界で極度の貧困状況にある子どもの数は減っているのか、日本のひとり親家庭の子どもの貧困率がなぜ高いのか、日本の子どもの貧困対策など、グループで話し合い発表した。子どもだけでなくおとなの貧困も自己責任ではないこと、災害などが起きれば誰でも脆弱層になり得るため、平時からのレジリエンス構築が大切であること、2030 年までにどのようにしたら子どもの貧困を減らせるのか考え続けてもらうことの重要性などを伝えた。

SDGs 実践講座第 4 回 講義要旨

10 月 13 日(金)

講師名:小瀬 博之(総合情報学部教授)

テーマ:カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか?

SDGs(持続可能な開発目標)のうち、主に SDG7(エネルギーアクセス),12(生産と消費),13(気候変動対策),15(陸域生態系保全)に関わる「カーボンニュートラル=脱炭素社会」をテーマに講義を行った。最初に **respon** を活用して受講者の関心を把握、共有しながら、SDGs を内包する「2030 アジェンダ」の基本理念の説明、トレードオフになっている社会・環境・経済の問題を講義した。続いて、学生のグループワークを行うにあたって、環境省が提唱する「ゼロカーボンアクション 30」や大学で私が行ってきた里山林保全活動とごみ減量・分別の実践事例を紹介した。グループワークは、「カーボンニュートラル=脱炭素社会に向けて学生や大学で実施できることのアイディアを出し合ってまとめる」という課題を課し、6 つの各班が「プラントベースの食材の使用」「飲料提供とマイボトル・タンブラー持参」「食堂の食べ残しを減らす」「教科書のリサイクル」「紙ごみの分別」などのアイディアを発表して情報共有した。これらのアイディアは、後半のグループワークに生かされたものと考えられる。

SDGs 実践講座第 5 回 講義要旨

10 月 20 日(金)

講師名:南野 奈津子(福祉社会デザイン学部教授)

テーマ:移民・難民と私たち:共生社会へのカギ

本講義では、SDGs の目標 3,10, 16 をテーマとして、1)世界の難民の実情、2)移民・難民の経験を考えるワーク、3)難民受け入れに賛成・反対の立場でのディスカッション、を行い、難民の理解と共生について学んだ。

まず、世界における難民・移民の数や地域、人が移動をする/強いられる要因や背景をデータから確認した。次に、「自分の大切なもののほとんどを急に手放す」という経験を感じるための個人ワークを行い、その時に生じた感情を共有した。そして、共生のために私たちが現実的経験することとして、難民受け入れに賛成、反対の立場を割り当て、それぞれの立場の思いや主張を小グループで共有するワークを行った。最後に、「共生社会のカギとは何か」について話し合った。「自分の感情として経験出来て見方が変わった」「難民について知ること」「自分事としてとらえること」等が、今後大切なこととして、報告された。

SDGs 実践講座第 6 回 講義要旨

10 月 27 日(金)

講師名:廣津 直樹(生命科学部教授)

テーマ: 見える飢餓と見えない飢餓—植物科学からの挑戦—

本講義では、SDGs の目標 2「飢餓をゼロに」をテーマに講義を行った。まず、世界の飢餓状況について説明した。このような食料問題の原因と解決策についてグループワークを実施し、学生からは、社会的手段としては気候変動対策やフードロス対策、国際協力など、技術的手段としてはストレス耐性作物や栽培技術の改善など数多くの意見が出された。次に、ビタミン A や鉄、亜鉛などの栄養素の不足という目に見えない飢餓“hidden hunger”の状況と今後の予測について紹介し、“hidden hunger”の対策と予想される問題点についてグループワークを実施した。学生からは、栄養素を強化した作物の育種や、目に見えない栄養素についての食育の必要性などの意見が出された。様々な学部の学生が集まる本講義では、グループワークにより様々な視点の意見が出された点が特徴的であった。最後に、文理融合必要性と教育を受けている者の責任について総括し、講義を締めくくった。

SDGs 実践講座第 7 回 講義要旨

11月 10 日(金)

講師名:高田健二 島根県立大学客員教授/海士町グローバル・フロンティア大使

テーマ:うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」(SDGs 目標 17)

SDGs 目標 17 は、国家間の制度改善や資金調達といったターゲットを軸としており、大学生がそうした大規模な課題に取り組むためには、知識をつけるコンテンツ学習だけでは不十分であり、受講生たちの資質を鍛えるコンピテンシーを学ぶことが必要である。そのために必要となる考え方(6 次の隔たり、スチュエーション・リーダー、想像力、3 つのカン等)について講義前半で取り上げた。講義後半では、東洋大学卒業生が代表取締役社長をしている「やおきん」の代表商品である「うまい棒」から、「パートナーシップで目標を達成」することを「やおきん」の具体的な取り組みから説明し、講義前半のコンピテンシーで説明した項目が活かされている事例として伝えた。東洋大学生たちが大学卒業後の社会で活躍するためには、今回の講義で説明したコンピテンシーを磨き続けることが重要である。今後、うまい棒を食べる機会に、この授業内容を意識して自己研鑽してほしい。

SDGs 実践講座第 8 回 講義要旨

11 月 17 日(金)

講師名: 堀本 麻由子(文学部准教授)

テーマ:「対話的な深い学びへのアプローチ」

本講義は、SDGs 17 ゴールに関し、「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力を育むこと、さらにこれまでの授業内容を振り返りつつ、対話的なディスカッションを通して、問題・課題(SDGs17 ゴール)への取り組み方を考えることをねらいとした。はじめに、「対話的なディスカッション」に関する講義を行い、その後グループ演習を実施した。各グループは 17 ゴールの内の関心の近い学生同士による4～5名程度の編成とした。各自の問題関心を深めるため、質問中心の話し合いによる自己紹介ワークなどを活用し、グループメンバーの互いを理解することで、共通関心を探る機会とした。今回は、SDGsアンバサダーの学生に、グループ演習のアドバイザーとして、グループ活動への助言をお願いした。そのことが、グループ活動の成果発表や講座終了後のアクションプランへのつながりを受講生がイメージするうえで非常に役立った。

SDGs 実践講座第 9 回 講義要旨

11 月 24 日(金)

講師名: 北脇 秀敏(国際学部教授)

テーマ: 開発途上国の生活環境改善に向けて

講義では、まず MDGs から SDGs へ世界的な開発目標が移り変わった過程を紹介した。先進国から途上国への国際協力を中心課題であった MDGs と比較し、「誰一人取り残されない」SDGs に変わり多くの人に受け入れられたことを述べた。次に途上国の生活環境を守る重要な要素として水供給、し尿・排水処理、廃棄物処理の 3 つの公共事業が途上国住民の健康に係る要素であり、健康的な生活を送るためには、これらが破綻のない形で実施されていることが必要であることを述べた。講義において特に強調した点は、これらの不備があるとどのような健康上の問題点があるかという点に加え、途上国において生活環境を改善する上でどのような適正技術を導入すれば良いかという点にも考察を加えた。また東洋大学の卒業生が途上国の環境改善に青年海外協力隊員として活躍している様子も紹介し、聴講生がどのようにこうした活動に関われるかの議論も行った。

SDGs 実践講座第 10 回 講義要旨

12 月 1 日(金)

講師名: 村尾 祐美子(社会学部准教授)

テーマ: 労働とジェンダー

講義では、SDGs 目標 5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」の内容や達成度の測定方法、この目標の達成度がとりわけ低い日本の現状について確認したのち、雇用労働分野で男女共同参画のための PDCA サイクルを動かすよう企業に義務付ける国内法「女性活躍推進法」と、女性活躍推進企業データベースで公表されている情報の使い方を学んだ。その後、女性活躍推進に関連して学校法人東洋大学が公表している事業主行動計画や公表情報を他の私立大学のものと比較しつつ、各大学の女性活躍推進の特徴や課題、事業主行動

計画の内容やその目標設定の適切さについて話し合うグループワークを行い、最後にまとめとして、グループでの話し合い結果を報告しあって全体で共有した。授業後、学生は東洋大学の女性活躍推進の取組に対する自らの評価とその理由をまとめたミニレポートを提出した。

SDGs 実践講座第11回 講義要旨

12月8日(金)

講師名:大塚 佳臣

テーマ: プラスチックごみから海を守る為に消費者の意識を変えるには?

SDGs 目標 14(海の豊かさを守ろう)の主題の1 つとして挙げられている海洋プラスチック問題ならびにマイクロプラスチック問題を取り上げた。プラスチックの特徴、使用状況、海洋プラスチックを巡る世界の動向を紹介した上で、海洋プラスチックがもたらす環境影響、マイクロプラスチックの発生メカニズム、マイクロプラスチックがもたらすであろう環境影響について解説をした。その上で、「海洋プラスチック問題・マイクロプラスチック問題に向けて、個人・社会・産業がなすべきこと」「それを社会・消費者がそれを受け入れるようにするために必要な情報提供のあり方」をテーマとしたグループディスカッションを行い、その内容を発表していただいた。最後に、海洋プラスチック問題のように、影響の実態(範囲、影響の大きさ)が不明である問題を扱い世の中に働きかける上で、留意すべき点(因果関係、発生確率とリスクの程度、実効性の考慮)を紹介した。

SDGs 実践講座第 12 回 講義要旨

12 月 15 日(金)

講師名:市川 顕(国際学部教授)

テーマ:Security 再考:公正で公平な社会は実現可能か

この授業では、欧州における「エネルギー安全保障」という言葉に投げ込まれた多様な意味を理解することで、Security 概念が多様であることを学生に理解できるよう試みた。そのため、EU エネルギー政策の歴史および特徴について説明し、EU 加盟国のエネルギーの現状を俯瞰した。その上で、EU による対露経済制裁、EU のウクライナ戦争発生後のエネルギー戦略である REPowerEU、を踏まえて、EU(および EU 加盟国)におけるエネルギー安全保障概念の整理を試みた。

SDGs 実践講座第13回 講義要旨

12 月 22 日(金)

講師名:水村 容子(福祉社会デザイン学部教授)

テーマ:住み続ける社会のデザイン

本講義では、スウェーデン社会において少数ながら供給が継続されているコレクティブハウスについて紹介する。ヨーロッパ諸国では、18 世紀以降低所得世帯の家事労働の合理化を目的とした共同性の高い集合住宅が供給されてきた。その伝統を受け継ぎ、女性の社会進出が進んでいるスウェーデンにおいても共同性の高いコレクティブハウスが存在している。スウェーデン型のコレクティブハウスの特徴はコモンミールと呼ばれる集合住宅の住民が皆で夕食を供し合う活動であり、今回の講義ではその実態や住民のこの活動に対する評価を紹介する。

コロナ禍以降、孤独の隔絶、さらには食材やエネルギーなどをシェアすることによる持続可能なライフスタイルが注目され、ヨーロッパ諸国でこうした共同性の高い集合住宅の供給が広がっている。本講義では持続可能な居住形態としてのコレクティブハウスの可能性を検討すると同時に、日本社会における持続可能な居住のあり方について考察を行った。

SDGs 実践講座第 14 回 講義要旨

1 月 5 日(金)

講師名:久米 功一(経済学部教授)

テーマ:日本人の働き方と働きがいとはこれからどうなるのか

本講義では、「未来の仕事 働きがいと新しいテクノロジーから考える」という視点から議論がなされた。はじめに、SDGs 目標8「働きがいも経済成長も」を確認した上で、働きがいの尺度として、活力、熱意、没頭の3要素からなるワーク・エンゲイジメントが紹介された。コロナ禍では、休業要請等により、ワーク・エンゲイジメントが下がった職種があり、それをどう是正すればよいかが議論された。また、働きがい高める方策として、テクノロジーの応用が示された。具体的には、内閣府ムーンショット目標 1 が掲げる、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会が実現したならば、自分自身はそのテクノロジーを何に活用するかが議論された。デジタル化に伴う付加価値の変化と、深刻な人手不足による社会の機能低下の心配に対して、新しいテクノロジーを活用して、時間や場所などの制約にとらわれずに、働きがいを感じながら働くことの可能性が示された。

XII. 終わりに

運営担当教員

小瀬 博之 (総合情報学部教授)

清水 宏 (法学部教授)

堀本 麻由子 (文学部准教授)

高山 直樹 (福祉社会デザイン学部教授)

小瀬 博之(総合情報学部教授)

SDGs (持続可能な開発目標) をテーマにすることは、社会・経済・環境にまつわる幅広い課題を俯瞰的に、そして統合的に捉えるため、また、一人ひとりがこの問題に向き合ってパートナーシップを形成しながら解決に向けて行動していくために有用なものであることが、学生のアンケートや最終発表、最終レポートから把握できる。この「SDGs 講座」だけでなく、この講義を各学部学科の専門科目に生かせる形で伝えていき、全教職員、全学生の SDGs に対する意識や行動をレベルアップしていく必要性を感じる。

この授業の課題としては、まず受講希望者の少ない状況である。貧困、飢餓、開発途上国、労働、ジェンダーなど、人にまつわるグローバルなテーマが多く扱われている一方で、資源やエネルギー、また生態系に関わるテーマは扱われる回が少ない。最終的な行動としては環境にまつわるテーマを採り入れている学生が多いことから、環境にまつわる内容を充実することで、学生の関心をもっと高めることが可能であるかもしれない。また、自分ごととして SDGs を捉えるためには、もう少しローカルな話題も採り入れることも必要かもしれない。さらに、朝霞や川越のような理系主体のキャンパスの場合、この授業で取り上げられていない「目標9：強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」についても取り扱うことで、学部学科の専門分野と SDGs との結びつきを考え、今後の学習や研究に生かすきっかけを与えることができるのではないかと感じた。

清水 宏(法学部教授)

文系学部の教員をしていると、知識は教えることができる、演習やフィールド・ワークで手本を見せることはできる、しかし、学生が主体的に実践するところまで指導できるだろうか、という点で期待半分、不安半分という感がある。よく、馬を水場まで連れていくことはたやすいが、水を飲ませるのは至難の業であると言われるが、まさにその通りであると思われる。

この講座もそういうものであり、学生の意欲を掻き立てるためのカリキュラムをいろいろ考えることはできるものの、果たして、そこから、講座に謳われているように、実践に結びつくだろうか、羊頭狗肉とならないだろうか、というのはあれこれ思い悩むところである。

しかしながら、案ずるより産むが易しということなのだろうか、受講生たちは実に気負いも銜いもなく、課題を発見し、計画を立て、解決のための行動にとりかかっている。本当に頭の下がる思いであるとともに、そうした活動のほんのわずかでも関わることができたことに心からの感謝を申し上げたい。加えて、そうした実践に手厚くかつ温かいサポートをしていただいたエクステンション課の皆さんにも感謝を申し上げたい。

堀本 麻由子(文学部准教授)

本講座も2年目となり、全キャンパスの学生同士が同時にオンライン・対面で受講し、グループ演習も行う授業運営は定着したと考えられる。その一方で、学生が講座目標の「自分ごと」として理解したことについて、「主体的な行動として行動変容につなげる」という点においては課題があることも明らかになった。たとえば、SDG sの17項目を知識として理解し、学生たち自身で、様々なアクションプランを考え、最終的に実践につなげる本講座のプログラムのあり方をさらに発展させる必要がある。

本講座のねらいは、学内外の様々な専門分野からの講師陣の充実した講義だけでなく、講座の流れとして、学生が同じ問題意識をもつ「仲間」と議論し、共に行動を考える仕組みがあり、講座終了後の学生主導による実践が期待される。そのために、社会貢献センターにおける SDG sアンバサダーによる活動とのつながりの仕組みを、さらに検討することが求められるだろう。

高山 直樹(福祉社会デザイン学部教授)

「SDGs 実践講座 —17 ゴールへの第一歩—」の授業は、SDGs を「我がこと」としてとらえていくことを目的として、発信につなげていく方向性をつくることであった。その目的は概ね達成できたことは、学生のプレゼンテーションやレポートから認識できた。

持続可能な開発目標(SDGs)とは、すべての人々にとってよりよい、持続可能な未来を築くための青写真であり、価値である。貧困や不平等、気候変動、環境問題、平和と公正など、どれをとっても「その通り」の事象である。しかし「我がこと」としてとらえてみようとするところには、大きな乖離があったり、また無意識の偏見(Unconscious bias)があるのではないか。その内在する矛盾に関して葛藤し、対話していく必要がある。そのためには、対話する仲間が必要不可欠である。その対話づくりの起点となり、「我がこと」をより深化させ、仲間を助け、17 ゴールへの第一歩から第二歩を、踏み出すことに至った授業となったと考える。

以上

アンケート結果総評 法学部 清水宏教授

本講座の受講を通じて、関心のあるSDGsのテーマに変化がみられます。このことは、講座での学びを通じて問題の本質を適切に理解し、自分の問題意識と照らし合わせ、自分の進むべき道を捉えなおしたことによるものと思われ、成長の一端を垣間見ることができたと思います。また、SDGsは単なる理想ではなく、実現すべき目標であるところ、目標の実現に向けた計画を立て、また、実行に移している旨の回答が受講後に増加していることを鑑みると、皆さんの心の中にあった熱い思いを形にする後押しができたのではないかと嬉しい思いが致します。

この講座は受講がゴールではなく、むしろ、今後のさらなる活動へのスタート地点となるものです。今後は社会において、SDGsの課題に自主的・主体的に取り組み、どこまでも前進していくことを大いに期待しています。また、SDGsは一人で取り組むには大き過ぎると思われるほどの課題ではありませんが、仲間がいれば力を合わせることもできますし、さらに、次の世代へと引き継ぐこともできます。講座での仲間を始めとして、さらにつながりを広げていくことができるよう頑張ってください。

皆さんの活動が、他の東洋大生に一步を踏み出す勇気を与えるものと確信し、かつ、実際にそうなることを願っております。

1.1 SDGsの項目をいくつ知っていますか。

受講前

知っている目標の個数	回答
1	1
3	1
4	1
5	3
7	1
8	3
9	1
10	3
13	2
15	1
17	6
23	

受講後

知っている目標の個数	回答
4	1
10	1
11	1
17	17
20	

1.2 SDGsの目標のうち、現在あなたが最も関心を持っているものを一つ上げてください。

受講前

最も関心を持つ目標	回答
1:貧困をなくそう	4
3:すべての人に健康と福祉を	3
4:質の高い教育をみんなに	2
5:ジェンダー平等を実現しよう	2
8:働きがいも経済成長も	2
10:人や国の不平等をなくそう	1
11:住み続けられるまちづくりを	2
12:つくる責任つかう責任	3
13:気候変動に具体的な対策を	3
14:海の豊かさを守ろう	1
23	

受講後

最も関心を持つ目標	回答
3:すべての人に健康と福祉を	2
4:質の高い教育をみんなに	2
5:ジェンダー平等を実現しよう	3
8:働きがいも経済成長も	1
10:人や国の不平等をなくそう	2
11:住み続けられるまちづくりを	4
12:つくる責任つかう責任	2
13:気候変動に具体的な対策を	2
14:海の豊かさを守ろう	1
15:陸の豊かさを守ろう	1
20	

1.3 あなたは、設問2で挙げた目標の実現に向けて、何かを实践しようとして計画していますか。

受講前

(していない)1←3→5→7(している)	回答
1	3
3	7
4	5
5	3
6	4
7	1
23	

受講後

(していない)1←3→5→7(している)	回答
1	2
3	2
4	3
5	3
6	3
7	7
20	

1.4 あなたは、設問2で挙げた目標の実現に向けて、既に計画の実践の段階に入っていますか。

受講前

(していない)1←3→5→7(している)	回答
1	7
2	3
3	1
4	5
5	4
6	1
7	2
23	

受講後

(していない)1←3→5→7(している)	回答
1	4
2	0
3	3
4	3
5	4
6	2
7	4
20	

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果

回答者数：受講前23名 受講後20名

1.5 設問3と4のいずれかでSDGsの目標実現に向けた実践を計画している、または、既に実践段階に入っていると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを実践しようと、あるいは、既に実践していますか。自由に記述してください。

受講前

子供支援の団体でボランティア活動をしています。キャップを集めてポリオワクチンを寄付する活動をしています。大学でもっとフェアトレード等のものが使われるような取り組みや寄付金付きの自動販売機を設置する取り組みをしたいと考えています。

食品を選ぶときに、必要な分だけ買ったり賞味・消費期限の早いものから使うようにしている。

自分たちが主催となって防災施設に見学しに行き、メンバー間の学びを深めた。

身の回りからをテーマにエアコンの使用を控えたり、家電においても省エネの物を買う。普段からはエコバッグや水筒の利用。また、知識を得る上でSDGsアンバサダーや文京区のイベントを通して理解と発信について深めている。

日本赤十字社のボランティアとして、若年層の献血の推進に取り組んでいる。日本赤十字社では、近年深刻な若年層の献血離れの解決に、同世代の呼びかけが必要であると考え、学生が献血を推進するボランティア活動を実施している。自分も大学1年次からこのボランティアに参加し活動をしている。献血は、全ての人が行う可能性のある輸血を継続的に支えるという点で、SDGsの3に該当すると考える。

まず、SDGsの目標について知らなければ実践も発信も出来なかったと思うのでSDGsに関する授業(本講義)を履修し、SDGsの取り組みをより深く理解する。

実際にSDGsアンバサダーの取り組みで「おにぎりアクション」という活動を行うことになり、その赤羽台キャンパスのリーダーになった。

子ども食堂に参加し、厳しい生活をする方々と交流する中で、具体的にどんなことに困っているのか等をリサーチし、どうすれば改善に向けることが出来るか一緒に調べたり、考えたりしている。

ペットボトルを買わないように、マイボトルを持ち歩いている。

なぜ、ジェンダー平等を実現しようというもくひょうを立てられているくらいにジェンダー平等の実現が難しいのかを調べたりしている

受講後

リサイクルで服を買う

第15回目の授業内で発表したドギーバッグの活動。

歓楽街の中の人の仕事事情を聴きとり、彼ら今やっていることを働きがいの仕事なのかを聞かせる、居酒屋のスタッフさんたちも調査の対象となる。事情を知った後、方案を作る、もしいいだったら、そのままにする。もし不平等扱いされるのなら法案を作る。

現在、能登半島の人々がまちに住み続けることが難しい状況になっているので、彼らがいち早く日常生活に戻れるようにボランティアをしたいと思う。SDGsアンバサダーとして、2~3月に行われる災害ボランティアに参加するつもりだ。また、学校で行った募金の時にあまり手持ちがなくて募金できなかったで、自分のできる範囲で信用できる口座に入金して募金したいと思う。

ウォーターサーバープロジェクトや、文京区の環境講義に参加したりしている。

ウォーターサーバープロジェクトに参加している。

目標3・4グループで、東洋アブリにおける防災知識の向上や情報発信の充実のために取り組んでいる。自分は今年度で卒業のため、今後実行していくには同じグループの後輩たちであるが、自分も計画と一緒に取り組んだ仲間として、意見を出したり進め方を助言するなど、今後も協力していきたいと考えている。

私の育った町は多国籍で有名な町で特にブラジルの方が多く暮らしています。そんな町役場が現在行なっている政策を調べ、まとめ終わったらインタビューし、自分にできること、同じような考えを持った人が多くいることでできる新しい何かを模索していきたいと考えています。

大学でドギーバッグの導入について行動に移そうとしています。既に開始している、マイボトルに関する取り組みの続きを行おうとしています。

既に実践していること:被災地への募金活動

既に実践していること:防災クイズラリー

カーボンニュートラルへの取り組みとしてSAFについて理解を深め、多くの人に知ってもらうためにできることを考えて計画しています。

学内へのプラントベースフードの普及。

- ・学内での防災情報の普及活動
- ・子ども食堂での親御さんの悩み事の聞き取り調査
- ・地域のお祭りの企画、運営、開催 等

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果

回答者数：受講前23名 受講後20名

1.6 あなたには、SDGsの目標のうち、設問2で挙げたもの以外にも、大きな関心を抱いているものがいくつかありますか。個数を選択してください。(選択必須)

受講前

設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	1
2	4
3	3
4	4
5	2
7	3
8	1
9	1
13	1
16	2
17	1
23	

受講後

設問2で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	1
2	1
3	3
4	2
5	4
7	2
8	1
9	1
11	1
13	1
15	1
16	1
17	1
20	

1.7 設問6でひとつでも「ある」と回答した方に尋ねます。設問2で挙げたものと設問6で挙げたものを、あなたなりに関連付けて考えていますか。(考えていない) 1←3→5→7 (考えている)

受講前

(考えていない)1←3→5→7(考えている)	回答
1	2
3	4
4	4
5	4
6	3
7	5
無回答	1
23	

受講後

(考えていない)1←3→5→7(考えている)	回答
1	1
3	2
4	2
5	4
6	3
7	7
無回答	1
20	

1.8 あなたは、SDGsの目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していますか。(発信していない) 1←3→5→7 (発信している) (選択必須)

受講前

(発信していない)1←3→5→7(発信している)	回答
1	12
2	2
3	2
4	4
5	3
23	

受講後

(発信していない)1←3→5→7(発信している)	回答
1	3
2	3
3	3
4	7
5	2
7	2
20	

1.9 設問7で、SDGsの目標のうち設問2で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していると回答した人(5～7のいずれかを選択した人)は、具体的に、どのようなことを発信しようと、あるいは、既に発信していますか。自由に記述してください。

受講前

カーボンニュートラルの実現に向けた情報収集
イベント内での発信や、Twitterでのそのようなイベントの呼びかけや考えの発信。
「おにぎりアクション」のチラシをキャンパス内に貼ったり周囲に発信していこうと考えている。
実際に社会で起きている問題についての意見や社会問題について書かれた賛同できる情報のシェアや実際に社会問題に関するイベントの参加した時のことや社会貢献に即した商品についての意見や感想をSNSに投稿しています。
SNS(Instagram)で活動内容を発信している。

受講後

社会へ発信とまではいかないかもしれないが、友人や家族などに話しながら取り組みの必要性を実感している。より多くの人に共感してもらうためにもSNSの効果的な活躍にも取り組んで行きたい。
食堂の食品ロス削減のための取り組み(小盛りなどができること等)のポスターなどの周知。
SNSで自分の考えや自分の行っている取り組みについて発信しています。
学外へのプラントベースフードの普及。

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果

回答者数：受講前23名 受講後20名

1.10 あなたは、SDGsの目標の実践が社会をより良いものと思っていますか。
(思っていない) 1←3→5→7 (思っている) (選択必須)

受講前

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	件数
1	0
2	0
3	1
4	1
5	4
6	9
7	8
23	

受講後

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	件数
1	0
2	0
3	0
4	2
5	3
6	4
7	11
20	

1.11 あなたは、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させと思っていますか。
(思っていない) 1←3→5→7 (思っている) (選択必須)

受講前

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	回答
1	0
2	0
3	1
4	1
5	6
6	6
7	9
23	

受講後

(思っていない) 1←3→5→7 (思っている)	回答
1	0
2	0
3	0
4	4
5	3
6	0
7	13
20	

1.12 設問11で、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させと思っていますと回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのような点で成長できると考えますか。自由に記述してください。

受講前

今世界全体で環境や貧困・飢餓など問題になっていることについて現状課題を深く知ることによって人が暮らしやすい生きやすい世の中になるにはどのようなことが必要であり、私たちは何ができるのか知り行動できるようになると思う。
行動を起こすためには知らなければならず、知るためには自発的に現地に行くことや資料を集めることが必要だと思います。そのため、コミュニケーション能力・問題解決能力・積極性・自立性・向上心などが育まれ、自分自身が成長できると考えます。
実践するために、関連した様々な知識が身につく点。自分と異なる様々な価値観に触れることができ、自分の考えが広がる点。
目標を実践する上で、社会に関心を持つことができる点。
世界的な取り組みをすることで、さまざまな視点から物事を考えていくことができると考えます。
無駄になる資源や機会を減らすことができ、それを実践する過程で行動力を得たり視野を広くすることができると思う。
実践した分野についての知識が深まり、自分ごととして捉えることができるようになる
自分も社会の一員であることを自ずと意識させられる点。自分も社会に貢献できるということが分かることで前向きになり、自分に自信が持てるようになった点。思うような成果が出なかったとしてもこつこつと一生懸命取り組むことが大切だと分かった点。
周りに目を向ける力、協調力等を身につけることが出来ると思います。
地球環境に配慮した取り組みや、多様性を認め合う点で周りにも同じようにしたいといった影響を起こせる人になっていけると思う。
SDGsの問題解決策について話し合う際、コミュニケーション能力、様々な角度から物事を考える力を養うことができる。
生きることに関わるものごとに対して知識を持つことができるから。
やはり世界共通で同じ目標に向かっていくという点が大きいと考える。自分自身も含めて国内で個人や企業が行う活動では、どうしても支援の対象者にしか目が向かないが、世界で行われている活動にも目を向けると同じ活動を行う団体や同じ問題を抱える人々など様々な状況を目にすることが出来る。また世界共通で同じ目標の元に活動を行っているという点で、互いの活動を参考にしたり、活動の幅を広げたり出来るという点にとても可能性を感じている。これはSDGsならではの強みであると私は考え、自分自身も普段の活動からSDGsを意識し、より多角的な視点を持てるよう成長していきたいと考える。
価値観が広がる、当たり前の定義がなくなる、偏見をもたなくなる考えを手に入れることで成長する
もっと自分自身がものに対するビジョンとか、物事に対する考え方の多様性の成長を楽しみにしています。国際の見聞とか、自分と違うものの事の好奇心はいずれに僕をさらに良い人に導ってくれる。
行動力、思いやりの心、相手の気持ちを考える心
SDGsの目標の達成に他の人との協力が不可欠である。プロジェクトやイベントの組織、他の学生や専門家との協力を通じて、コミュニケーションスキルを向上させ、協力して物事を達成する能力を養うことができる。

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果

回答者数：受講前23名 受講後20名

目標を達成する上での、それぞれの視点から異なる考えや立場環境を知れるだけでなく、そのための手段。また積極性など性格の分野から変えることができると思う。

身の回りの自分が見えているものだけでなく、目には見えないけれど誰かのためになると考え行動するということは誰にでもできることではないと思うから。

改めてこの世界の国際的にどのような問題を抱えているのか、また日本の世界に比べての実現率を見てどのくらい進んでいないのか進んでいるのかを客観的に見ることができるから、そのような点で成長させると感じている。

受講後

社会を俯瞰してみることができる

自分の考えをもって、世界の構造・現状を認識し対策を練ることができるようになる点。目標達成のため多くの人と関わり、人の思想の深い部分に触れながら意見交換をすることができるので、他者の意見を知ることができる点。

社会問題について自分自身が学ぶことができたり、その解決方法を理解できたりする。

自分の研究テーマとして、SDGsは大きな力を持っており、目に見える形なものであるため、明確な目標を立てやすく、その問題対策を考えていく事で発想力などを成長できる。

社会の現状を知り、自分でどのように携わり、解決する必要があるのか考える点において、自分のコミュニケーション能力やアイデア力、実行力、改善能力等が身につくと考える。

誰かのために役に立つことができる点

多分野の観点から効果や影響を考えることができるようになるから。

SDGsに関心のある多くの人達と交流したり、活動したりすることで知見が広がる。また、SDGsの目標の達成には活動だけではなく、活動を始めるにあたって話し合いや計画を立て、振り返ることが必要である。そのため自分の意見が言えるようになり、相手のアイデアをさらに引き出す質問ができるようになる。

物事に対する扱い方、平等という概念だけでなく、物事を理解の上で対等の認識を持つこと。

実践の過程で、思い込みや偏見を打破できる点。

自分自身、この授業を通して日常のあらゆる問題に対して「自分ごととして考える」ことの重要性を実感した。また、日常のあらゆる問題がSDGsに関連していることを学んだため、日頃から何事に対しても「自分ごととして考える」ことを意識して過ごしていることが成長出来た点であると思う。

ある問題について取り上げる際には、いろいろな人の立場からものを考えることや調べることが重要になってくるため、意見の偏らないレポートづくりや社会に出た際に自分が行なっていることが環境や利益につながるかどうかを常に考える習慣をつけることができると思う。

進んで行動することの大切さ、継続することの大切さ、協力することの大切さ等の社会に出る上で重要なことにすいて学ぶことが出来る点。

SDGsへの取り組みを実際に体験することで、新たな学びを得ることにつながり、自分の計画していることにも生かして成長していくことができると考えています。

俯瞰的に物事を見ることができる。様々な価値観をもっている人と知りあえる。

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果

回答者数：受講前23名 受講後20名

1.13 あなたは、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようと考えていますか。
(考えていない) 1←3→5→7 (考えている) (選択必須)

受講前

(考えていない) 1←3→5→7 (考えている)	回答
1	0
2	0
3	1
4	5
5	6
6	3
7	8
23	

受講後

(考えていない) 1←3→5→7 (考えている)	回答
1	1
2	0
3	0
4	4
5	3
6	2
7	10
20	

1.14 あなたは、SDGsの目標の実践に際して、仲間たちと連携しながら社会に貢献していますか。
(していない) 1←3→5→7 (している) (選択必須)

受講前

(していない) 1←3→5→7 (している)	回答
1	5
2	3
3	4
4	2
5	3
6	2
7	4
23	

受講後

(していない) 1←3→5→7 (している)	回答
1	3
2	0
3	0
4	4
5	7
6	2
7	4
20	

1.15 設問13と14のいずれかで、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようとしている、あるいは、既に貢献していると回答した人（5～7のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのような貢献をしよう、あるいは、既に貢献をしていますか。自由に記述してください。

受講前

まずはみんなの働く環境と、経済を良い方面に発展する、日本はいま経済不景気とよくいわれます、だから日本への活動はきっとよい実験場になるでしょう。

ゴミ拾いや、フリーマーケットなどを通して環境保護に貢献したい。

資源を大切に使うことで人や動物が長く安心して暮らせるようにしたい。

「おにぎりアクション」だとか、Unicefだとか、既に活動をしている様々な団体との連携をしていきたい。

実践せねばという意識はあるが、正直自分にそこまでの熱意も行動力もない。しかし、高い志を持ち頑張っている人の力になりたいと思っている。自分のできる範囲でボランティアや講演会に参加している。さらに頻度や範囲を上げていきたい。

同じような問題意識を持って、より具体的な目標達成に向けた計画を立て、貢献していきたいと考えています。

SDGsの目標の実践をしている団体に入っている。

自分一人では実現できないことも他の人とも協力することで実現したいです。

富士山でのゴミ清掃や多文化理解などを深めて実際に相談会などにも参加している。また、議員さんと会話する機会があった際には提案をするなども行っている。

地域活性化のために、遊休農地という高齢化等が原因で使われていない畑を活用して、ひまわりを育て、そのひまわりから取れた種でオイルを絞り、化粧品を作るプロジェクトを行っています。作った化粧品は、地域のふるさと納税返礼品として採用され、地域の経済活動へ還元しています。

板倉キャンパスでSDGsアンバサダーとしてSDGsに関する企画を立て、話し合いを進め、学部内外に関係なく多くの学生を巻き込んでよりSDGsに関心を持ってもらえるよう広報した。また実際に今年の9月に板倉キャンパスの学生を中心として富士樹海の清掃ボランティア企画を計画し、実行して振り返りをした。

人々が目を向けない社会問題を広めていきたい。

海岸清掃を実施したり、貧困地域の子どもたちに向けて寄付を呼びかけたりした。

設問5で回答した献血のボランティアは、1人では行うことが出来ず、チームのメンバーと協力することでより高い成果が得られる。このため仲間との連携や協力は必要不可欠であり、また結束が強くなればなるほど活動の幅が広がり、より多角的に社会に貢献できると考える。このため自分自身も普段の活動からメンバーとのコミュニケーションは特に大切にしており、メンバーの意見を積極的に取り入れながら活動を行っている。

学内外問わず少しでもSDGsに関心を持ってもらう。

このような授業に参加しSDGsについて議論したり、改めて考えようとしていること自体が社会に貢献しようとしていることだと感じる。

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前23名 受講後20名

受講後

SDGsアンバサダーのメンバーとして、次回スペシャルオリンピックスの講演会、体験会に参加する。
SDGsの存在自体を広げ、認知度を高めていきたい。
SDGsアンバサダーの防災まちづくりチームに所属し、そなエリアなど企画に参加しています。そういった課外活動や普段の講義で知識を蓄えて自分なりに考え、自分の中の理想と現実世界を繋げていくことで、将来どのような仕事について貢献するか考え中です。
ウォーターサーバープロジェクトの参加により、ペットボトルごみの削減などを図ろうとしている。
まだ実施には達していないが、食品ロスやプラスチックごみの削減のために生徒で企画をし、企業や他団体に協力をあおいでいる。
fuji清掃活動をさんかし、環境をよりよくなること。
co2削減に向けた取り組みによって貢献できるよう、イベントなどに積極的に参加しようと思っています。
1ドギーバッグの入手先を調べる 2ドギーバッグの使用法や注意点をまとめる 3ポスター制作 4ドギーバッグを導入するメリットを調査してまとめる
ゴミを減らすことで持続可能な社会を実現することに貢献することや子供支援と通した教育支援や貧困対策に貢献すること。
仲間と一緒に防災に関する企画を作ったりして貢献していきたいと考えている。
ひまわりプロジェクトと言う、遊休農地(高齢化等が原因で使われていない畑)を活用してひまわりを育て、ひまわりの種から採れたオイルで化粧品を作る、と言うプロジェクトを通して、地域にお金を還元している。(ふるさと納税の返礼品として、購入してもらうことで、地域に貢献している。)
仲間と連携することで1人では成し得ないことにも取り組むことが出来ると思う。またより多角的な意見を踏まえた取り組みが行える点もメリットであると考え、これからも周囲と連携した取り組みに挑戦して社会に貢献したいと考える。
他大学の人と連携。

1.16 その他、何かあれば自由に記述してください。

受講前

私の中で、SDGsはよく聞く言葉ではあるが、自分事としては全く捉えられていないので、自分の中でその意識を変えていきたい。

受講後

1学期間、ありがとうございました。SDGsについて知らないことが多かったのですが、この授業を通して、各ゴール・アクションについて学ぶことができました。今までの授業以上に挨拶や話し合いをすることが多く、積極的に授業を受けられたと思います。まだまだ未熟で無知なところも多いのですが、少しずつ前に進み、人と協働しながら社会をよりよくしていけたらと思います。ありがとうございました。
今の現状を知り、自分には何が出来るかを考えることができて良かった。
日本を出る気はなかったのに、講義を受けて視野が広がり、地球全体のため海外でも何か貢献したいと思うようになりました。知らないことを知れて、とても楽しかったです。
秋学期の間、ありがとうございました！
SDGs実践講座では知識だけでなく実施に向けた行動や話し合いも必要になるため、自発性と協調性の大切さも学ぶことができました。座学だけでは得られない経験ができて楽しかったです。また、周りの人から沢山の刺激を得られる良い機会でした。後期の間ありがとうございました。
半年間ありがとうございました。多くの受講者の皆さんと深く考え、意見を交換したことで自分にはなかった視点からも考えることができ、とても充実した学びを得ることができました。
自分は4年生なので卒業してしましますが、SDGs関係でまた学生や大学関係者の方々と関わり、活動できたらいいなと思います。短い間でしたがありがとうございました。勉強になりました。
半年間、ありがとうございました！とても楽しい授業でした！

★2023年度 SDGs実践講座 受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前23名 受講後20名

受講後

SDGsアンバサダーのメンバーとして、次回スペシャルオリンピックスの講演会、体験会に参加する。
SDGsの存在自体を広げ、認知度を高めていきたい。
SDGsアンバサダーの防災まちづくりチームに所属し、そなエリアなど企画に参加しています。そういった課外活動や普段の講義で知識を蓄えて自分なりに考え、自分の中の理想と現実世界を繋げていくことで、将来どのような仕事について貢献するか考え中です。
ウォーターサーバープロジェクトの参加により、ペットボトルごみの削減などを図ろうとしている。
まだ実施には達していないが、食品ロスやプラスチックごみの削減のために生徒で企画をし、企業や他団体に協力をあおいでいる。
fuji清掃活動をさんかし、環境をよりよくなること。
co2削減に向けた取り組みによって貢献できるよう、イベントなどに積極的に参加しようと思っています。
1ドギーバッグの入手先を調べる 2ドギーバッグの使用方法や注意点をまとめる 3ポスター制作 4ドギーバッグを導入するメリットを調査してまとめる
ゴミを減らすことで持続可能な社会を実現することに貢献することや子供支援と通した教育支援や貧困対策に貢献すること。
仲間と一緒に防災に関する企画を作ったりして貢献していきたいと考えている。
ひまわりプロジェクトと言う、遊休農地(高齢化等が原因で使われていない畑)を活用してひまわりを育て、ひまわりの種から採れたオイルで化粧品を作る、と言うプロジェクトを通して、地域にお金を還元している。(ふるさと納税の返礼品として、購入してもらうことで、地域に貢献している。)
仲間と連携することで1人では成し得ないことにも取り組むことが出来ると思う。またより多角的な意見を踏まえた取り組みが行える点もメリットであると考え、これからも周囲と連携した取り組みに挑戦して社会に貢献したいと考える。
他大学の人と連携。

1.16 その他、何かあれば自由に記述してください。

受講前

私の中で、SDGsはよく聞く言葉ではあるが、自分事としては全く捉えられていないので、自分の中でその意識を変えていきたい。

受講後

1学期間、ありがとうございました。SDGsについて知らないことが多かったのですが、この授業を通して、各ゴール・アクションについて学ぶことができました。今までの授業以上に挨拶や話し合いをすることが多く、積極的に授業を受けられたと思います。まだまだ未熟で無知なところも多いのですが、少しずつ前に進み、人と協働しながら社会をよりよくしていけたらと思います。ありがとうございました。
今の現状を知り、自分には何ができるかを考えることができて良かった。
日本を出る気はなかったのに、講義を受けて視野が広がり、地球全体のため海外でも何か貢献したいと思うようになりました。知らないことを知れて、とても楽しかったです。
秋学期の間、ありがとうございました！
SDGs実践講座では知識だけでなく実施に向けた行動や話し合いも必要になるため、自発性と協調性の大切さも学ぶことができました。座学だけでは得られない経験ができて楽しかったです。また、周りの人から沢山の刺激を得られる良い機会でした。後期の間ありがとうございました。
半年間ありがとうございました。多くの受講者の皆さんと深く考え、意見を交換したことで自分にはなかった視点からも考えることができ、とても充実した学びを得ることができました。
自分は4年生なので卒業してしまいましたが、SDGs関係でまた学生や大学関係者の方々と関わり、活動できたらいいなと思います。短い間でしたがありがとうございました。勉強になりました。
半年間、ありがとうございました！とっても楽しい授業でした！



東洋大学社会貢献センター

2022～2023 年度「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」活動報告

- I. はじめに(学長挨拶)
(社会貢献センター長挨拶)
- II. プロジェクトメンバー
- III. 募集説明会(6214 教室、Web)
- IV. 募集開始から採用決定まで
- V. 協定締結式(東洋大学、東京都北区、ドナルド・キーン記念財団)
- VI. 事前研修(於:北区中央図書館)
- VII. プロジェクト開始(終了までの作業工程)
- VIII. 連絡調整会議(東洋大学、北区、ドナルド・キーン記念財団)
- IX. 作業現場の取材(朝日新聞、毎日新聞)
- X. ドナルド・キーン生誕100年記念英語歌舞伎
- XI. 角地先生講演会
- XII. 白山図書館所蔵展示
- XIII. 公開講座
- XIV. 慰労会
- XV. 現場スタッフ(本プロジェクトに関わった学生)からの感想 抜粋)
- XVI. おわりに(関係者挨拶)
ドナルド・キーン記念財団挨拶(キーン・誠己氏)
北区挨拶(浦野氏・吉村氏・松元氏)
現場監督者挨拶(池上氏・飯村氏)
現場監修者挨拶(文学部教授 石田仁志氏)

「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」は、2022 年度 8 月からプロジェクトが開始し、2023 年度の 7 月末まで学生による蔵書整理・調査が行われた。その後、北区による実査等での指摘事項の修正を行い、2023 年 8 月末でプロジェクトを終了した。

以下、今年度の活動報告を行う。

I.はじめに

ドナルド・キーン先生蔵書整理事業によせて

東洋大学 学長 矢口悦子

ドナルド・キーン先生は日本文学及び日本の文芸研究者として、世界的に広く知られている卓越した研究者です。日本の文学、とりわけ平安時代の文学に新しい光を当て、通史としての日本文学史を完成された業績をはじめとしたご貢献に対して、2008 年文化勲章が贈られました。その同じ年に、東洋大学では先生を学術顧問としてお迎えすることができました。さらに、2011 年には深遠なるご研究の蓄積とその豊かさに対して、東洋大学より名誉博士号を授与することとなり、お受けいただきました。翌年、キーン先生は東日本大震災の惨状にある日本の人々と寄り添い生きてくださる決意のもと、日本国籍を得られたことは広く知られていますが、東洋大学関係者もまた、キーン先生のお姿に励まされ大きな刺激を受けて参りました。

キーン先生は1970年代から東京都北区に書斎を構え、毎年数ヶ月は住まわれたそうです。永住を決意されたときには、蔵書の一部を北区中央図書館に寄贈され、北区はキーン先生に学びたい人々にとって、重要な拠点となっています。

東洋大学では北区赤羽台に3学部を有するキャンパスを創設し、2023年度に完成をしましたが、その計画を練る段階から、北区との濃密な関係が編まれてきています。この三者の関係がちょうど3本の編み糸のように交差して、この度のプロジェクトが実現しました。もとより、人々が書き残した文字を丁寧に分析し読み解く作業は、気の遠くなるような地味な働きであり、人間の手によって織りなされるかけがえのない営みです。「ひとり灯の下にて」書を紐解き、日本文学作品をその人物や作者の意図のさらにその奥にある日本人の美意識や宗教観、自然観にまで分け入って理解しようとした偉大な研究者の息遣いが感じられる多数の蔵書。とりわけ、小さな文字での書き込みが多くみられた貴重な資料を、一冊ずつ東洋大学の21世紀を生きる学生たちが記録として、そして生きた資料へとよみがえらせるための基礎作業を成し遂げました。これもまた、人間ならではの営みの積み重ねであり、その成果は世紀を越えて意義を持ち続けます。このようなプロジェクトは大学にとっても稀有の機会であり、大学が研究機関として、専門性に基づく研究の拠点であり続けることを証する事業を創造することができた、と申し上げることができると思います。

この度の機会をもたらして下さった方々、一般財団法人ドナルド・キーン記念財団のキーン誠己氏、北区の皆様、そして本学の学生たち、指導をし続けた石田仁志先生と職員チームの皆さん、すべての方に感謝申し上げます。このプロジェクトの成果は今後長く引き継がれ、日米両国の戦争を挟んだ時期を生きた世界的な日本文学研究者の蔵書記録を超えて、新しい知を生み出す土壌となっていくと期待しております。

東洋大学 社会貢献センター長 高山直樹

幼い頃から本が好きで読書に励んでいたというドナルド・キーン先生。大学に飛び級で入学し、ニューヨークのタイムズスクエアで購入した『源氏物語』が元となり、日本への関心を深めていかれました。一方で、太平洋戦争では、沖縄戦にも従軍し、「敵に捕まるくらいなら自決する」という日本兵の行動に疑問を持ち、日本人の精神性や人間性に興味を移されました。戦後は、三島由紀夫、谷崎潤一郎、川端康成、司馬遼太郎、安部公房、大江健三郎といった日本の文豪との交友関係を通し、日本文学を世界へ発信する傍ら、日本人の姿を追い求められました。

キーン先生がNHKの番組で語られた日本人の5つの特徴は、「曖昧(余情)」「儚さへの共感」「礼儀正しい、清潔、よく働く」でした。特に「曖昧(余情)」「儚さへの共感」「清潔」を強調されていました。

今回、7000冊の蔵書整理、データ化に真摯に関わられた33名の学生は、まさに上記の5つの特徴を持ち、まさに「よく働く」学生でした。1冊1冊のすべてのページに入り込み、その中にあるメモや線、文豪との手紙などを丁寧に整理されたことは、キーン氏の莫大で貴重な研究およびその中にある日本人への託された想いを浮かび上がらせてくれました。

このグローバルな時代の中に、日本人としての価値を世界でどう発揮していくかが問われています。キーン先生の蔵書や研究は、まさに日本人自身を理解するものであり、その原点が集約されているものです。それを整理した学生に改めて感謝をいたします。

そしてこの貴重な機会をつくっていただいた、北区およびドナルド・キーン記念財団、キーン誠己様、学生たちを支えていただいた、北区地域振興部および中央図書館の皆様、また蔵書整理での東洋大学非常勤嘱託であり、現場監督者の池上正男様、飯村桂子様、村上清子様、現場監修者の東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科 教授 石田仁志先生、文学部の先生方に感謝申し上げます。

II. 東洋大学プロジェクトメンバー

教学担当常務理事	金子 光一
学長	矢口 悦子
社会貢献センター長	高山 直樹(福祉社会デザイン学部社会福祉学科)
監修者(教員)	石田 仁志(文学部国際文化コミュニケーション学科教授)
監督者(職員)	池上 正男(東洋大学非常勤嘱託、元本学職員)
監督者(職員)	飯村 桂子(東洋大学非常勤嘱託、元本学職員)
監督者(職員)	村上 清子(東洋大学非常勤嘱託、元東京都北区中央図書館職員)
スタッフ(学生 33 名)	梅村 和佳菜(文学部日本文学文化学科)
	伊藤 恵麗(文学部日本文学文化学科)
	成宮 友基(文学部日本文学文化学科)
	川合 桃(文学部日本文学文化学科)
	木村 元秋(文学部日本文学文化学科)
	矢口 楓(文学部日本文学文化学科)
	舘川 愛(文学部日本文学文化学科)
	石橋 歩実(文学部日本文学文化学科)
	喜多村 心香(文学部日本文学文化学科)
	磯 颯太(文学部日本文学文化学科)
	佐波 真希(文学部日本文学文化学科)
	澤田 莉奈(文学部日本文学文化学科)
	横山 安珠(文学部英米文学科)
	道幸 茜音(文学部史学科)
	岡安 一樹(文学部史学科)
	澤田 亜優奈(文学部史学科)
	齋藤 美幸(文学部史学科)
	吉岡 綾華(文学部史学科)
	清水 華夢威(文学部史学科)
	鈴木 綾乃(文学部史学科)
	金 雪芽(文学部東洋思想文化学科)
	和泉 深舟(文学部東洋思想文化学科)
	松倉 愛美(文学部東洋思想文化学科)
	米花 香(法学部法律学科)
	河村 寛(法学部法律学科)
	KIM SUJI(社会学部社会文化システム学科)
	山田 眞史(社会学部社会学科)
	綿貫 愛海(社会学部社会学科)
	周 秋江(国際学部グローバル・イノベーション学科)
	倉谷 香帆(ライフデザイン学部健康スポーツ学科)
	落合 唯(情報連携学部情報連携学科)
	長塚 翔子(文学研究科国際文化コミュニケーション専攻 博士前期課程)
	大竹 優太(国際観光学研究科国際観光学専攻 博士前期課程)

Ⅲ.募集説明会(6214教室、Web)

6月7日(火)12:15～12:50(学生昼休み時間)に、6214教室およびWebexにて募集説明会を行った。
 始めに、東京都北区地域振興部の浦野氏よりプロジェクトメンバーの紹介があり、続いて同区の吉村氏より本プロジェクトについての説明が行われた。
 説明会には100名超の学生が出席した。



↑図書館入口掲示(A1サイズ)
 東洋大学文学部Twitterでの告知→



IV.募開始から採用決定まで

学内掲示版、本学公式アプリ、ToyoNe -G、ToyoNe -Ace、文学部ツイッター、白山図書館内掲示、文学部教員授業内(主に司書関係授業)での告知による広報活動および募集説明会の結果、106名の応募があり、書類選考と面接により学部生・大学院生29名が選ばれた。

募集開始	2022年6月7日(火)～6月13日(月) 応募は、Google フォームへ志望動機、資格(司書・学芸員等)の有無、勤務可能日等を入力
一次選考	2022年6月14日(火)～6月17日(金) 申請内容による選考を行い、41名が二次選考対象者となった。
二次選考	2022年6月21日(火)～6月29日(水) 本プロジェクト監修者の文学部石田教授および社会貢献センター委員の先生方、事務局による集団(学生6名程度)Web面接を行った。
採用決定	2022年7月1日(金) 上記の選考に基づき、29名が採用となった。



(2次選考面接の様子)

V.協定締結式(東洋大学、東京都北区、ドナルド・キーン記念財団)

2022年7月14日、本学と東京都北区並びに(一財)ドナルド・キーン記念財団で「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトに係る連携協力に関する協定」を締結した。

東洋大学学術顧問・名誉博士であり、北区名誉区民でもあったドナルド・キーン氏の生誕100年を機に、キーン氏が残した約7,000冊の蔵書を整理・調査することで、日本文学・文化研究、ドナルド・キーン研究の基礎資料となる図書目録を作成し、今後の研究発展に繋げるプロジェクトを開始した。



VI. 事前研修(於: 北区中央図書館)

以下のとおり北区中央図書館(赤レンガ図書館)で事前研修を実施した。

- | | |
|-------|--|
| 実施日時 | 2022 年 7 月 19 日(火)・21 日(木) |
| 会場 | 北区立中央図書館 3 階ホール |
| プログラム | |
| 14:00 | あいさつ |
| 14:05 | キーン先生を知る、北区とのつながりを知る
「一日本文化と日本文学の伝道師 ドナルド・キーンの歩みと北区」
(解説: 中央図書館 松元氏) |
| 14:35 | ドナルド・キーンコレクションコーナー、生誕 100 年記念展示見学 |
| 15:00 | 図書館見学ツアー実施(20 分程度) |



VII. プロジェクト開始(終了までの作業工程)

2022年8月1日(月)より、スタッフ29名(学生)・監督者2名(職員)・監修者1名(教員)のプロジェクトメンバーのもと、蔵書整理・調査が開始された。また、2023年度には4月に3名、5月に1名、合計4名の新規学生スタッフが加わり、作業を行った。

次に、プロジェクト開始から終了までの作業工程について記載する。

【Donald Keene氏 蔵書整理・調査プロジェクト 作業一覧】

年	月	日	西ヶ原本(5,036冊(啄木本55冊・根岸本34冊・その他55冊を含む))	新潟本(1,177冊)	軽井沢本(212冊)
'22	8	1~2	学生スタッフによる蔵書の開梱、書棚への配置、並び替え。		
		2	蔵書下調べ方法の説明を受け、棚ごとに学生の担当を決め、下調べ作業(データ項目No.63~72に入力する情報の調査とその情報を蔵書に挟まれている付番カード(※1)へ転記)開始。		
		22	データ入力方法の説明を受けて、下調べ作業と並行して72項目あるエクセルフォームへ書誌及び下調べで調査した情報の入力開始。		
	10	27	入力終了したデータを出力し、一巡目チェック(データをA3プリンタ用紙に出力し、入力者以外の学生が現物と突合せチェック)作業開始。チェックが終わった出力データを入力者に戻しデータ修正。		
	12	上旬	西ヶ原分蔵書の下調べ作業終了。		
		22	一巡目データ修正が終了したものを再度出力し、同様の方法で二巡目チェック作業開始。		
		26	西ヶ原分蔵書の書誌、下調べデータの入力終了。		
'23	2	3	二巡目チェックが終了したものから、更にデータ修正(入力担当者以外でもデータ修正可)開始。		
		16~24		付番カード(※1)蔵書への挟み入れ作業。	
		17			付番カード(※1)挟み入れ作業。
		21			蔵書の下調べ作業(西ヶ原と同様)開始。
		22	二巡目チェック作業終了。		
		24		蔵書の下調べ作業(西ヶ原と同様)開始。	
	3	7			下調べ作業終了。
		10			下調べ後、データ入力作業(西ヶ原と同様)開始。
		15		下調べ後、データ入力作業(西ヶ原と同様)開始。	
		22			下調べデータ入力作業終了。
		24			入力したデータの一巡目チェック作業(西ヶ原と同様)開始。
		30	二巡目チェックにより修正したデータを整理番号(※2)順にし、整理番号台帳を作成。整理番号台帳をチェックしながら蔵書を整理番号順に並び替える作業を開始。		
		31	二巡目チェックのデータ修正作業終了。		データチェック作業終了。チェック済入力データの修正作業(西ヶ原と同様)開始。

'23	4	3			チェック済入力データの修正作業終了。
		21		入力したデータの一巡目チェック作業（西ヶ原と同様）開始。	
	5	10		下調べデータ入力作業終了。チェック済入力データの修正作業（西ヶ原と同様）開始。	
		11	蔵書を整理番号順に並び替える作業終了。チェックにより修正したデータで整理番号台帳（データ項目No.1～9）を再作成し、蔵書との第1回目突合せ作業開始。		
		16	入力したデータの三巡目チェック(最終見直し)、修正作業開始。		
		17		付番カード（※1）チェック項目の確認作業開始。	
		18		データー巡目チェック作業終了。	
		19	蔵書の付番カード(※1)に赤丸シールを貼付するためのデータチェック及び台帳（データ項目No.1～9・63～72）（※3）作成開始。		
		24		チェック済入力データの修正作業終了。	付番カード（※1）チェック項目の確認作業開始。
		25	ドナルド・キーン記念財団(北区中央図書館作業補助)による整理番号確定作業開始。		
		26	再作成した整理番号台帳（データ項目No.1～9）による蔵書との第1回目突合せ作業終了。		付番カード（※1）チェック項目の確認作業終了。
		31		入力したデータの最終見直し(三巡目チェック)、修正作業開始。	
	6	5		付番カード（※1）チェック項目の確認作業終了。	
		16～28	台帳（※3）にもとづき、付番カード（※1）に赤丸シール貼付及び貼付チェック作業。		
		21	蔵書の付番カード(※1)に赤丸シールを貼付するためのデータチェック及び台帳（データ項目No.1～9・63～72）（※3）作成終了。		
		23	蔵書への整理番号（※2）転記作業開始（西ヶ原はデータ項目No.3～7の情報）。		入力したデータの最終見直し(三巡目チェック)、修正作業開始。
	7	11	蔵書への整理番号（※2）転記及び転記チェック作業終了。		
		12～14		新潟本は「新」、軽井沢本は「軽」のみをそれぞれ転記及び転記チェック作業。	
		20	ドナルド・キーン記念財団(北区中央図書館作業補助)による整理番号確定作業終了。		
		21～26	蔵書と整理番号台帳（データNo.1～9）との第2回目突合せ作業を実施し冊数確定。		
		26	入力したデータの三巡目チェック(最終見直し)、修正作業終了。		
		27	ドナルドキーン氏 蔵書整理・調査について北区・吉村氏が実査を実施。		
蔵書整理の入力データ72項目についての詳細は、別添資料を確認。					
※1	※2の情報が記載されているカード。このカードが蔵書に挟み込まれている。この付番カードに調査後、キーン氏や贈呈者等が残した、挟込・書込・署名等の情報（データNo.63～72）を転記する。				
※2	各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番（データ項目No.3～7）、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番。				
※3	整理番号順にプリントした整理番号台帳を作成し、旧蔵者(キーン氏)の書き込みや挟み込み、贈呈者の署名や書き込みがある等の条件を満たしている本をチェックする。				

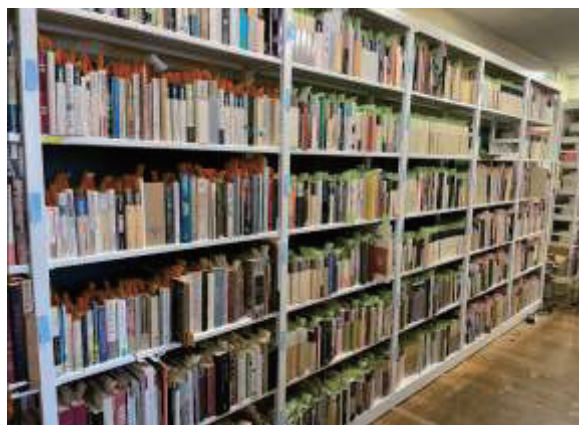
以下は、上記作業一覧について、写真を交え具体的に説明。

1.西ヶ原の書籍梱包開封作業:8/1～2 蔵書をキーン先生の書斎と同様の順番で、本棚へ配置。

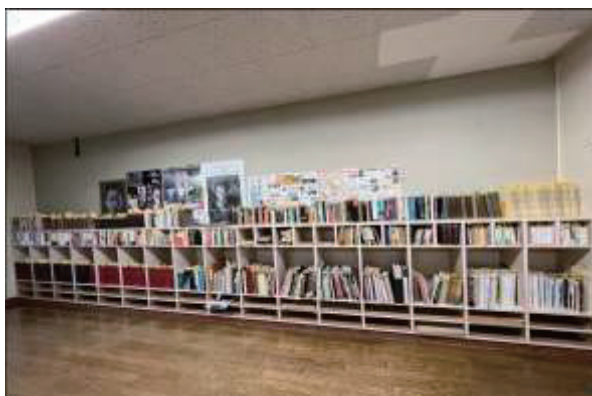
133 棚、4,698 冊を配置



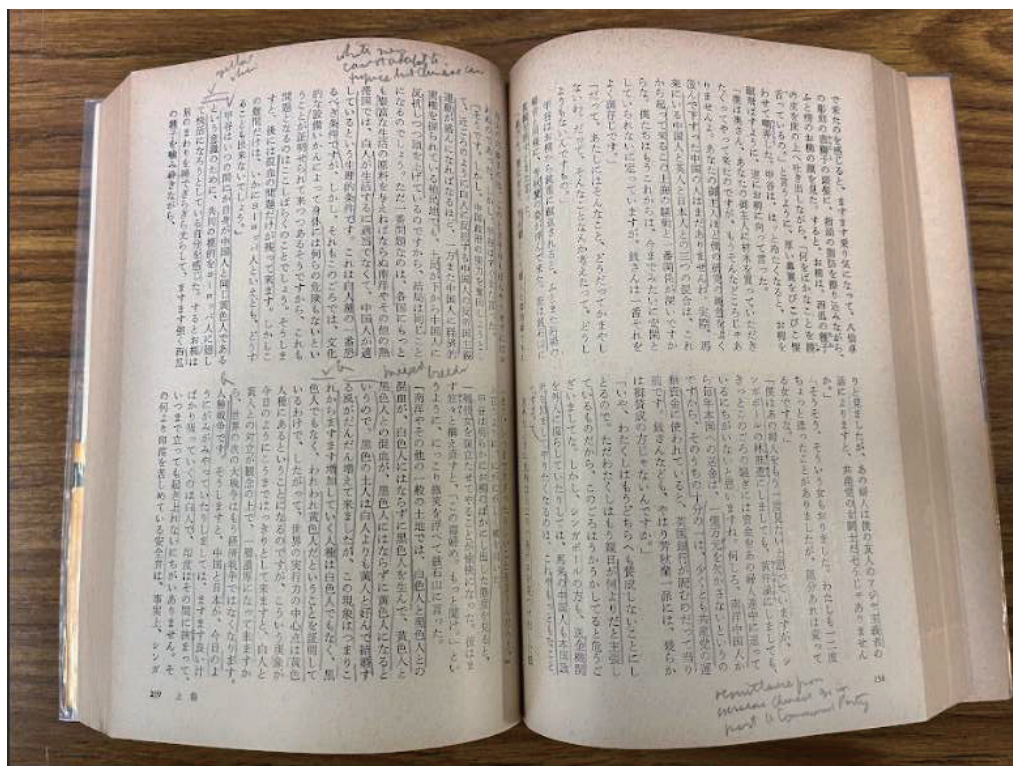
【新潟からの書籍段ボール 参考。西ヶ原は更に大量】



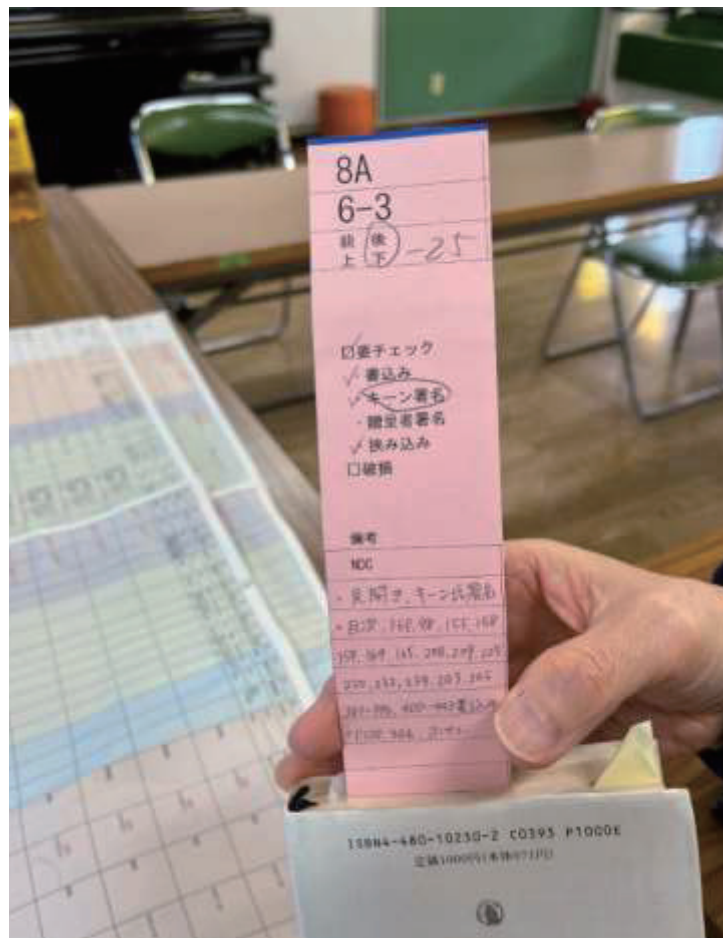
【西ヶ原蔵書・軽井沢蔵書】



【新潟蔵書】



2. 調べ作業開始:8/3～作業方法の説明を受け、棚から1段ずつ担当分けをし、まずは下調べ開始。
1冊ずつ、本の中にある書き込み、挟み込みなどを全ページ丁寧に確認し、北区が作った本に挟んである付番カード下段に記入。
すべての下調べ作業が終了したら、本棚に戻し、次の書籍の下調べに入る。



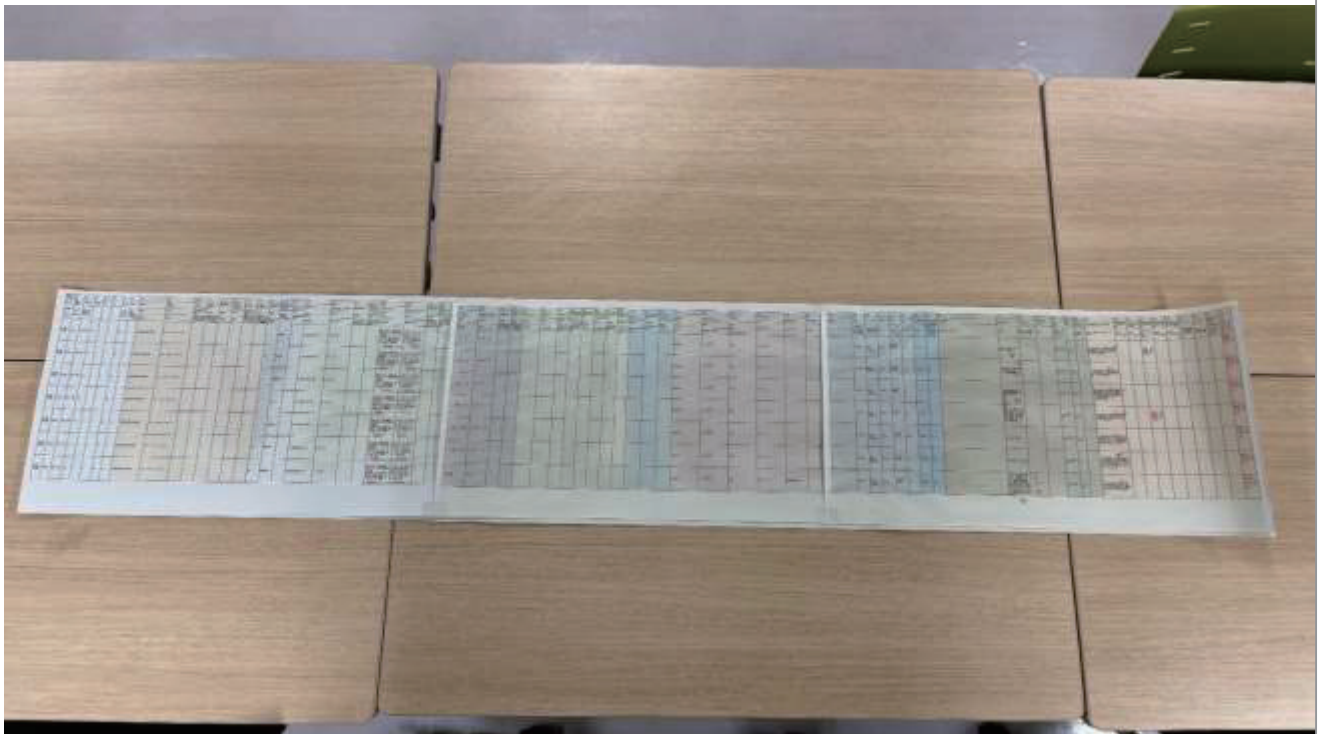
【付番カード:各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番(データ項目 No.3～7)、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番されている。このカードが蔵書に挟み込まれている。この付番カードに調査後、キーン氏や贈呈者等が残した、挟込・書込・署名等の情報(データ No.63～72)を転記する。】

3.入力作業:書棚から入力のためにもう一度書籍を取り出し、Excel ファイルに下記 72 項目を入力

入力規則					
数字・アルファベットは、半角入力 フリガナは分かち書き(単語、接続詞で区切る)外国語日本語表記に用いる「・」は入力しない					
項目		No	和書(入力例)	洋書(入力例)	備考
番号	通し番号	1	0001～9999		
	元書庫	2	西ヶ原/新潟/宇佐美		71・7Jは宇佐美、啄木は西ヶ原
	階・棚・他	3	7A/8A/X/啄木		誠己氏資料は除外/新潟は空欄
	連	4	2		
	段	5	3		X/啄木/新潟資料は空欄
	位置	6	前/右/後/上右		
	番号	7	1～99		X啄木は通し番号
本書名・著者	書名1-1	8	漢字	原綴り	洋書名の大小文字は図書の表記または、引用データのとおり。
	書名1-1ヨミカナ	9	カタカナ	同上	
	書名1-2	10	原書名原綴り	漢字(日本語原書名・邦題)	翻訳本:書名1;現物のとおり、書名2;原書名を原綴りで入力(洋書邦題あれば2に)※
	書名1-2ヨミカナ	11	同左	カタカナ(日本語原書名・邦題)	
	副書名1-1	12	漢字	原綴り	翻訳本:副書名1;現物のとおり、副書名2;原書名を原綴りで入力(洋書邦題あれば2に)
	副書名1-1ヨミカナ	13	カタカナ	同上	
	副書名1-2	14	原書名原綴り	漢字(日本語原書名・邦題)	副書名2件以上の場合は「; (セミコロン)」区切りでこの項に入力
	副書名1-2ヨミカナ	15	同左	カタカナ(日本語原書名・邦題)	
	巻の巻次	16	漢字	欧文大小文字	数字表記は、15/一五/十五等図書の表記に従う
	巻の巻次ヨミカナ	17	数字	00001～99999	雑誌の場合通巻を記入
	巻冊記号	18	第36巻第4号		雑誌の場合記入
	著者名1-1	19	漢字	原綴り	①翻訳本:著者1;現物のとおり、著者2;原著者を原綴りで入力 1-1:1-2、2-1:2-2は、日本語:外国語(外国語:日本語)として対を成す。 和書(翻訳本除く)、翻訳本のない洋書のばあい2-1,2-2は空欄。 ②「/著」「/訳」「/編」「/監修」等もこの欄に記載。 ③複数著者の場合、奥付の記載順に入力 ④3名以上の場合は2-1に「; (セミコロン)」区切りで記入。 ⑤著者名フリガナは、姓,名の順で入力。姓と名の間には「,(カンマ)」を入力 ⑥解説やあとがきなどの著者は内容細目に入力
	著者名1-1ヨミカナ	20	カタカナ	同上 姓,名の順	
	著者名1-2	21	原綴り	漢字(日本語原表記)	
	著者名1-2ヨミカナ	22	同左 姓,名	カタカナ(日本語原表記)	
	著者名2-1	23	漢字	原綴り	
	著者名2-1ヨミカナ	24	カタカナ	同上 姓,名の順	
	著者名2-2	25	原綴り	漢字(日本語原表記)	
著者名2-2ヨミカナ	26	同左 姓,名	カタカナ(日本語原表記)		
巻書名・著者	巻書名1-1	27	漢字	原綴り	翻訳本:巻書名1;現物のとおり、巻書名2;原書名を原綴りで入力(洋書邦題あれば2に)
	巻書名1-1ヨミカナ	28	カタカナ	同上	
	巻書名1-2	29	漢字	漢字(日本語原書名・邦題)	①翻訳本:著者1;現物のとおり、著者2;原著者を原綴りで入力 1-1:1-2、2-1:2-2は、日本語:外国語(外国語:日本語)として対を成す。 和書(翻訳本除く)、翻訳本のない洋書のばあい2-1,2-2は空欄。 ②「/著」「/訳」「/編」「/監修」等もこの欄に記載。 ③複数著者の場合、奥付の記載順に入力 ④3名以上の場合は2-1に「; (セミコロン)」区切りで記入。 ⑤著者名フリガナは、姓,名の順で入力。姓と名の間には「,(カンマ)」を入力 ⑥解説やあとがき、年譜などの著者は内容細目に入力
	巻書名1-2ヨミカナ	30	カタカナ	カタカナ(日本語原書名・邦題)	
	巻著者名1-1	31	漢字	原綴り	
	巻著者名1-1ヨミカナ	32	カタカナ	同上 姓,名の順	
	巻著者名1-2	33	原綴り	漢字(日本語原表記)	
	巻著者名1-2ヨミカナ	34	同左 姓,名	カタカナ(日本語原表記)	
	巻著者名2-1	35	漢字	原綴り	
	巻著者名2-1ヨミカナ	36	カタカナ	同上 姓,名の順	
	巻著者名2-2	37	原綴り	漢字(日本語原表記)	
	巻著者名2-2ヨミカナ	38	同左 姓,名	カタカナ(日本語原表記)	
叢書情報	叢書名	39	漢字	原綴り	シリーズ名 ○○文庫 ○○新書 など
	叢書名ヨミカナ	40	カタカナ	同上	
	叢書番号	41	数字	00001～99999	
出版情報	出版者	42	出版者名	欧文大小文字	社種(株式会社等)を除いた社名を記載
	出版者ヨミカナ	43	カタカナ	同上	
	出版地	44	漢字	欧文大小文字	発行者所在地 23区内は「東京」のみ記載
	出版年月日	45	2012/3/10 2012/3/		
	刷年月日	46	2015/5/10		
刷情報	47	第2刷 初版第1刷		現物の表記通りに記載	
資料形状	ISBN	48	978-4-10-331709-8		ハイフンも入力 「978-」が省略されている場合あり。
	定価	49	¥1900/¥2090(税込)/非売品/不明		本体価格がない場合、税込み価格に(税込)と記入
	ページ数	50	250p 105p図版10p		図版は別記載
	大きさ	51	21cm		mm以下は切り上げ
	形態	52	ハードカバー:HC/ハードカバー-布貼:HC布/ハードカバー-革貼:HC皮/ソフトカバー:SC/ペーパーバック:PB/文庫/新書/雑誌/抜刷り/その他		
	本文の言語	53	欧文小文字 jpn eng		言語表記別途
	分類	分類番号	54	913.6	
図書記号		55	シ:著者姓2文字	KE:著者姓2文字	著者名姓2文字
内容	内容紹介	56	MARC等から引用		北区立図書館サイトにはあり
	内容細目	57	漢字		内容が複数ある場合すべて記入 あとがき/解説含む
	一般件名	58	漢字 :枕草子 大化の改新		件名:関連書名等 複数ある場合は「,」区切りで記入
	一般件名ヨミカナ	59	カタカナ		
	個人件名	60	漢字 :渡辺華山 アーサー・ウェイリー		資料に関する個人名を記入
	個人ヨミカナ	61	カタカナ		
	個人件名原綴	62	欧文大小文字		外国人原綴
蔵書情報	旧蔵者挟込情報	63	形状、内容、人物、ページ等		キーン氏が記入したものはこの項に記載
	旧蔵者書込情報	64	内容、ページ等		
	旧蔵者署名情報	65	内容、ページ等		
	贈呈者等挟込情報	66	形状、内容、人物、ページ等		
	贈呈者等書込情報	67	内容、ページ等		贈呈者等の記入したものはこの項に記載
	贈呈者等署名情報	68	形状、内容、人物、ページ等		
	個人名	69	蔵書情報に記載される個人名		記載項目がほかにはないもの
	その他	70	蔵書に関する事項		
	資料保存状態	71	表紙取れ/ページ外れ/シミあり		資料状態を記載
外装	72	外函/帯/カバー		本の付属物を記載/パラフィン紙は記載不要	

書籍の基本情報は、国立国会図書館、北区中央図書館のデータベースを参考に入力。しかし、情報がない部分も項目にあり、個別に調べなければならない項目もある。

また、古い書籍で、フランス語、ロシア語等の書籍もあるため、調べながらの作業もあり、非常に難儀している学生もいる。和書、洋書、全集、雑誌で入力方法も違う。
これに 63～72 に該当する短冊に記入した書籍の書き込み等の情報を追加し、一覧表がやっと完成。
1 冊の書籍を上記 72 の項目を確認しながら入力する。



【出力すると 1 冊につき、横 1m20cm 巻物の様なリスト】

4. データチェック: ① 1 巡目チェックとして入力したデータを紙に出力。その紙データを入力した担当者以外が紙ベースでチェックし、赤入れをして担当者に返却。担当者が確認し、データの修正。② 2 巡目チェックとして、更に 1 巡目修正が完了したデータを紙に出力し、再度チェック。修正があればデータを修正。③ 3 巡目チェックは、最終チェックとして修正があれば都度、データを修正。

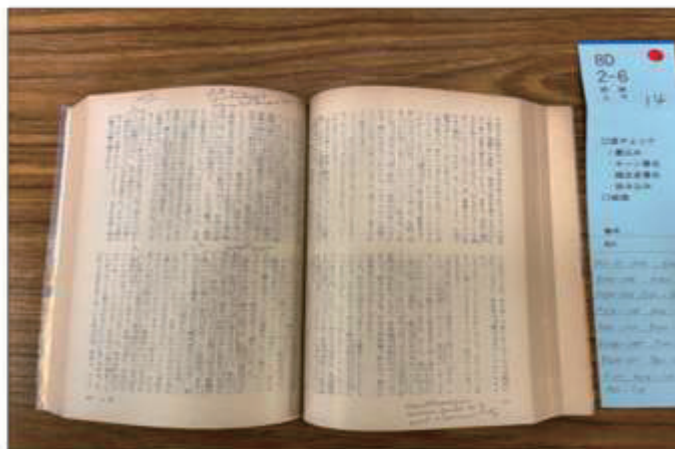
*西ヶ原の蔵書から調査、整理をスタートし、続いて軽井沢、新潟蔵書の調査・整理を行った。

【赤入れ修正をした紙データ】

5. 蔵書を整理番号順に並び替える作業:修正したデータを整理番号(各資料に付与した番号。西ヶ原本は書庫に配架されていた状態を再現できるよう付番(データ項目 No.3~7)、新潟本と軽井沢本は通し番号を付番)順にし、整理番号台帳を作成し、整理番号台帳をチェックしながら蔵書を整理番号順に並び替える



6. 蔵書の付番カードに赤丸シールを貼付するためのデータをチェック及び台帳(データ項目 No.1~9・63~72)作成。旧蔵者(キーン氏)の書き込みや挟み込み、贈呈者の署名や書き込みがある等の条件を満たしている本をチェックし、赤丸シールを付番カードに貼る。



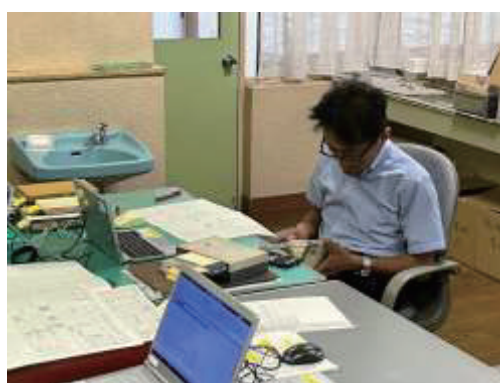
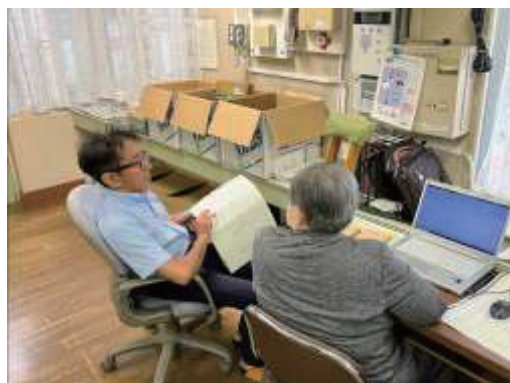
7. 整理番号を蔵書に転記作業:確定した整理番号を1冊ずつ鉛筆で指定の位置(蔵書の背を左にして表紙から最初にある白紙のページの下の方)に鉛筆で転記する。西ヶ原本は付番カードに記載された整理番号、軽井沢本は「軽」新潟本は「新」

8. 北区、財団による実査(7/27(木)午後1時30分):確認作業を繰り返し、完成した成果物としてのデータ内容と現物に齟齬がないか、実査を受審。10冊を選書し、実査を行った。

【実査対象蔵書】(No.は7月現在)

①1886 徳川合理思想の系譜、②2725 伝統と文学、③3018 東西文学論、④3558 倚松庵の夢、⑤3662 渡邊崋山、⑥3710 文学的回想集、⑦4111 平家物語の虚構と真実、⑧4356 The Tale of The B mboo Cutter、⑨新潟 0197 日々編集、⑩新潟 1088 Tex co

講評内容:分ち書きの間違いや書名に確認が必要な箇所は見られるが、全般的的にしっかり記載されており問題はない。「書き込み多数」の記載については、内容の理解にニュアンスの違いがあると思われるので、「書き込み多数」の意味についての注釈が必要と思われる。との講評があったが、概ね蔵書整理・調査データが整っているとの講評を得た。8月一杯、講評内容を基にデータの精度を上げ、最終納品を目指すこととした。



9. 最終データ完成(2023.8.28):データ修正をし、最終データが完成。翌8/29(火)に最終成果物を北区納品。最終冊数 6,425 冊【西ヶ原本(5,036 冊(啄木本 55 冊・根岸本 34 冊・その他 55 冊を含む))、新潟本(1,177 冊)、軽井沢本(212 冊)】

VIII. 連絡調整会議(東洋大学、北区、ドナルド・キーン記念財団)

以下の日程で3者会議を実施し、作業の進捗状況、業務上での課題および今後のスケジュール等について情報共有等、話し合いが行われた。

第1回: 2022 年 9 月 5 日 (月)
第2回: 2022 年 11 月 30 日 (木)
第3回: 2023 年 3 月 27 日 (月)

IX. 作業現場の取材(朝日新聞・毎日新聞)

2022 年 9 月 29 日(木)に毎日新聞、2022 年 10 月 26 日(水)に朝日新聞による作業現場の取材が行われた。

(毎日新聞取材)

・2022/10/25 【新聞掲載】毎日新聞(夕刊)5 面／故ドナルド・キーン氏残した蔵書 7000 冊 東洋大生らが整理・調査

<https://mainichi.jp/articles/20221025/dde/018/070/022000c>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可。



(毎日新聞の取材を受けている様子)

(朝日新聞取材)

・2023/1/4 【Web 掲載】朝日新聞英語サイト／Students lay groundwork for research project on Donald Keene

<https://www.asahi.com/jw/articles/14798660>

・2022/11/16 【新聞掲載】朝日新聞 DIGITAL／夢は「ドナルド・キーン VR 図書館」蔵書整理で東洋大の学生が奮闘

<https://www.asahi.com/mp/articles/ASQCG728RQB0OXIE02G.html>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可



(朝日新聞の取材を受けている様子)

X.ドナルド・キーン生誕 100 年記念 英語歌舞伎

「鰯賣戀曳網(いわしうりこいのひきあみ)」(三島由紀夫作) 上演をめぐって

講演日時:2022 年 9 月 29 日(木)18:00～19:30

講演会場:早稲田大学小野記念講堂

[英語歌舞伎『鰯賣戀曳網\(いわしうりこいのひきあみ\)』\(三島由紀夫作\)をめぐって\(9月29日\) - ドナルド・キーン記念財団 \(donaldkeene.org\)](#)

上記の講演会に本プロジェクトメンバーの学生(2 名)が招待され、毎日新聞で感想が紹介された。

<https://mainichi.jp/articles/20221004/k00/00m/040/349000c>

⇒有料記事につき、全文閲覧不可



(2022 年 10 月 7 日(金) 作業現場の見学の際に、英語歌舞伎のローレンス・コミンズ氏、キーン誠己氏、北区の浦野氏、プロジェクトメンバーと撮影)

XI. 角地先生公開講演会

講演日時	2022 年 11 月 24 日(木) 13:00～14:30
講演会場	白山キャンパス 6202 教室
文学部キャリア講演会	「翻訳という仕事」
講師	角地 幸男(ドナルド・キーン氏著作の翻訳を手掛ける)
コーディネーター	文学部国際文化コミュニケーション学科 石田仁志教授(蔵書整理・調査プロジェクト監修役)
主催:文学部	共催:社会貢献センター
受講数	合計 138 名(学生 87 名、学内関係者 7 名、学外関係者 9 名、一般 35 名)



XII. 白山図書館所蔵展示

ドナルドキーン氏生誕100年および蔵書調査・整理プロジェクトが行われていることに伴い、白山図書館で特別所蔵展が開催され、図書館で所蔵しているドナルド・キーン氏の書籍等が紹介された。

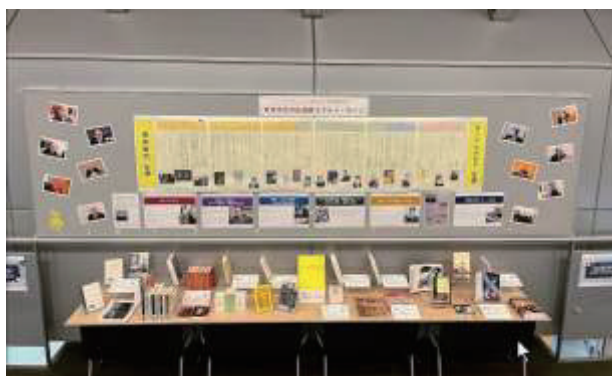
蔵書整理のスタッフや監修者の石田教授もおすすめ本のコメントを記載した。

展示期間:2022 年 11 月 7 日(月)～2022 年 12 月 16 日(金)

場所:東洋大学附属図書館 白山図書館 1F～B1F 階段踊り場

タイトル:「日本文学の伝道師ドナルド・キーン」

主催:白山図書館



(角地先生キャリア講演会終了後、キーン財団、北区の関係者および角地先生が展示を見学)

XIII.公開講座(主催:社会貢献センター 協力:北区)

以下のとおり、2023 年度春期の公開講座を開催した。

申込者 37 名(対面 28 名、Web 9 名)

第1回	5 月 20 日 (土)	竹村牧男(全東洋大学学長・ 名誉教授)	ドナルド・キーン先生と東洋大学
		石田仁志(東洋大学文学部教 授)	ドナルド・キーン「正岡子規」「石川啄木」 にみる明治の青年像
第2回	6 月 10 日 (土)	森忠彦(毎日新聞記者・ドナ ルド・キーン記念財団理事)	人間ドナルド・キーンの魅力
第3回	7 月 8 日(土)	尾崎真理子(文学評論家・早 稲田大学教授)	ドナルド・キーンの日本文学観

第1回目



第2回目



第3回目



XIV.慰労会

開催日時:2023 年 8 月 4 日(金)

開催時間:12:10～12:50

開催場所:甫水会館 301

7 月末で北区の実査が終了し、プロジェクトスタッフの慰労会が行われた。

始めに、監修者の石田教授から開式の挨拶があり、次にスタッフ学生から本プロジェクトの感想等が述べられた。最後に、監督者の池上氏より閉式の言葉があり、和やかに会が終了した。



XV. 現場スタッフ(本プロジェクトに関わった学生からの感想 抜粋)

・今年度 4 月からという短い間ではありましたが、様々な経験をさせていただきありがとうございました。また、教育実習などで欠勤も多く、大変ご迷惑おかけしました。本当に、ありがとうございました。

・1 年間ありがとうございました。蔵書の調査や整理をするアルバイトをやりたいとずっと思っていたので、参加させていただけたことに感謝しております。このプロジェクトを通して自分のスキルアップに繋がりました。な

により関係者の方々が温かい方ばかりで楽しく作業をすることができました。このプロジェクトが終わってしまうことは寂しいですが、経験を就職活動や仕事に活かしたいと思います。本当に1年間ありがとうございました。

・大変貴重なプロジェクトに携わらせていただき、ありがとうございました。自分が専攻している学問に活かすだけでなく、北区民として地域に貢献することができた経験でもありました。ドナルド・キーン蔵書整理プロジェクトに携わることができたのは、自分の誇りであると感じています。短い間ではありましたが、大変お世話になりました。またこのような機会がありましたらよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

・本アルバイトを経験して、実際に偉人の生きた証を見ることが出来て感動いたしました。また地道な作業がとても多かったですがここで身につけた忍耐力は社会人でも生かせると感じております。

・とても貴重な体験ができて、参加してよかったなと思っています。蔵書の分野の幅がとても広くて、あまり自分が手に取らないタイプの本について知ることができたので、とても楽しかったですし、この経験を今後も活かしていけたらいいなと思います。

・なかなかできない、貴重な経験をさせていただいたと思っています。本当にありがとうございました。

・有意義なプロジェクトの一員となれたことを嬉しく思います。貴重な活動に参加させていただき、ありがとうございました。

・一年間蔵書整理に関わってきていろいろな人に会うことができたり、講演会などに参加したりするなど貴重な経験をする事ができました。また、司書課程で学んだことをこの蔵書整理を通して改めて確認することもでき、地道な作業も多く大変な部分もあったけれどこのプロジェクトに参加することができて良かったです。

・約1年間にわたり、貴重な体験をさせて頂きました。キーンさんの息遣いが感じられる蔵書整理は大変興味深く、またたくさんの人に慕われていらっしゃったことがよく分かりました。ありがとうございました。

・プロジェクト開始当初から関わらせて頂きました。本に挟まった手紙やメッセージでキーン氏の交流関係が知れたことも興味深く面白かったですし、司書資格を学んでいる身としても、目録作業に関われたことがとても糧になりました。始まる前はほとんど知らない存在だったのに、今ではキーン氏がとても身近な人のように感じられます。作業の中で難しく詰まることもありましたが、非常に貴重な経験をさせて頂いたと感じています。

・世界的にも著名な研究者の蔵書を見ることができたのは貴重な機会でした。

・本に関する知識は深まったと思う。今回作成に携わった目録が、今後キーン先生について研究する人の一助になる事を願っています。

・図書館の職についたとしてもなかなかできない貴重な体験をすることができて良かったです。キーン先生自筆のものをはじめとする作家やその妻たちの手書きの文字、読みこまれてボロボロになった本からは、新品の本とも、図書館に所蔵されている本とも違う、時代の気迫のようなものを感じ新鮮でした。また同時に、図書館の中心的な仕事である資料の収集・保存・整理作業が、想像以上に繊細で、難しく、柔軟性が求められる仕事であることも実感しました。今回は7000冊でしたが、それを遥かに超える量を保存・整理する司書さんのお仕事とその知識、経験値は、やはり軽視されるものではなく、専門職として受け継がれていくべき物だと思います。私はいずれ図書館司書になりたいと考えているため今回のアルバイトに応募しましたが、実際の現場のお仕事を僅かながらも経験できたことは、非常に貴重な体験でした。至らないことばかりでしたがありがとうございました。

・司書資格取得の学習を進めていく上で、実際に多くの資料に触れ、調べていった経験は非常にためになるものでした。貴重な経験をありがとうございました。

一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

代表理事 キーン 誠己氏

父ドナルド・キーンが2019年2月に亡くなってから、遺品の整理は重要な課題でした。特に父が最も大切にしていた蔵書については喫緊の問題でした。丹念に読み込んで鉛筆書きのメモや傍線のある書籍、最晩年まで手に取って愛情深く見つめ慈しんでいた書籍など極めて貴重なものも含まれていました。

幸いなことに北区と東洋大学の深いご理解とご協力のもとドナルド・キーン記念財団との三者の協定書が2022年7月に締結され、7000冊に近い蔵書の整理と調査、データ化が始まりました。ほぼ一年間、東洋大学の33名の学生さんたちがこつこつと一冊一冊丁寧に作業を続けて下さいました。その姿はとても頼もしく思えました。学生さんたちが大きな力になり作業を進めて下さったことは、常に若い人を育てることを考え、多くの優れた後継者を育てた父にとってなにより嬉しいことだと思います。

泉下の父とともに北区と東洋大学の皆様方に心より、深く感謝申し上げます。

東京都北区地域振興部参事

事務取扱文化施策担当課長 浦野芳生氏

ドナルド・キーン氏が遺した膨大な愛蔵書の調査・研究等の資料整理を、ドナルド・キーン記念財団、東洋大学、北区の三者が取り組み、一年が経過し令和5年7月末にリストの整理も一段落いたしました。

三者で役割分担し、財団が、キーン氏の蔵書約7000冊を提供し、北区は、作業場所などの用意と全体の進行管理を担わせていただきました。

東洋大学には、文学部の石田教授とエクステンション部のもとに、学生の皆さんに実際の作業に取り組んでいただきました。視察の際には、学生が黙々と書籍を調査し、パソコンに入力している姿に接し感心いたしました。

キーン氏も、学生の熱心なかわりに満足されていることでしょう。

このリストは、新聞各社も今後の活用に注目しています。北区としましては、令和6年3月公表に向け準備を進め、PR用の冊子も作成いたします。

三者の取り組みの成果が、各地で開催される展覧会や研究者の研究に活用されることを願っています。また、このプロジェクトを通じて、三者の連携を更に深めてまいりたいと思います。

東京都北区地域振興部

文化施策担当課 主査 吉村仁男氏

ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトでは、東洋大学エクステンション部のみなさま、文学部の石田先生、そして何よりも一生懸命がんばっていただきました、学生のみなさまには大変お世話になりました。

このプロジェクトで最初に私が印象深く感じたことは、東洋大学でのアルバイト募集説明会でした。参加してくれる学生はいらっしゃるのかとてもドキドキした記憶がございます。ところがいざ蓋を開けてみましたら、会場内にはあふれる学生でいっぱい！うれしさで思わずガッツポーズをしてみました。さらに私のつたない説明を、学生たちが熱い眼差しで聞いていただいていることがぐっと伝わってきたことを覚えています。

いざ、プロジェクトがスタートしますと、作業場でたくさんの方に囲まれてパソコンに向かって黙々と作業をしている学生たちの真摯な姿。この姿勢に私の方が刺激を受けた記憶がございます。赤字で修正されたリストの山を見ると、学生たちのこのプロジェクトへの想いが伝わってくるようでした。

参加された学生の皆様はいかがでしたでしょうか。この経験がみなさまの糧となればと願っております。ドナルド・キーン先生のように自分のやりたいことを見つけ、それに向かってまっすぐに。

みなさまのご活躍を祈念いたします。

東京都北区立中央図書館

図書係長 松元宙子氏

キーン氏の愛蔵書を公開している北区立中央図書館ドナルド・キーンコレクションは、氏の研究の足跡をたどるとともに、資料を利用者の読書に繋げることを目的としています。キーン氏には、著作やその執筆に使われた参考文献、交流のあった作家に関する図書などのご寄贈をお願いし、夥しい書き込みがある『渡辺崋山』『明治天皇』『正岡子規』等の参考文献や川端康成、安部公房のサイン入り図書など貴重な資料を自ら選んでいただきました。今回のプロジェクトでは、氏が晩年まで身近に置き大切にされた資料が書き込み情報なども含めてリスト化されました。蔵書の全体像が明らかになったことは、今後のドナルド・キーン研究の大きな礎となると思います。分類順に並んだキーンコレクションをご覧になった氏は、今までは本を探すのが大変でしたが、これならすぐに見つかります。と大変喜んでくださいました。今回のリスト化により、すべての蔵書が学生のみなさんの手で、すぐに探せるようになったことをキーン氏は何より喜んで下さると思います。

東洋大学非常勤嘱託

池上正男氏(現場監督者)

2023年8月28日をもって1年余り取り組んだ「ドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクト」の蔵書整理作業が終了しました。私自身の契約も8月31日で終了して肩の荷が下りて”ホッ”とするとともに、作業計画を管理する立場の者としての準備不足、知識不足で、作業スタッフの学生達に負担を掛けてしまったことを反省しています。不十分な条件の中で、蔵書目録の作成に関わってくれた33名の学生達に心から感謝いたします。

この蔵書整理の特色は、図書館司書の資格を持たない学生達がキーン先生の蔵書約6,500冊について書誌情報を作成したこと、その書誌情報は一般的な書誌情報には出てこないキーン先生と書籍贈呈者の挟み込み情報や書込み情報など10項目を含んでいること、北区西ヶ原のキーン先生宅にあった蔵書約5,000冊は蔵書整理後に元通りの位置に戻せるようにする前提で整理していることです。

このようなプロジェクトに参加し作業を完了できたことは、学生達にとって大変意義深いことであり、また大学の事業としても画期的なことであろうと思います。プロジェクトの成果物の一つである学生達の作った蔵書目録が、今後多くの人々に利用されキーン先生の研究や業績を知る上で役に立つことを願って、私の役目を終わりたいと思います。

なお、蔵書整理作業の施設設備と備品を整えていただいた北区地域振興部の皆様、書誌情報作成方法をご指導いただいた北区教育振興部中央図書館の皆様、何かとお気遣いいただいたドナルド・キーン記念財団のキーン誠己様を始めとして学生スタッフにご支援いただいた皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

東洋大学非常勤嘱託

飯村桂子氏(現場監督者)

ドナルド・キーン氏と東洋大学とのご縁で2022年8月から1年1か月かけて行われたドナルド・キーン氏蔵書整理・調査プロジェクトがひと段落したことに安堵しています。

29名の学生が参加して開始されましたが、本の整理作業など誰も未経験で手探りの中で進められました。和書、洋書、翻訳本、雑誌、パンフレットなど各種形態があり、1冊1冊、1ページ1ページ、挟み込みや書込みがないか丁寧に下調べすることが一番重要な作業でしたが、学生達は丁寧にコツコツと取り組んでくれました。書誌の入力方法については、反省点もありますが、黙々と作業を続けてくれた学生たちのお陰で、キーン氏がアメリカ在住時代に所蔵していた古い本から亡くなる直前まで手に取って読まれていた本にいたるまでの6,425冊のデータ入力を終えることができました。この蔵書データが今後、ドナルド・キーン氏研究の一助になれば幸いです。

東洋大学文学部国際文化コミュニケーション学科
教授 石田仁志氏(現場監修者)

学生たちの尽力に感謝—監修者としての挨拶—

今回のドナルド・キーン先生の蔵書調査整理プロジェクト完成に際する挨拶として、まず申し上げたいことは、作業に従事してくれた学生たちへの心からの感謝です。2022年7月から1年間、2年度にわたり授業の合間や長期休暇の時期に作業を続けてきてくれて、本当にありがとう。君たちの尽力がなければ、このプロジェクトは完成しませんでした。

蔵書1冊1冊の書誌情報を調査し、書き込みや挟み込みの状況を1ページ1ページ確認し、1冊につき72もの項目を入力していく作業は、本当に根気のいる作業だったと思います。キーン先生の蔵書総数は6,425冊でした。この数字も作業してみて初めて明らかになったことです。キーン誠己さんは今回のプロジェクトについて、「父は学生と話をすることがたいへん好きでした。東洋大学の学生が自分の蔵書を整理してくれたことをきっと天国で喜んでいます」と仰っていらっしゃいます。その通りであろうと思います。東洋大学、北区、ドナルド・キーン財団の共同事業ではありますが、その成果は東洋大学の学生によるものであることをここに明記しておきたいと思います。

さて、今回のプロジェクトのお話を私が山口しのぶ文学部長から最初に伺ったのは、2021年12月でした。私はその際、以前にキーン先生が本学の学術顧問としてご講演いただいたときに、当時の日本文学文化学科の先生方と一緒に話を聞き、そのあとに白山の中華料理店で一緒にお食事をした時のことを思い出しました。ご講演では熱く日本文学文化の魅力を語り、食事の際に笑顔を絶やさず、私たちとの話の輪の中で楽しそうにくださっていたことを鮮明に覚えています。それもあり、何らかのお手伝いが出来れば幸いだとお返事をしました。その後、矢口悦子学長による事業体制が議論され、日本文学文化学科の高松亮太先生にサブリーダー、史学科の大豆生田稔先生にアドバイザー、全体の監修者を私が務めることになりました。各先生方にも大変にお世話になりまして、ありがとうございます。

そして実際の作業現場で、専従でサポートしてくださった飯村桂子さん、池上正男さん、このプロジェクトの実質的な真のリーダーはお二人であつたと思っています。学生たちと共に入力作業をされ、現場のすべてを運営してくださいました。ありがとうございます。また、エクステンション部の笠原昌江次長や他の課員の方々も様々なサポートをありがとうございます。北区やキーン財団の方々も勿論のこと、このプロジェクトに関わってくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

私は結局、監修者とは名ばかりではなかったかと思っています。ただ、今回のプロジェクトに関わったことで、エクステンション講座「ドナルド・キーンの日本文学を学ぶ」や学科での講演会を開くことが出来、今後、この蔵書リストを本格的なドナルド・キーン研究へとつなげることが出来るのではないかと思います。それが、多くの方々の多大なるご尽力にお応えすることになれば幸いです。

社会貢献センター 内部評価

2023年度 東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果

(学部：福祉社会デザイン学部 氏名：高山直樹)

I 判定 (S～C) : A

S	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A	おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総 評

本学の創立者井上円了は、学問は自己満足に終わるものではなく、その成果を応用し社会に役立てるものでなければならないとの志をもって、東洋大学を創設した。その理念を具現化するために社会貢献センターを位置づけ、活動を展開している。特にコロナが5類に移行することにより、対面での活動の増加がみられ、講師派遣事業は多くの講座を全国に展開し、本学の知を届けることができた。また地域活性化事業も再開し、学部・学科の特徴を活かしつつ、学生が主体となり、地域をアセスメントし、活性化のための分析、企画等の活動ができた。またSDGsを推進する一つの取り組みとしての、SDGsアンバサダーの活動が活発に行われ、約90名の学生のアンバサダーが「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「パートナーシップ支援」等の5つのチームに所属し、SDGsの目標達成のために、発信、企画の活動を展開できた。さらに、能登半島地震の発生後から、復旧・復興支援とボランティア派遣に関する協議が始まり、まず4キャンパスにおいて、募金活動を実施し、寄付を行った。同時に全学の支援体制をつくり、当センターを中心に能登半島の視察、先遣隊として学生、教職員のボランティア活動を行い、今後の支援のあり方を整理できる体制ができた。

加えて、人生100年時代および卒業生、社会人を対象としたリカレント・リスクリングに関するプロジェクトが充足し、次年度より、具体的企画を実施することとなった。

以上のように、多くの活動が再開、展開された一方、活動に参画する教員や学生が各学部、学科に偏っている傾向もみられ、学部・学科の教員に対する社会貢献活動の理解の促進、教員の研究や教育の社会化の方向と社会貢献の有機的連動を図っていくことを意識化していくための具体的な方策が課題となる。また赤羽台キャンパスにボランティア支援室が週に2日開設されたが、川越、朝霞キャンパスにおいてもセンターの分室等の開設が求められる。

Ⅲ 概評及び提言

1. 理念・目的

〈概評〉

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか。

本学の建学の精神と社会貢献センターの理念・目的がつながっており、生涯学習、講師派遣事業、地域活性化活動支援事業、SDGs アンバサダー等により目的を達成している。

② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか。

本学ホームページで「社会貢献センター報告書」を公開しており、社会との共有を果たしているが、社会への宣伝等、広報課等との連携を深めていきたい。

③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

中長期計画が策定されており、社会貢献活動に関する中期計画が作成され、「人生 100 年時代の学びのサポート」「前世代型グローバル教育の提供」「東洋大学の知を世界に届ける」など、リカレント・リスキリング、大学院との連動、卒業生の活用などの具体的な施策が検討されており、大学の将来を見据えた形の社会貢献活動を掲げている。

〈提言〉

長所

- ① 多様な学部・学科、研究科を擁し、多様な社会貢献活動を展開する基盤としての、研究・教育活動がある。
- ② 社会貢献活動と卒業生 34 万人の協働ができる基盤がある。
- ③ 社会貢献を推進していく意欲があり高い資質を持つ事務局職員および体制がある。

改善課題

- ① 活動が多岐にわたり、その活動を調整・支援していく事務局体制の強化が求められる。
- ② 白山キャンパス以外のキャンパスにおける、社会貢献センターの分室設置が求められる。
- ③ 社会貢献活動が教員の研究や教育の発展、社会化していくことにつながっていくという意識の醸成とそれを支える具体的方策(インセンティブ)をつくっていく必要がある。



2023 年度 東洋大学 社会貢献センター年報

発行 2024 年 7 月 20 日



Toyo University supports the Sustainable Development Goals

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

東洋大学

社会貢献センター（エクステンション課）

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-10-2 甬水会館 1 階

TEL : 03-3945-7635